

埼玉県加須市

き さいじょう ぶ け や しき あと
騎西城武家屋敷跡

KB 10 区調査

—中近世編—

遺物 2 / 遺構

2018

加須市教育委員会

埼玉県加須市

き さいじょう ぶ け や しき あと
騎西城武家屋敷跡

KB 10 区調査

—中近世編—

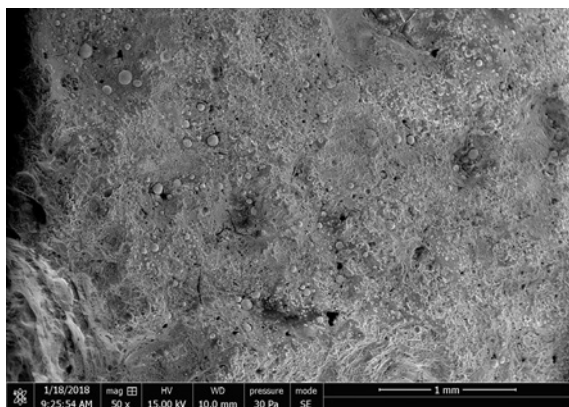
遺物 2 / 遺構

2018

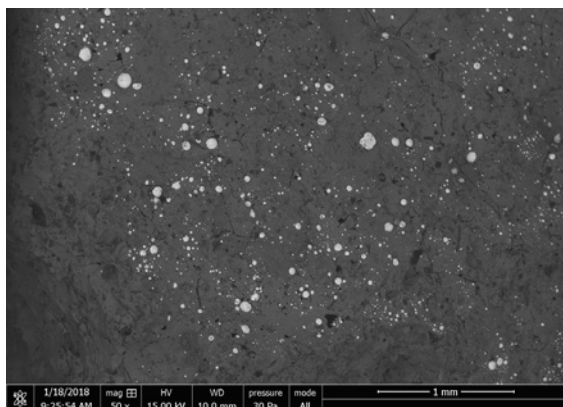
加須市教育委員会

口絵 2

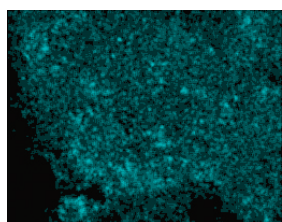
1 (土-405)



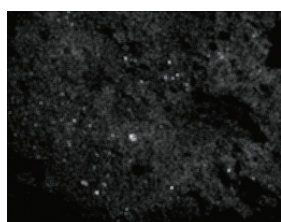
1-(a) 二次電子像



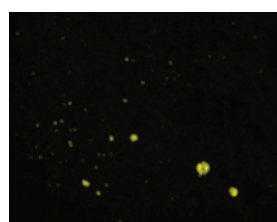
1-(b) 反射電子像



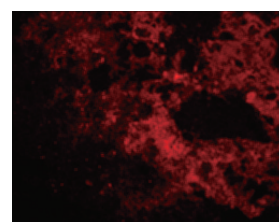
Zn



Ag



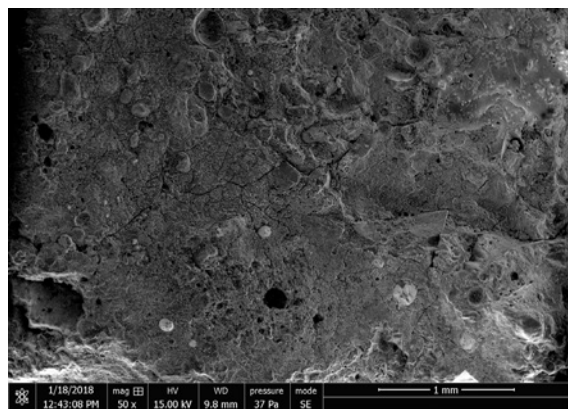
Au



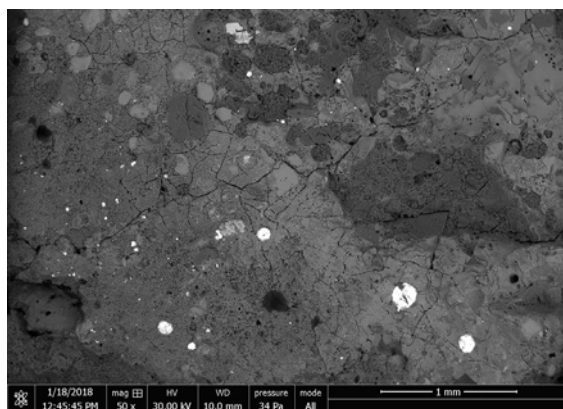
Cu

1-(c) マッピング分析

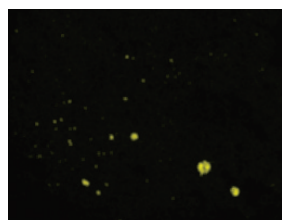
2 (土-419)



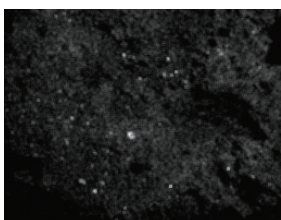
2-(a) 二次電子像



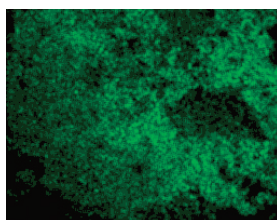
2-(b) 反射電子像



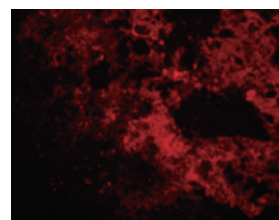
An



Ag



Pb



Cu

2-(c) マッピング分析



南側調査区（南から）



北側調査区（北から）

口絵 4



1号堀 完掘（西から）



2号堀 完掘（東から）



1号溝 完掘 (北から)



同 常滑 甕 (土-55)



同 ほうろく集中 出土状況 (中央)



同 炭化物層上層 ほうろく集中 出土状況 (南側)



1号溝 炭化物層上層 かわらけ集中 出土状況



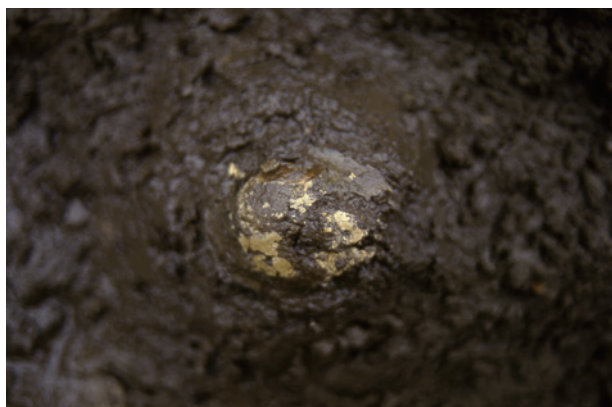
同 かわらけ集中 出土状況 (拡大)



1号溝 足金物 (金-68)



同 かわらけ (土-113)



同 二枚貝



同 桶側板 (木-6) ・丸棒材 (木-44)



同 下駄 (木-2)



同 板碑 (左から 石-309・381・未図化)



同 馬?の歯



同 下駄 (木-3)

口絵 8



1号溝 卸目付大皿 (土-82)



同 直縁大皿 (土-84)



同 縁釉小皿 (土-67)



同 漆碗 (未図化)



同 漆碗 (木-20)



同 部材 (木-40)



同 馬?の歯



同 丸棒材 (未図化)



4号溝 完掘 (東から)



1・4号溝 接続 (北から)



同 鋏 (金-16)



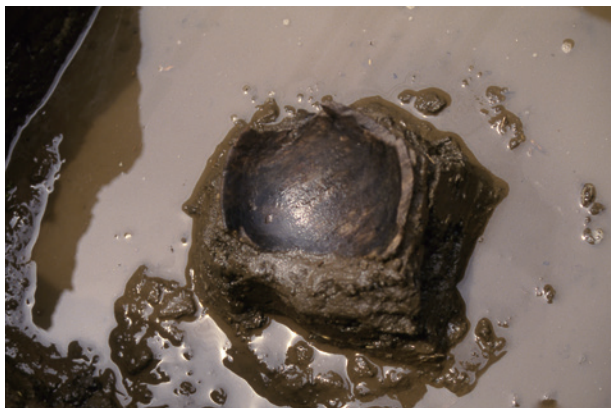
同 馬?の下顎 (未図化)



同 漆椀 (未図化)



同 馬?の顎 (未図化)



4号溝 漆碗 (木-22)



同 桶 底板 (木-10)



同 漆碗 (木-24)



3号溝 天目茶碗 (土-288)



3溝 (右) 9溝 (左) (南から)



12号溝 完掘



12号溝 白木碗 (木-19)・部材 (木-42)



同 漆碗 (木-25)



同 折敷-縁 (木-31)



同 折敷-底板 (木-32)



同 部材 (木-41)



同 火縄挟 (金-73)



同 竹 (未凶化)



15号溝 漆皿 (木-26)

口絵 12



15号溝 漆皿 (木-26)



26号溝 桶の側板 (木-未図化)



26号溝 完掘 (南から)



3号井戸 桶側板カ (未図化)



5号井戸 漆塗り小杯 (木-34)



5号井戸 志野皿 (土-443)



8号井戸 尊式花瓶 (土-450)



9号井戸 桶底板 (木-11)



11号井戸 竹片 (未図化)



12号井戸 漆碗 (木-27)



14号井戸 漆碗 (木-28カ)



19号井戸 桶 (木-12-1~13)



58号井戸 はさみ皿 (土-539)・漆碗 (未図化)

口絵 14



7号土壙 遺物出土



15号土壙 小柄 (金-22)



25号土壙 骨出土状況



46号土壙 遺物出土状況



同左 拡大 (土-上566・下567)



51号土壙 植物遺体出土状況



同左 拡大

口絵 16



75号土壙 炭化物出土



93号土壙 遺物出土



360



381

板碑

序

加須市は埼玉県の北東部に位置し、利根川をはじめ多くの河川を擁する豊かな田園地帯であります。

市の南部に位置する騎西地域はその中央に延喜式内社玉敷神社が鎮座する、歴史の古い地域であります。地域には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が多数所在しており、近年進行する都市化にともなう開発により事前に発掘調査を実施しております。

今回の調査報告は、昭和61～平成元年に実施された根古屋地区に所在する騎西城武家屋敷跡 KB10区調査の記録であります。調査の結果、当時の堀や井戸の跡、居住した武士が使用した陶磁器・漆碗など貴重な遺構・遺物が検出され、城館跡を研究する上で、騎西城の重要性を再認識することとなりました。

特に、今回の報告では遺物のうち未報告である石製品と遺構について報告するものであります。

本報告が文化財の保護に対する理解の一助として、また郷土資料として広く活用されることを望んでおります。

最後になりましたが、調査の実施、本書の刊行に当たりまして深いご理解と多くのご協力をいただきました開発者の方々をはじめ関係各位の皆様に対しまして深く感謝申し上げます。

平成30年3月

加須市教育委員会

教育長 渡邊 義昭

例 言

- 1 本書は埼玉県加須市騎西地域内遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は根古屋・外川土地区画整理に先立つもので、昭和61～平成元年に実施したものである。
- 3 本書の刊行に際して次のように作業に当たった。
 - (1) 執筆 嶋村英之
※第Ⅵ章科学調査については杵名貴彦氏（国立科学博物館）より玉稿を賜わった。
 - (2) 写真撮影は現場は調査担当者が、その他は嶋村英之のもと整理協力員が行った。
 - (3) 出土品の整理・図版の作成は嶋村英之のもと、整理協力員が行った。

『騎西町史考古資料編1』掲載のものは本報告を優先する。

※板碑の拓本は『騎西町史考古資料編2』掲載のものを加工した。

- 4 本書の編集は嶋村英之が行った。
- 5 資料は加須市教育委員会が保管している。
- 6 整理報告に際して下記の方からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。

(敬称略)

杵名貴彦 嶋村薫 国立科学博物館
福岡市埋蔵文化財センター
山梨県立博物館

調査組織

1 発掘調査組織

調査主体者 騎西町教育委員会

担当者 島村範久 嶋村英之

調査協力員

青木のい 秋池角蔵 秋山ノリ子 浅見三郎
梓沢ユキ子 網野のぶ 新井富子 飯塚剛一
五十嵐喜一郎 五十嵐清 五十嵐まさ子
五十嵐米太郎 池沢知子 石井たね 伊藤ツネ
猪股榮子 大熊文 大島美千子 岡田伊一郎
岡田金之助 岡田光子 岡戸康明 小川征子
荻野知子 加藤徳一 香取喜美子 金久保りき
来須きく 小暮あい子 木暮光 国分敏明
国分良吉 小久保衛 小坂忠一 小林妙子
小森谷アサ 小森谷二三子 斉藤健一郎 斉藤年治
斉藤はる代 坂巻茂 佐藤知絵 佐藤道子
佐藤ヨシ 須永春雄 関口しげ 関口千代
関口のぶ 関口信幸 関口守男 染谷喜美江
高橋和子 田口ふみ 田口島蔵 田村源太郎
田島汀七 寺内恵一 塚田好男 土屋とよ
内藤ふく 中島かつ江 中根聡 野本友吉 萩原米
原田展昭 日下部秀美 福島清作 福島利男
福島幸蔵 細野万次郎 増田留次郎 松永鶴子
松村一枝 松村金蔵 松村重昭 武藤ハマ

谷部千代子 柳田典子 山口保雄 山口ハル
吉田吉伸 吉野武一 若林クニ子 若林美知子
渡辺サヨ 渡辺茂兵衛

2 整理組織 (平成29年度)

加須市教育委員会

教育長 渡邊義昭
生涯学習部 部長 綱川敬蔵
副部長 高橋敦男
生涯学習課 参事 大原英明
文化財担当 主幹 嶋村英之
主査 佐藤政治
主任 岩淵美恵

整理協力員

秋山ノリ子 新井富子 五十嵐まさ子 池沢知子
石坂正幸 石渡とみ江 石渡美樹 猪股榮子
小川征子 小川美津子 荻野知子 香取喜美子
栗原加奈子 駒木加津枝 小坂恭子 斉藤はる代
佐藤ヨシ 関口伸幸 染谷喜美江 塚田好男
中島かつ江 中根聡 野口二三子 長谷川恵
方波見良子 松村順子 松本千歳
(日本大学考古学研究会) 江原英 石井美穂
江口誠一

凡 例

1 本文および表について

- () の数値は残存値である。
- ※は不確定な推定復元値
- 煩雑な記載を避けるため下記の通り略した。
 - 号堀→□堀。□井戸状遺構→□井戸・□井。
 - 号溝→□溝。□号土壌→□壤

2 挿図について

- 縮尺は以下の通りである。
 - 遺構 土層堆積 1/40
 - 堀・溝断面・井戸状遺構・土壌 1/60
 - 遺物出土 1/40・1/20
 - 遺物 1/2~4
- 遺構断面図の基準標高は各々に記載した。
- 遺物の図ナンバーは製品毎に通しとした。必要に応じて遺物のNo.に種別の略号を冠した。土器類(土)、木製品(木)、金属製品(金)、石製品

品(石)。

土器類・木製品類・金属製品については第10集のナンバーを記載した。

○土層説明は土層色調/含有物の順に記載した。

略称凡例

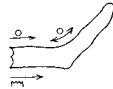
- ※テフラ=T、ローム=L、炭化物=C、焼土=S、酸化鉄=FE、黒褐色=BB、黒色=B、褐色=Br
- ※粒子=R、ブロック=B
- ※非常に多い=☆、多量=◎、少量=△、微量=▲、万遍なく=万
- ※やや明るい=やや明、やや暗い=やや暗
- ※非常に軟らかい=軟度高、軟らかい=軟質、やや軟らかい=軟度低、硬い=堅緻
- ※縮まり良し=縮良、縮まり悪し=縮悪、粘性強し=粘強、粘性有り=粘有

磁器



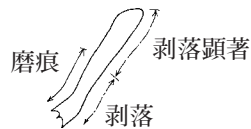
▲釉際

かわらけ



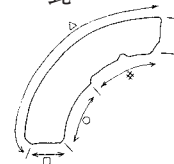
○指ナデ
▽板ナデ

挿針



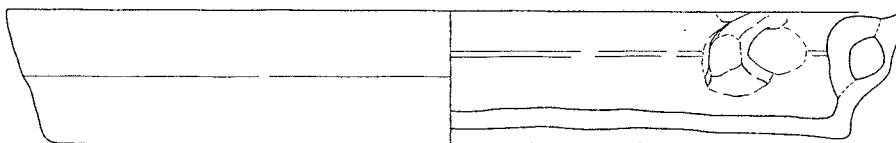
磨痕 剥落 剥落顕著

瓦



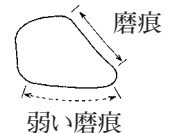
○ナデ
△みがき
□ケズリ
※布目

ほうろく



▽板ナデ

石製品



磨痕
弱い磨痕

目次

序／例言／目次

第 I 章 遺跡の立地・環境

- 第 1 節 遺跡の位置…………… 1
- 第 2 節 遺跡の地理的環境…………… 1
- 第 3 節 遺跡の歴史的環境…………… 2

第 II 章 調査に至る経過…………… 9

第 III 章 出土した遺物…………… 11

石製品類

第 IV 章 調査概要と検出された遺構…………… 55

第 V 章 出土遺物補遺…………… 110

第 VI 章 科学調査…………… 111

第 VII 章 まとめ…………… 115

図版／報告書抄録

挿図目次

- 第 1 図 遺跡の位置（騎西地域）…………… 1
- 第 2 図 周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡…………… 3
- 第 3 図 周辺の微地形分類と城館跡…………… 3
- 第 4 図 騎西城を取り巻く勢力図…………… 6
- 第 5 図 調査区の位置…………… 8
- 第 6 図 KB10区周辺の調査…………… 10
- 第 7 図 石器類 1（石臼 1）…………… 12
- 第 8 図 石器類 2（石臼 2）…………… 13
- 第 9 図 石器類 3（石臼 3）…………… 14
- 第 10 図 石器類 4（石臼 4）…………… 15
- 第 11 図 石器類 5（石臼 5）…………… 16
- 第 12 図 石器類 6（石臼 6）…………… 17
- 第 13 図 石器類 7（石臼 7）…………… 18
- 第 14 図 石器類 8（石臼 8）…………… 19
- 第 15 図 石器類 9（石臼 9）…………… 20
- 第 16 図 石器類 10（石臼 10）…………… 21
- 第 17 図 石器類 11（碁石・硯・他）…………… 22
- 第 18 図 石器類 12（砥石 1）…………… 23
- 第 19 図 石器類 13（砥石 2）…………… 24
- 第 20 図 石器類 14（砥石 3）…………… 25
- 第 21 図 石器類 15（砥石 4・磨石 1）…………… 26
- 第 22 図 石器類 16（磨石 2）…………… 27
- 第 23 図 石器類 17（磨石 3）…………… 28
- 第 24 図 石器類 18（磨石 4）…………… 29

- 第 25 図 石器類 19（磨石 5）…………… 30
- 第 26 図 石器類 20（磨石 6）…………… 31
- 第 27 図 石器類 21（磨石 7）…………… 32
- 第 28 図 石器類 22（磨石 8・火打石・他）…………… 33
- 第 29 図 石器類 23（板碑 1）…………… 34
- 第 30 図 石器類 24（板碑 2）…………… 35
- 第 31 図 石器類 25（板碑 3）…………… 36
- 第 32 図 石器類 26（板碑 4）…………… 37
- 第 33 図 石器類 27（板碑 5）…………… 38
- 第 34 図 石器類 28（板碑 6）…………… 39
- 第 35 図 石器類 29（板碑 7）…………… 40
- 第 36 図 石器類 30（板碑 8）…………… 41
- 第 37 図 石器類 31（板碑 9）…………… 42
- 第 38 図 石器類 32（板碑 10）…………… 43
- 第 39 図 石器類 33（板碑 11）…………… 44
- 第 40 図 石器類 34（板碑 12）…………… 45
- 第 41 図 石器類 35（板碑 13）…………… 46
- 第 42 図 石器類 36（板碑 14・五輪塔）…………… 47
- 第 43 図 KB10区遺構位置図 1（南側調査区）…………… 69
- 第 44 図 KB10区遺構位置図 2（北側調査区）…………… 71
- 第 45 図 遺構 1…………… 73
- 第 46 図 遺構 2…………… 75
- 第 47 図 遺構 3…………… 77
- 第 48 図 遺構 4…………… 78

第49図	遺構 5	79	第60図	遺構16	90
第50図	遺構 6	80	第61図	遺構17	91
第51図	遺構 7	81	第62図	遺構18	92
第52図	遺構 8	82	第63図	遺構19	93
第53図	遺構 9	83	第64図	遺構20	94
第54図	遺構10	84	第65図	遺構21	95
第55図	遺構11	85	第66図	遺構22	96
第56図	遺構12	86	第67図	遺構23	97
第57図	遺構13	87	第68図	補遺	110
第58図	遺構14	88	第69図	各遺物の蛍光エックス線分析	112
第59図	遺構15	89	第70図	『絵図』との対照図	116

表目次

第1表	石製品類一覧表 1	48	第12表	遺構一覧表 5	102
第2表	石製品類一覧表 2	49	第13表	遺構一覧表 6	103
第3表	石製品類一覧表 3	50	第14表	遺構一覧表 7	104
第4表	石製品類一覧表 4	51	第15表	遺構一覧表 8	105
第5表	石製品類一覧表 5	52	第16表	遺構一覧表 9	106
第6表	石製品類一覧表 6	53	第17表	遺構一覧表10	107
第7表	石製品類一覧表 7	54	第18表	遺構一覧表11	108
第8表	遺構一覧表 1	98	第19表	遺構一覧表12	109
第9表	遺構一覧表 2	99	第20表	補遺一覧表	110
第10表	遺構一覧表 3	100	第21表	金属生産関連遺物調査結果	114
第11表	遺構一覧表 4	101			

図版目次

図版 1	出土遺物 1	石製品類 1	図版13	遺構 4
図版 2	出土遺物 2	石製品類 2	図版14	遺構 5
図版 3	出土遺物 3	石製品類 3	図版15	遺構 6
図版 4	出土遺物 4	石製品類 4	図版16	遺構 7
図版 5	出土遺物 5	石製品類 5	図版17	遺構 8
図版 6	出土遺物 6	石製品類 6	図版18	遺構 9
図版 7	出土遺物 7	石製品類 7	図版19	遺構10
図版 8	出土遺物 8	石製品類 8	図版20	遺構11
図版 9	出土遺物 9	石製品類 9	図版21	遺構12
図版10	遺構 1		図版22	遺構13
図版11	遺構 2		図版23	遺構14
図版12	遺構 3		図版24	遺構15

図版25 遺構16
図版26 遺構17
図版27 遺構18
図版28 遺構19
図版29 遺構20
図版30 遺構21

図版31 遺構22
図版32 遺構23
図版33 遺構24
図版34 遺構25
図版35 遺構26
図版36 遺構27



1号溝調査風景

第1章 遺跡の立地・環境

第1節 遺跡の位置 (第1図)

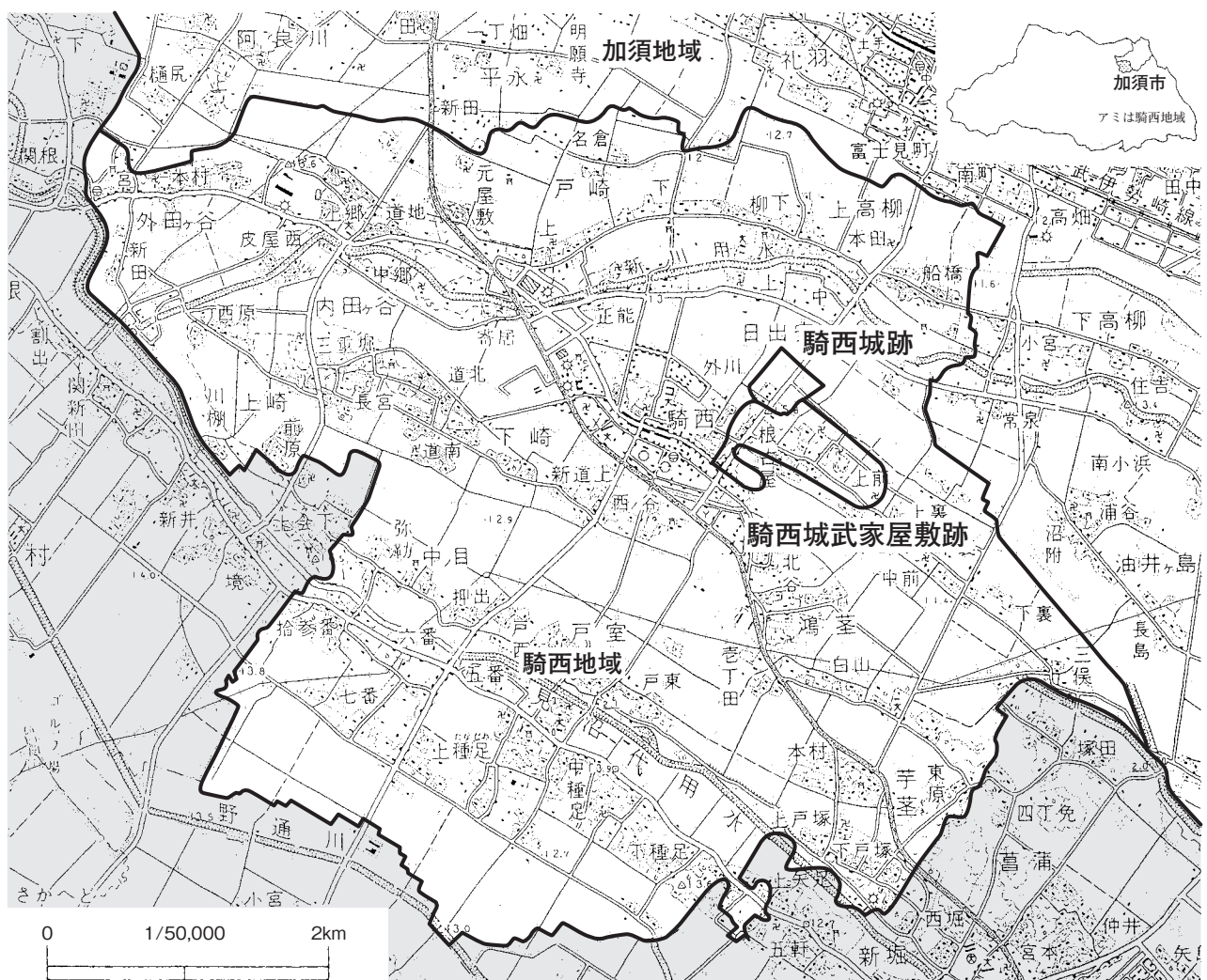
加須市騎西地域は埼玉県北東部に位置し騎西城武家屋敷跡はそのほぼ中央にある。行政上では加須市根古屋字道上・中宿・前・道下、牛重上前・中前・上裏その他に所在する。戦国から江戸時代の城跡で、昭和56年度実施の騎西町遺跡詳細分布調査や明治9年の「地引番号全図根古屋」、江戸時代に描かれた「武州騎西之絵図」などにより城の形状や武家屋敷の範囲が明らかである。遺跡の範囲は騎西文化・学習センターから南東へ1.2km、南西へ約0.5kmである。

である加須低地・中川低地が広がっている。加須低地には、騎西島状台地群をはじめとして笠原支台より断続的に続く埋没ローム台地がいくつか存在し、造盆地運動によって台地や低地が沈降した。その上に利根川などの氾濫による河成堆積物が堆積し、自然堤防・埋没ローム台地・後背湿地・沼沢地が形成されたものである。

現在騎西地域内で確認されている原始から近世までの遺跡は埋没ローム台地と自然堤防上に立地していると言われてきた。しかし発掘調査では、旧石器時代から奈良・平安時代の遺跡は自然堤防とされている見沼代用水両岸に位置しいずれもローム台地上に展開している。

第2節 遺跡の地理的環境 (第2図)

大宮台地の北東から南東方向には肥沃な水田地帯



第1図 遺跡の位置 (騎西地域)

第3節 遺跡の歴史的環境(第2・3図)

※(遺跡名)は『騎西町史考古資料編1』に準じたものである。城館跡名では不適切となるため小字による遺跡名を付け直したものである。

1 旧石器時代

約2万年前以降、ナイフ形石器や尖頭器が盛行した頃、萩原遺跡をはじめ(前)・(中宿)遺跡で該期の遺物が出土している。(前)遺跡では尖頭器及び剥片の集中箇所が2カ所確認されている。

細石刃石器群が出現した約1万5千年前以降では下崎中郷遺跡で北方系の削片、(道上)遺跡では同系の荒屋型彫刻器が出土している。

2 縄文時代

草創期に(中宿)遺跡で有舌尖頭器が見られるのみで土器は発見されていない。早期は修理山・小沼耕地・(前)・(道上)遺跡で撚糸文系土器、(前)遺跡では集石遺構が、(道上)遺跡で沈線文系土器、条痕文系は修理山・(前)・(中宿)・(道上)遺跡で土器が出土しており、特に修理山・(中宿)遺跡では炉穴が確認された。

前期では前半花積下層・関山・黒浜式土器が小沼耕地・(前)・(道上)で出土している。後半諸磯から十三菩提式期までは前半に加え萩原遺跡で諸磯式土器が、小沼耕地遺跡では県内では希少な花積下層式期の住居跡状落ち込みが検出されている。

中期前半に(道上)・萩原遺跡で五領ヶ台式・勝坂式が確認されている。後半は加曾利E式期その後半に(中宿)遺跡で柄鏡形住居・(道上)遺跡で竪穴住居が、萩原・修理山遺跡では集落が展開した。修理山遺跡では10軒の竪穴住居、萩原遺跡では数軒の住居跡と墓壙などが見つかった。

両遺跡は後期前半堀の内期までは集落を継続し少数ながら住居跡や貯蔵穴が検出された。後半になると再び遺物のみの出土となるが萩原・中郷・(前)・(中宿)・(道上)遺跡で加曾利B～後期安行式が出土している。晩期では安行3a～3d式が修理山・町並・(道上)・(前)・(中宿)遺跡で出土している。

3 弥生時代

騎西地域内ではこのころの遺跡は少なく、中期では小沼耕地(※町史では上種足三番)遺跡で磨製石鏃が、(道上)遺跡では後期の壺や器台の破片が出土しており、中種足五番遺跡の絵画土器や小沼耕地遺跡の土器片は弥生時代終末期から古墳時代初頭のものである。

4 古墳時代

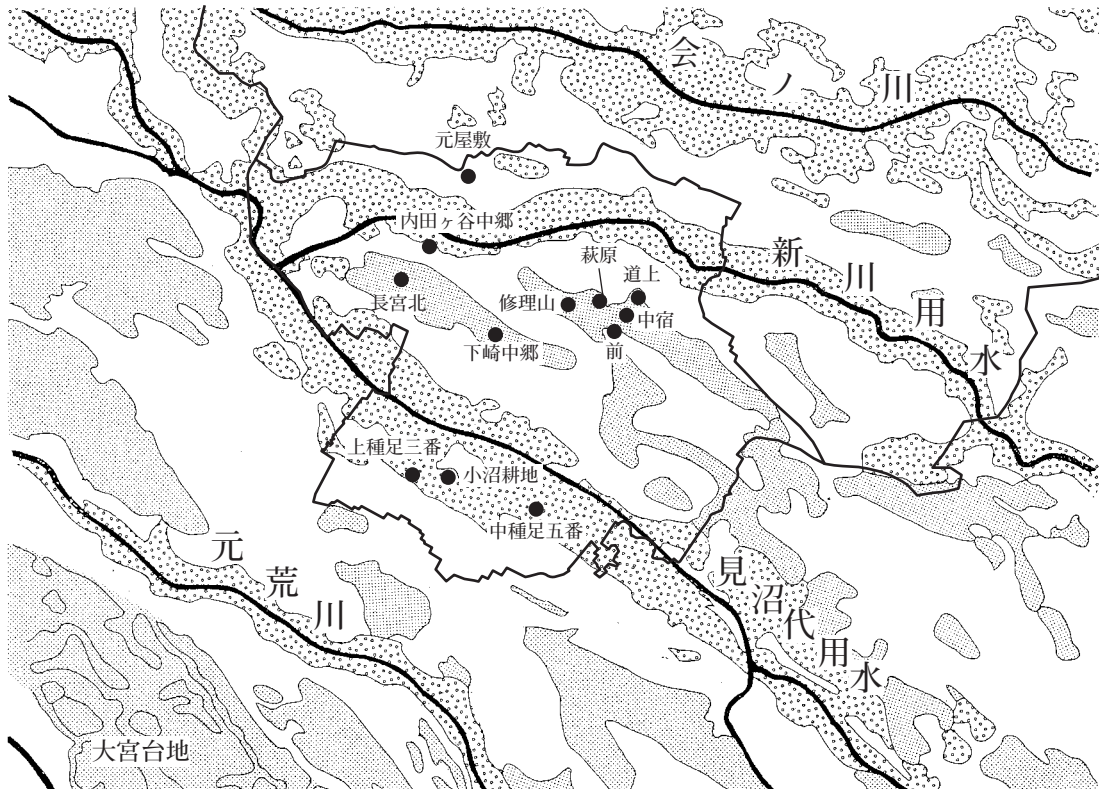
古墳跡は小沼耕地遺跡※で6～7世紀の前方後円墳1基・円墳5基が確認されている。また、(内田ヶ谷中郷)遺跡で勾玉や埴輪片、(前)遺跡の埴輪片や隣接する(中宿)遺跡の切子玉・さらにその周辺で出土したと伝えられる石棺部材(市内の玉敷神社所在)等からこれらの地域にも古墳が所在していたものと考えられる。また、集落は前期の住居跡が小沼耕地遺跡・(中宿)遺跡、中期の住居跡が萩原遺跡、後期の住居跡は萩原遺跡・(道上)遺跡・(中宿)遺跡で確認されており、なかでも萩原遺跡は地域内屈指の集落遺跡である。そのほかにも古墳時代の土師器が中種足五番遺跡・観音堂遺跡から出土し集落の所在を予想させる。他に古墳時代前期の方形周溝墓が修理山遺跡・小沼耕地遺跡で確認されている。

以上のように現在遺跡が確認されている台地には古墳及び集落がそれぞれ所在するものと考えられる。

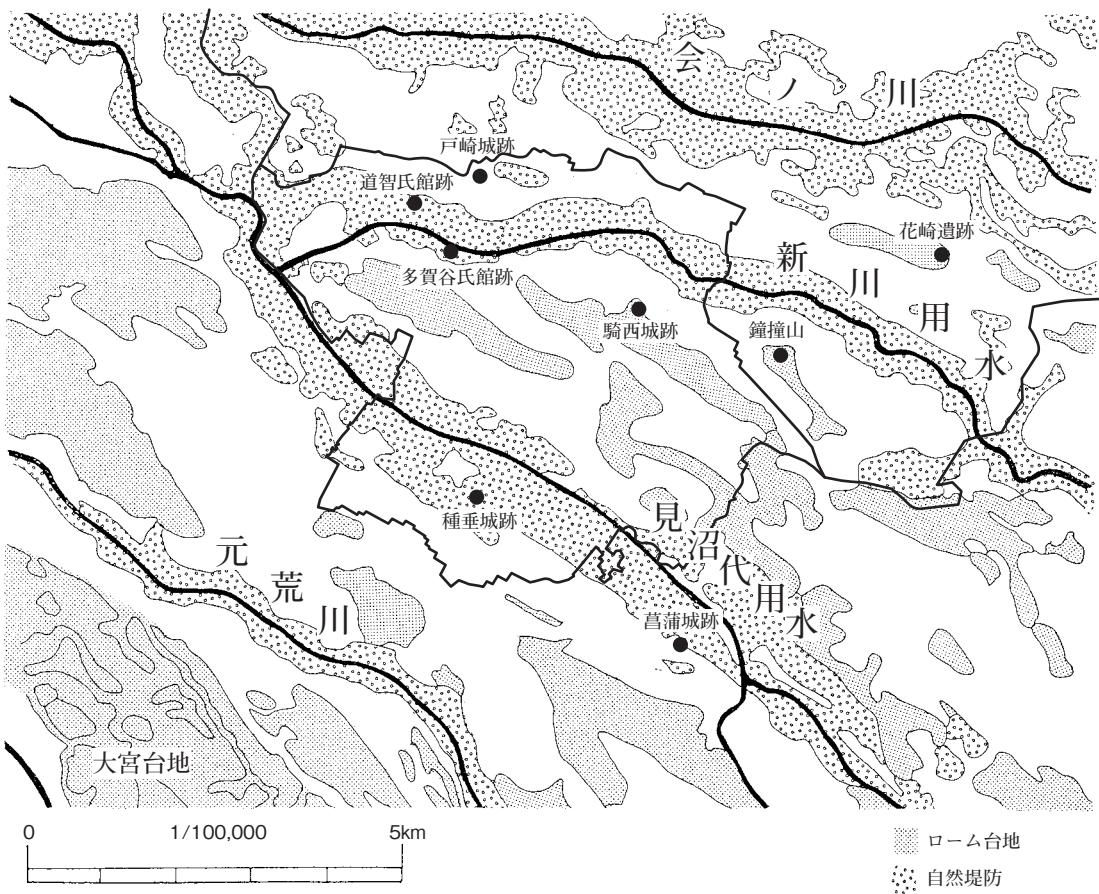
※町史の上種足三番遺跡を含む

5 奈良・平安時代

住居跡が確認されているのは(道上)遺跡・小沼耕地(※町史では上種足三番遺跡)で8世紀代のものである。下崎中郷遺跡では湖西産とみられる須恵器が、観音堂・中種足五番遺跡で須恵器や土師器が、(中宿)遺跡では小金銅仏が出土している。元屋敷遺跡では墨書土器や瓦が出土している。



第2図 周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡



第3図 周辺の微地形分類と城館跡

6 中近世

騎西地域内には平安末から鎌倉時代にかけて武蔵武士野与党の道智氏・多賀谷氏が館を構えたといわれる。

多賀谷氏館は、内田ヶ谷の大福寺を中心にあったものと思われ、建久元年（1190）多加谷小三郎が源頼朝の上洛の随兵を、建長3年（1251）多賀谷弥五郎重茂が鎌倉由比ヶ浜での御弓始の射手を務めている『吾妻鏡』。永享年間（1429-41）初め頃に結城に移ったといわれる多賀谷光義は敬神の念厚く郭内に稲荷明神を勧請した『多賀谷旧記』。発掘調査では館跡の東端（1次調査）で、溝から12～14世紀の同安・龍泉窯系青磁碗・常滑広口壺が出土しており、館跡のほぼ中央にある大福寺の北（4次調査）で、土壙から12～13世紀の同安・龍泉窯系青磁とともに刀身先端や鉄鏃が出土している。

道智氏館は、道地の成就院周辺で建久元年（1190）道智次郎が源頼朝の上洛の随兵を務め、承久3年（1221）の宇治橋の合戦では道智三郎太郎が討ち死にしている『吾妻鏡』。発掘調査では館跡のほぼ中央で13～14世紀の龍泉窯系青磁が、西端で12～13世紀の龍泉窯系青磁などが出土している。

種垂城跡は、上種足種垂城址公園から東へ広がり百石・シロンチ（城の内？）等の地名が残る。雲祥寺縁起には騎西城主小田頭家が養子の助三郎（忍城主成田親泰の子）に家督を譲り種垂村に隠居したという。発掘調査では、溝・井戸・土壙・火葬跡を検出し、漆碗・小柄や13～17世紀の陶磁器類が出土している。

隣接する**旧上種足三番遺跡**（現小沼耕地遺跡）では、溝・土壙・井戸・集石墓が検出されており、12世紀の白磁水注・13世紀の龍泉窯系青磁・常滑甕・在地の蔵骨器・箆状木製品が出土している。

小沼耕地遺跡では、県埋蔵文化財調査事業団の調査で、掘立柱建物跡・基壇状遺構・溝・井戸などが検出され、12～13世紀を主体とする陶磁器類が出土している。種足は、中世前半の弘安10年頃（1287）伊賀光清が所領としており、また応永24年（1417）に日英上人が種垂の講演御堂（布教道場）等の講演職を弟子に任せている。三番・小沼耕地遺跡の成果

はそれらに関わるものとも思われる。

南方の中種足五番遺跡では12～13世紀の龍泉窯系の青磁や15～16世紀の染付、13～17世紀の古瀬戸・常滑・在地の陶磁器類が出土している。

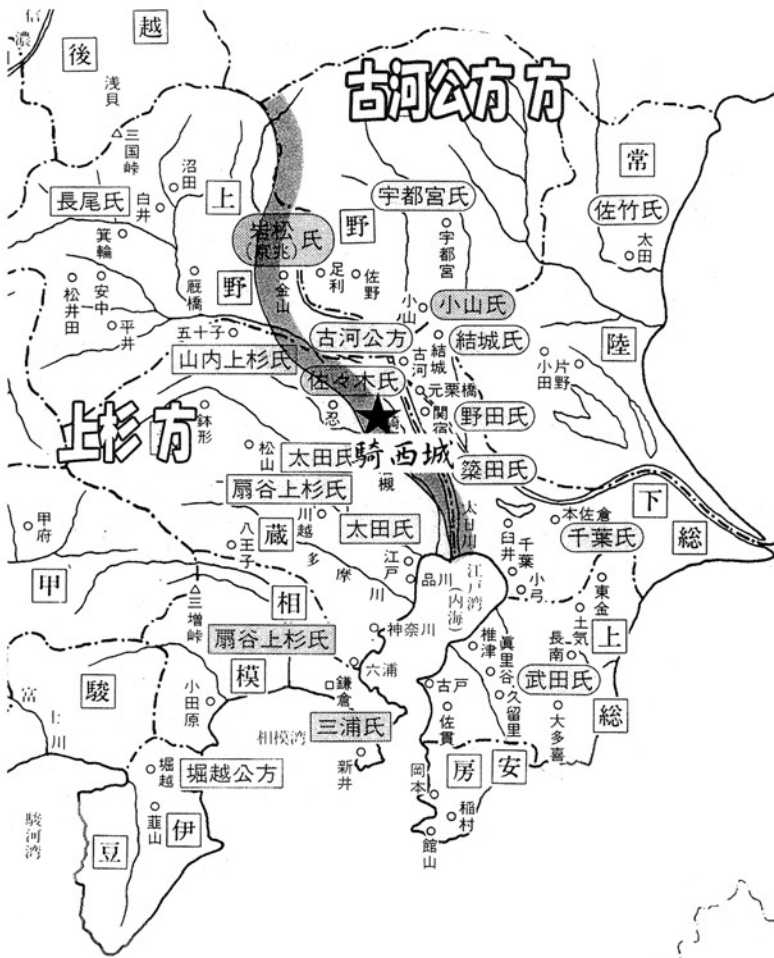
戸崎城跡は、『新編武蔵風土記稿』に戸崎右馬允居跡なりとある。また、『吾妻鏡』に戸崎右馬允国延が寿永3年（1184）源頼朝の御前の射手となることある。発掘調査では土塁跡や13世紀の鉢や17・18世紀の陶磁器類が出土している。

騎西城（騎西城周辺年表参照）は、文献や江戸初期の『武州騎西之絵図』など城の絵図が遺る。遺構は現在土塁跡が僅かに残るだけであるが、昭和55年から80次を超えて発掘調査されており、主に土地区画整理に伴い城郭部や武家屋敷跡西部の成果が顕著である。これまでに溝400条・土壙1600基・井戸状遺構200基・障子堀5ヶ所・橋跡4ヶ所が確認されている。遺物は戦場及び生活・生産の場として武器武具・生活・生業・信仰・流通に関する多様なものが出土している。特に水位が高いことから木製品の遺存がよい。**武器武具**では、兜・前立・刀装品・鉄鏃・火縄挟・弾丸・馬甲・轡・四方手・野沓・腰刀・薙鎌など、**生活品**では、下駄・鏡・竪杵・鉄鍋・桶・漆碗・杓子・折敷・火打金・天目茶碗・湯釜・将棋の駒など、**生業**では、砥石・紡錘車・鋏・溶解炉・鋳型・埴塙・金粒子付着土器など、**信仰**では護符・呪符・舟形・位牌・銅鏡・数珠など、**流通**では金・袋入り銭貨・荷札などがある。年代を比定できる陶磁器は12世紀から19世紀にかけてのもので、主体は16～17世紀前半である。瀬戸美濃をはじめ中国染付・唐津・志戸呂・初山・在地産かわらけ・ほうろく・播鉢などがある。

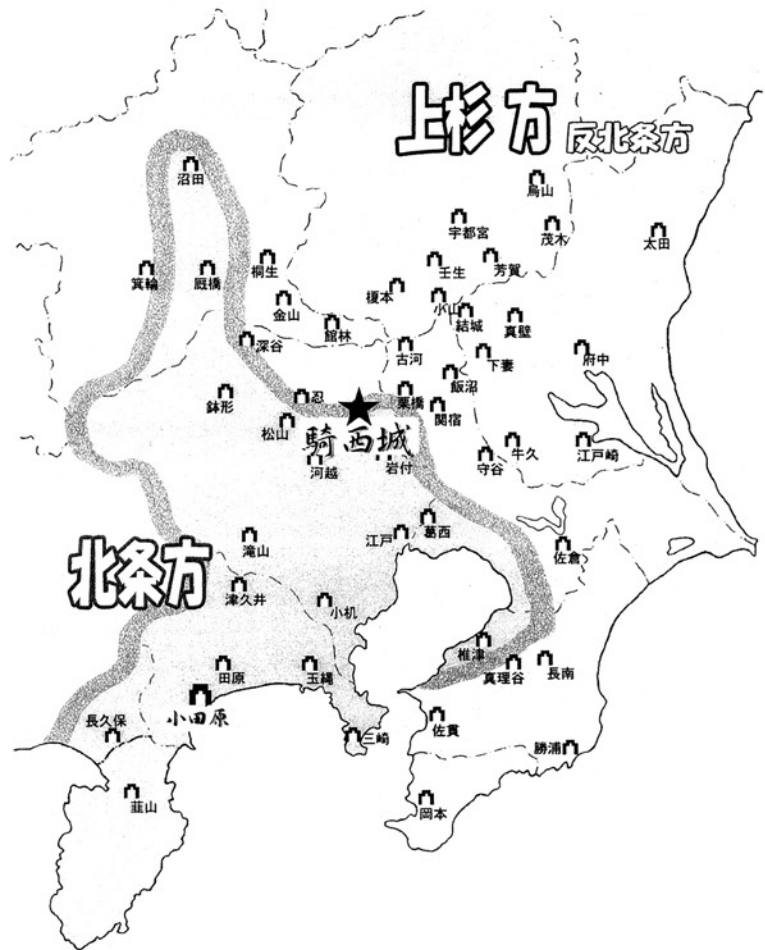
このほかに、日出安の保寧寺中世墓址では、大量の川原石や板碑、12～14世紀の常滑の甕・壺、13世紀の布目瓦が出土している。墓域の成立は中世前半に遡るものか。また、下崎の道南遺跡で工事の際1978枚の北宋銭が出土している。

騎西城周辺年表

康正元年 (1455)	足利成氏、崎西郡 (騎西城) に集結する上杉勢 (上杉・疋鼻和氏など) を攻略する
文正元年 (1466)	足利成氏、南多賀谷 (田ヶ谷) と北根原 (鴻巣市) で上杉勢と合戦に及ぶ
応仁元年 (1467)	★応仁の乱
文明3年 (1471)	上杉方に対峙する足利成氏の戦略配置に私市 (騎西) の佐々木氏あり
文亀2年 (1502)	騎西城主小田顕家、上会下 (鴻巣市) の雲祥寺を再興。忍城 (行田市) 主成田親泰の子助三郎 (朝興) を娘婿とし騎西城を譲り、自らは種足村に隠居する
天文8年 (1539)	騎西城主小田顕家没、雲祥寺に葬られる
天文12年 (1543)	★鉄砲伝来
永禄3年 (1560)	長尾景虎 (上杉謙信) 関東の北条方諸城を攻略
永禄4年 (1561)	騎西城主小田助三郎、兄の忍城主成田長泰と共に景虎の小田原攻めに参加する。長泰、鶴岡八幡宮で上杉政虎 (謙信) に辱められ、北条方となる。助三郎も離反
永禄6年 (1563)	北条氏康・武田信玄連合軍が松山城 (吉見町) を攻略。報復に上杉輝虎 (謙信)、騎西城を攻略
永禄12年 (1569)	上杉と北条の講和成立 (越相同盟)。上杉方は武蔵北部を支配
天正2年 (1574)	上杉謙信、羽生の関宿城を救援。騎西・古河・栗橋・館林・菖蒲・岩付城を焼き払う
天正4年 (1576)	成田泰喬 (あるいは氏長)、家臣に知行を宛がう
天正5年 (1577)	小田大炊頭、古河公方への年頭の挨拶を行う
天正6年 (1578)	小田大炊頭、足利義氏に年頭の挨拶。謙信没
天正18年 (1590)	★徳川家康、関東へ入国。松平康重に騎西領二万石を与える
天正19年 (1591)	松平康重大英寺を開基、日出安の保寧寺に田畑1町歩を寄進する
文禄2年 (1593)	松平康重、朝鮮出兵のため騎西領民を召し連れる
慶長元年 (1596)	根古屋の金剛院、日出安から移転する
慶長4年 (1599)	松平康重の奥方、城内にて死去、大英寺に葬る
慶長5年 (1600)	★関ヶ原の戦い
慶長7年 (1602)	この頃大久保忠常、騎西領二万石を拝領する
慶長8年 (1603)	★徳川家康、江戸に幕府を開く
慶長11年 (1606)	騎西藩の家臣、領内 (正能村) を検地する
慶長16年 (1611)	忠常病死。子の忠職、父の遺領騎西領二万石を拝領する
慶長19年 (1614)	大久保忠隣改易となり小田原・羽生を没収、孫の騎西城主忠職は閉門に処せられる
寛永2年 (1625)	忠職、赦免される
寛永4年 (1627)	大久保忠職、久伊豆大明神 (玉敷神社) に社領を寄進する
寛永9年 (1632)	忠職、三万石加増され、美濃の加納へ転封し五万石を拝領する。騎西城廃され、代官所が置かれる



享徳の乱初期の関東
(1454～)



氏康 × 謙信の頃の関東
(永禄・天正年間)

『古河公方展』古河歴史博物館
『中世・下町再発見』葛飾郷土と天文の博物館
掲載の図を改変

第4図 騎西城を取り巻く勢力図

騎西城周辺の歴史的経過 (年表・第4図)

当遺跡では濃密ではないが中世を通して遺物が出土している。12世紀代の常滑甕、舶載白磁、渥美製品、また古瀬戸陶器等が見られる。騎西城以前にも集落・館等が存在していたようである。

【享徳の乱】

文献では騎西城は、康正元年（1455）に初出し寛永9年（1632）廃城となり姿を消す。享徳の乱では、関東公方足利成氏が古河に移り、関東管領上杉氏と対峙する。その争いの中に騎西郡を舞台として争う場面がある。これが騎西城とされる。残念ながら現在のところ当該期に相当する遺構は確認されていない。だがこの時期に騎西城の前線基地としての重要性は格段に高まり、戦闘の拠点としての城の整備がされたものと思われる。関東管領家臣の太田道灌が岩付城・河越城・江戸城の防衛ラインを張ったとき騎西城はすでに古河方の足場として機能していたのではないだろうか。

【永禄・天正期の軍事的緊張】

また、永禄から天正年間にかけての後北条氏対上杉謙信の覇権争いにおいても境の城であった。騎西城は何度となく厳しい立場に追い込まれている。特に謙信が関東の足掛かりとした羽生城を間近にしており、2度の戦火を被っている。

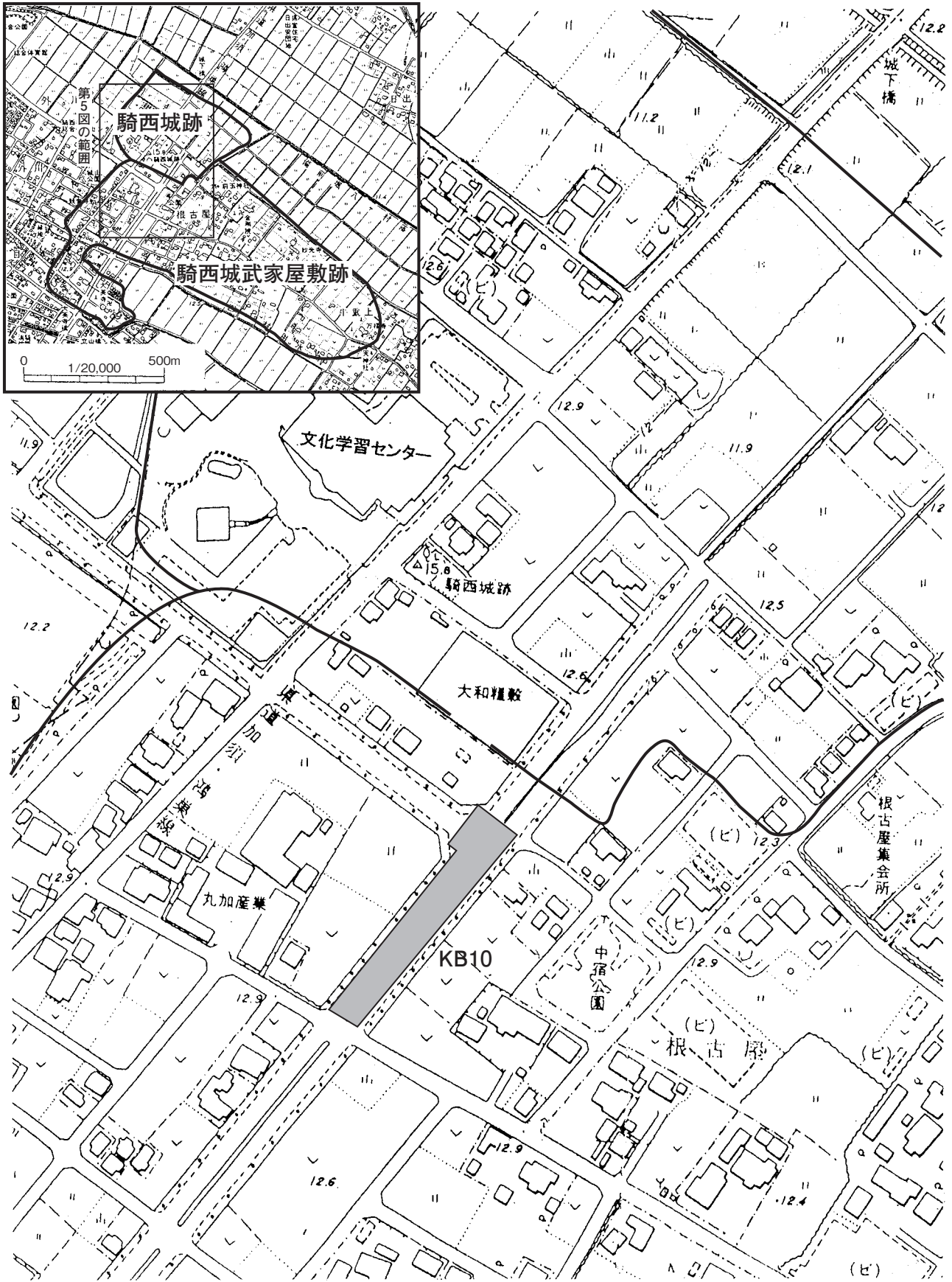
文献では、永禄6年、北条氏康・武田信玄が松山城を包囲したが、その救援に間に合わなかった謙信は攻める方向を転じ騎西城を陥落させた。その後、謙信は武田信玄との敵対関係から北条氏康との和睦（越相同盟）を成し、しばし平安であった。しかし北条氏康没後、甲相同盟の復活によりまた北条・上杉の合戦が再開された。天正2年には謙信が羽生・関宿城援護のため出陣し、古河・栗橋・館林・菖蒲・岩付城とともに騎西城を焼き討ちにしている。

当該期の遺物・遺構は豊富で、城郭部周辺の障子堀（KB15区・騎13次）から炭化物・遺物が多量に出土している。これらはこの頃の戦火に伴う戦後処理のものと思われる。

【秀吉の小田原攻めと家康の関東入封】

豊臣秀吉が小田原城を攻めたとき、忍城も石田三成に水攻めを受けている。騎西城も備えとして城の拡張・改良を行っているものと思われる。特に城郭部を巡る障子堀を二重にしたり、堀幅を広くしたのはこの時期の可能性がある。

その後家康が関東に入り、騎西城には松平康重、大久保忠常・忠職が藩主となっている。その際に城郭部の縮小や城下の再編成を行っているものと思われる。実際『武州騎西之絵図』に載る御蔵屋舗には外側に障子堀を備えており、戦乱時は城郭部であったことを物語っている。



第5図 調査区的位置



第Ⅱ章 調査に至る経過

旧騎西町は首都圏50km圏内に位置し、急激な人口の増加に伴う開発が見込まれていた。それに対し計画的な都市整備の一環として大字根古屋及び外川において土地区画整理事業が計画されていた。

町教育委員会では昭和56年度に実施した町内遺跡群分布調査によって町内に15ヶ所の遺跡が所在することを確認しており、とくに区画整理対象区域に所在する騎西城については小田原市に所蔵されていた『武州騎西之絵図』と対照すると城の南側に江戸初期に武家屋敷が広がっていたことが明らかとなっている。さらに昭和54年に実施した騎西城跡の発掘調査では、和鏡や武具などの出土により城の存在を実証し、その内容を具体的に明らかにしたものであった。僅かに残る土塁や水田と畑地に見られる郭の形など遺存状態は良く、地下に埋蔵される遺構は特に

期待されるものであった。

しかしながら、長年の懸案であった根古屋・外川地区土地区画整理事業は町の重要施策であり、計画の中止及び変更は困難な状況であった。

そこで町教育委員会では町部局と協議を重ねた結果、区画整理施工に先立ち破壊される道路分について順次発掘調査を実施することとした。また、区画整理により発生する保留地についても町が原因者として発掘調査をすることとした。

文化財保護法に基づき騎西町から埋蔵文化財発掘通知、騎西町教育委員会から埋蔵文化財発掘調査通知を文化庁長官に提出した。

調査は昭和58年2月9日（騎2次）から開始し、平成7年（第48次）までの13年に亘るものであった。今回の報告は、調査実施区域の中央部で調査名ではKB10区、所在地は字中宿126-1ほかである。



4号溝 調査風景



第6図 KB10区周辺の調査

第三章 出土した遺物

石製品類

ここでは、成形したものを使用した石製品と使用による損耗形態を呈す石器を石製品として、墓標・供養塔である板碑・五輪塔を石造物として扱う。

(1) 石製品

石臼は1～91で、茶臼と粉挽臼と搗臼がある。茶臼は1・3・5・9・11～13・15・19・20・22・25・26・30・33・38～40・43・67・69・72・74・77・80・90で、搗臼は4・55・56・59で、他は粉挽臼である。54は上臼、66・67は下臼の全形が窺える。挽木の挿入口は20・25・32・53・54に見られ、特に20・25は茶臼で挿入口に円及び方形の浮き彫りを施す。32・53・54は粉挽臼で挿入口はいずれも貫通している。51・54・63・64・68・78には供給口の穴がある。7・32・81にはスス、27・48・57には炭化物、11に黒色物が付着している。4・15・25・56・61・66・69・70・72・78には黒化部分がある。2・14・17・29・36・42・48・56・59・65・71・76・86・89には磨痕がある。

92～94は、扁平で不整円形、径2cm前後。92は暗緑色・93は灰色・94は黒色～暗色の石で、基石としておく。

硯は95～101で、95・99は幅約3cmの小型のものである。95は海周辺に墨が付着している。

102は球形あるいは円盤形で、中央に穿孔がある。紡錘車か。103は直方体に抉りが施され、手洗い鉢か。104は渦巻き状の肉彫りがされる石製品。105は全面磨られる磨製の楔形製品である。106・107は途中で穿孔され有穴球状石製品とする。106は扁平な球状で車輪状の刻みを施し、107は正球状だが上面は扁平である。

砥石は108～169で、直方体を基本形とし、損耗により変形するものがある。泥岩質のものがほとんどである。119は緑泥片岩製で一部磨痕条線が見られる。169は頁岩様で硯からの転用の可能性がある。

磨石は170～275で、礫の原形が残るものも多く、使用により形成された面が不規則に存在する。デイ

サイトが多数を占める。184・187・233は五輪塔など他製品からの転用か。名称が縄文時代のものを連想させるが砥石と区別するために別に扱う。

砥石・磨石共に金属を砥いたことによる線条痕の残るものが見られ、鎌や武器類などの刃物を対象としていたものであろう。

276～287は石英で擦痕・潰れが認められるもので火打石として扱った。判別は困難であるが火打金の出土例から想定しておくべきものである。

288は長球形で289は扁平な直方体で用途不明。

(2) 石造物

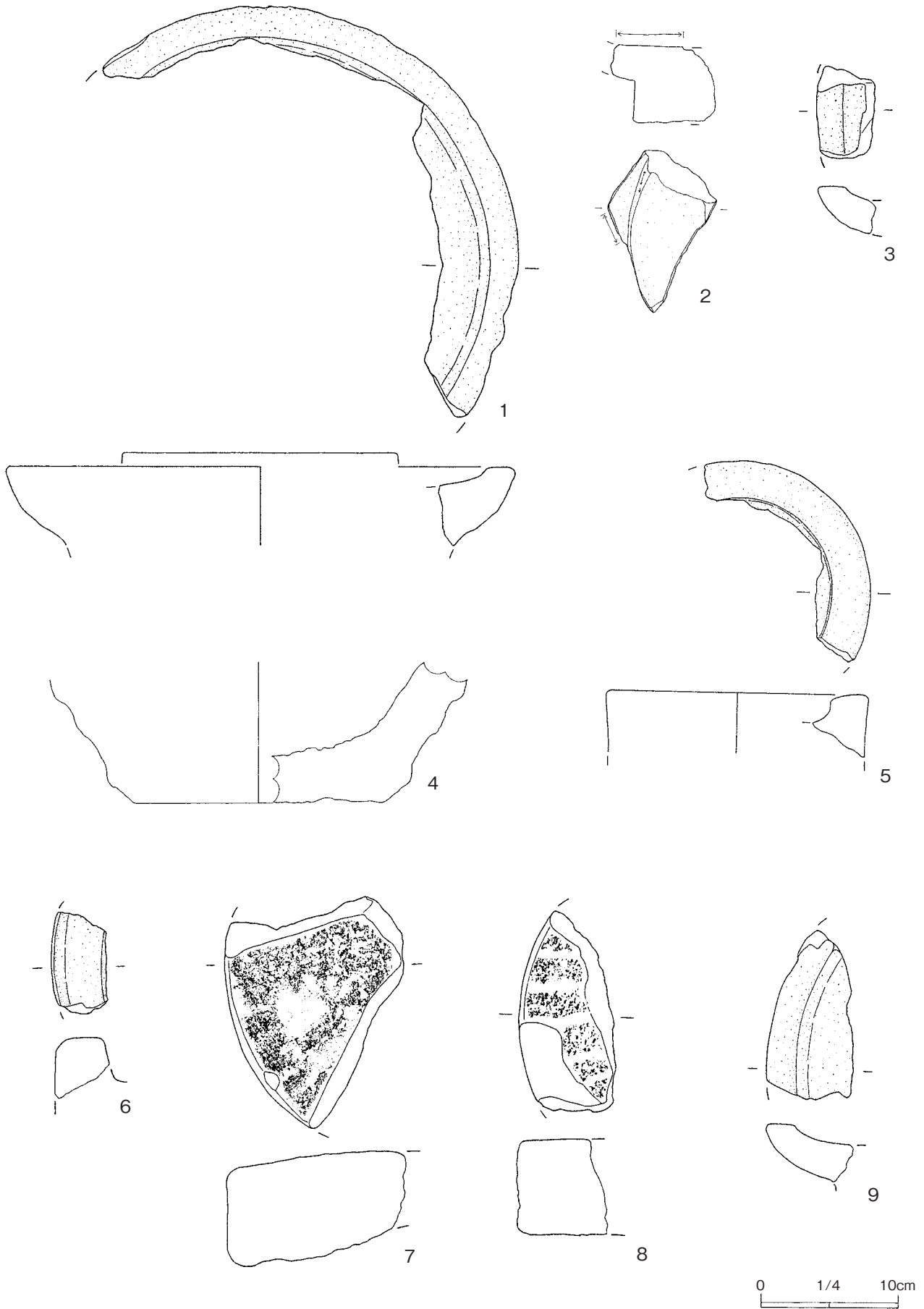
【板碑】板碑は115点を数えるが、完形は381で、他は破片である。

○銘文など 年号のわかるものは、327の元徳(1329～32)、332の延徳二年(1490)正月廿一、336の正和四年(1315)、348の嘉暦(1326～29)、360の徳治三年(1308)六月日、381の文安二年(1445)十一月四日がある。14世紀前半から15世紀末の時間幅がある。308・316～318・326・328・346・387・390には、年月日の一部が見られる。キリークが305・314・321・327・328・330～332・347～349・352・358・360・362・365・366・372・379・381・392・398・399に、パンが320・364に、サクが325に、サが342に刻まれる。298に月輪、332に供養者(妙意禅尼)、傷は、304・308・310・336・353・354・360・367・378に刻まれる。

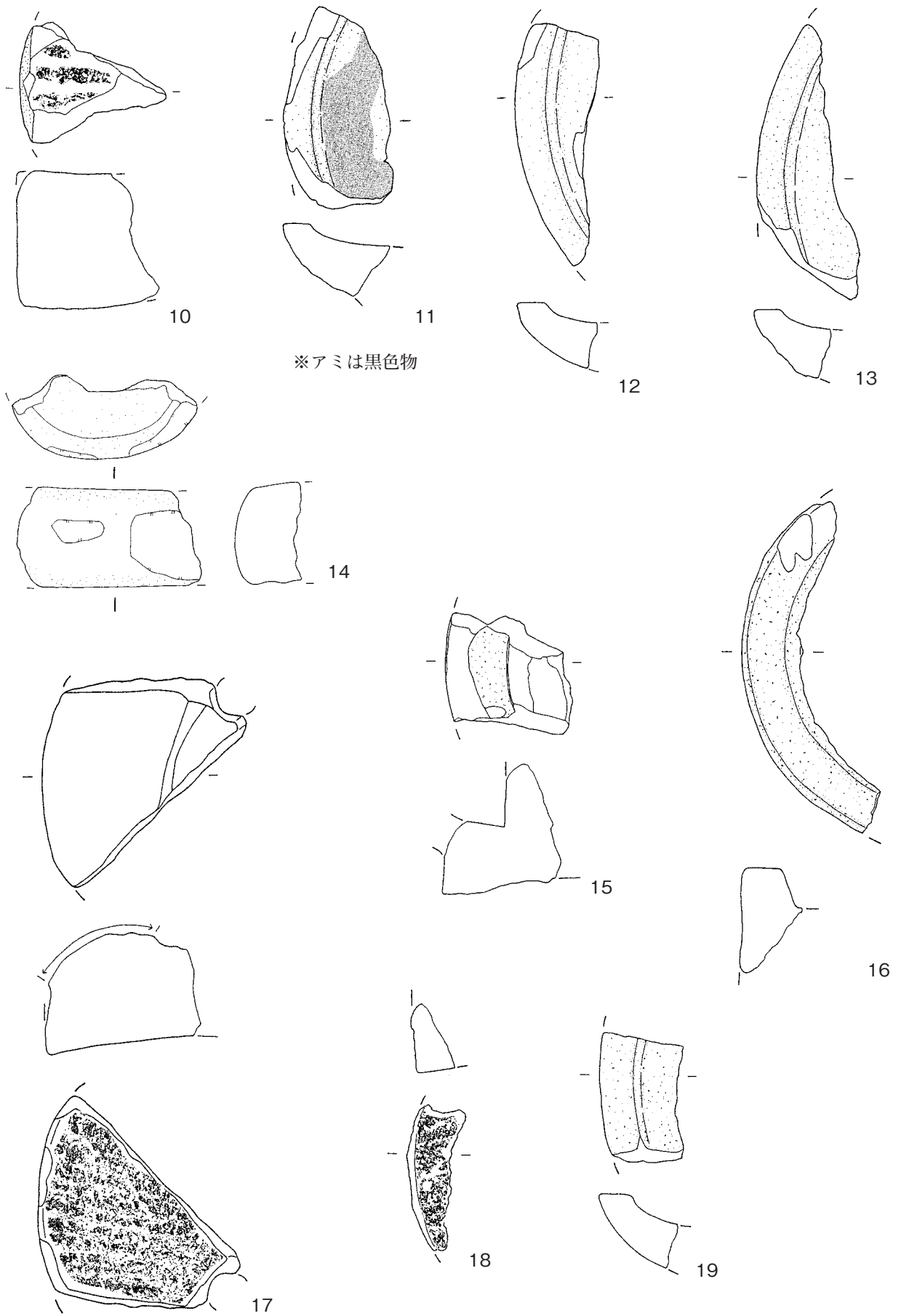
○使用痕 299・311・317・319～321・326～328・332・334・336・337・343・345・348～350・353・360・361・364・367・370・372・376・384・385・391・392・403に、2次使用としては表面及び側面に磨痕・線条痕が認められ、砥石として使用されたものであろう。

○付着物 廃棄以降であろうか、298・308・336・351・353・363・372・380・387には、ススが付着している。305・392には、黒色付着物が見られる。297・302・331・373・388・393には、被熱による黒化が見られる。なんらかの焼却や戦乱時の燃焼に伴うものであろう。

【五輪塔】405～407は、五輪塔の地輪と思われる。405の正面にはアが刻まれ墨塗りをする。

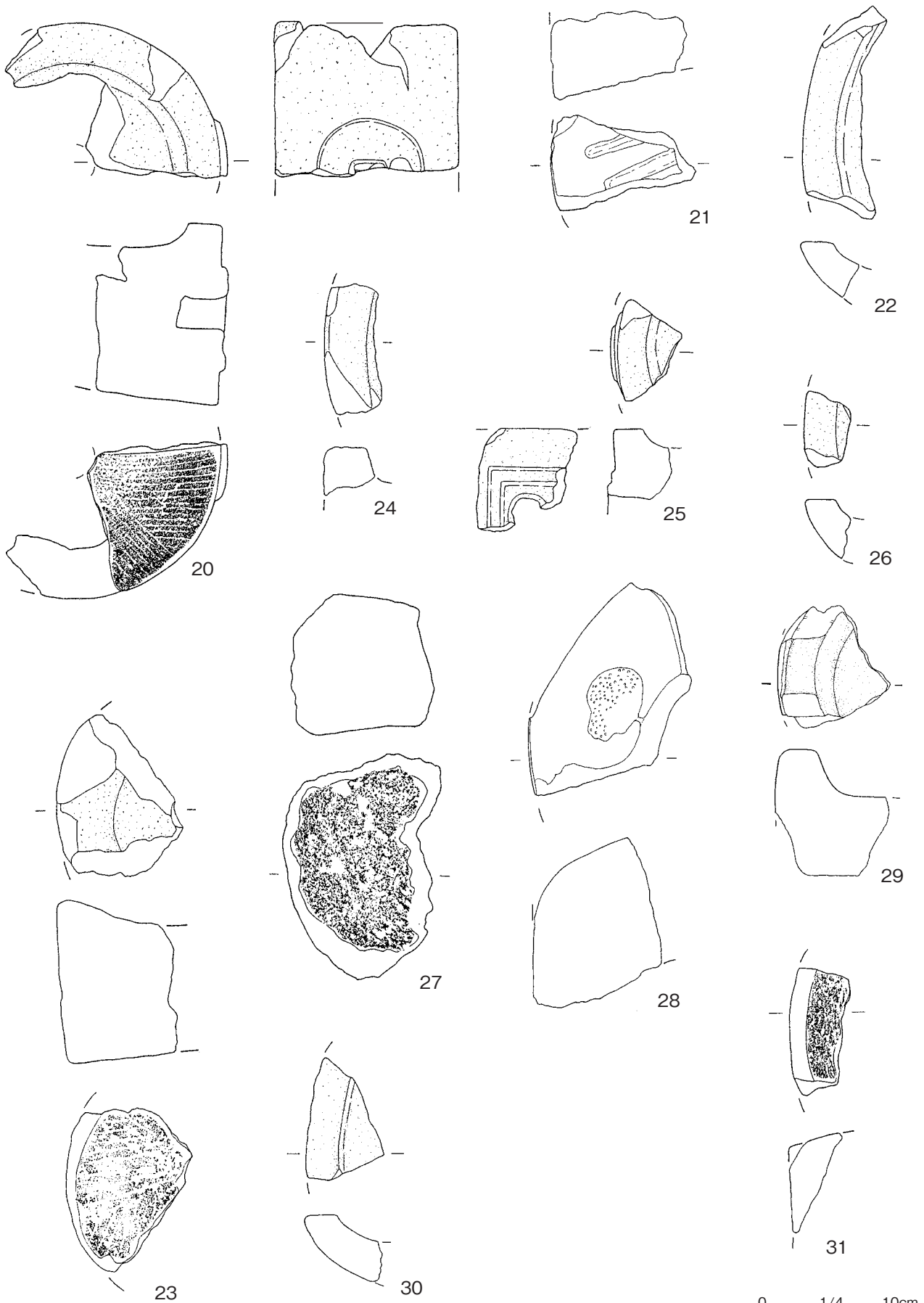


第7図 石器類1 (石臼1)



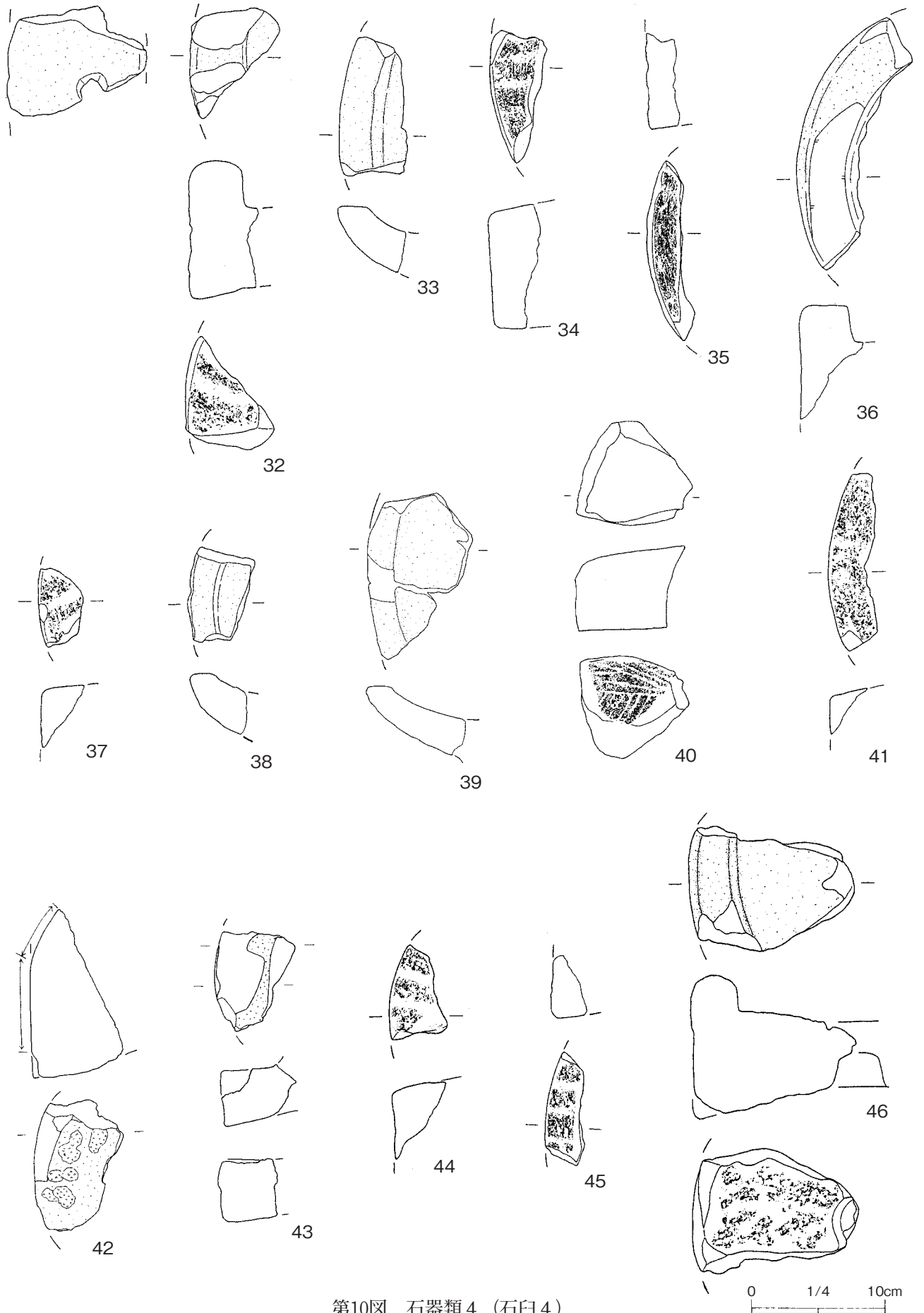
第8図 石器類2 (石臼2)

0 1/4 10cm

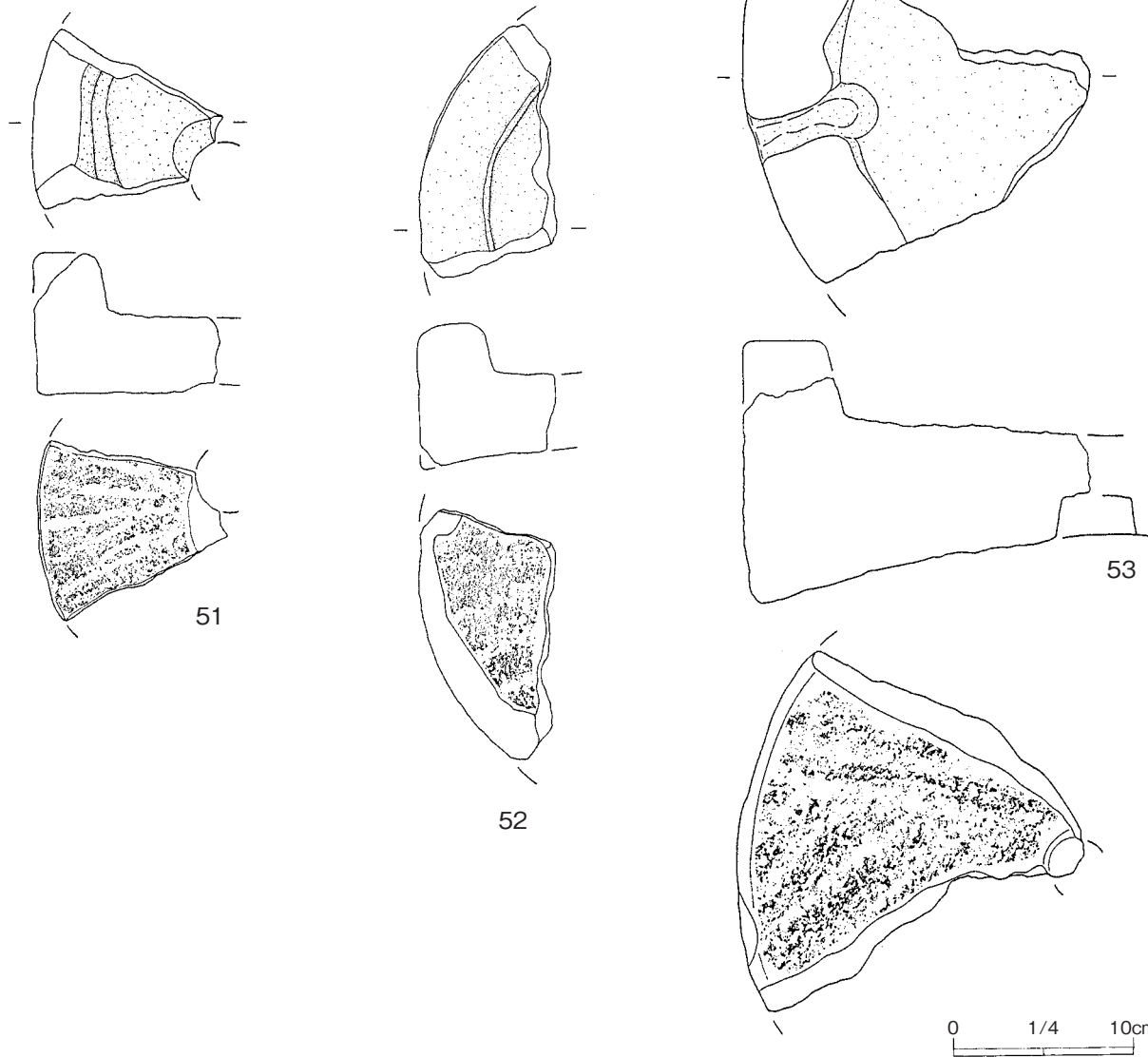
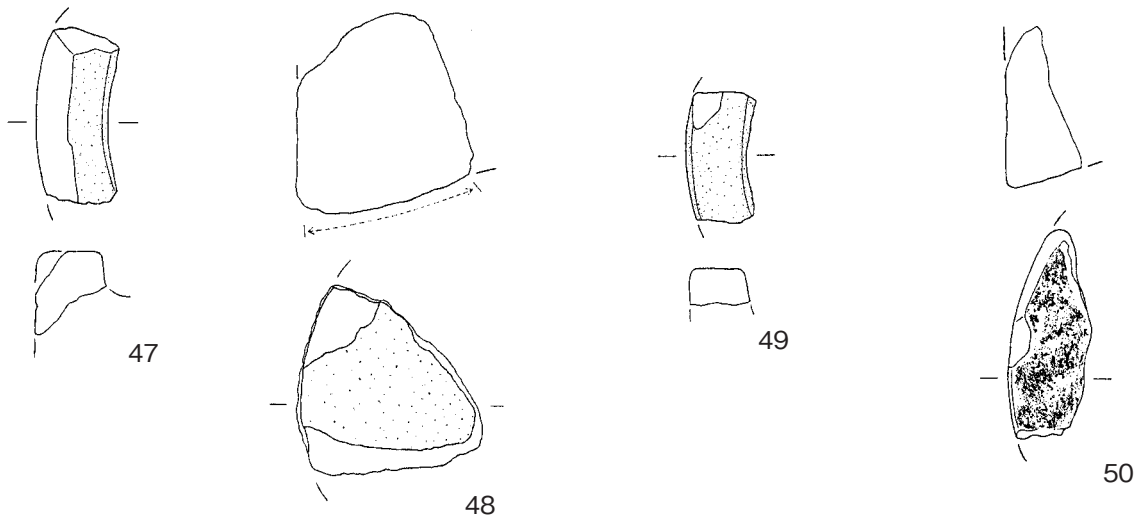


第9図 石器類3 (石臼3)

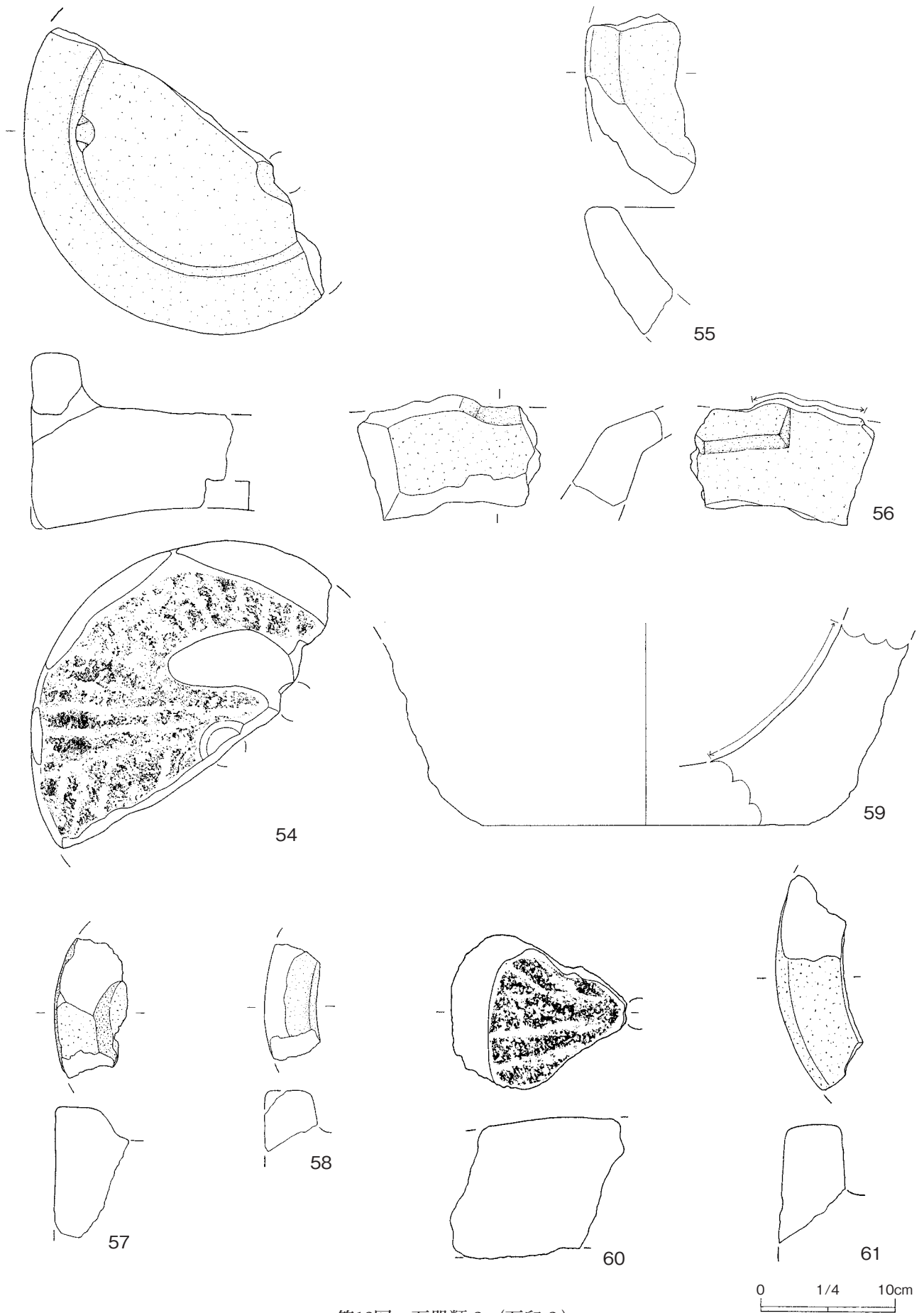
0 1/4 10cm



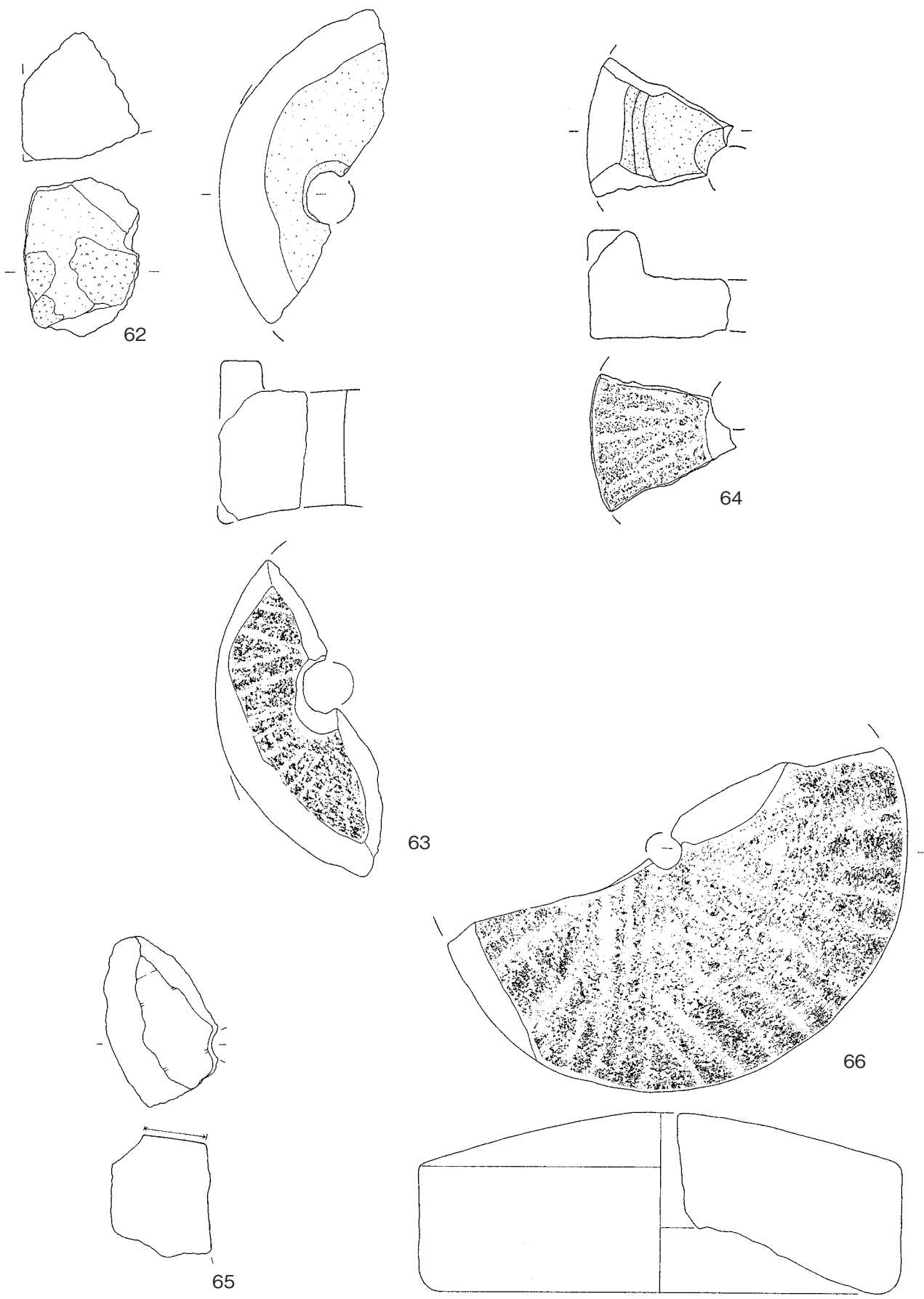
第10図 石器類4 (石臼4)



第11図 石器類5 (石臼5)

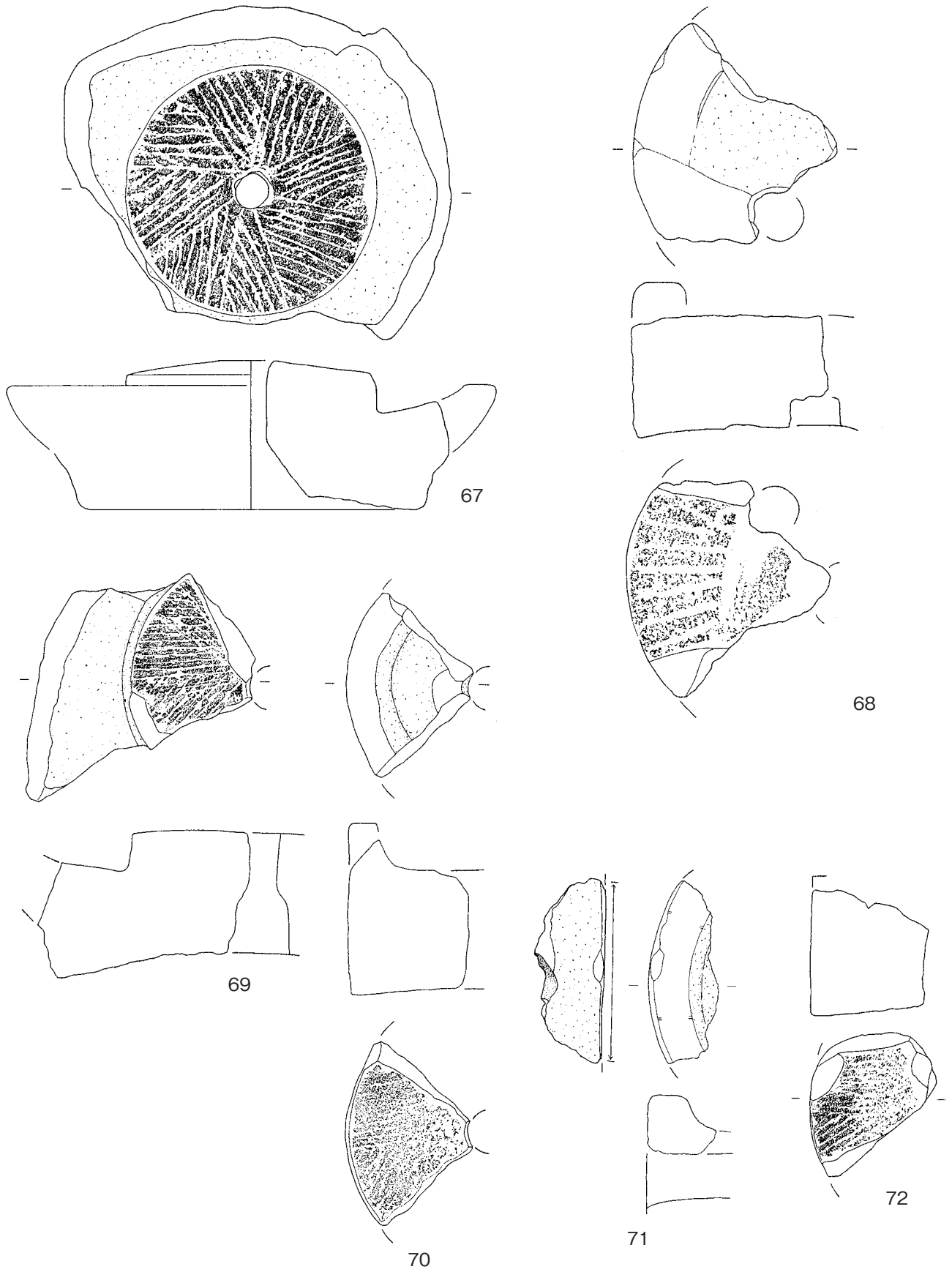


第12図 石器類6 (石臼6)



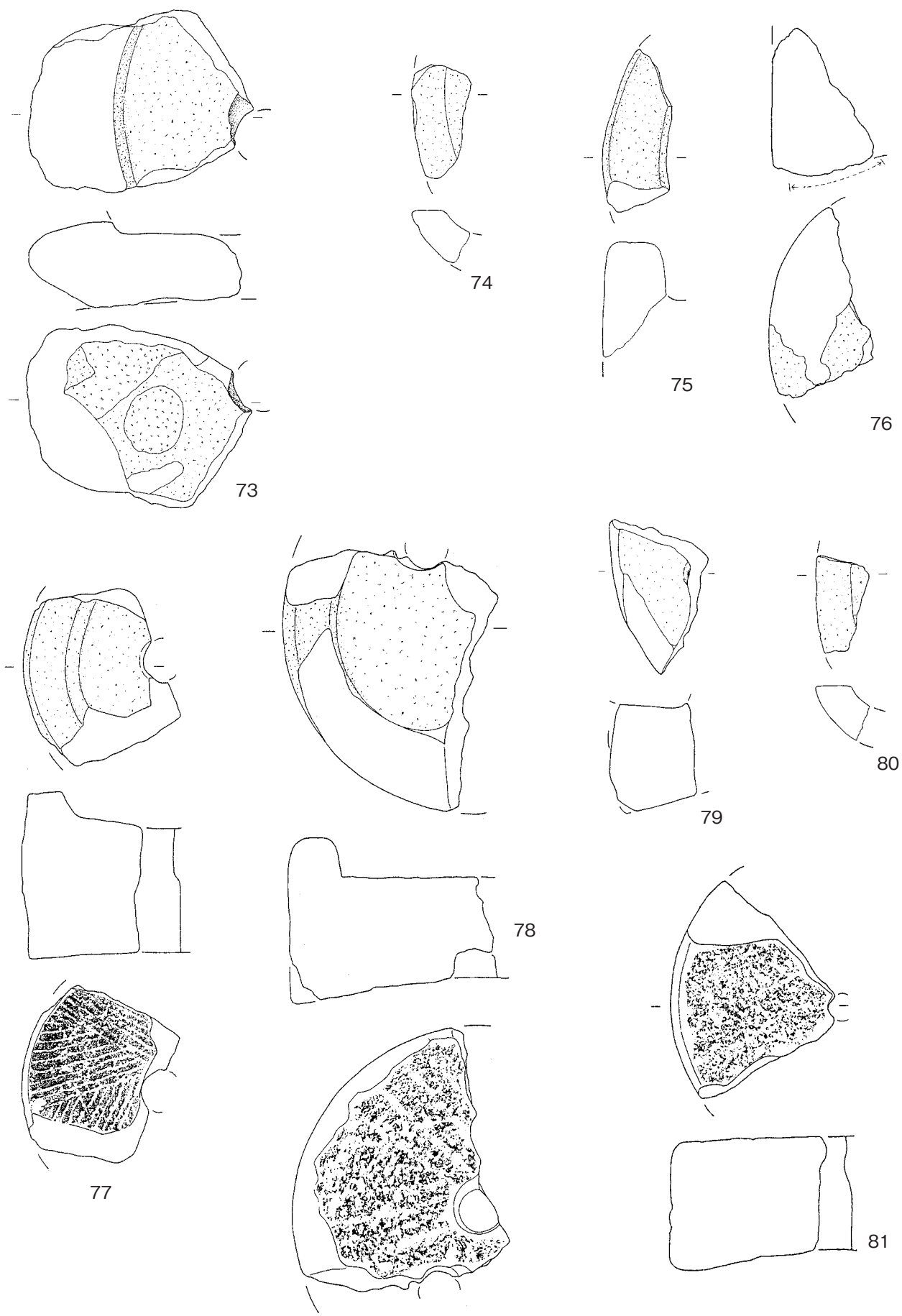
第13図 石器類7 (石臼7)

0 1/4 10cm

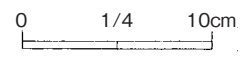


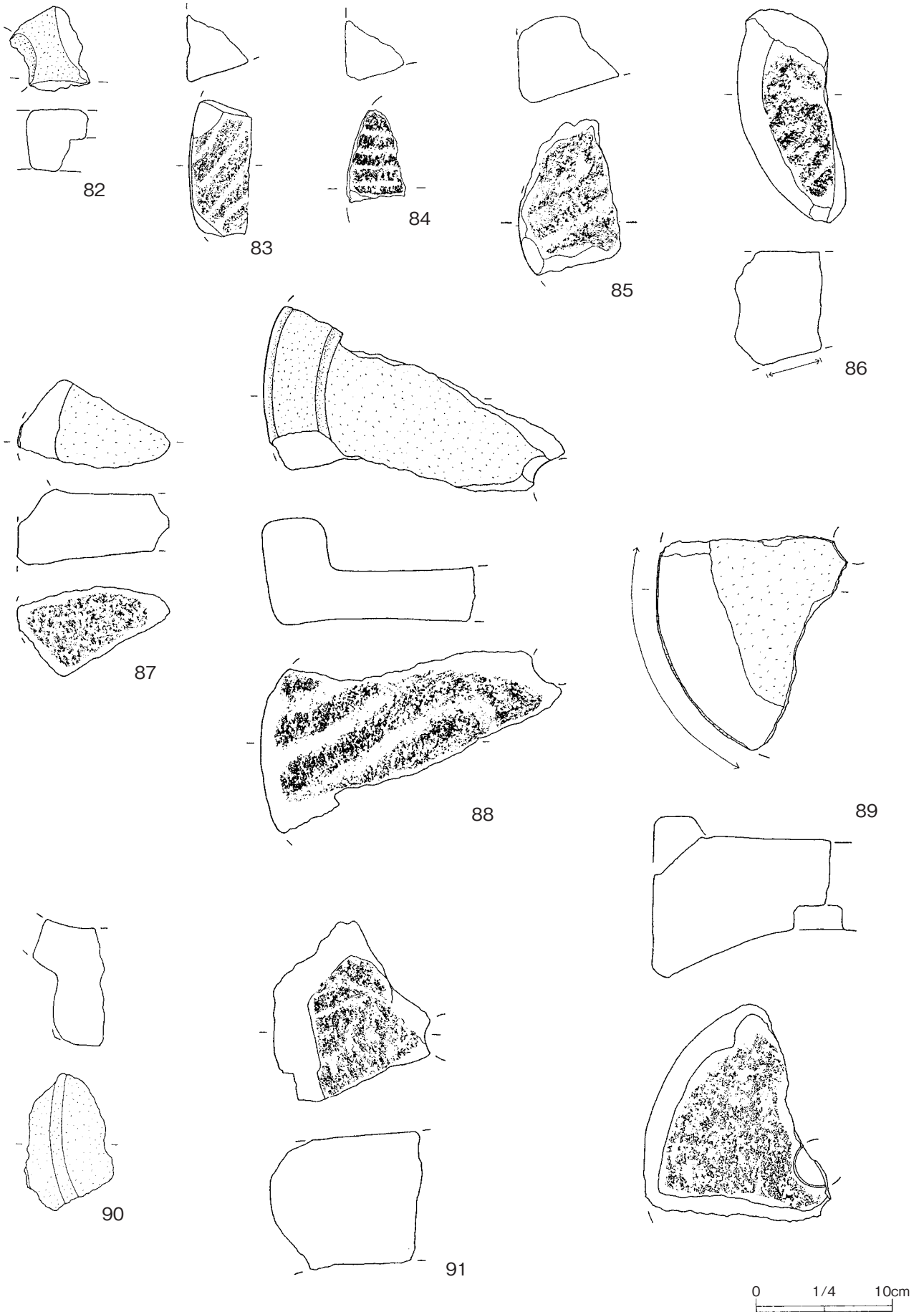
第14図 石器類8 (石臼8)

0 1/4 10cm

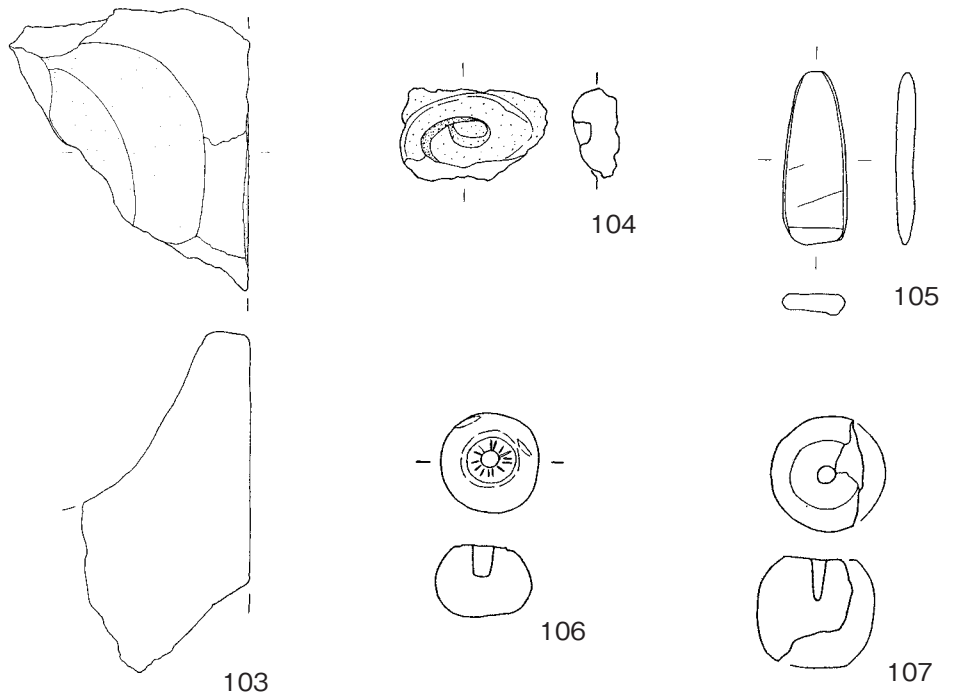
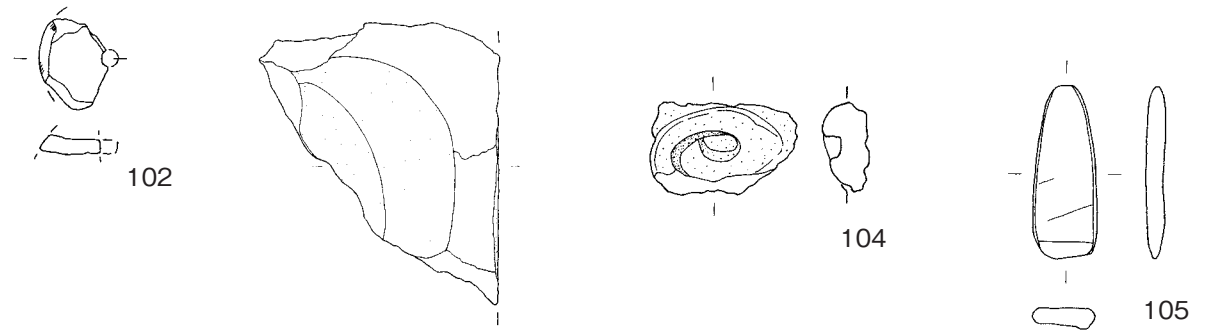
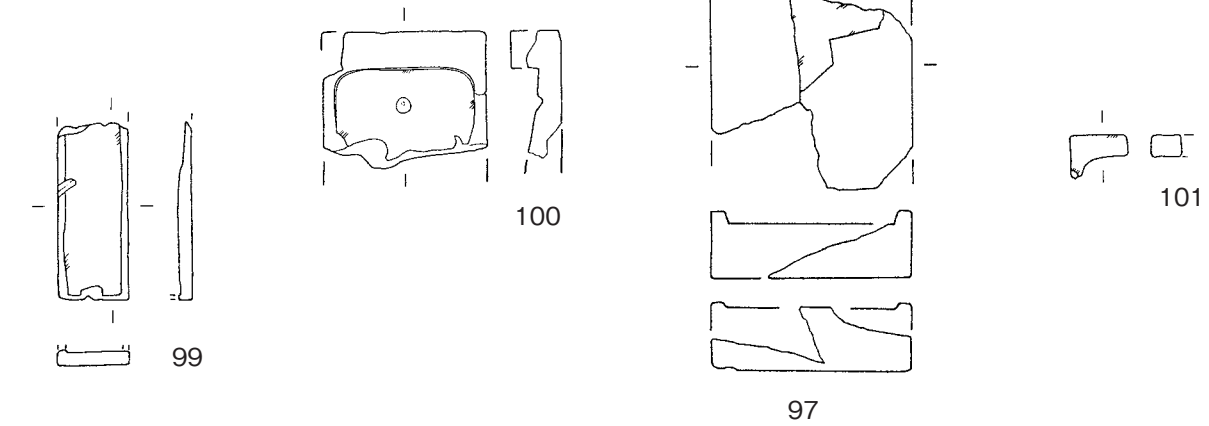
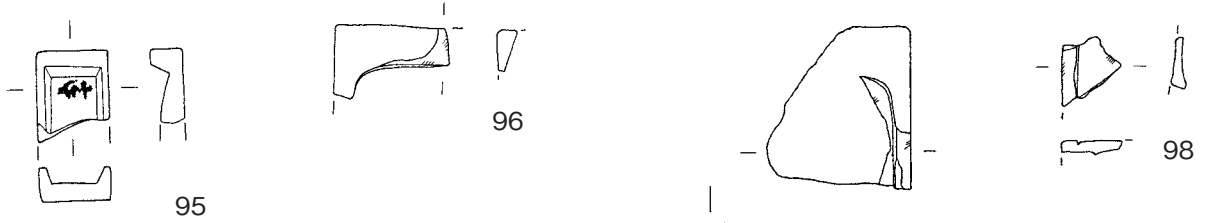
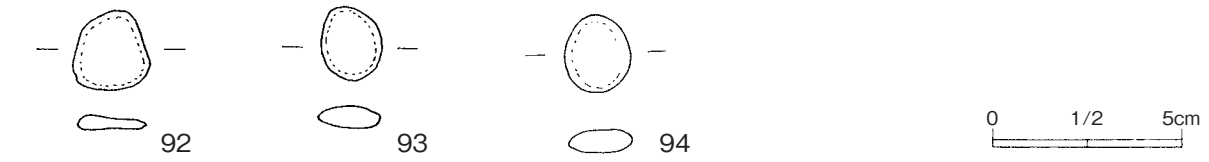


第15図 石器類9 (石臼9)

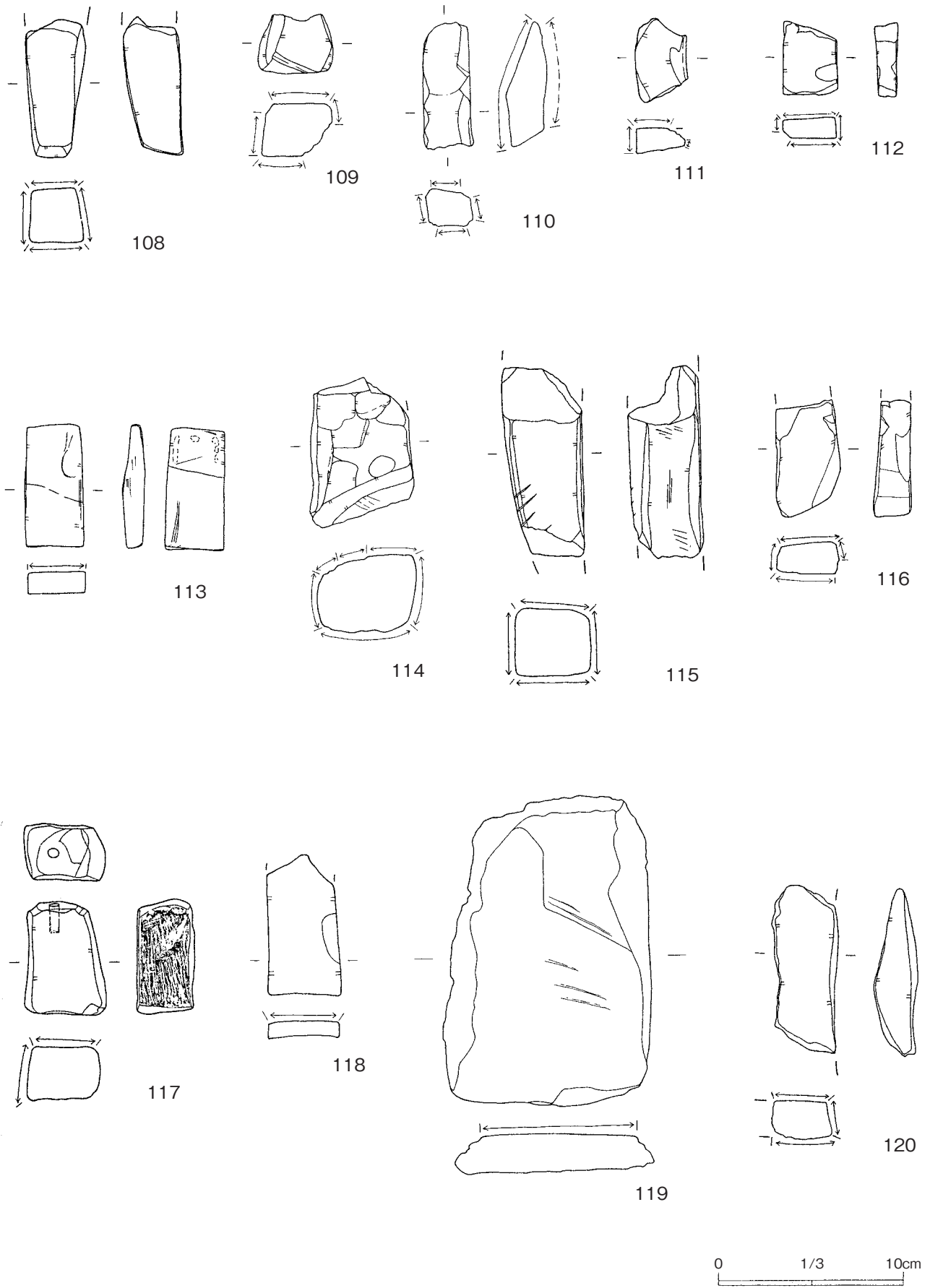




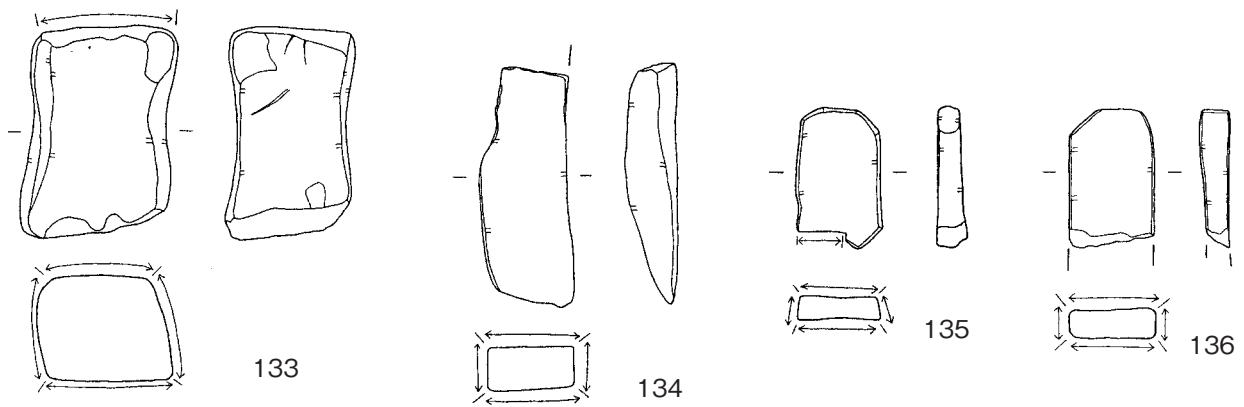
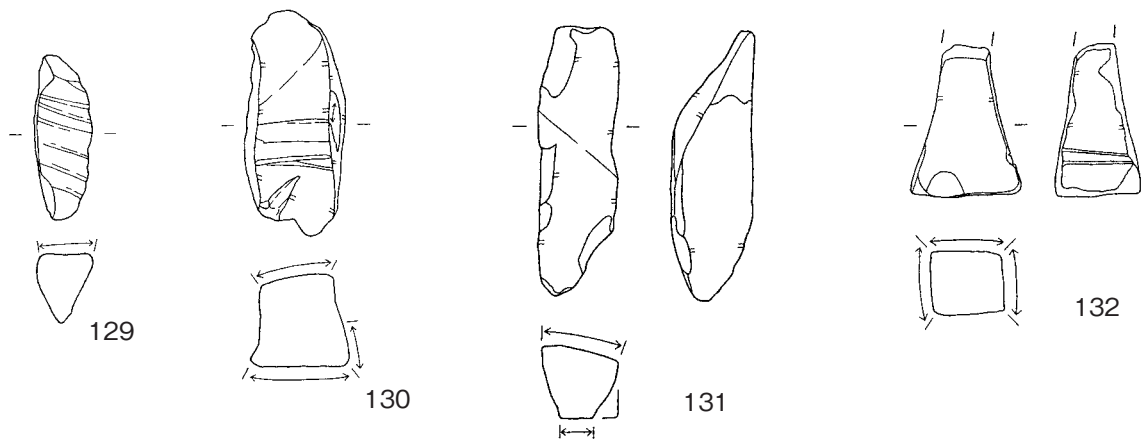
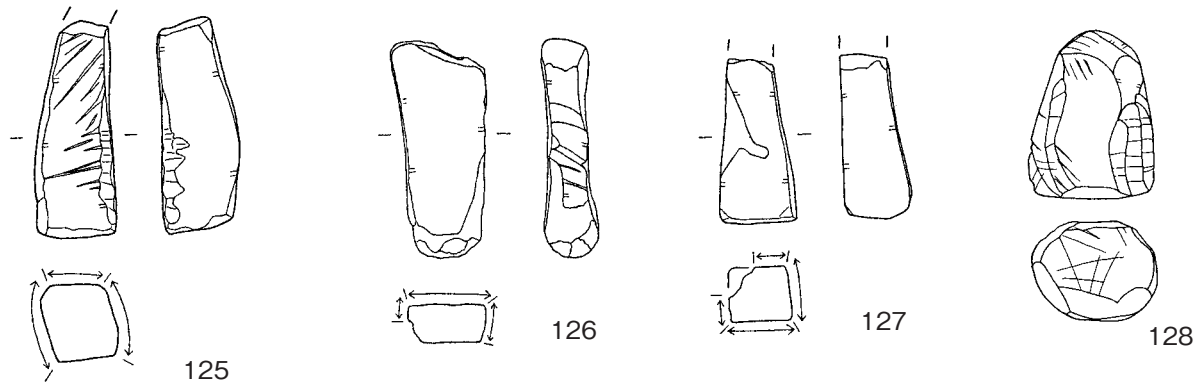
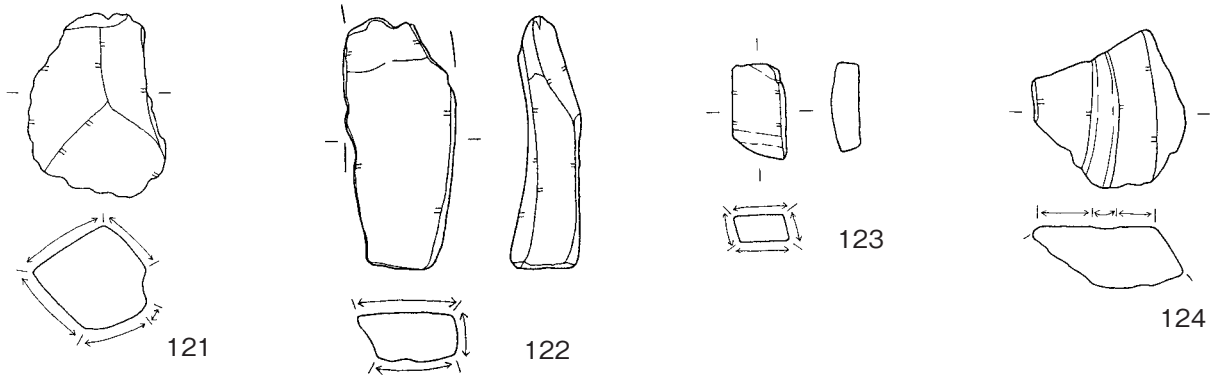
第16図 石器類10 (石臼10)



第17图 石器類11 (碁石・硯・他)

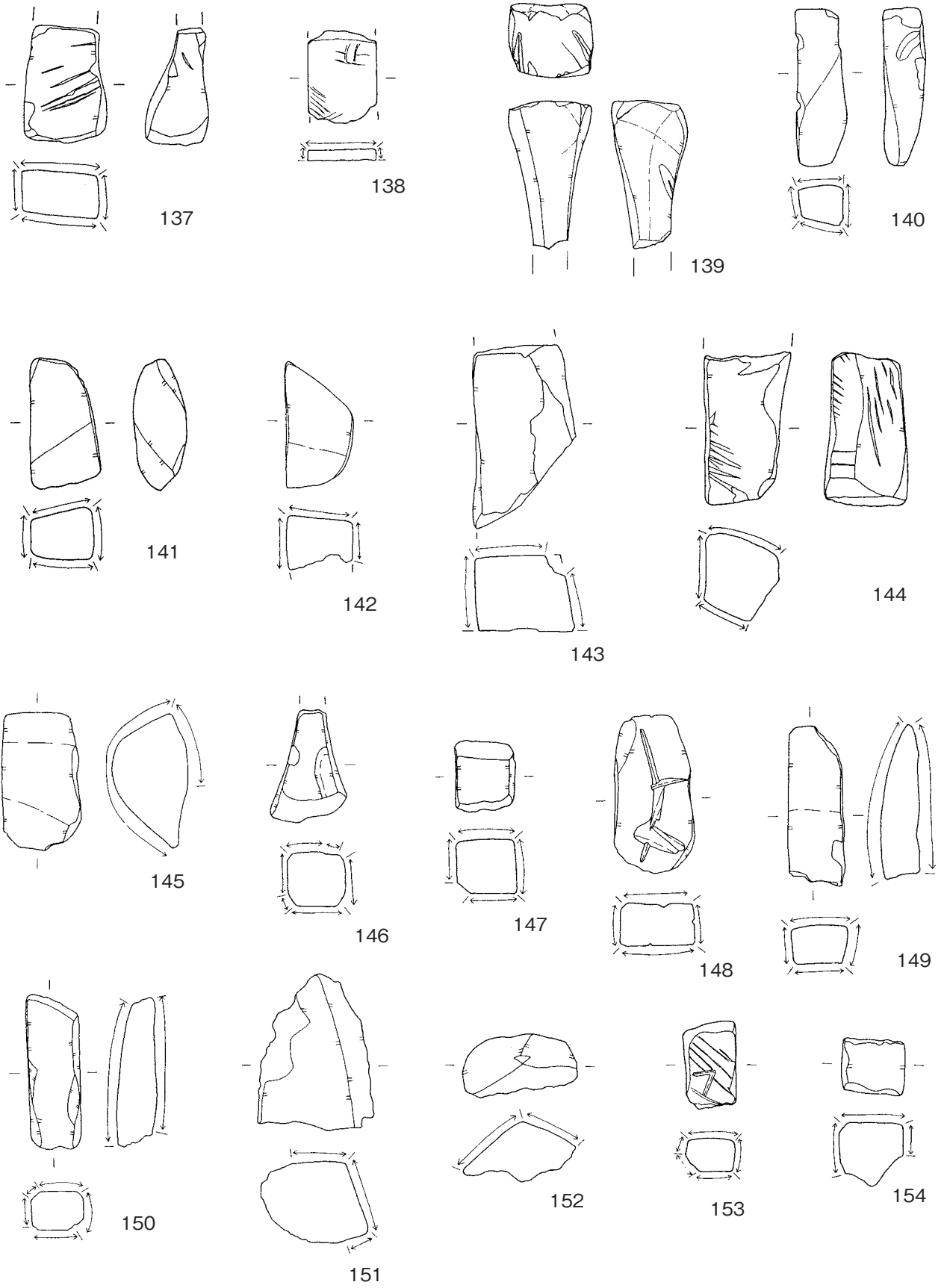


第18図 石器類12 (砥石1)



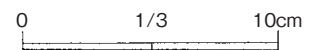
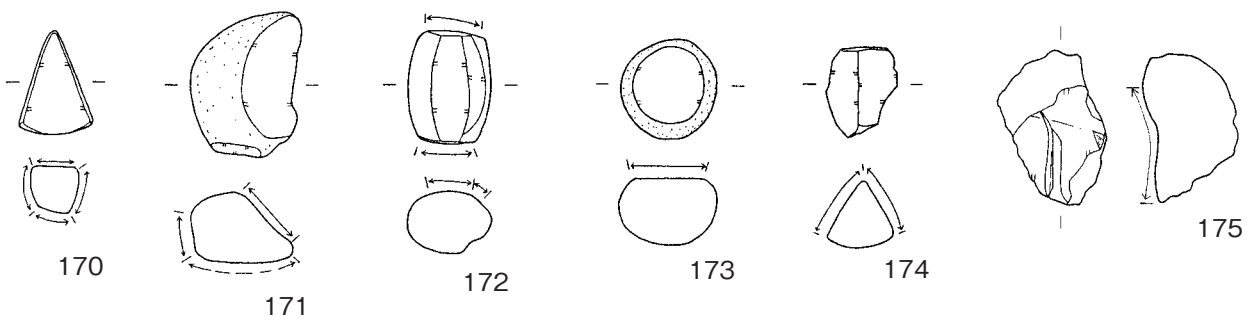
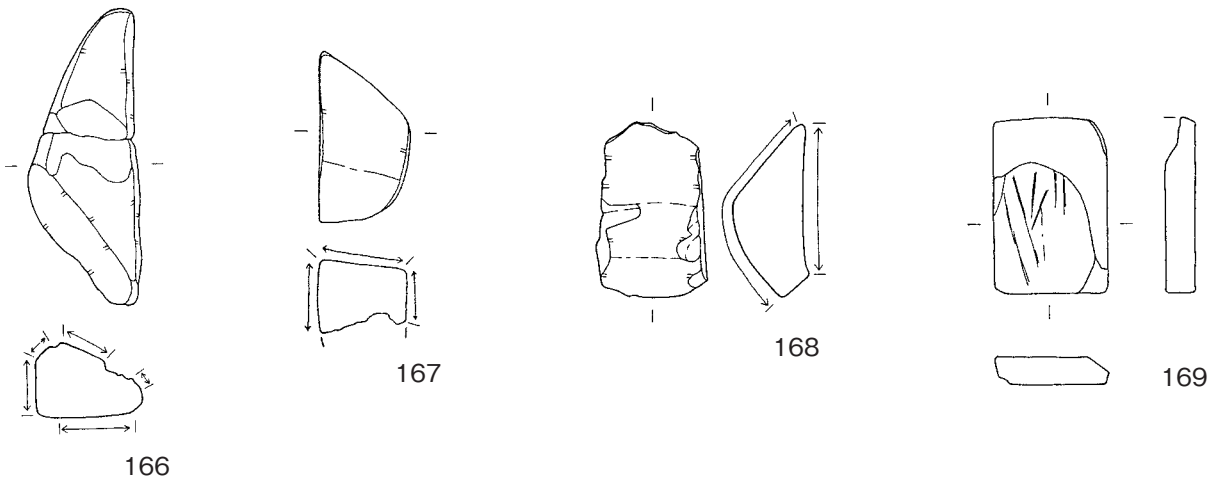
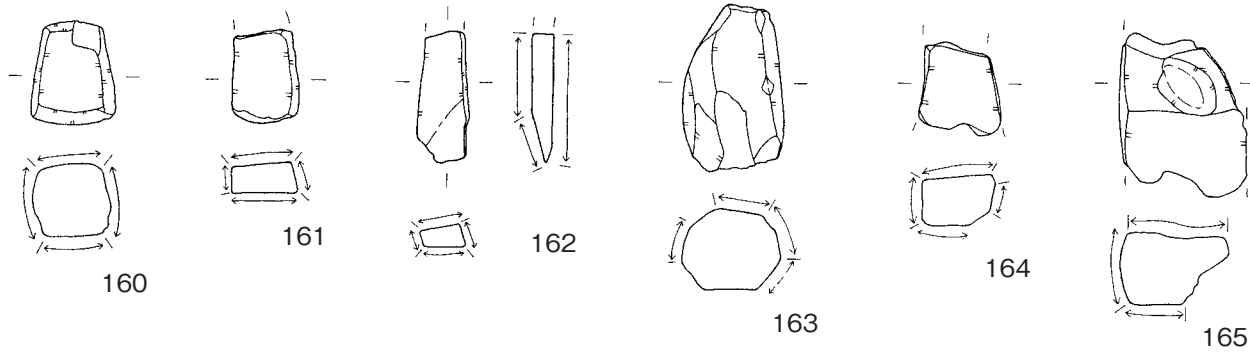
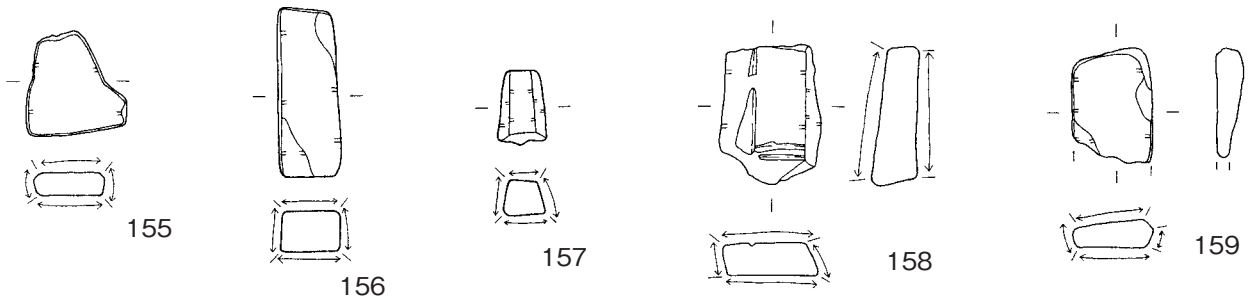
0 1/3 10cm

第19図 石器類13 (砥石2)



0 1/3 10cm

第20図 石器類14 (砥石3)

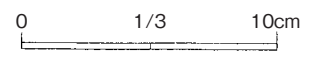
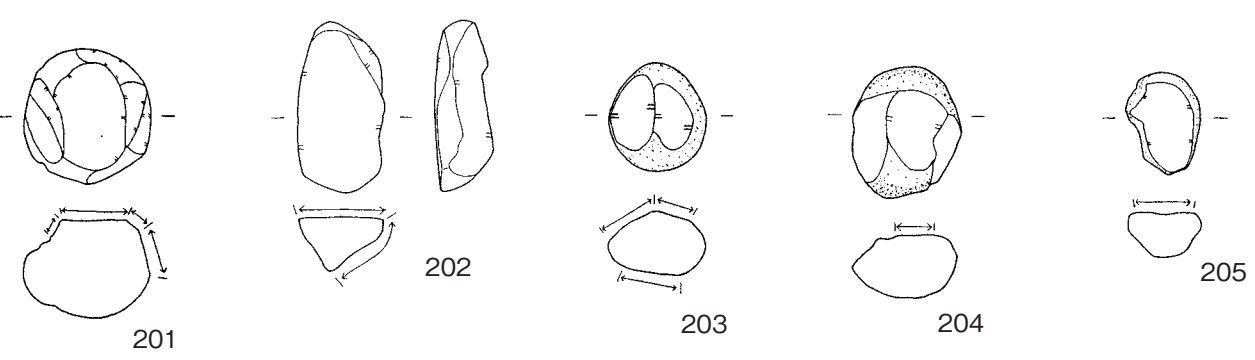
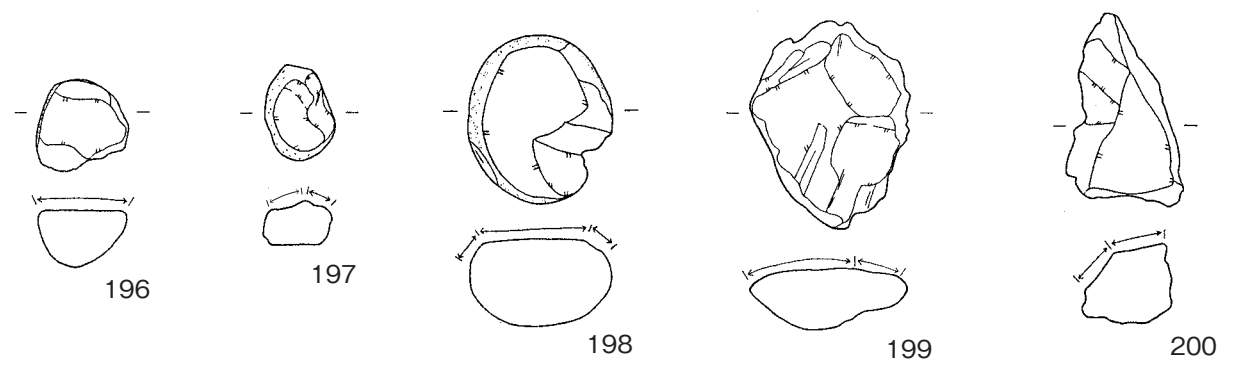
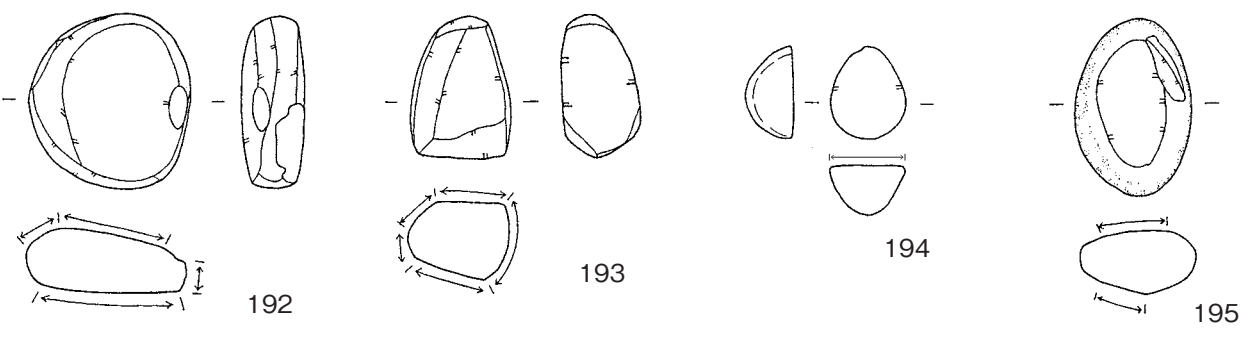
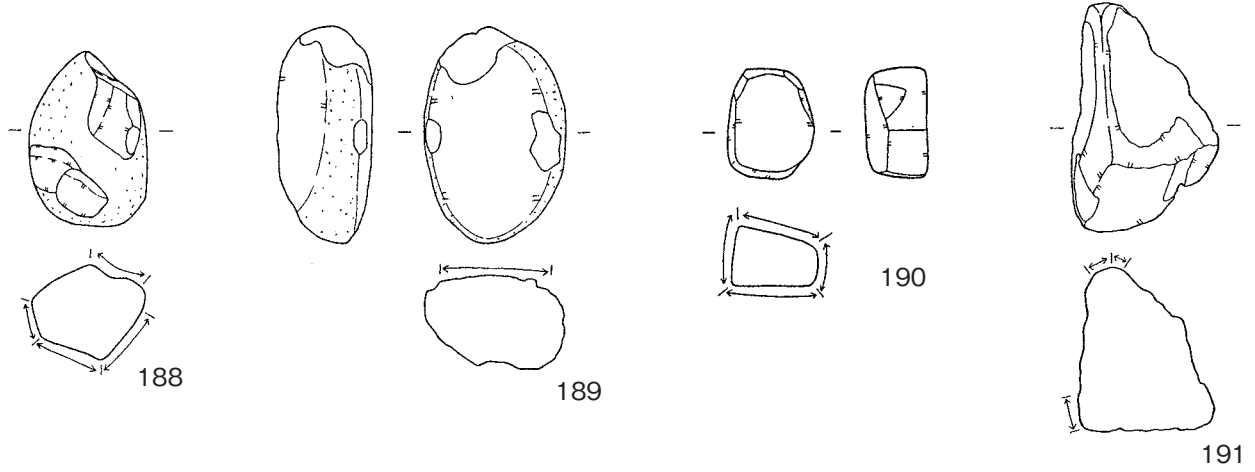


第21図 石器類15 (砥石4・磨石1)

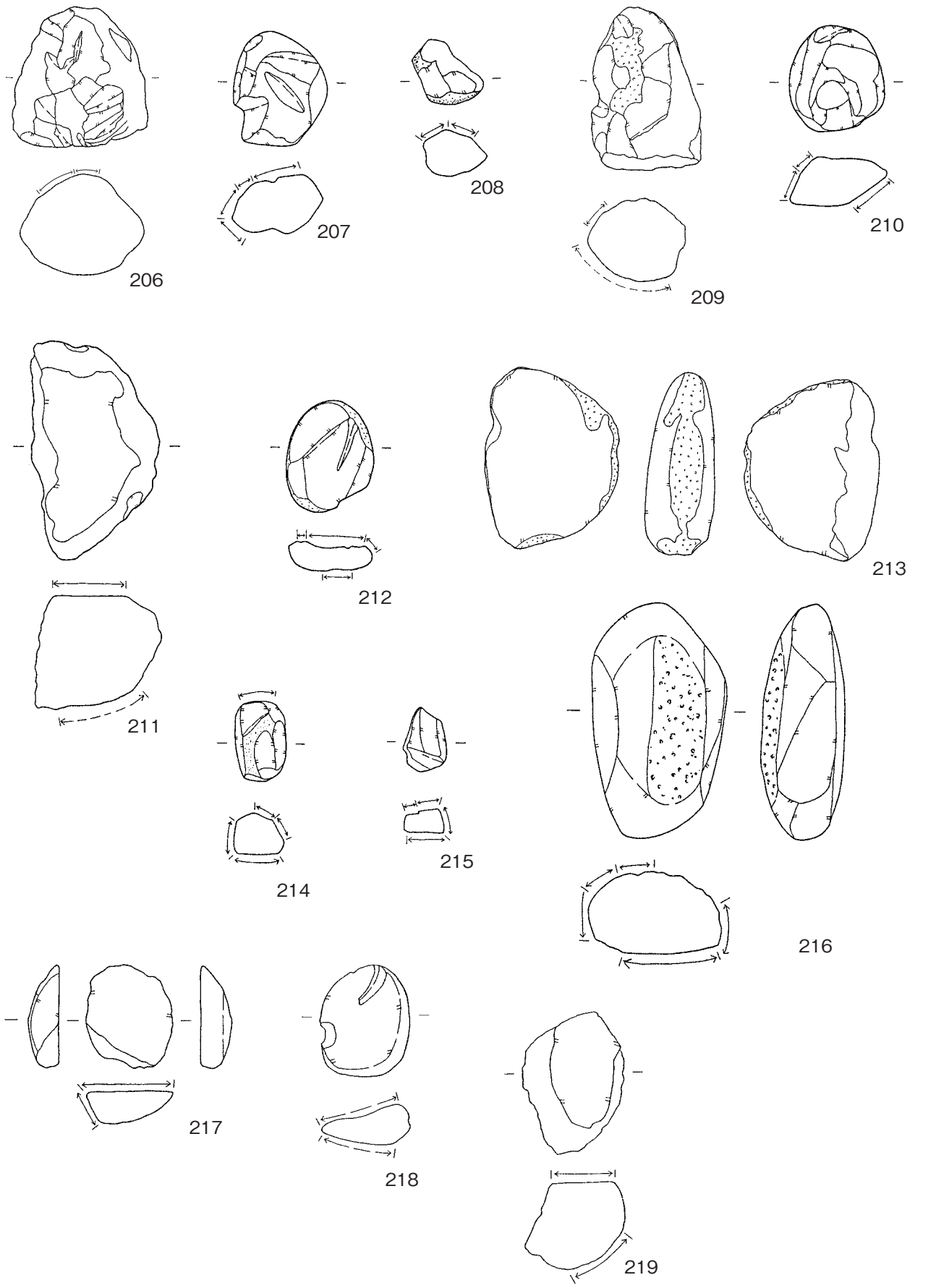


第22図 石器類16 (磨石2)

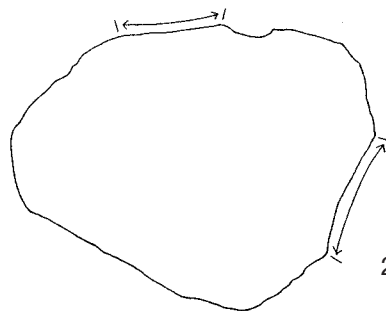
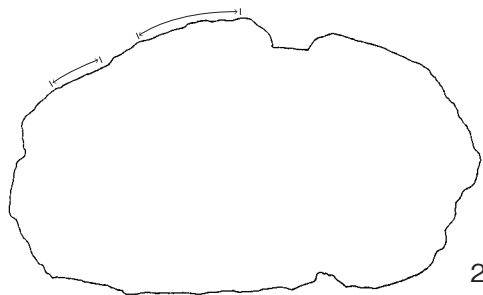
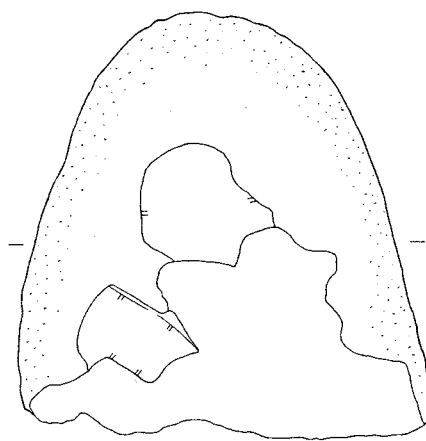
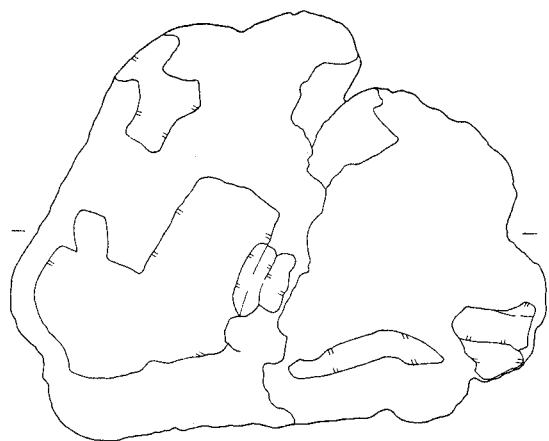
0 1/3 10cm



第23図 石器類17 (磨石3)

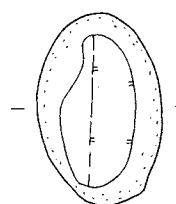
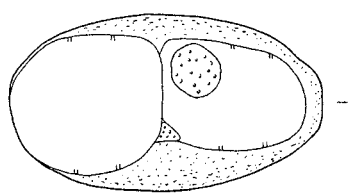
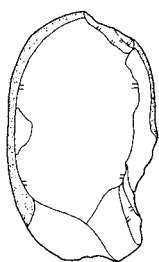
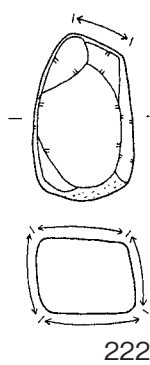


第24図 石器類18 (磨石 4)



220

221

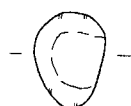
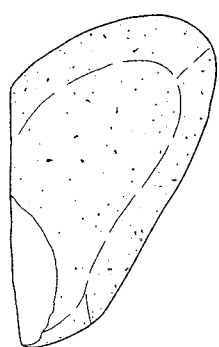
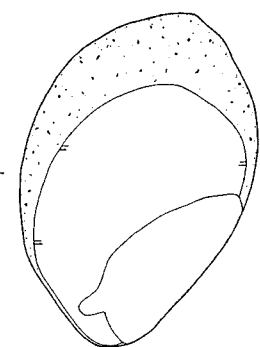


222

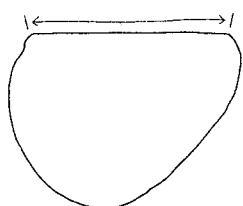
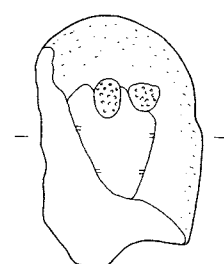
223

224

225



227

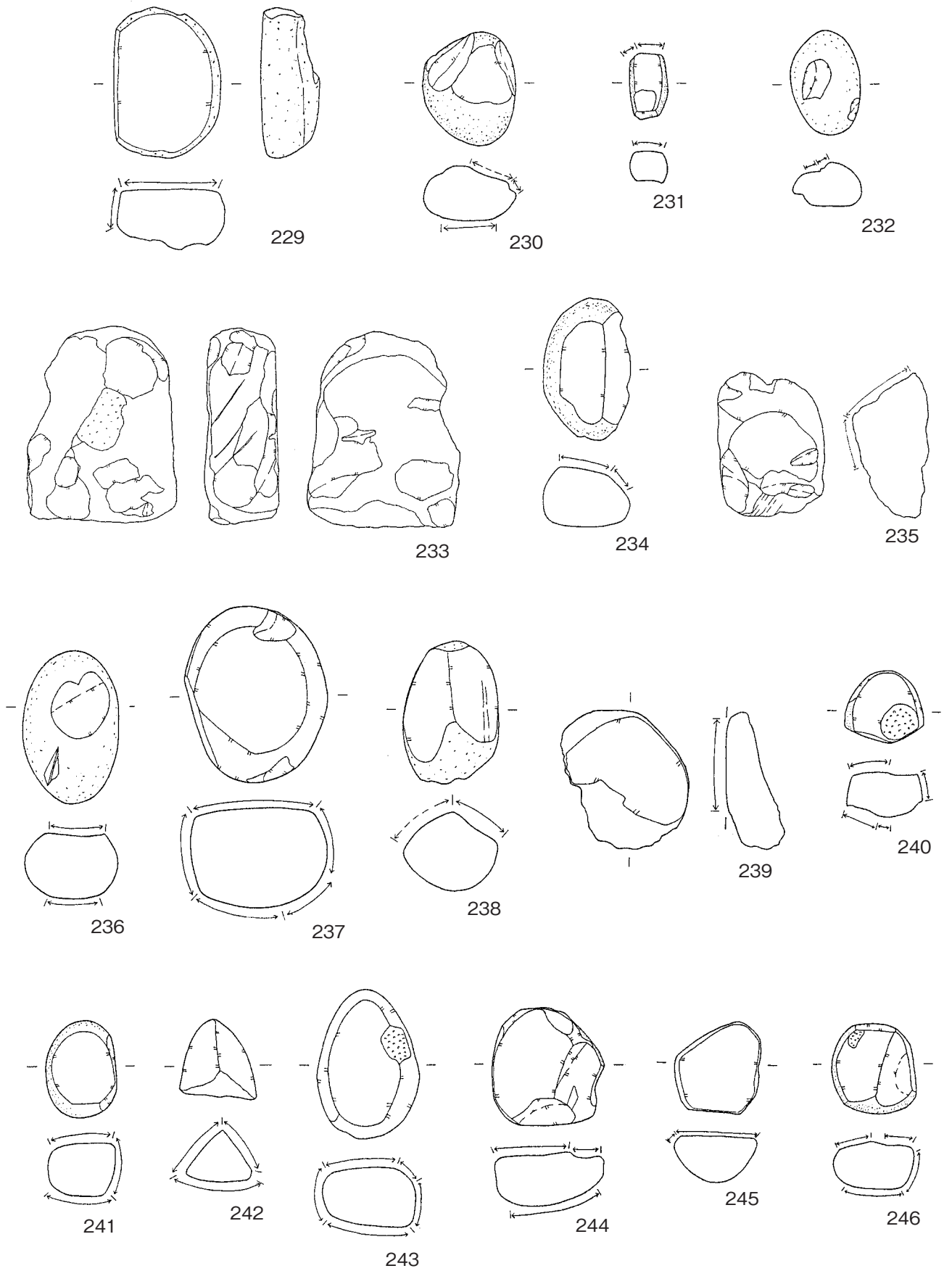


226

228

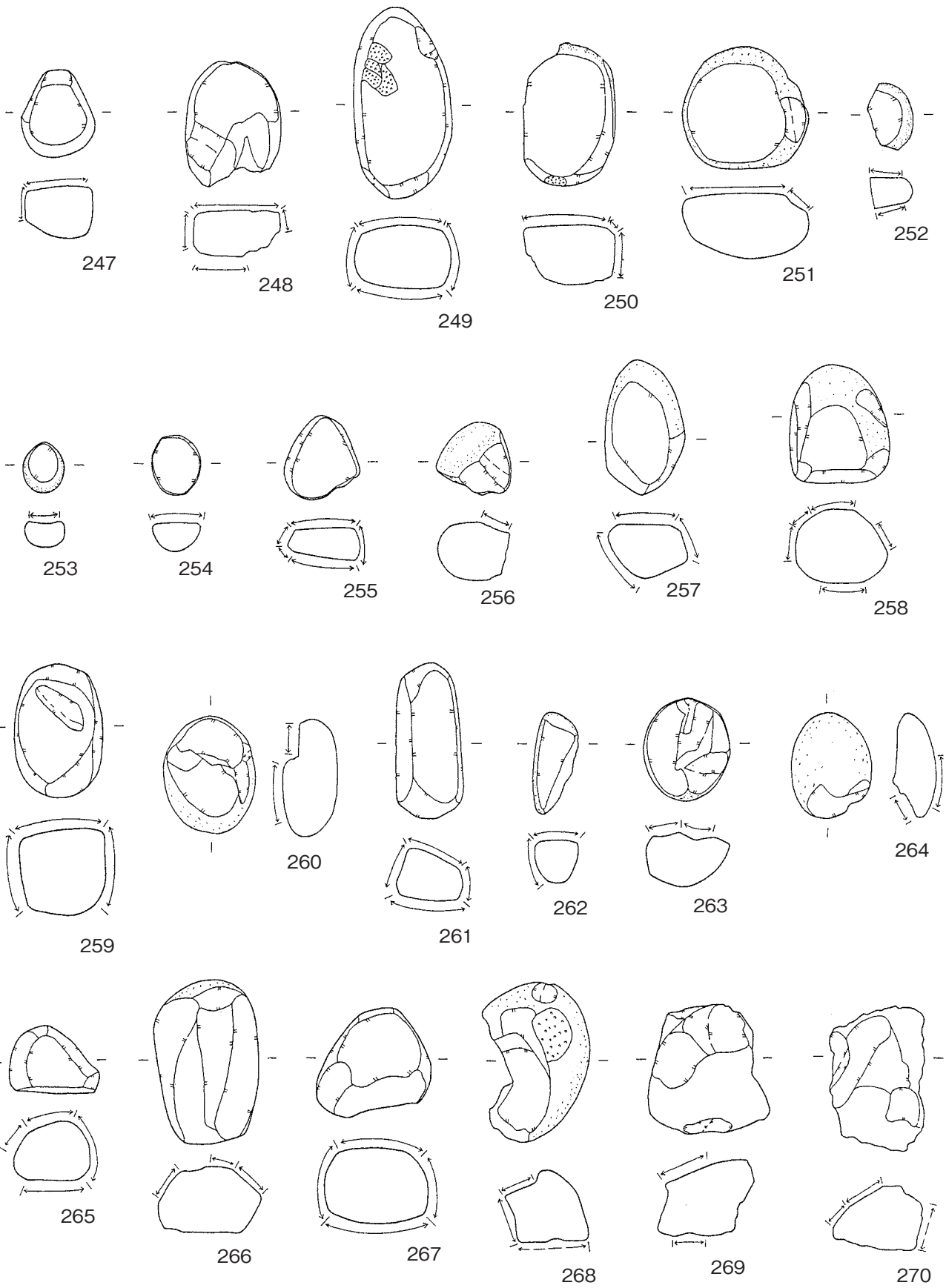
第25図 石器類19 (磨石5)

0 1/3 10cm



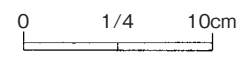
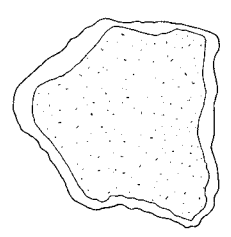
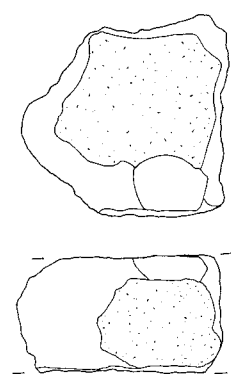
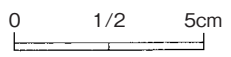
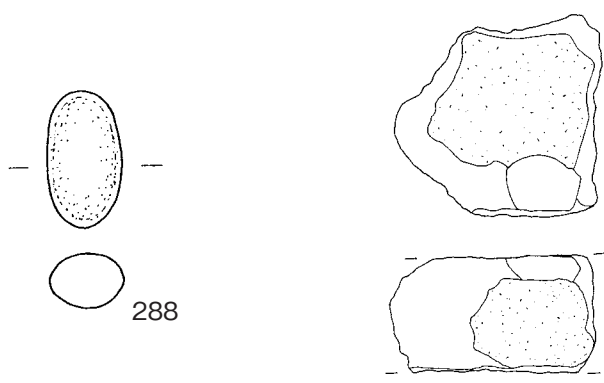
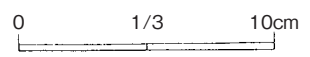
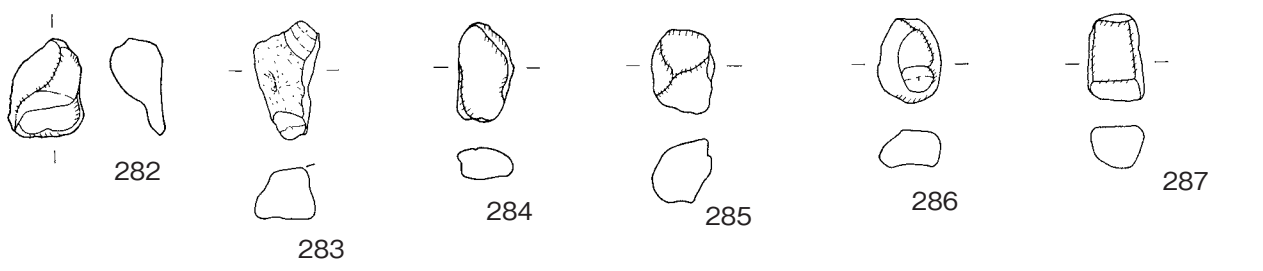
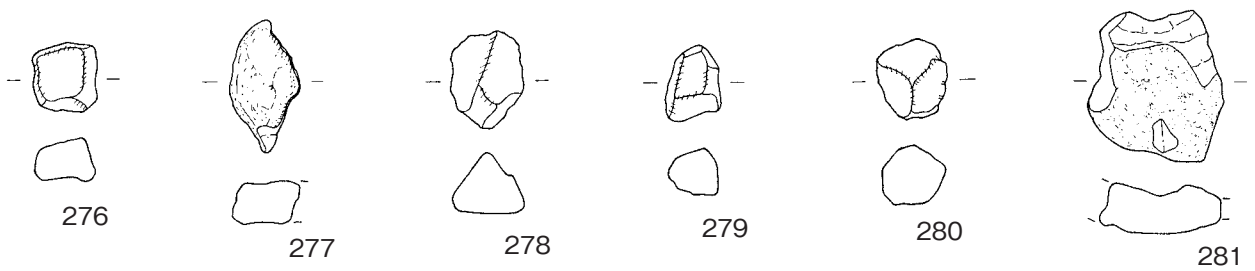
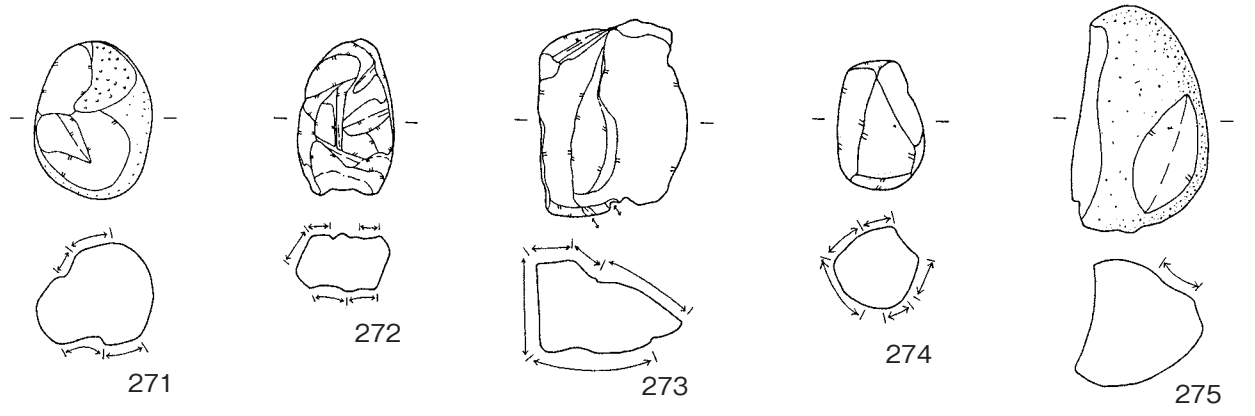
第26図 石器類20 (磨石 6)

0 1/3 10cm

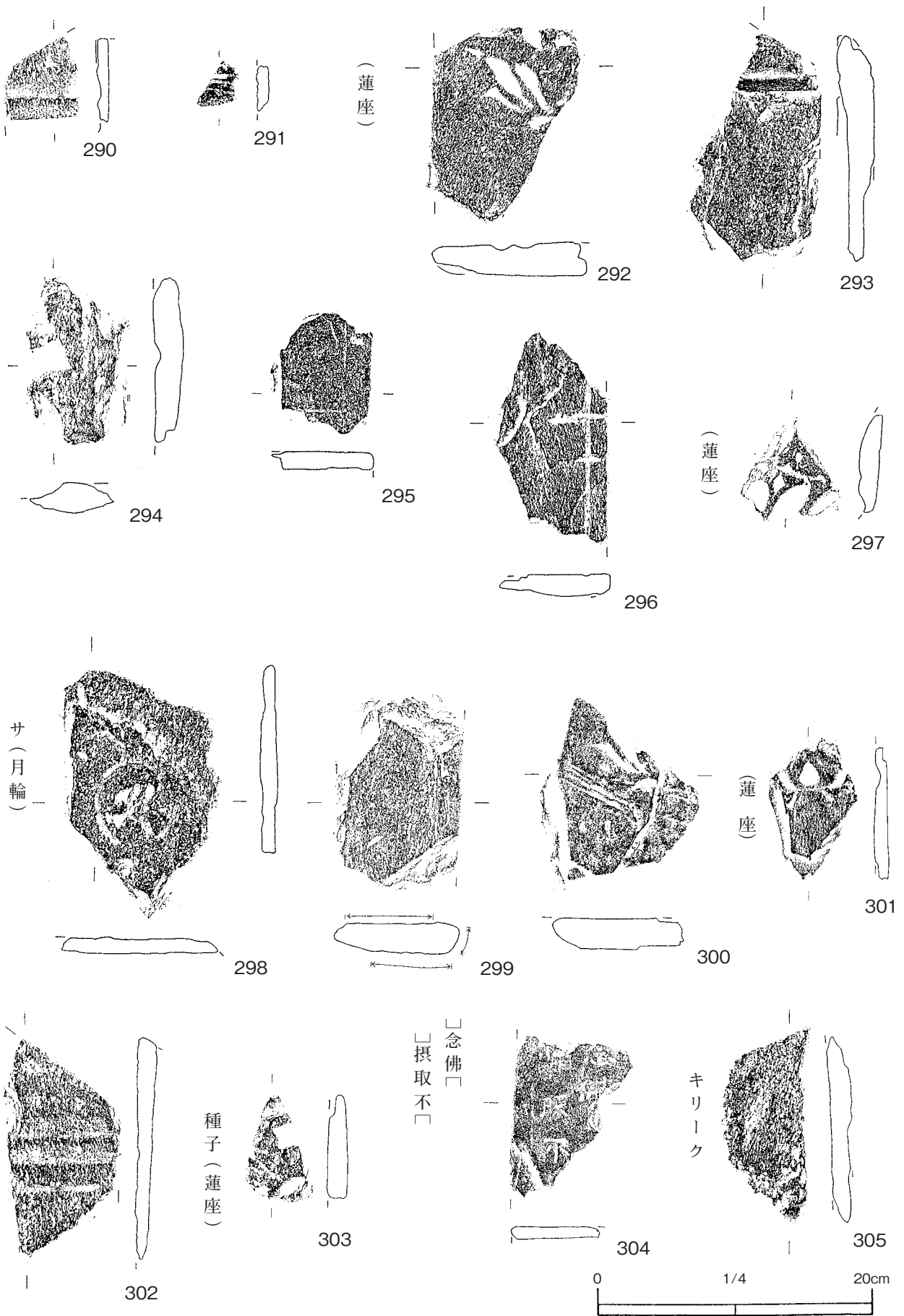


0 1/3 10cm

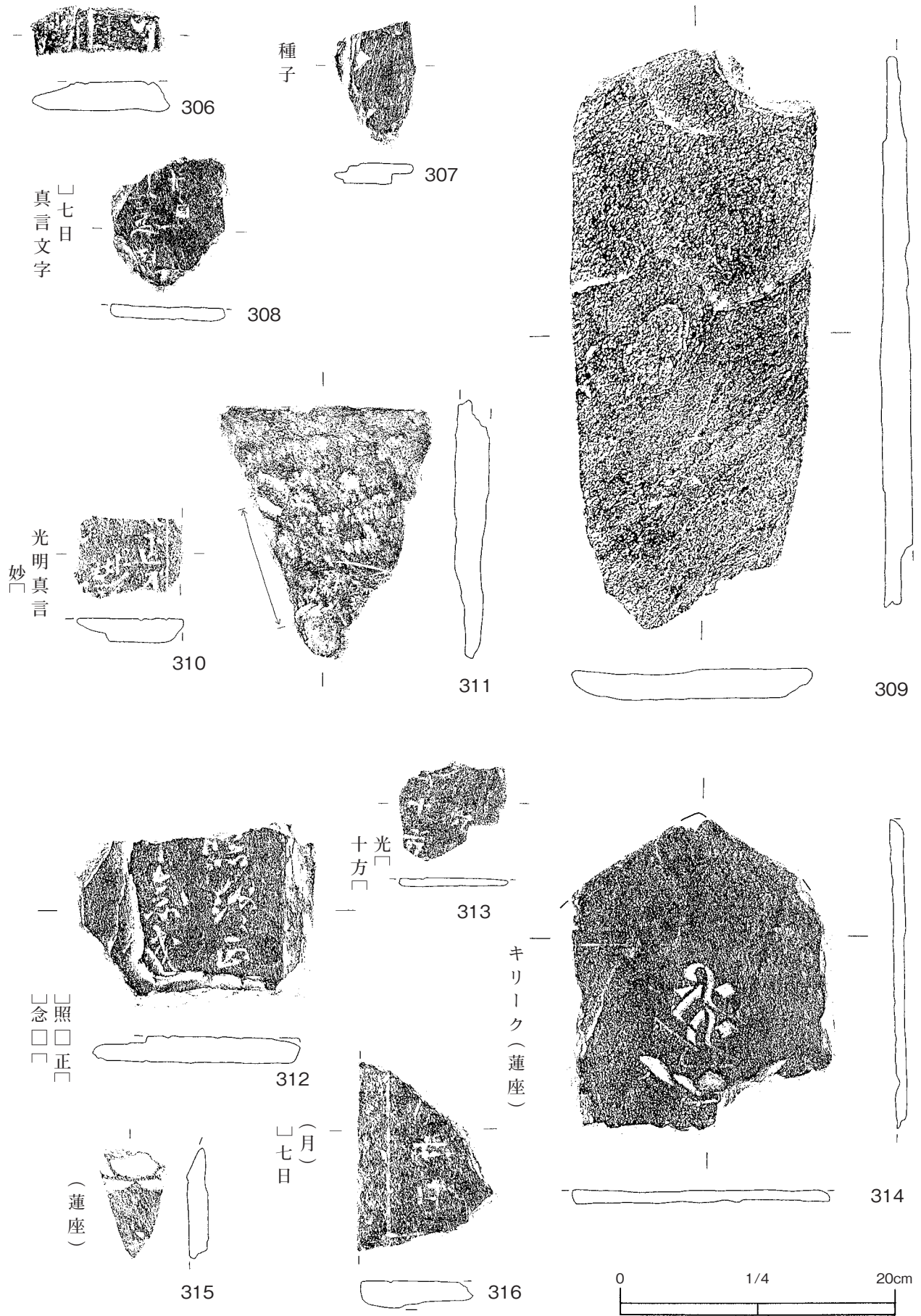
第27図 石器類21 (磨石7)



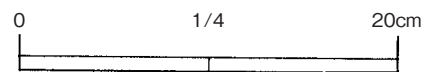
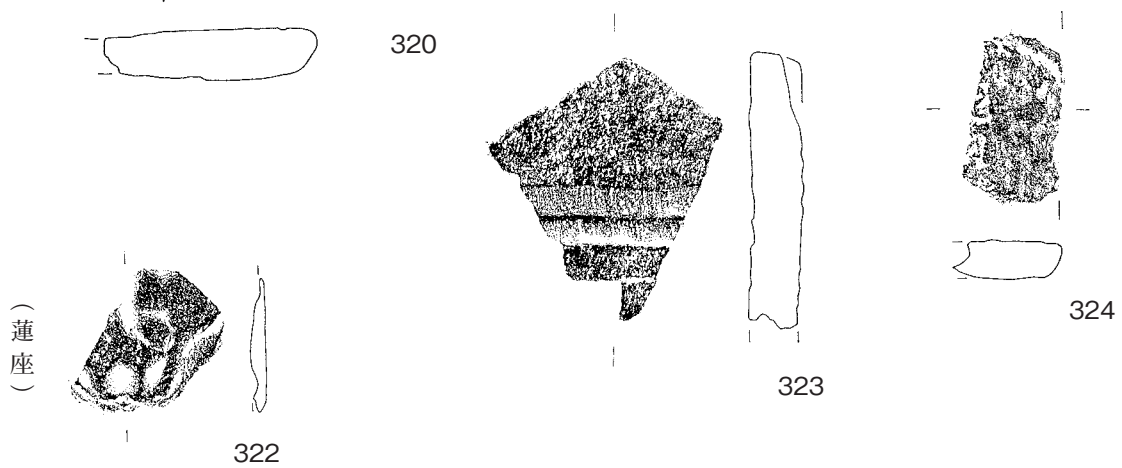
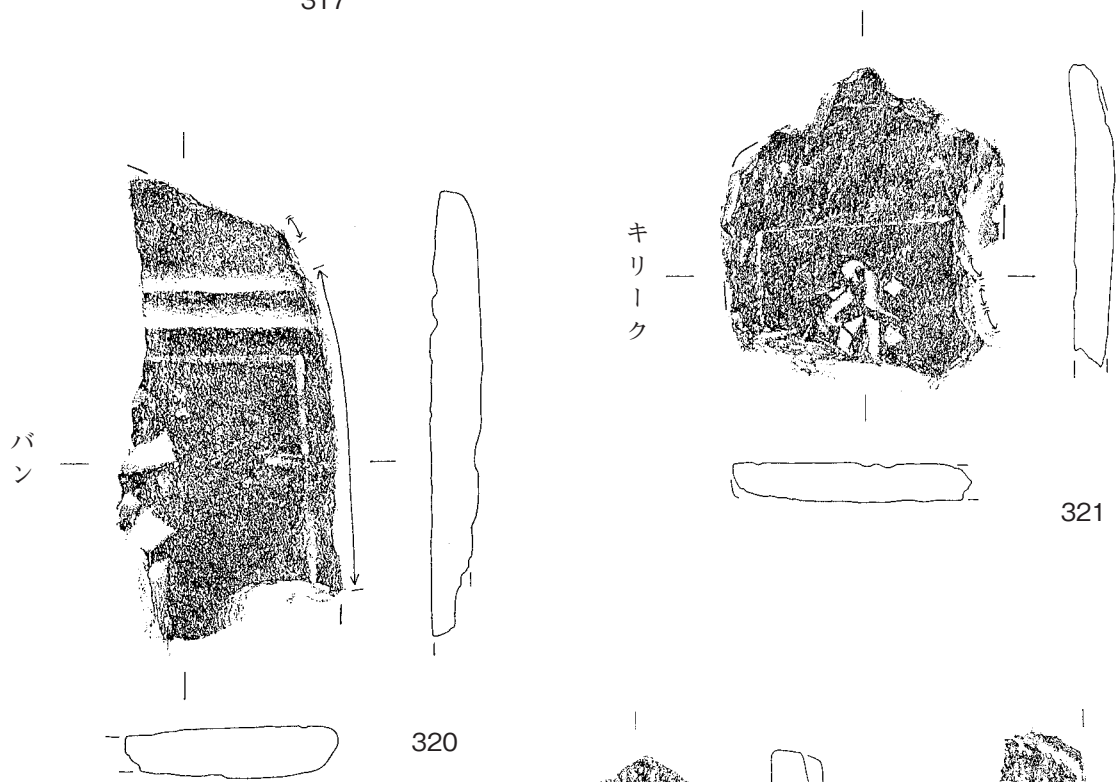
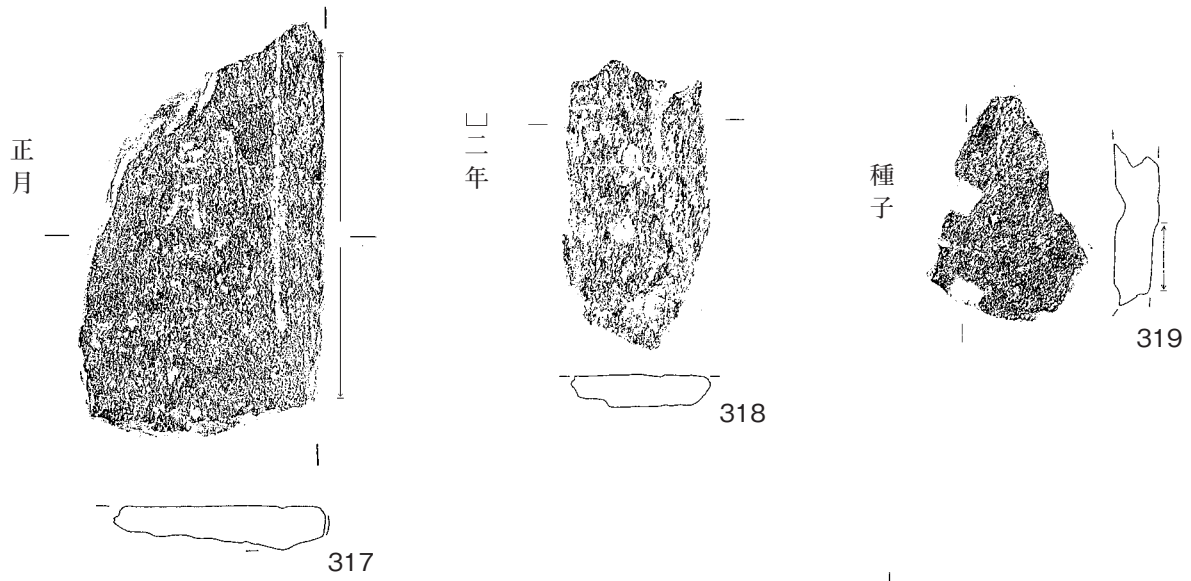
第28図 石器類22 (磨石8・火打石・他)



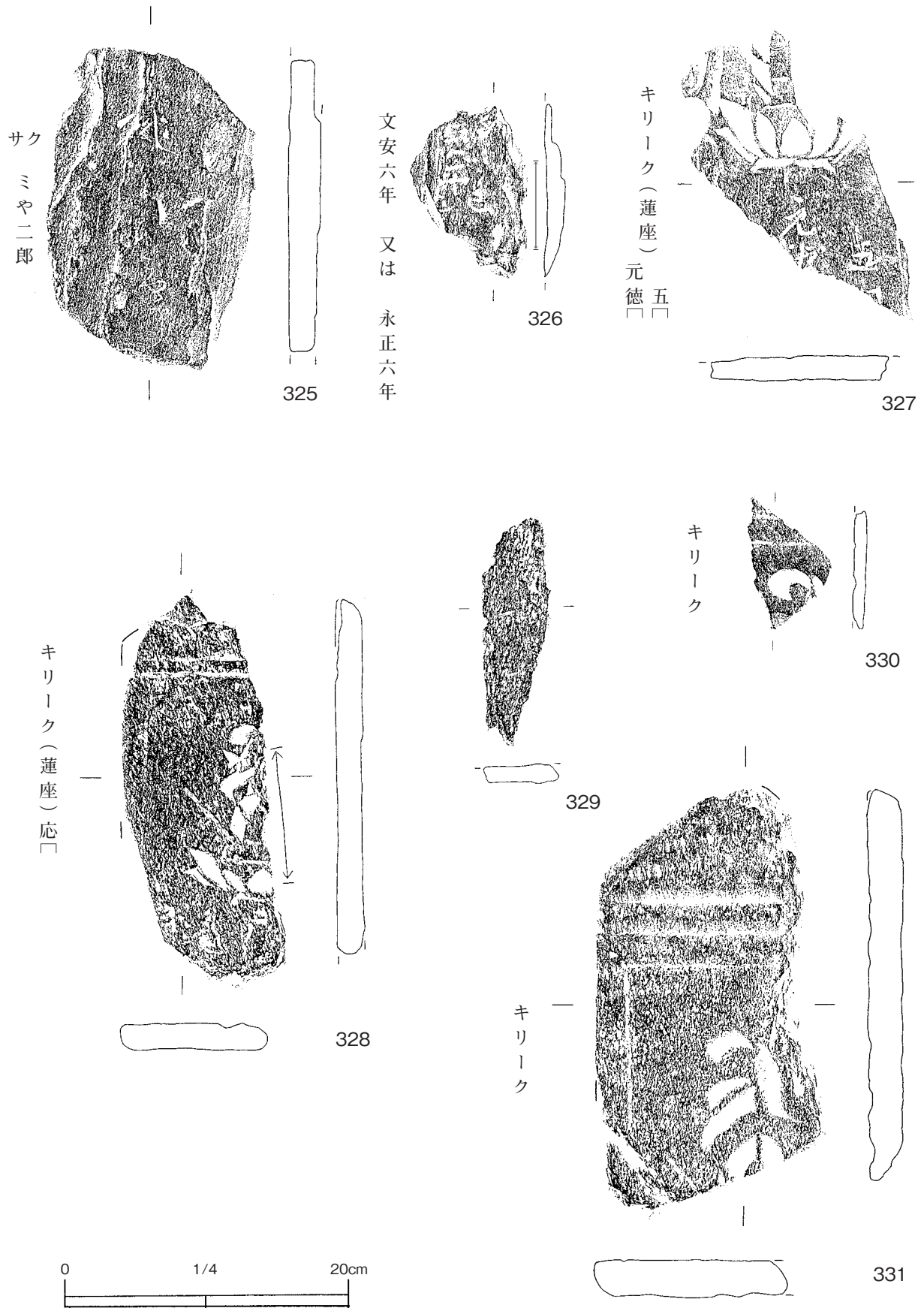
第29図 石器類23 (板碑1)



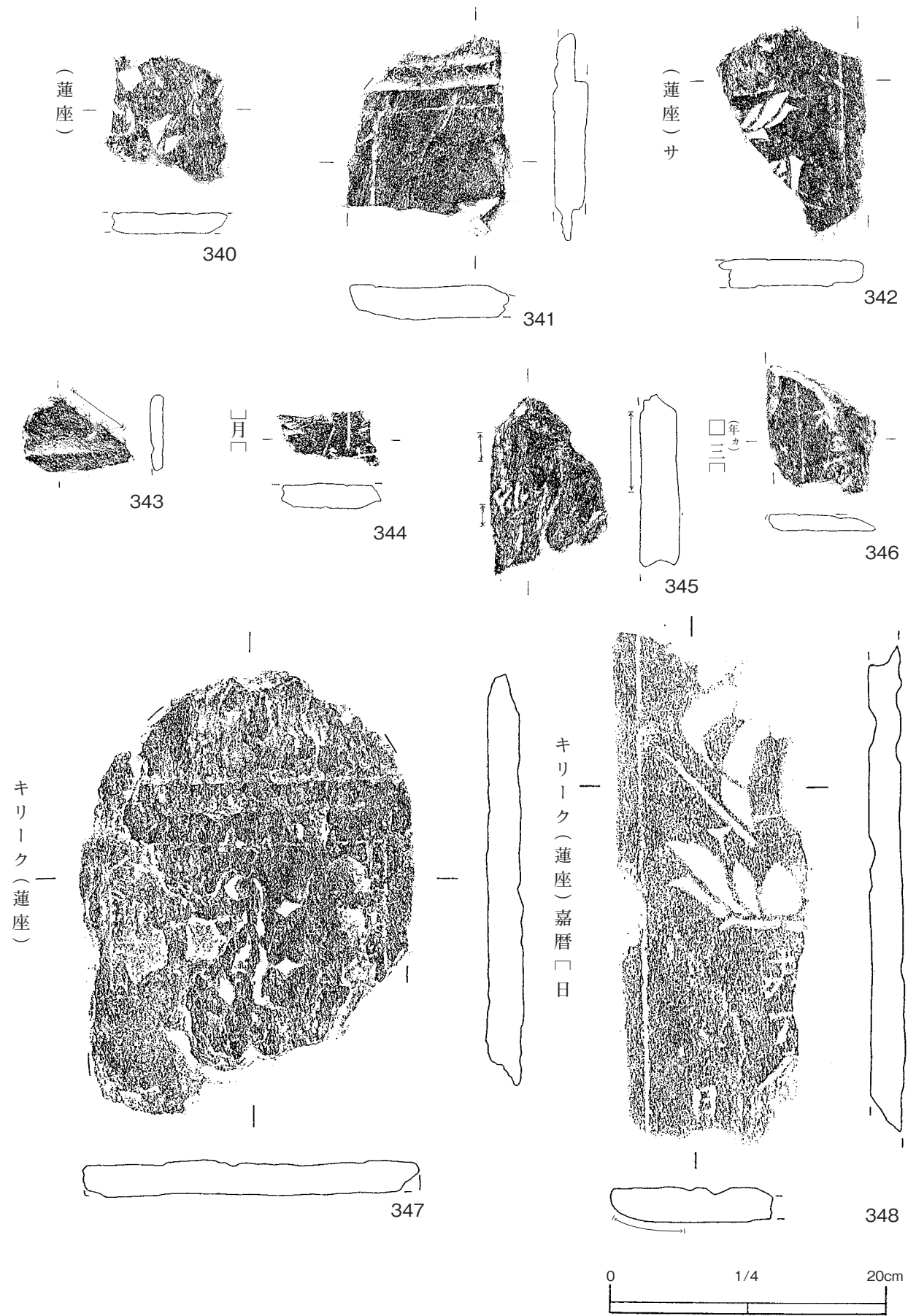
第30図 石器類24 (板碑2)



第31図 石器類25 (板碑3)

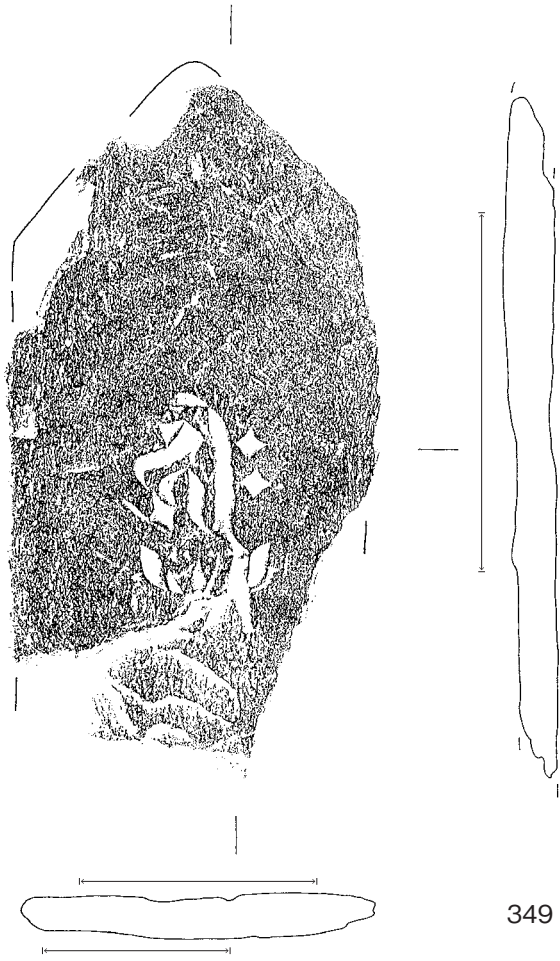


第32図 石器類26 (板碑4)

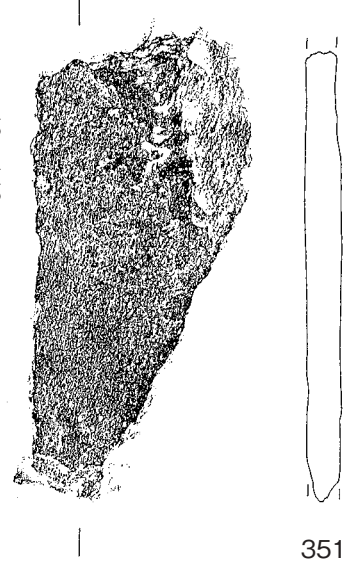


第34図 石器類28 (板碑6)

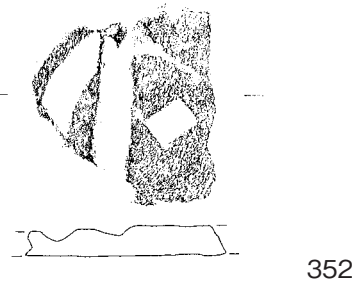
キリーク(蓮座)



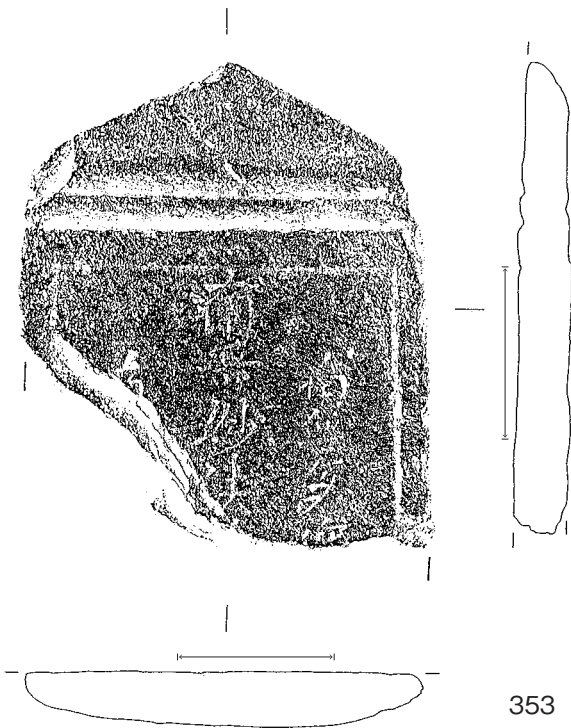
郎三郎



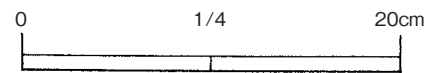
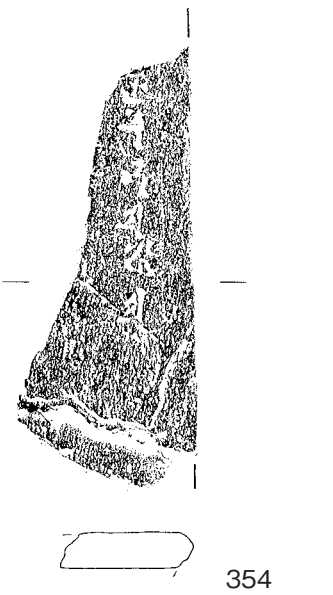
キリーク



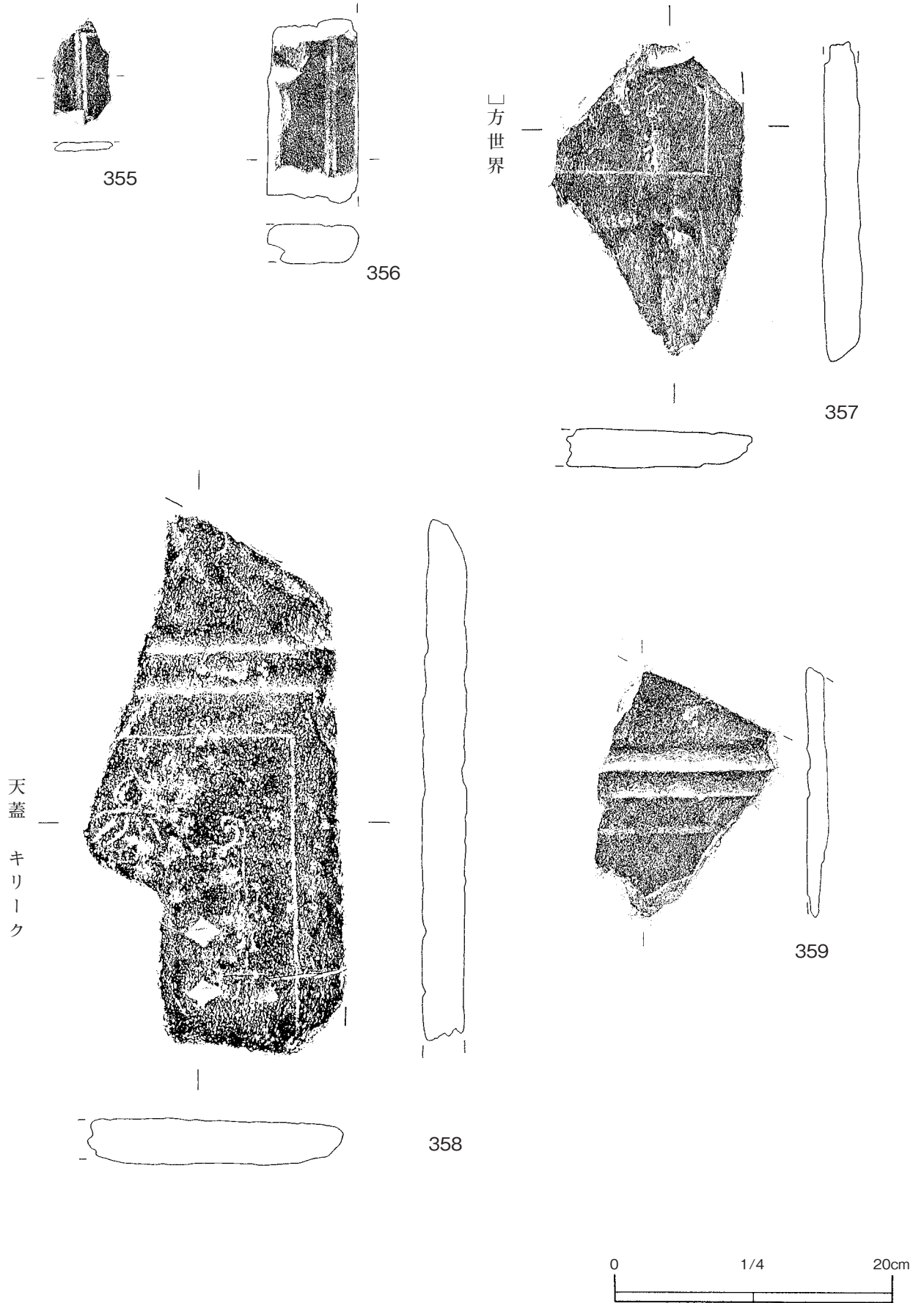
南無妙法南無多寶



光明真言

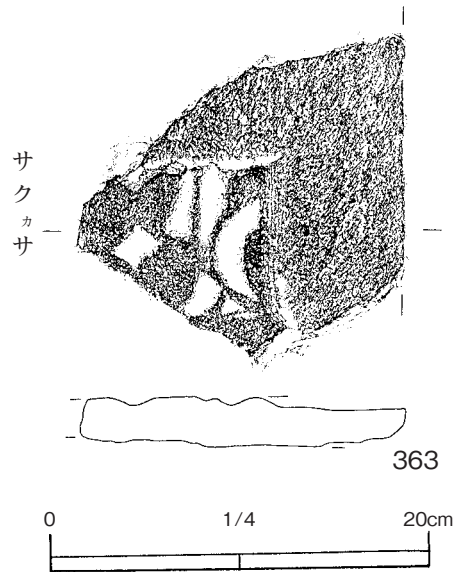
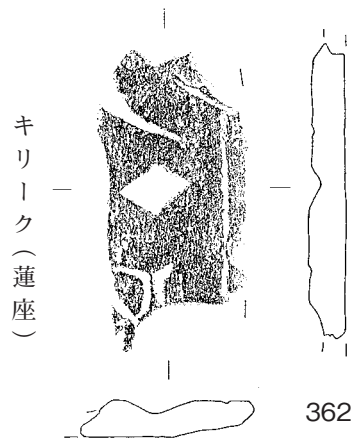
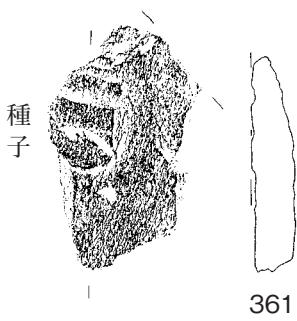
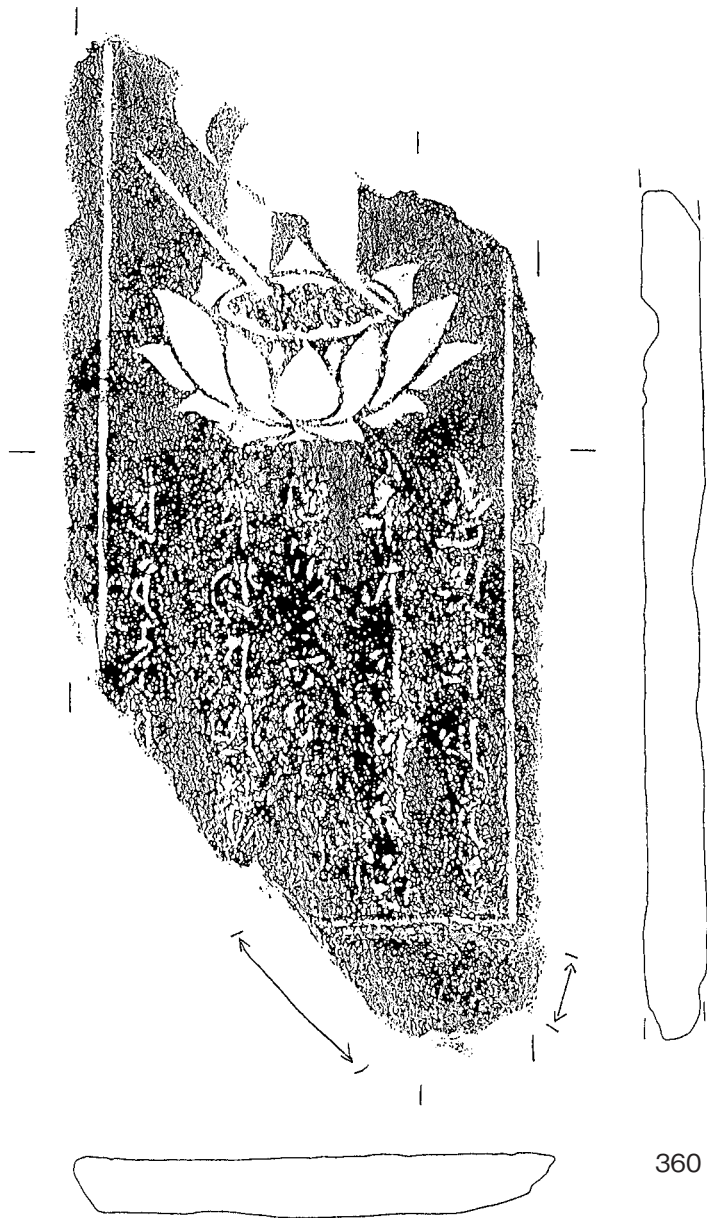


第35図 石器類29 (板碑7)

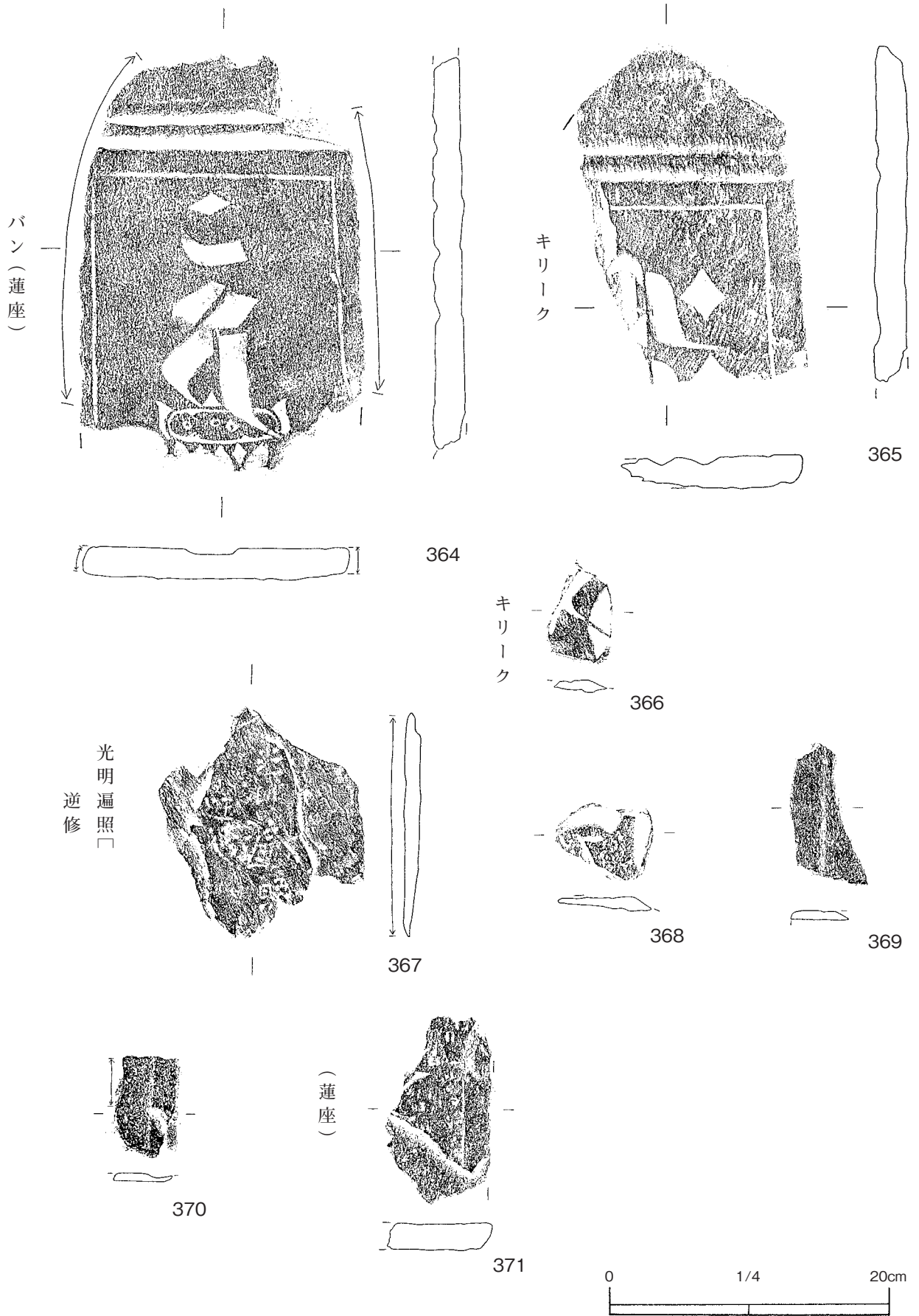


第36図 石器類30 (板碑8)

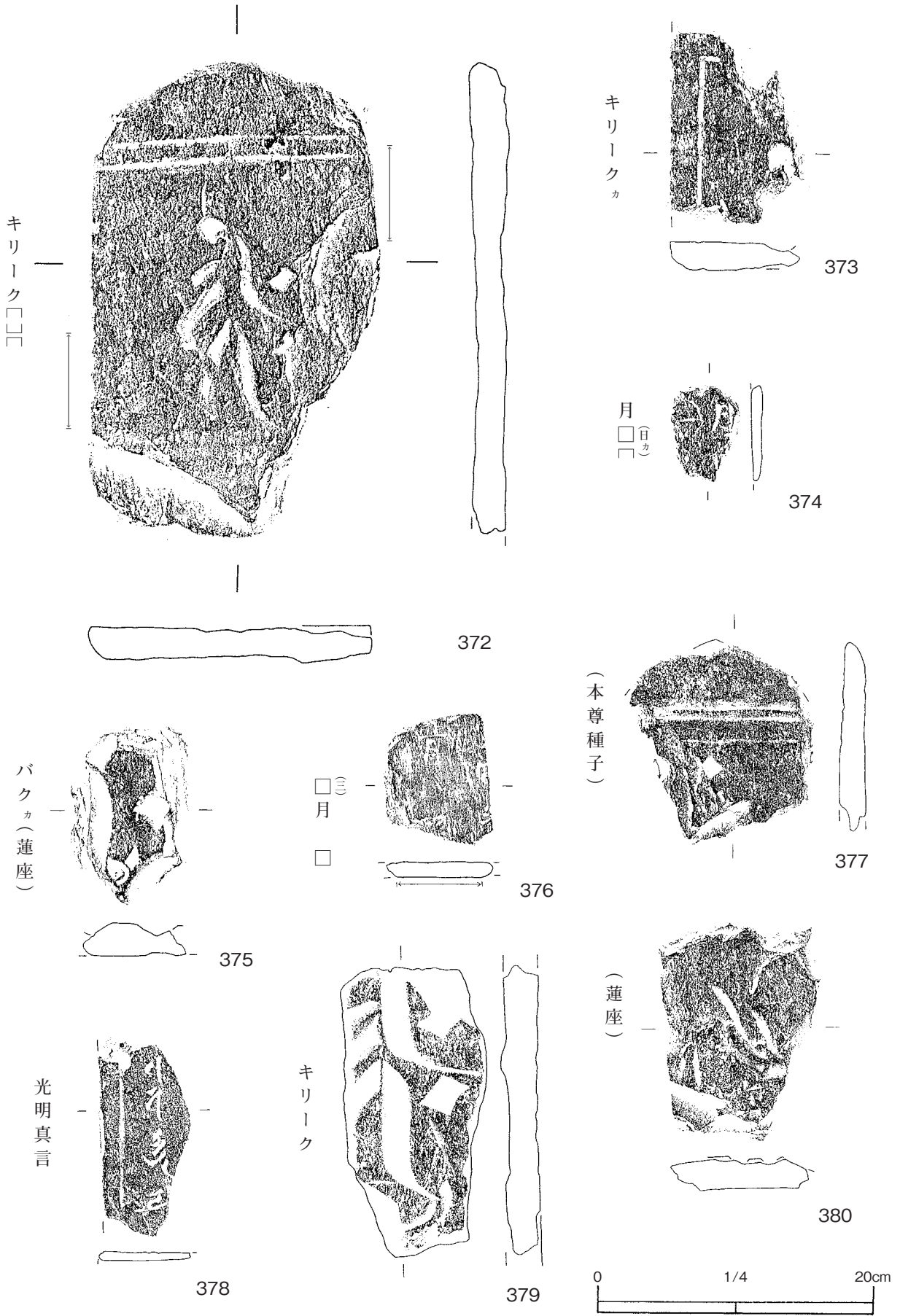
光明真言
 徳治三年六月日
 光明真言
 キリーク(蓮座)



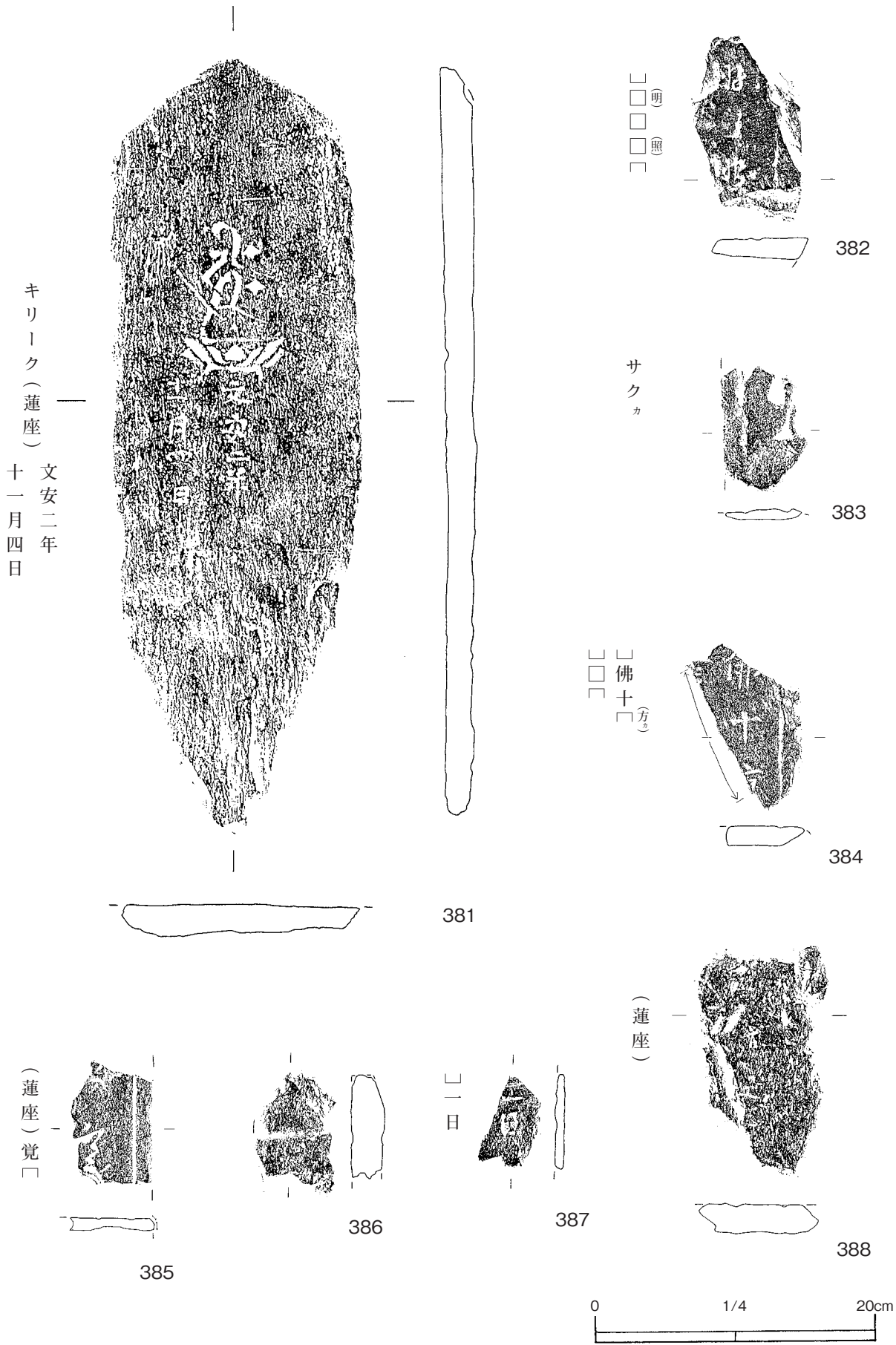
第37図 石器類31 (板碑9)



第38図 石器類32 (板碑10)



第39図 石器類33 (板碑11)

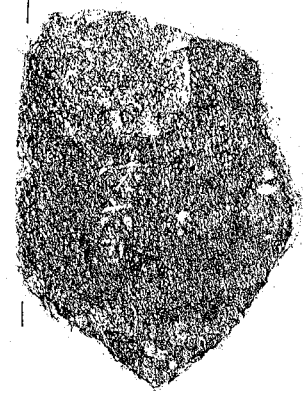


第40図 石器類34 (板碑12)

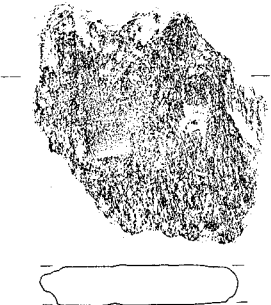


389

□
二 □
年 廿 六 日



390



391

キ
リ
ー
ク
(蓮座)

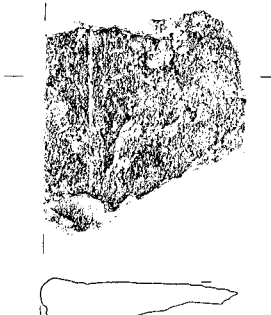


392

真
言
梵
字



393



394

(種
子)
(蓮座)

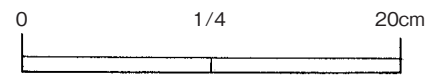


395

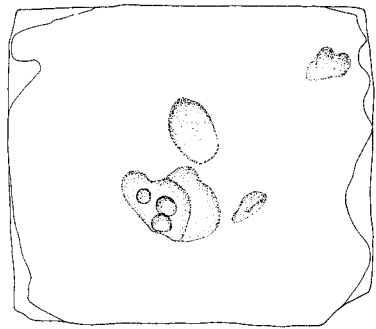
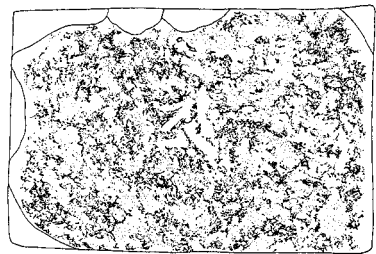
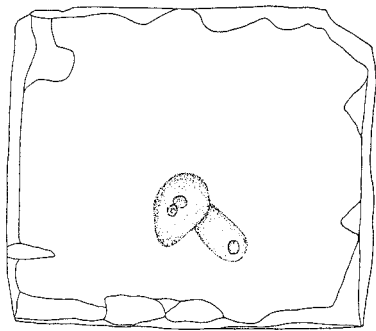
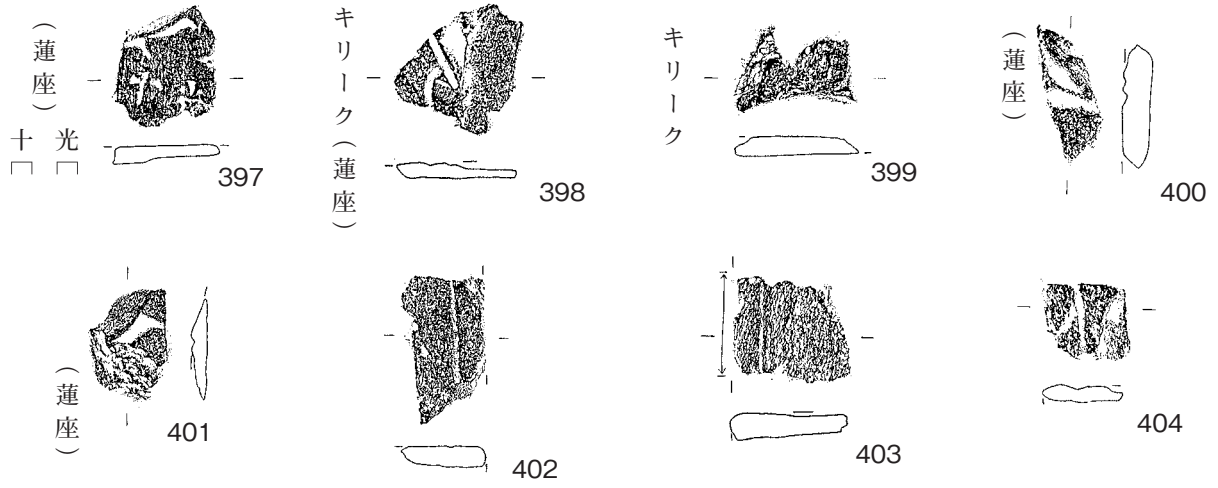
(蓮座)
(光明真言)



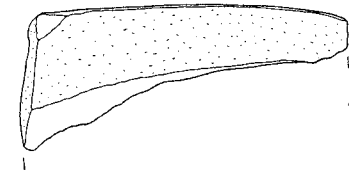
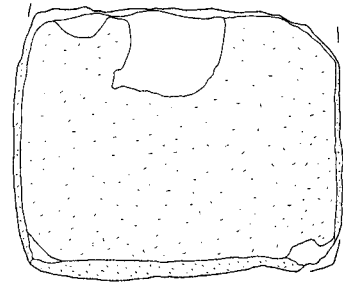
396



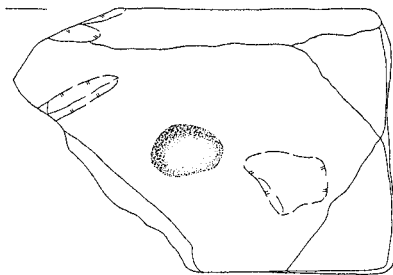
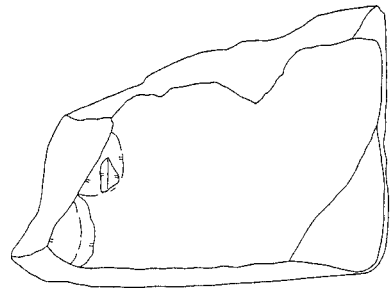
第41図 石器類35 (板碑13)



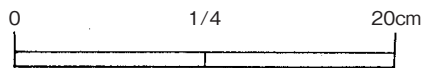
405



406



407



第42図 石器類36 (板碑14・五輪塔)

*は不確定な推定復元値、()は残存値 法量の単位は cm

図No	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅(底径)	厚さ	遺物 ID1	遺物 ID2	備考
1	茶臼(下白)	角閃石安山岩	1堀(D-5G No207、D-6G No42・184)		(30.5)	(5.8)	石017		
2	粉挽臼(下白)	角閃石安山岩	1堀 D-5G No222		(11.9)	5.7		0010-0001	破片後、各所に磨痕
3	茶臼(下白)	角閃石安山岩	1堀 D-5G No226		(6.7)	(3.5)	石051		
4	搗臼	角閃石安山岩	1堀 D-5G No254		*18.0	-	石055		底面周辺黒化
5	茶臼(上白)	普通輝石安山岩	1堀 D-6G (No39・40)、11溝 D-6G No89		(14.5)	(4.5)	石002		
6	粉挽臼(上白)	角閃石安山岩	1堀 E-5G No42		(7.4)	(4.4)	石027		
7	粉挽臼(下白)	角閃石安山岩	1堀 E-6G No126		(16.9)	(8.4)	石042		スス付着
8	粉挽臼(下白)	角閃石安山岩	1溝 B-0G No87		(14.7)	(7.1)	石047		
9	茶臼(下白)	角閃石安山岩	1溝 B-1G No238(C下)		(12.5)	(4.1)	石010		
10	粉挽臼(下白)	安山岩	1溝 B-1G No242		(10.6)	10.0		0010-0002	
11	茶臼(下白)	角閃石安山岩	1溝 B-1G No246(C下)、一括		(14.6)	(4.1)	石015		黒色物付着
12	茶臼(下白)	普通輝石安山岩	1溝 B-1G No252(C下)		(17.6)	(4.9)	石012		断面つぶれ
13	茶臼(下白)	角閃石安山岩	1溝 B-1G No488		(19.9)	(5.0)	石014		
14	粉挽臼カ	安山岩	1溝 B-1G No533		(13.4)	7.3		0010-0003	
15	茶臼(下白)	不明	1溝 B-1G No694		(9.3)	(9.4)	石016		表面平滑一部黒化
16	粉挽臼(上白)	角閃石安山岩	1溝(B-1G No61、C-2G No301・556)		(24.0)	(7.6)	石024		
17	粉挽臼(上白)	角閃石安山岩	1溝 C-1G No71		(15.0)	(9.0)	石053		
18	粉挽臼(上白)	角閃石安山岩	1溝 C-1G No72		(10.6)	(5.0)	石037		
19	茶臼(下白)	角閃石安山岩	1溝 C-1G No74		(9.5)	(5.2)	石008		
20	茶臼(上白)	安山岩	1溝 C-2G No4、12溝 B-3G No9、Z-1G No52		(16.2)	13.4	石021		2片接合
21	粉挽臼(上白)	角閃石安山岩	1溝 C-2G No50		(10.5)	6.3		0010-0004	
22	茶臼(下白)	普通輝石安山岩	1溝 C-2G No108		(15.4)	(4.0)	石013		
23	粉挽臼(上白)	普通輝石安山岩	1溝 C-2G No152		(11.8)	(12.0)	町石22		
24	粉挽臼(上白)	角閃石安山岩	1溝 C-2G No235		(9.6)	(3.5)	石028		
25	茶臼(上白)	安山岩	1溝 C-2G No406(C下)		(7.4)	(5.2)	石019		一部黒化
26	茶臼(下白)	安山岩	1溝 C-3G No202(C上)		(5.6)	(4.2)	石052		
27	粉挽臼(上白)	安山岩	1溝 C-3G No221(C上)		(16.4)	10.4		0010-0005	全面炭化物付着
28	粉挽臼(下白)	角閃石安山岩	1溝 C-3G No222(C上)		(12.0)	(12.4)		0010-0006	
29	粉挽臼(上白)	安山岩カ	1溝 C-3G No326(C下)		(8.9)	9.2		0010-0007	
30	茶臼(下白)	安山岩	1溝 D-3G No153(C上)		(9.0)	(4.8)	石011		
31	粉挽臼(下白)	角閃石安山岩	1溝 D-3G No167(C下)		(9.3)	(7.0)	石049		
32	粉挽臼(上白)	普通輝石安山岩	1溝 D-3G No218(C下)		(8.4)	(10.4)	石038		スス付着
33	茶臼(下白)	普通輝石安山岩	1溝 D-4G No77(C下)、11溝 D-6G		(10.4)	(4.8)	石004		
34	粉挽臼(下白)	角閃石安山岩	2溝 C-2G No67(C上)		(9.9)	(9.4)	石044		
35	粉挽臼(上白)	角閃石安山岩	4溝 A-0G No114		(13.5)	(7.1)	石033		
36	粉挽臼(上白)	角閃石安山岩	12溝 E-5G No369		(18.7)	(8.5)	石023		
37	粉挽臼(下白)	角閃石安山岩	14-3溝 D-5G No352		(6.0)	(4.7)	石048		
38	茶臼(下白)	角閃石安山岩	19・20溝 D-5G No82		(7.2)	(4.6)	石005		
39	茶臼(下白)	安山岩カ	20溝 D-5G No109、21溝 E-6G No155		(12.5)	(5.0)	石006		
40	茶臼カ(上白)	凝灰岩カ	20溝 E-5G No56		(8.6)	6.7		0010-0008	
41	粉挽臼(下白)	角閃石安山岩	27溝 E-7G (No70・71)		(13.1)	(3.4)	石045		
42	粉挽臼(下白カ)	角閃石安山岩	27溝 F-8G No109		(9.7)	(12.5)		0010-0009	
43	茶臼(上白)	安山岩カ	27溝 F-8G No211		(7.4)	4.5		0010-0010	
44	粉挽臼(下白)	角閃石安山岩	27溝 F-9G No75		(7.0)	(5.6)	石046		
45	粉挽臼(上白)	角閃石安山岩	27溝 F-9G No188		(8.3)	(4.8)	石041		
46	粉挽臼(上白)	安山岩	27溝 F-9G No199		(12.4)	(10.3)	石034		
47	粉挽臼(上白)	角閃石安山岩	27溝 G-9G No57		(9.4)	(4.4)	石030		
48	粉挽臼(下白カ)	普通輝石安山岩	34溝 F-9G No210		(10.0)	10.6		0010-0011	炭化物付着
49	粉挽臼(上白)	砂岩カ	34溝 F-9G No217		(7.1)	(2.0)	石022		
50	粉挽臼(上白)	角閃石安山岩	34溝 F-9G No227		(11.0)	(8.6)	石032		
51	粉挽臼(上白)	安山岩	34溝 F-9G No232		(13.3)	(7.9)	町石10		
52	粉挽臼(上白)	角閃石安山岩	34溝 F-9G No259		(14.0)	(8.0)	町石16		
53	粉挽臼(上白)	安山岩カ	5井 B-2G No109		(20.0)	(12.5)	石039		
54	粉挽臼(上白)	角閃石安山岩	9井 B-3G No71		(22.9)	13.1	石040		
55	搗臼	角閃石安山岩	10井 C-3G No394		(13.4)	(9.5)	石056		
56	搗臼	安山岩	12井 C-2G No574		(13.7)	(4.0)	石057		全面黒化
57	粉挽臼(上白)	角閃石安山岩	19井 B-0G No1		(10.4)	9.7		0010-0012	破碎後、炭化物付着
58	粉挽臼(上白)	安山岩カ	22井 B-2G No114		(8.7)	(4.5)	石026		
59	搗臼	安山岩	23井 C-1G No112		*24.5	-	石054		

第1表 石製品類一覧表1

*は不確定な推定復元値、() は残存値 法量の単位は cm

図No	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅(底径)	厚さ	遺物 ID1	遺物 ID2	備考
60	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	32井 F-7G No31		(13.0)	10.6		0010-0013	
61	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	36井		(16.0)	(8.8)	石031		一部黒化
62	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	40井 F-7G No119		(11.6)	(9.3)		0010-0014	
63	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	40井 F-7G No120		(22.6)	(9.5)	石035		
64	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	45井		(10.6)	7.9	町石28		
65	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	47井		(12.5)	8.7		0010-0015	
66	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	58井 A-1G No318		(33.2)	(13.0)	石050		上部黒化、21壙を振替
67	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	59井 C-3G No306		(28.0)	(10.8)	石018		44壙を振替
68	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	60井 B-2G No93		(14.6)	(9.0)	町石08		69壙を振替
69	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	11・12壙 B-3G No13		(16.5)	10.8	石003		一部黒化
70	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	12壙 B-3G No7		(13.2)	(11.2)	町石15		一部黒化
71	粉挽臼(上臼)	安山岩	51壙 C-1G No214		(13.3)	(4.3)	石025		
72	茶臼(上臼)	角閃石安山岩	66壙 D-3G No213(C上)		(10.6)	8.5	石001		一部黒化
73	粉挽臼(上臼)	安山岩カ	151壙カ		(16.4)	6.4		0010-0016	
74	茶臼(下臼)	普通輝石安山岩	遺物集中区 B-2G No10		(8.4)	(3.8)	石007		
75	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	B-0G No2		(12.0)	(8.5)	石029		
76	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	B-1G		(14.1)	10.8		0010-0017	側面線条痕多数有、下面磨かれている
77	茶臼(上臼)	普通輝石安山岩	B-2G No83		(13.0)	(12.3)	石020		
78	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	B-2G No87		(19.2)	11.8	石036		一部黒化
79	粉挽臼(下臼)	不明	B-3G No51		(11.4)	(8.0)		0010-0018	
80	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	C-3G No25		(7.1)	(4.0)	石009		
81	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	C-3G No28		(15.9)	(9.8)	石043		スス付着
82	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	C-3G No159(C上)		(6.2)	4.6		0010-0019	
83	粉挽臼(上臼)	普通輝石安山岩	E-8G No4		(10.1)	(4.9)		0010-0020	
84	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	F-9G No37		(6.8)	(4.3)		0010-0021	
85	粉挽臼(上臼)	普通輝石安山岩	Z-1G No34		(11.4)	(6.5)		0010-0022	
86	粉挽臼(下臼)	安山岩	一括		(15.8)	(8.4)		0010-0023	下面磨石として二次使用
87	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	一括		(11.2)	5.5		0010-0024	
88	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	一括		(22.2)	7.8		0010-0025	
89	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	一括		(15.8)	(10.5)		0010-0026	下面側面は非常に磨かれており、砥石転用カ
90	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	一括		(10.1)	9.3		0010-0027	
91	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	一括		(13.4)	10.3		0010-0028	
92	碁石	不明	4溝	2.1	2.0	0.4		0010-0040	
93	碁石	不明	4溝	1.9	1.6	0.6		0010-0041	
94	碁石	頁岩カ	27溝	2.0	1.7	0.6		0010-0029	
95	硯	粘板岩	1壙 D-6G No80	(3.6)	3.0	1.3	石061		墨付着
96	硯	不明	1溝 C-2G No533	(3.0)	(4.6)	1.7		0010-0030	
97	硯	粘板岩	1溝(D-3G No95-139, D-4G No38-152)(C上)	(6.5)	(5.8)	2.7	石059		
98	硯	不明	1溝(C上)	(2.7)	(2.4)	0.6		0010-0031	
99	硯	不明	19溝 D-4G No159	(7.1)	(2.9)	0.6		0010-0032	
100	硯	砂岩	一括	(5.5)	6.5	(1.4)	石060		
101	硯	不明	一括	(1.8)	(2.3)	0.9		0010-0033	
102	紡錘車カ	粘板岩カ	一括	(3.6)	(2.8)	0.7		0010-0034	
103	手洗い鉢カ	角閃石安山岩	B-3G No50	(14.9)	(12.7)	(18.0)		0010-0036	
104	石製品	不明	20溝 D-5G No62	(5.9)	(3.7)	2.0		0010-0037	
105	楔形製品	粘板岩カ	D-6G No. 8	6.9	2.6	0.8		0010-0038	
106	有穴球状石製品	細粒凝灰岩	1溝C上 B-1G No316	4.1	4.0	3.0	町石40		
107	有穴球状石製品	凝灰岩	4溝 A-0G No87	4.8	4.5	4.5	町石41		
108	砥石	砂岩	1壙 D-5G No381	(7.6)	(3.4)	3.1	町石24		
109	砥石	泥岩	1壙 E-5G No228	(3.3)	4.1	3.0		0010-0001	
110	砥石	泥岩	1壙	(7.0)	2.8	2.1		0010-0002	
111	砥石	泥岩	1壙	(4.6)	2.9	1.4		0010-0003	
112	砥石	泥岩	1溝 B-0G No117	(4.1)	3.0	1.2	石064		
113	砥石	不明	1溝 B-1G No63	(6.8)	(3.3)	1.3	町石18		
114	砥石	泥岩	1溝 B-1G No662	(8.2)	5.9	4.2		0010-0004	
115	砥石	砂岩	1溝 C-1G No44	(10.5)	(4.4)	3.8	町石17		
116	砥石	泥岩	1溝 C-2G No51	(6.5)	(3.6)	1.9	石067		
117	砥石	泥岩	1溝 C-2G No324	(6.3)	(4.5)	(3.0)	町石19		
118	砥石	粘板岩カ	1溝 C-2G No397(C上)	(7.8)	4.0	(1.0)		0010-0005	
119	砥石	緑泥片岩	1溝 C-2G No398(C上)	17.1	11.6	2.1		0010-0006	
120	砥石	泥岩	1溝 C-2G No481(C下)	(9.3)	(3.7)	2.2	町石26		
121	砥石	泥岩	1溝 C-3G No85	(7.3)	5.5	4.1		0010-0007	

第2表 石製品類一覧表2

*は不確定な推定復元値、()は残存値 法量の単位は cm

図No	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅(底径)	厚さ	遺物 ID1	遺物 ID2	備考
122	砥石	泥岩	1溝 C-3G No242 (C 下)	(10.3)	(4.4)	(2.0)	町石21		
123	砥石	泥岩	1溝3T	(3.8)	2.1	1.1		0010-0008	
124	砥石	泥岩	3溝 B-1G No133	(6.3)	6.1	2.5		0010-0009	
125	砥石	泥岩	4溝 A-0G No81	(8.6)	(3.3)	3.0	石068		
126	砥石	泥岩	4溝 A-1G No112	(8.8)	3.9	1.6	町石29		
127	砥石	泥岩	4溝 A-1G No265	(6.6)	3.1	2.2	石065		
128	砥石	泥岩	14-2溝 E-4G No64	6.7	5.0	4.0		0010-0010	
129	砥石	泥岩	27溝 F-9G No128	6.5	2.3	2.7		0010-0011	
130	砥石	泥岩	27溝	9.0	4.0	3.6		0010-0012	
131	砥石	泥岩	34溝 F-9G No233	(10.8)	3.2	3.0	石066		
132	砥石	泥岩	4井	(6.2)	4.4	2.6	町石34		
133	砥石	砂岩	8井 B-1G No721	(8.5)	(6.5)	4.3	町石14		
134	砥石	泥岩	13井 C-4G No40	(9.6)	(3.8)	1.8	町石23		
135	砥石	泥岩	13井 C-4G No41	(5.7)	3.4	1.0	石062		
136	砥石	泥岩	13井 C-4G No42	(5.6)	3.5	1.2	石063		
137	砥石	泥岩	55井 B-3G No45	(6.3)	4.5	2.6	町石33		9曠を振替
138	砥石	粘板岩カ	72曠 C-1G No158	(4.8)	3.7	(0.6)		0010-0013	
139	砥石	泥岩	76曠 Z-1G No205	(7.9)	4.5	3.9	町石27		
140	砥石	泥岩	136曠 G-9G No87	8.5	2.7	2.2	石069		
141	砥石	泥岩	147曠	7.0	3.8	2.8	石070		
142	砥石	不明	遺物集中区 B-1G No17	(8.1)	3.6	3.0		0010-0014	
143	砥石	泥岩	B-3G No42・C-3G No32	(9.9)	5.5	4.1		0010-0015	
144	砥石	泥岩	C-1G No132	(8.2)	(4.7)	(4.5)	町石13		
145	砥石	泥岩	C-2G No36	7.3	4.2	4.0		0010-0016	
146	砥石	泥岩	F-7G No1	(6.0)	4.0	2.9		0010-0017	
147	砥石	泥岩	F-8G No22	(3.8)	3.3	2.9		0010-0018	
148	砥石	泥岩	F-9G No38	(8.5)	4.3	2.3		0010-0019	
149	砥石	泥岩	G-8G No4	(8.6)	3.1	2.0		0010-0020	
150	砥石	泥岩	Z-1G No58	(8.3)	2.8	2.1		0010-0021	
151	砥石	泥岩	7T	(8.4)	6.2	4.3		0010-0022	
152	砥石	泥岩	一括	(3.4)	(6.1)	(3.2)		0010-0023	
153	砥石	泥岩	一括	(4.7)	2.9	1.8		0010-0024	
154	砥石	不明	一括	(3.0)	3.4	(3.4)		0010-0025	
155	砥石	砂岩	一括	(4.2)	4.0	0.9		0010-0026	
156	砥石	泥岩	一括	6.7	2.5	1.6		0010-0027	
157	砥石	泥岩	一括	(3.0)	2.0	1.3		0010-0028	
158	砥石	泥岩	一括	(5.6)	4.1	1.3		0010-0029	
159	砥石	砂岩	一括	(4.6)	3.2	1.1		0010-0030	
160	砥石	泥岩	一括	4.1	3.5	2.9		0010-0031	
161	砥石	砂岩	一括	(3.8)	2.7	1.3		0010-0032	
162	砥石	不明	一括	(5.2)	2.1	0.9		0010-0033	
163	砥石	泥岩	一括	(6.7)	4.0	3.2		0010-0034	
164	砥石	泥岩	一括	(3.7)	3.3	2.0		0010-0035	
165	砥石	泥岩	一括	(6.5)	5.0	2.9		0010-0036	
166	砥石	泥岩	一括	11.7	4.5	3.0		0010-0037	
167	砥石	泥岩	一括	(6.8)	3.7	(2.9)		0010-0038	
168	砥石	泥岩	一括	7.0	4.4	3.0		0010-0039	
169	砥石	不明	一括	7.0	4.6	1.1		0010-0040	
170	磨石	デイサイト	1堀 D-5G No154	4.1	3.0	1.9		0010-0041	
171	磨石	デイサイト	1堀 D-5G No213	5.8	4.4	2.8		0010-0042	
172	磨石	デイサイト	1堀 E-5G No271	4.5	3.3	2.5		0010-0043	
173	磨石	デイサイト	1堀1T	4.0	3.8	2.7		0010-0044	
174	磨石	デイサイト	1堀2T	3.6	2.8	2.6		0010-0045	
175	磨石	デイサイト	1堀2T	6.2	4.4	3.8		0010-0046	
176	磨石	デイサイト	1堀	4.2	3.7	2.7		0010-0047	
177	磨石	デイサイト	1溝 B-0G No79	6.5	5.3	3.6		0010-0048	
178	磨石	デイサイト	1溝 B-0G No86	(8.2)	(7.1)	(5.0)		0010-0139	
179	磨石	デイサイト	1溝 B-0G No100	8.7	7.1	5.1		0010-0049	
180	磨石	角閃石安山岩	1溝 B-1G No244	(10.8)	(6.5)	7.0		0010-0140	
181	磨石	デイサイト	1溝 B-1G No269	6.0	4.2	2.9		0010-0051	
182	磨石	デイサイト	1溝 B-1G No291	6.2	7.5	2.2		0010-0052	
183	磨石	デイサイト	1溝 B-1G No480	8.0	5.4	3.3		0010-0050	
184	磨石	デイサイト	1溝 B-1G No448	(12.1)	12.0	7.7		0010-0141	
185	磨石	角閃石安山岩	1溝 B-1G No449	(10.0)	(10.4)	6.2		0010-0142	
186	磨石	デイサイト	1溝 B-1G No618	(9.5)	(7.9)	(5.8)		0010-0053	
187	磨石	デイサイト	1溝 C-1G No29	(10.5)	(9.4)	(8.3)		0010-0143	
188	磨石	デイサイト	1溝 C-2G No132	6.9	4.7	3.8		0010-0054	

第3表 石製品類一覧表3

*は不確定な推定復元値、() は残存値 法量の単位は cm

図No	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅(底径)	厚さ	遺物 ID1	遺物 ID2	備考
189	磨石	デイサイト	1溝 C-3G No356 (C 上)	8.7	5.8	3.8	石079		
190	磨石	デイサイト	1溝 C-3G No389 (C 下)	4.4	3.5	2.5	石074		
191	磨石	角閃石安山岩	1溝 D-3G No142	9.1	5.9	6.6		0010-0144	
192	磨石	デイサイト	1溝 D-4G No93 (C 上)	7.0	6.5	2.5	石072		
193	磨石	デイサイト	1溝 (C 上)	5.8	4.0	3.1	石073		
194	磨石	デイサイト	1溝	3.8	3.0	2.0	石078		
195	磨石	デイサイト	1溝	7.0	4.2	2.6		0010-0055	
196	磨石	デイサイト	1溝	(3.7)	3.7	2.2		0010-0056	
197	磨石	デイサイト	1溝	3.8	2.8	1.7		0010-0057	
198	磨石	デイサイト	4溝 A-1G No188	6.7	5.7	3.5		0010-0058	
199	磨石	デイサイト	4溝 A-1G No198	8.3	6.4	2.4		0010-0059	
200	磨石	デイサイト	4溝 B-0G No123	(7.8)	(4.7)	(3.2)		0010-0060	
201	磨石	デイサイト	4溝 Z-1G No92	5.5	5.0	4.0		0010-0061	
202	磨石	デイサイト	11溝 E-6G No135	6.9	3.5	2.2	石077		
203	磨石	デイサイト	11溝	4.3	4.0	2.6		0010-0062	
204	磨石	デイサイト	12溝2T	5.2	4.4	2.6		0010-0063	
205	磨石	デイサイト	13-5溝	4.1	3.0	1.8		0010-0064	18溝を振替
206	磨石	デイサイト	19・20溝 D-4G No174	10.2	9.9	7.4		0010-0065	
207	磨石	デイサイト	20溝 E-6G No53	6.3	5.2	3.3		0010-0066	
208	磨石	デイサイト	20溝	(3.6)	(4.0)	2.6		0010-0067	
209	磨石	デイサイト	21溝 D-6G No28	11.9	8.1	6.2		0010-0068	
210	磨石	デイサイト	27溝 E-7G No37	5.8	5.2	2.7		0010-0069	
211	磨石	角閃石安山岩カ	27溝 F-8G No71	(12.0)	(7.1)	6.3		0010-0070	各所痕跡
212	磨石	デイサイト	27溝 F-8G No114	6.1	4.8	1.7		0010-0071	
213	磨石	角閃石安山岩	27溝 F-9G No84	9.8	13.4	5.0		0010-0072	スス付着
214	磨石	デイサイト	27溝 G-10G No3	4.4	2.9	2.4		0010-0073	
215	磨石	デイサイト	27溝	3.5	2.4	1.3		0010-0074	
216	磨石	デイサイト	34溝 F-9G No214	13.0	7.5	4.5	石076		
217	磨石	デイサイト	8井	(5.7)	4.8	1.8	石071		
218	磨石	砂岩	10井	6.2	5.0	2.3		0010-0145	
219	磨石	角閃石安山岩	21井	(7.8)	(5.6)	4.8		0010-0146	
220	磨石	デイサイト	32井 G-7G No28	17.0	21.2	11.0		0010-0147	
221	磨石	デイサイト	32井 F-7G No73	(17.0)	16.4	11.3		0010-0148	
222	磨石	デイサイト	48井	6.6	4.1	3.1		0010-0075	
223	磨石	デイサイト	50井	9.9	6.0	4.3		0010-0076	
224	磨石	デイサイト	58井 A-1G No314	12.4	7.0	5.8		0010-0078	21溝を振替
225	磨石	デイサイト	4溝 B-2G No36	7.6	5.0	4.0		0010-0077	
226	磨石	デイサイト	51溝 B-1G No777	13.3	9.6	7.0	石080		一部黒化
227	磨石	デイサイト	30溝 B-4G No5	3.8	2.8	2.2		0010-0079	
228	磨石	デイサイト	51溝 C-1G No188	(10.0)	(6.7)	6.5		0010-0080	
229	磨石	デイサイト	51溝 C-1G No193	8.2	5.9	3.3	石075		
230	磨石	デイサイト	73溝 B-2G No115	6.3	5.1	3.1		0010-0081	
231	磨石	デイサイト	95溝 F-6G No21	3.6	2.1	1.8		0010-0082	
232	磨石	デイサイト	遺物集中区 B-2G No15	5.7	3.8	2.4		0010-0083	
233	磨石	デイサイト	B-1G No95	14.2	10.8	5.5		0010-0084	
234	磨石	デイサイト	B-2G No76	7.8	4.8	3.3		0010-0085	
235	磨石	デイサイト	C-1G No120	7.7	10.5	(5.6)		0010-0086	
236	磨石	デイサイト	C-2G No39	8.4	5.3	3.6		0010-0087	
237	磨石	デイサイト	C-2G No76	9.7	7.7	5.5		0010-0088	
238	磨石	デイサイト	C-5G No40	(7.8)	5.2	4.4		0010-0089	
239	磨石	角閃石安山岩カ	D-5G6T No289	(7.6)	(7.0)	(3.2)		0010-0090	スス付着
240	磨石	デイサイト	F-8G No41	4.0	4.3	2.4		0010-0091	
241	磨石	デイサイト	3T	5.3	3.9	3.0		0010-0092	
242	磨石	デイサイト	12T	(4.4)	4.2	2.8		0010-0093	
243	磨石	デイサイト	一括	8.2	5.2	3.3		0010-0094	
244	磨石	デイサイト	一括	6.5	6.1	3.0		0010-0095	
245	磨石	デイサイト	一括	5.1	4.7	2.5		0010-0096	
246	磨石	デイサイト	一括	5.0	4.7	2.6		0010-0097	
247	磨石	デイサイト	一括	4.7	3.9	2.8		0010-0098	
248	磨石	デイサイト	一括	(6.7)	5.1	2.4		0010-0099	
249	磨石	デイサイト	一括	10.3	5.2	3.4		0010-0100	
250	磨石	デイサイト	一括	7.7	(4.9)	(3.1)		0010-0101	
251	磨石	デイサイト	一括	6.6	6.7	3.5		0010-0102	
252	磨石	デイサイト	一括	(3.6)	(2.5)	1.7		0010-0103	
253	磨石	デイサイト	一括	2.7	2.1	1.4		0010-0104	
254	磨石	デイサイト	一括	3.3	2.6	1.6		0010-0105	
255	磨石	デイサイト	一括	4.5	4.0	1.7		0010-0106	

第4表 石製品類一覧表4

*は不確定な推定復元値、()は残存値 法量の単位は cm

図No	遺物名	材質	出土地点	長さ	幅(底径)	厚さ	遺物 ID1	遺物 ID2	備考
256	磨石	デイサイト	一括	(3.9)	(3.9)	3.1		0010-0107	
257	磨石	デイサイト	一括	7.3	4.3	2.9		0010-0108	
258	磨石	デイサイト	一括	6.4	5.4	4.0		0010-0109	一部黒化
259	磨石	デイサイト	一括	7.1	4.7	4.7		0010-0110	
260	磨石	デイサイト	一括	6.4	4.9	2.9		0010-0111	
261	磨石	デイサイト	一括	8.3	3.7	2.8		0010-0112	
262	磨石	デイサイト	一括	5.4	2.5	2.3		0010-0113	
263	磨石	デイサイト	一括	5.5	4.6	2.9		0010-0114	
264	磨石	デイサイト	一括	5.7	4.3	2.3		0010-0115	
265	磨石	デイサイト	一括	3.7	4.8	3.2		0010-0116	
266	磨石	デイサイト	一括	8.8	5.6	3.5		0010-0117	
267	磨石	デイサイト	一括	(5.9)	6.2	4.0		0010-0118	
268	磨石	デイサイト	一括	(8.5)	(5.7)	(3.9)		0010-0119	
269	磨石	デイサイト	一括	7.0	(6.5)	(4.1)		0010-0120	一部黒化
270	磨石	デイサイト	一括	(7.7)	(5.2)	(3.4)		0010-0121	
271	磨石	デイサイト	一括	6.3	4.8	4.1		0010-0122	
272	磨石	デイサイト	一括	(6.2)	3.9	2.3		0010-0123	
273	磨石	デイサイト	一括	7.9	6.0	3.7		0010-0124	
274	磨石	デイサイト	一括	5.2	3.4	3.8		0010-0125	
275	磨石	デイサイト	一括	9.0	(5.4)	5.1		0010-0126	
276	火打石	石英	1溝	2.8	2.7	1.7		0010-0127	
277	火打石	石英	29溝	5.4	(2.9)	1.7		0010-0128	
278	火打石	石英	34溝	3.9	3.0	2.4		0010-0129	
279	火打石	石英	5井	3.1	2.2	1.9		0010-0130	
280	火打石	石英	18井	3.2	2.8	2.4		0010-0131	
281	火打石	石英	遺物集中区 B-2G No19	6.0	5.4	2.0		0010-0133	
282	火打石	石英	B-1G No7	3.9	3.0	2.1		0010-0132	
283	火打石	石英	一括	4.7	2.6	2.0		0010-0134	
284	火打石	石英	一括	3.9	2.2	1.3		0010-0135	
285	火打石	石英	一括	3.3	2.5	2.5		0010-0136	
286	火打石	石英	一括	3.3	2.5	1.5		0010-0137	
287	火打石	石英	一括	3.5	2.2	1.7		0010-0138	
288	不明	凝灰岩カ	1溝	3.6	2.0	1.4		0010-0039	
289	不明	安山岩	B-0G No132	(10.8)	(11.0)	6.3		0010-0035	

第5表 石製品類一覧表5



覆土洗浄風景

() は残存値

法量の単位は cm

図 NO.	遺物名	出土地点	縦×横×厚	遺物 ID	備 考
290	板碑	1堀 D-5G No275	(7)×(6)×1	0010-0001	
291	板碑	1堀 E-4G No62	(4)×(3)×1	0010-0002	
292	板碑	1堀 E-5G No233	(15)×(11)×2	0010-0003	
293	板碑	1堀 E-5G No255	(17)×(10)×3	0010-0004	
294	板碑	1溝 B-1G No243	(12)×(7)×2	0010-0005	
295	板碑	1溝 B-1G No332	(9)×(7)×1	0010-0006	表面平滑 杵線
296	板碑	1溝 B-1G No384	(16)×(9)×2	0010-0007	杵線
297	板碑	1溝 B-1G No583	(8)×(7)×2	0010-0008	表面平滑 被熱による黒化
298	板碑	1溝 B-1G No672	(20)×(12)×(1)	0010-0009	厚くスス付着
299	板碑	1溝 C-1G No28	(15)×(9)×(2)	0010-0010	表裏側面磨耗
300	板碑	1溝 C-1G No63	(15)×(11)×2	0010-0011	
301	板碑	1溝 C-1G No78	(10)×(7)×1	0010-0012	表面平滑
302	板碑	1溝 C-1G No86	(16)×(9)×1	0010-0013	杵線 被熱による黒化
303	板碑	1溝 4T C-2G No11	(8)×(5)×2	0010-0014	
304	板碑	1溝 C-2G No148	(12)×(9)×1	0010-0015	表面平滑 側面潰れ 杵線
305	板碑	1溝 C-2G No153	(14)×(7)×2	0010-0016	黒色付着物
306	板碑	1溝 C-2G No162	(4)×(11)×2	0010-0017	
307	板碑	1溝 C-2G No186	(9)×(6)×2	0010-0018	
308	板碑	1溝 C-2G No194	(10)×(9)×1	0010-0019	スス付着
309	板碑	1溝 C-2G No285	(42)×18×2	0010-0020	杵線
310	板碑	1溝 C-2G No369(C上)	(8)×(6)×2	0010-0021	表面平滑 杵線
311	板碑	1溝 C-2G No408(C上)	(19)×(16)×3	0010-0022	側面磨耗
312	板碑	1溝 C-2G No429(C上)	(13)×(15)×2	0010-0023	
313	板碑	1溝 C-2G No437(C上)	(7)×(8)×1	0010-0024	
314	板碑	1溝 C-2G No455	(23)×(19)×1	0010-0025	周囲凹磨耗によるもの?
315	板碑	1溝 C-2G No460(C上)	(9)×(6)×2	0010-0026	表面平滑
316	板碑	1溝 C-2G No496(C上)	(14)×(10)×2	0010-0027	表面平滑 杵線
317	板碑	1溝 C-2G No513(C上)	(22)×(11)×2	0010-0028	杵線 側面磨耗による平坦部あり
318	板碑	1溝 C-2G No566(C上)	(15)×(8)×2	0010-0029	杵線
319	板碑	1溝 C-2G No568(C上)	(12)×(9)×2	0010-0030	裏面磨痕
320	板碑	1溝 C-3G No214(C上)	(24)×(12)×3	0010-0031	表面平滑 一部は磨痕 条痕→砥石として使用
321	板碑	1溝 C-3G No237(C下)	(16)×(14)×2	0010-0032	周囲使用(1ヶ所磨痕)による凹み 杵線
322	板碑	1溝 C-3G No239(C下)	(8)×(9)×1	0010-0033	表面平滑
323	板碑	1溝 C-3G No279(C下)	(15)×(13)×3	0010-0034	裏面磨耗?
324	板碑	1溝 C-3G No375	(11)×(6)×2	0010-0035	
325	板碑	1溝 C-3G No379(C下)	(22)×(14)×2	0010-0036	表面平滑
326	板碑	1溝 D-3G No68	(12)×(8)×1	0010-0037	磨耗顕著
327	板碑	1溝 D-3G No136(C上)	(22)×(18)×2	0010-0038	下半 磨耗顕著
328	板碑	1溝 D-3G No157(C下)	(27)×(12)×2	0010-0039	表面平滑 磨痕
329	板碑	1溝 D-4G No28(C上)	(16)×(5)×1	0010-0040	
330	板碑	1溝 D-4G No30(C上)	(9)×(6)×1	0010-0041	表面平滑
331	板碑	4溝 A-1G No254	(29)×16×3	0010-0042	一部黒化
332	板碑	4溝 A-1G No278	(32)×(15)×2	0010-0043	表面平滑 使用による磨耗か 磨耗顕著 中央縦に凹む
333	板碑	4溝 A-0G No116	(11)×(11)×1	0010-0044	表面平滑
334	板碑	4溝 A-0G No117	(18)×(7)×1	0010-0045	杵線 側面磨耗
335	板碑	4溝 A-0G No125	(19)×(9)×2	0010-0046	
336	板碑	45井、54井 11溝 E-5G No367	(25)×(23)×2	0010-0048	表面平滑 スス付着 裏面に磨痕
337	板碑	11溝 D-6G No91	(10)×(7)×1	0010-0047	表面平滑 磨耗? 側面磨耗 杵線
338	板碑	19溝 a C-5G No29	(11)×(7)×1	0010-0049	
339	板碑	19溝	(6)×4×1	0010-0050	
340	板碑	21溝 E-6G No157	(11)×(9)×2	0010-0051	
341	板碑	27溝 E-7G No40	(19)×(12)×3	0010-0052	
342	板碑	27溝 E-7G No53	(17)×(11)×2	0010-0053	杵線
343	板碑	27溝 F-9G No134	(6)×(8)×1	0010-0054	側面磨耗
344	板碑	27溝 G-9G No56	(4)×(8)×2	0010-0055	表面平滑
345	板碑	34溝 F-9G No216	(14)×(9)×3	0010-0057	表・側面 磨耗
346	板碑	34溝 F-9G No238	(10)×(8)×1	0010-0058	杵線
347	板碑	28溝	(32)×(24)×3	0010-0056	杵線
348	板碑	1井 A-2G No37	(37)×(13)×3	0010-0059	表面平滑 磨痕顕著
349	板碑	1井 A-2G No38	(36)×(19)×3	0010-0060	一部顕著な磨耗による面、凹みが形成
350	板碑	1井	(8)×(4)×1	0010-0061	表裏磨耗
351	板碑	2井 B-1G No737	(25)×(13)×2	0010-0062	表裏平滑 スス付着
352	板碑	10井 D-3G No243	(11)×(11)×2	0010-0063	表面平滑
353	板碑	31井 F-7G No67	(25)×21×3	0010-0064	杵線 磨耗顕著 スス付着
354	板碑	32井 F-7G No30	(23)×(9)×2	0010-0065	表面平滑 杵線

第6表 石製品類一覧表6

() は残存値

法量の単位は cm

図 NO.	遺物名	出土地点	縦×横×厚	遺物 ID	備 考
355	板碑	32井 F-7G No76	(8)×(4)×1	0010-0066	表面平滑 杵線二重
356	板碑	32井 G-7G No32	(13)×(7)×3	0010-0067	杵線二重
357	板碑	36井	(23)×(15)×3	0010-0068	表面平滑 杵線
358	板碑	36井	(39)×(19)×3	0010-0069	表面平滑
359	板碑	36井	(18)×(13)×2	0010-0070	表面平滑 杵線
360	板碑	40井 G-7G No46	(54)×25×3	0010-0071	表面平滑 杵線 磨痕
361	板碑	41井 F-8G No223	(13)×(9)×2	0010-0073	磨痕
362	板碑	42井	(17)×(9)×2	0010-0074	
363	板碑	42井	(18)×(17)×3	0010-0075	側面敲打痕 スス付着
364	板碑	40井 F-7G No123	(29)×20×2	0010-0072	表面平滑 磨耗により面形成
365	板碑	44井	(24)×(17)×2	0010-0076	細かいノミ整形痕あり 側面平坦 潰れ 杵線
366	板碑	44井	(7)×(5)×1	0010-0077	表面平滑
367	板碑	48井	(16)×(15)×1	0010-0078	表面磨耗
368	板碑	48井	(6)×(7)×1	0010-0079	
369	板碑	48井	(10)×(6)×1	0010-0080	杵線
370	板碑	49井	(8)×(5)×1	0010-0081	表面平滑 側面磨耗
371	板碑	54井	(14)×(8)×2	0010-0083	表面平滑 裏面平滑 杵線
372	板碑	49井	(34)×21×3	0010-0082	側面平坦 使用(磨耗)による スス一部付着 裏面に白桃色付着物
373	板碑	80壙 C-1G No198	(14)×(10)×2	0010-0084	表面平滑 一部黒化
374	板碑	103壙 E-6G No148	(7)×(5)×1	0010-0085	
375	板碑	4T A-0G No2	(13)×(8)×2	0010-0086	
376	板碑	遺物集中区 B-1G No8	(10)×(8)×1	0010-0088	裏面磨耗
377	板碑	A-2G No32	(15)×(14)×2	0010-0087	杵線 側面3ヶ所こじり
378	板碑	B-2G No120	(14)×(7)×1	0010-0089	表面平滑 杵線
379	板碑	C-1G No155	(21)×(11)×3	0010-0090	
380	板碑	C-2G No15	(16)×(12)×2	0010-0091	杵線 スス付着
381	板碑	※1溝 C-2G No94	53×17×2	0010-0092	表面平滑 杵線
382	板碑	C-3G No62	(14)×(8)×2	0010-0093	表面平滑 磨耗によるか? 杵線
383	板碑	C-4G No24	(9)×(6)×1	0010-0094	表面平滑
384	板碑	E-6G No26	(12)×(8)×1	0010-0095	表面平滑 杵線 側面磨耗
385	板碑	G-8G No18	(9)×(6)×1	0010-0096	表面平滑 杵線 側面磨耗により面形成
386	板碑	G-8G No29	(9)×(6)×2	0010-0097	表面平滑 側面抉れ
387	板碑	F-9G No13	(7)×(5)×1	0010-0099	表面平滑 スス付着
388	板碑	14T	(18)×(9)×2	0010-0100	被熱により黒化
389	板碑	F-8G No16	(11)×(10)×2	0010-0098	表面平滑 磨痕顕著
390	板碑	一括	(20)×(15)×2	0010-0101	表面平滑
391	板碑	一括	(13)×(12)×2	0010-0102	表面削痕 一部磨痕
392	板碑	一括	(17)×(10)×2	0010-0103	磨耗による平滑面あり 黒色付着物
393	板碑	一括	(13)×(9)×3	0010-0104	表面平滑 杵線二重 被熱による黒化
394	板碑	一括	(13)×(11)×2	0010-0105	杵線
395	板碑	一括	(8)×(10)×2	0010-0106	
396	板碑	一括	(8)×(8)×2	0010-0107	表面平滑
397	板碑	一括	(7)×(6)×1	0010-0108	表面平滑
398	板碑	一括	(7)×(7)×1	0010-0109	表面平滑
399	板碑	一括	(5)×(7)×1	0010-0110	
400	板碑	一括	(8)×(4)×2	0010-0111	
401	板碑	一括	(6)×(5)×1	0010-0112	表面平滑
402	板碑	一括	(8)×(5)×1	0010-0113	
403	板碑	一括	(6)×(7)×1	0010-0114	側面磨耗
404	板碑	一括	(5)×(5)×1	0010-0115	
405	五輪塔(地輪)	1溝 B-1G No426	17×19×13	0010-0003	
406	五輪塔(地輪)	1溝 B-1G No433	(15)×(17)×(8)	0010-0001	
407	五輪塔(地輪)	4溝 A-1G No279	(15)×(20)×(14)	0010-0002	

第7表 石製品類一覧表7

第IV章 調査概要と検出された遺構

(1) 調査概要

調査担当 指導課 島村範久 主事嶋村英之

調査期間 昭和61年12月10日～

平成元年1月10日

調査面積 2,050㎡

調査の経過

KB4区の北に位置する調査区をKB10区とした。掘り下げは確認面まで浅く、表土から人力により行った。遺構確認面はローム層とした。調査は同じ土地画整理地内の萩原遺跡H2区の調査により中断し、KB10区は南と北に分割して実施した。南側調査区(以下南区)は幅16m長さ55m、北側調査区(以下北区)は幅16m長さ62mである。

排土置場が確保できたため、ほぼ全面を同時に調査した。降雨による滞水・湧水などが調査の支障となるため、西側に側溝を掘り下げ水中ポンプにより排水した。包含層中の遺物のうち良好なものは測量・写真撮影し取り上げた。

遺構調査は南区については、南北に縦断する1号溝及び1号溝と接続し西に屈曲する4号溝が大規模で遺物量も多いため調査の主体となり、並行して他の遺構の調査を行った。1号溝はかわらけやほうろくの集中出土の状況や、遺物が覆土中位の炭化物層上下いずれの出土かなどに留意し調査を行った。また、溝に関する重複が多くその前後関係を確認しながら慎重に調査した。必要に応じ東西方向に拡張調査をした。

北区については、現況低位(窪地)である区域を調査し、1・2堀を確認した。2号堀については報告時に便宜上命名した。2号堀は障子堀であり、複数の溝により構成される。

遺物の取り上げ等は方位北に合わせ10m方眼にグリット設定し、その杭を基準とした。遺構の図化については調査区全体を平板測量により、各遺構を任意に設定した水系を基準としてメジャーにより実測した。

遺物の検出を想定し、各井戸の覆土を洗浄し、多くの種子や土器類を確認した。最後に縄文時代遺構

検出のため精査を行った。その際土器片が確認された。グリット杭設置及び基準杭の標高測量は測量業者に委託した。

周辺の調査(第6図)

北にKB14区、東に48・38・32・42・33・34・30次、西にKB13区・28次、県埋蔵文化財調査事業団調査地区(私市城跡)、南にKB4区・26次がある。

北のKB14区では、27号溝の延長方向に同規模の溝が、一度切断して走行する。また、東西に隣接する調査区30・13・18・5次で確認されている並行する2条の溝が検出された。この溝は幅100cm深さ50cm前後で、断続しながら東西方向に走行する。さらに調査区の大部分で、城郭部と武家屋敷の間の堀となる障子堀が確認された。

東の48次では並行する2条の溝、多数のピット・井戸・土壇、32・33次では28号溝につながる斜行する溝が走行する。

西の県調査区では御蔵屋舗の南を画する障子堀である2号堀の延長が確認されている。28次では1・4号溝と接続する溝が確認されるが北方向に屈曲するかは断定しがたい。

南のKB4区では北半分に井戸が24基、中小の土壇が分布している。

(2) 遺構と遺物

【堀状遺構】

堀状遺構は、北区南側で東西方向に横走する。調査前に窪地であった区域を掘り下げ、ロームブロックを大量に含む覆土を最下層として堀と認定し、1号堀と命名した。また、1号堀直下で複数の溝が障子堀を構成するため、報告書作成時に2号堀と命名した。

1号堀 下層に50cm前後の厚いロームブロックを大量に含む覆土がある。調査時には土塁等の土砂の流れ込みを想定した。規模は幅1,300cm長さ1,850cm(残存)、深さ92cmで、立ち上がりは緩やかである。障子堀(2号堀)廃絶後、堀としての機能が

あったものか。

出土遺物は平面は万遍なく分布し、上層に多い。重複があり底面に段を有する。

陶磁器では、龍泉窯系青磁碗（土-1）・中国白磁皿（土-2・3）・漳州窯系染付碗（土-4）・常滑片口鉢（土-5）・瀬戸美濃天目（土-6・7）・同志野丸碗（土-8）・同丸皿（土-9）・同播鉢（土-10～13）・同徳利（土-14）・同尊式花瓶（土-15）・志戸呂筒形碗（土-16）・同折縁皿（土-17）・同徳利（土-18）・尾張山茶碗（土-19）が出土した。在地土器では、かわらけ（土-20～43）・焙烙（土-44～48）・播鉢（土-49・50）・鞆の羽口（土-913）が出土した。木製品では、部材（木-38）が出土した。

金属製品では、鉄製の火打金（金-3）・小柄（金-17）・小札（金-27）・鉄鏃（金-30）、銅製の煙管（金-43・49）・紡錘車カ（金-54）・弾丸（金-74～77）・八双鋏（金-87）・銭貨（金-97～147）が出土した。

石製品では、石臼（石-1～7）・硯（石-95）・砥石（石-108～111）・磨石（石-170～176）・板碑（石-290～293）が出土した。E-6Gで馬？の歯・スラグ710gが出土した。

2号堀 1号堀の直下に所在し、障子堀を呈するため、便宜上2号堀と命名する。幅1,220cm長さ1850cm（残存）深さはローム確認面から180cmである。構成する溝は、南から14・12・15・13・11溝である。14・13溝は長さが短く、畝との比高である戦略的な深さは、14・13溝とも80cm前後で深い。12溝には畝が掘り残され、長さが長い畝堀である。11溝には畝状の掘り残しは確認できなかった。個別の詳細は溝の項で述べる。

【溝状遺構】

34まで命名したがab分割・振替により総数44条を数える。1～10号溝は南区、11～34号溝は北区に所在する。

※重複により溝本来の深さがわかりにくいものは、深さの後に（K-○cm）と表記しローム確認面からの深さを表示した。井戸、土壇も同様。

1号溝 南区の東端を縦走し、北区一部にかかる。南端で4号溝と接続する、北端で26号溝と接続し、10区調査区内では平面L字状を呈する。調査時の観察では幅が中程（B・C-1・2G）でやや狭まるようである。幅313cm深さ128cmである。断面形は箱葉研である。覆土中位に炭化物層・灰層が堆積する。

出土遺物は大量で、平面・垂直で万遍なく分布する。特に第49・50図のとおり騎西城の調査では唯一のほうろく・かわらけの大量集中出土が見られた。いずれも覆土中位で検出し完形、正位出土である。ほうろくの集中は南区の北寄りにあり、炭化物層の上層出土を主体とし、正位で破碎しているものが多く、完形・略完形になるものは9点を数える。かわらけの集中は南区の北端で、覆土中位炭化物層の上層で溝の中央に落ち込むように出土した。全て正位で4～5枚重なっているものもあり、置いたようである。総数30点を数え、土-160・166が3/4遺存で他は完形である。

陶磁器では、龍泉窯系青磁端反碗（土-51）・中国口禿皿（土-52）・常滑片口鉢（土-5・53・54）・同甕（土-55～58）・同壺（土-59）・瀬戸美濃平碗（土-60～63）・同天目（土-64）・同縁釉小皿（土-65～77）・同腰折皿（土-78）・同卸皿（土-79）・同折縁深皿（土-80）・同卸目付大皿（土-81～83）・同直縁大皿（土-84）・同播鉢（土-10・85～88）・同筒形香炉（土-89）・同筒形容器（土-90）・同梅瓶（土-91）・同土製円盤（土-902）・肥前陶器碗（土-92）・同鉄絵皿（土-93）・同中皿（土-94）・同向付（土-95）・志戸呂天目（土-96）・同播鉢（土-768）・初山茶入（土-97）が出土した。在地土器では、かわらけ（土-98～191）・焙烙（土-192～227）・土鍋（土-228～245）・播鉢（土-246～270）・片口鉢（土-271～275）・土釜（土-276・277）・甕（土-278～281）・鳶口壺（土-282）・壺（土-283）・鞆の羽口（土-914）が出土した。

木製品では、下駄（木-2・3）・桶の側板（木-5・6）・曲物の底板（木-13）・漆椀（木-20・21）・付札状製品（木-35）・部材（木-40）・丸

棒材(木-44)・加工材(木-45)が出土した。丸棒材の先端は出土時は膨らんでいた。

金属製品では、鉄製の毛抜き(金-1)・釘(金-7・8)・釘状製品(金-9)・フック状製品(金-14)・紡錘車(金-15)・鋏(金-16)・小柄(金-18~20)・小札状鉄製品(金-28)、銅製の裝飾釘(金-41)・太刀の足金物(金-68)・弾丸カ(金-78)・野杓(金-89)が出土した。

石製品では、石臼(石-8~33)・硯(石-96~98)・有穴球状石製品(石-106)・砥石(石-112~123)・磨石(石-177~197)・火打石(石-276)・不明(石-288)・板碑(石-294~330)・五輪塔(石-405・406)が出土した。

他にスラグ(椀形鋳滓)3905g・桃の種15点・栗の実5点・瓢箪?の種3点・焼骨・馬?の歯が出土した。

B-1Gではかわらけ(土-108・110・111)が重なって、109がそれらと一括して出土した。

C-2Gではかわらけ(土-130 逆位・131正位)が一括出土した。

C-3Gではかわらけ(土-138・139)と焙烙(土-209)が一括出土。青磁端反碗(土-51)は上層出土。梅瓶・壺・銭貨・五輪塔など墓域を想定させる。C-2G確認面で板碑3基(石-309・381・未図化)が緩やかに流れ込むように、まとまって出土した。

C-2G炭化物層上層で馬?の歯が横位に出土。炭化物層下層C-2・3Gで古瀬戸陶器(土-82・84・91)・かわらけ(土-142)・鳶口壺(土-282)・土釜(土-277)が出土。古い様相。漆椀(木-20)・部材(木-40)は底面で出土。部材は出土時両端が良く遣り、穿孔部分も遺存していた。下駄(木-3)は出土時略完形で前後の緒穴がしっかり遣っていた。

2号溝 南区の東拡張部に南北に縦走する。幅80cm(残存)深さ16cmである。備前壺(土-284)・在地播鉢(土-286)・粉挽臼(石-34)・炭化材が出土した。かわらけ(土-285)は確認面上部出土。

3号溝 南区北で屈曲し平面L字形に走る。幅33cm深さ25cmを計り幅狭である。龍泉窯系青磁碗(土-287)・瀬戸美濃天目(土-288)・肥前陶器鉢(土

-289)・焙烙(土-206)・砥石(石-124)が出土した。

4号溝 南区南に位置し東西に横走する。東端で1号溝と接合する。西端は南に緩く折れる。底面には、折れ部に+30cmのテラス、その西には3か所1溝・4溝と同じ底面レベルの長方形の掘り込みがみられる。断面形は箱葉研で底面段を有する。幅545cm深さ130cmである。

陶磁器では、龍泉窯系青磁碗(土-290~293)・同双魚文鉢(土-294)・常滑甕(土-58)・同壺(土-59)・同片口鉢(土-295~297)・同鳶口壺(土-298)・瀬戸美濃平碗(土-299・300)・同天目(土-301)・同縁釉小皿(土-302~304)・同折縁深皿(土-305)・同播鉢(土-306)が出土した。

在地土器では、かわらけ(土-307~318・823)・焙烙(土-319~325)・土鍋(土-326・327)・片口鉢(土-328~334)・播鉢(土-335~337)・甕(土-338)・土釜(土-339)・壺(土-283)が出土した。

木製品では、下駄(木-4)・桶の底板(木-10)・曲物の側板(木-14)・漆椀(木-22~24)・杓子(木-30)・柄(木-36)が出土した。未図化であるが三巴文を描く漆椀が6Tで出土している。中程下層で漆椀(木-24)が逆位に出土。下駄は出土時は前壺周辺は遺存していた。

金属製品では、鉄製の釘(金-10)・鋏(金-16)・円板状製品(金-32)・銭貨(金-177~179)が出土した。

石製品では、粉挽臼(石-35)・碁石(石-92・93)・有穴球状石製品(石-107)・砥石(石-125~127)・磨石(石-198~201)・板碑(石-331~335)・五輪塔(石-407)が出土した。

他に桃の種22点・炭化材・焼骨・馬?の歯・骨(馬?の下顎)・スラグ(椀形鋳滓)4240g・鞆の羽口(土-915~917)が出土した。骨は上層出土。

5号溝 南区南端に位置し、4号溝とほぼ並行し、東西方向に走行する。土層によりa・bに分割する。

5a号溝 幅60cm(残存)深さ25cmを計る。かわらけ(土-340・341)・土鍋(土-239)・銭貨(金

—180・181) が出土した。

5b号溝 5a溝の下位にあり、幅62cm 深さ24cm を計る。

6号溝 南区北端に位置し東西に走行する。幅129cm 深さ77cm を計り、断面はしっかりした薬研堀で、上部は大きく広がる。

7号溝 南区南西拡張区に位置し、東西方向に走行する、最上層の遺構である。幅40cm 深さ19cm を計る。

8号溝 南区南寄り東拡張区に位置し東西方向に走行する。幅40cm 深さ14cm を計る。備前壺(土-284) が出土。

9号溝 8号溝と直行し南北方向に走行する、幅48cm 深さ19cm を計る。常滑甕(土-57)・同壺(土-59) が出土した。

10号溝 南区東拡張区に位置し、9号溝と直行する。幅60cm 深さ18cm を計る。

11号溝 北区2号堀内北端に位置し、断面形は箱薬研である。幅300cm(残存) 深さ120cm(K-159cm) を計る。底面の東には長径300cm 深さ20cm の楕円形の落込、東端は20cm ほど低い段差がある。また、北壁面東寄りには土段が設けられる。(土壇の後項で説明)。備前壺(土-284)・かわらけ(土-342~344)・焙烙(土-345・346)・片口鉢(土-347)・土鍋(土-236)・鞆の羽口(土-918)・銭貨(金-182~185)・茶臼(石-5)・磨石(石-202・203)・板碑(石-336・337)・桃の種123点・瓢箪?の種7点・炭化材・馬?の歯が出土した。

12号溝 北区2号堀内南に位置し、断面形は箱薬研である。西側は26号溝と重複しているが、本溝が新しい。やや斜距離であるが西壁幅443cm(残存)、東壁幅280cm、深さ105cm(K-180cm) を計る。東端に高さ40cm の畝を残す畝堀で、畝上面に深さ20cm の溝を備える。また、中央部にも図化・計測されていないが写真により畝状の高まりが確認できる。(図版23 右下)

中国染付皿(土-348)・瀬戸美濃徳利(土-14)・同天目(土-349)・在地擂鉢(土-350)・かわらけ(土-351~360)・焙烙(土-45)・熔融物付着土器(土-361)・桶の側板(木-7~9)・曲物

の側板(木-15・16)・白木椀(木-19)・漆椀(木-25)・折敷の縁(木-31)・同底板(木-32)・部材(木-38・39・41・42)・加工材(木-46・47)・火縄鉄(金-73)・銭貨(金-186~189)・粉挽臼(石-36)・磨石(石-204)・桃の種237点・炭化材・焼骨・スラグ(椀形鋳滓) 665g が出土した。

溝の中央より西寄りで竹2本が正位に並んで直立して出土しており、あるいは土留めの杭か。

13号溝 北区2号堀内中央に位置し、不整長方形の枡形の土壇を連ねたものである。調査時土壇等として調査したが、東から枝番を振り個別に扱う。13-2~13-5号溝の間は22号溝(幅50cm 深さ20cm 前後)で繋ぐ。平面及び断面形は14号溝に似る。

13-1号溝 東端に位置し一部のみ調査。長さ110cm(残存)×幅160cm 深さ60cm(K-220cm) を計る。

13-2号溝 平面南東端に底面+30cm の段を有する。長さ365cm×幅112cm 深さ78cm(K-209cm) を計る。焙烙(土-46) が出土した。

13-3号溝 底面の南東端が膨らみ、北に幅15cm 深さ5cm の溝が延びる。長さ340cm×幅157cm 深さ80cm(K-212cm) を計る。

13-4号溝 北東隅にステップ状に段を有し、北西隅に底面+20cm の段を有す。北に幅50cm 深さ3cm の溝が延びる。長さ340cm×幅170cm 深さ65cm(K-192cm) を計る。

13-5号溝 西端に位置し、東側に底面+30cm の段を有す。北東端より幅20cm 深さ7cm の溝が北に延びる。長さ276cm(残存)×幅254cm 深さ55cm(K-188cm) を計る。銭貨(金-190~195)・磨石(石-205) が出土した。

14号溝 北区2号堀内南端に位置し、不整長方形の枡形の土壇を連ねたものである。いずれも他遺構と重複し原形が不明瞭である。平面及び断面形は13号溝に似る。

14-1号溝 幅65cm(残存) 深さ35cm(残存)(K-197cm) を計る。焙烙(土-362) が出土した。

14-2号溝 平面は端正な長方形、断面形は薬研である。幅60cm 深さ135cm(K-178cm) を計る。かわらけ(土-356・360・363~367)・焙烙(土-46)・在地擂鉢(土-49)・砥石(石-128)・桃の種12

点・炭化材が出土した。かわらけ（土-363～367）は一括出土。

14-3号溝 重複により平面形が不整長方形となり、西端を失う。断面形は箱薬研で、幅85cm 深さ77cm（K-169cm）を計る。26号溝より新しい。粉挽臼（石-37）・炭化材が出土した。

14-4号溝 調査時に26・12溝との重複を見る土層セクションで確認し命名したもので、14-3号溝の延長とも考えられる。幅54cm（残存）深さ60cmを計る。

15号溝 北区2号堀内中央に位置し両側の12・13号溝より浅く、新しい。底面に畝や段差は見られない。幅125cm 深さ16cm（K-156cm）を計る。かわらけ（土-368）・焙烙（土-369）・漆皿（木-26）・桃の種30点が出土した。漆皿は高台は低く外面に文様は見られない。

16号溝 北区2号堀内14-1号溝と重複する。幅45cm（残存）深さ45cm（K-130cm）を計る。

17号溝 北区2号堀内北端、11号溝と重複する。断面形は箱薬研。幅70cm（残存）深さ35cm（K-110cm）を計る。

19号溝 北区南端に位置し、最上層で検出された。東西方向に走行し、20号溝と接続する。西端でa-b分割する。幅83cm 深さ55cmを計る。

瀬戸美濃折縁深皿（土-370）・在地片口鉢（土-371）・茶臼（石-38）・硯（石-99）・磨石（石-206）・板碑（石-339）・スラグ255gが出土した。他に肥前陶器刷毛目・磁器コンニャク判（未図化）が出土した。

19a号溝 幅90cm（残存）深さ150cm（K-96cm）を計る。志戸呂播鉢（土-372）・板碑（石-338）が出土した。

19b号溝 断面形は箱薬研。幅130cm 深さ58cm（K-97cm）を計る。

20号溝 北区南に位置し、最上層・1堀上層で検出した。北側で屈曲し19号溝と接続する。断面形は箱薬研で幅234cm 深さ80cm（K-104cm）を計る。覆土は単純な2層であるが、底面は溝の重複を想定させる段を有する。

龍泉窯系青磁香炉（土-373）・瀬戸美濃折縁皿（土-374）・同播鉢（土-375）・肥前播鉢（土-

376）・初山播鉢（土-377）・茶臼（石-38～40）・石製品（石-104）・磨石（石-206～208）・スラグ（碗形鋳滓）575gが出土した。

21号溝 北区中央2号堀北に位置し東西方向に走行する。幅130cm 深さ24cm。かわらけ（土-378）・銅製香炉（金-55）・磨石（石-209）・板碑（石-340）・スラグ35gが出土した。

22号溝 北区2号堀内中央に位置し、13-2～13-5号溝の間を繋ぐ。幅50cm 深さ14cm（K-101.7cm）を計る。

23号溝 北区2号堀内北に位置する。幅40cm（残存）深さ50cm（K-100cm）を計る。

24号溝 北区2号堀内北に位置する。幅45cm（残存）深さ17cm（K-90cm）を計る。

25号溝 北区南端に南北方向に走行する。南は2号溝、北は32号溝に接続する位置だが規模が違う。幅120cm 深さ31cm（K-74cm）。常滑片口鉢（土-379）・在地片口鉢（土-380）が出土した。

26号溝 北区南端に位置し、南は1号溝と接続し、北は12号溝と重複し西に走行するか。14-3号溝より古い。平面形は弧状である。幅43cm（残存）深さ15cm（K-175cm）を計る。瀬戸美濃平碗（土-381）・常滑甕（土-58）・焙烙（土-227）・スラグ10g・桃の種3点・栗の実3点が出土した。

27号溝 北区西寄りに、中央から北に南北方向に走行する。断面形は箱薬研である。溝幅は28号溝を境に北側は狭くなる。南幅250cm 深さ62cm、北幅140cm（残存）深さ30cmを計る。

出土遺物のうち特に、流れ込みと思われるが、金粒子付着土器（土-405・419）がKB10区唯一遺構出土である。他に瀬戸美濃天目（土-382・383）・同縁釉小皿（土-384～386）・同丸皿（土-387～389）・同稜皿（土-390）・同播鉢（土-87・391）・同織部向付（土-392・393）・肥前丸皿（土-394・395）・志戸呂丸碗（土-396）・同播鉢（土-397）・かわらけ（土-398～403）・焙烙（土-420・426・480）・熔融物付着土器（土-404～419）が出土した。

金属製品では留金具（金-36）・煙管（金-50）・鈴（金-56）・弾丸（金-79）・板状銅製品（金-

93)・銭貨(金-196~199)、石製品では石臼(石-41~47)・碁石(石-94)・砥石(石-129・130)・磨石(石-210~215)・板碑(石-341~344)が出土した。他にスラグ(土-921の碗形滓含む)180g・桃の種1点が出土した。

28号溝 北区中央に位置し東西方向に走行する。セクションによりa・b分割する。板碑(石-347)が出土した。

28a号溝 断面形は箱薬研堀で、幅130cm深さ90cmを計る。

28b号溝 幅140cm深さ48cm(残存)を計る。

29号溝 位置・規模は不明。野帳に20号溝近くと記載あり。火打石(石-277)が出土した。

30号溝 北区中央に位置し南北方向に走行する。短く、上層に所在した溝底面の痕跡か。幅50cm深さ7cm。

31号溝 北区中央に位置し南北方向に走行する。溝に連続するピットが伴うものと思われ、2号堀北の土段につながりそうである。『武州騎西之絵図』にある御蔵屋舗の柵に相当するか。幅25cmを計る。

32号溝 北区中央に位置し、21号溝と28号溝の間で検出された。南北方向に走行し、幅70cm深さ5cmを計る。

33号溝 北区中央から北に位置し南北方向に走行する。27・34号溝と並行重複する。幅160cm深さ70cm(K-50cm)を計る。

34号溝 北区中央から北に位置し南北方向に走行する。27・33号溝と並行重複する。幅114cm(残存)深さ24cmを計る。瀬戸美濃天目(土-421)・同端反皿(土-422)・同縁釉小皿(土-423)・かわらけ(土-424)・在地播鉢(土-425)・焙烙(土-426)・石臼(石-48~52)・砥石(石-131)・磨石(石-216)・火打石(石-278)・板碑(石-345・346)が出土した。

【井戸状遺構】

調査時は54まで命名したが、土壌としたものを深さや形態により、井戸に振り替えた。総数61基を数え、南区に36基(1~30・55~60井)、北区に25基(31~54・61井)が分布する。南区にはほぼ万遍な

く分布するがやや南寄りに主体を置く。中央に直径150~200cmの大型の井戸が見られ、1号溝等と重複している井戸は、溝底面などに遺り、見かけ上小さくなっている。柱穴が南区全面に分布し掘立柱建物などの建造物が想定される。北区では25基中24基が北半分に分布している。障子堀の2号堀周辺では確認されていない。障子堀の底面が井戸より低く削平した可能性も想定できるが、井戸下部の遺存が見られないことから2号堀を避けたものと思われる。

1号井戸 南区南西に位置し、直径150cm深さ207cmを計る。瀬戸美濃稜皿(土-427)・在地播鉢(土-335)・銭貨(金-200)・板碑(石-348~350)・梅?の種1点・スラグ15gが出土した。焙烙(土-428)は破碎して壁際に流れ込んでいた。

2号井戸 南区南東、1号溝脇に位置し、直径118cm深さ132cmを計る。底面は方形を呈する。かわらけ(土-429・430)・焙烙(土-428)・板碑(石-351)・桃の種3点・スラグ40gが出土した。

3号井戸 南区南に位置し、直径202cm深さ212cmを計り大型である。断面ロート形。中国茶入(土-431)・瀬戸美濃縁釉小皿(土-66)・かわらけ(土-432~438)・焙烙(土-198)・柄杓の底板(木-17)・銭貨(金-201)・桃の種3点・炭化材・スラグ25gが出土した。

4号井戸 南区南に位置し、直径138cm深さ180cmを計り、中位で膨らむ。15号土壌より古い。中国白磁皿(土-439)・かわらけ(土-440)・在地片口鉢(土-441・442)・板材(木-43)・砥石(石-132)・桃の種16点が出土した。

5号井戸 南区中央西に位置し、直径130cm深さ160cmを計る。瀬戸美濃志野丸皿(土-443)が上層で、同稜皿(土-444)・かわらけ(土-445)・櫛(木-1)・漆塗り小杯(木-34)・銭貨(土-202・203)・粉挽臼(石-53)・火打石(石-279)・桃の種6点が出土した。小杯は下層で正位出土。

6号井戸 南区南東、1号溝内に位置し、直径86cm深さ100cm(K-152cm)を計る。1号溝より古い。銭貨(金-204)・桃の種2点・栗の実1点が出土した。

7号井戸 南区南端、1・4号溝内に位置し、直径104cm 深さ136cm (K-154cm) を計る。1・4号溝より古い。在地片口鉢(土-446)・桃の種2点が出土した。

8号井戸 南区南東、1号溝内に位置し、直径100cm 深さ149cm (K-168cm) を計る。1号溝より古い。龍泉青磁碗(土-447)・瀬戸美濃直縁大皿(土-448)・同卸目付大皿(土-449)・同平碗(土-381)・同尊式花瓶(土-450)・土鍋(土-451)・在地片口鉢(土-452)・編具の錘カ(木-33)・砥石(石-133)・磨石(石-217)が出土した。下層で古瀬戸後期の陶器(土-448・450)が出土した。

9号井戸 南区中央西に位置し、180cm×160cm 深さ167cm を計る。南と北壁面中位に昇降のための足掛け段が備えられる。南に4段北に3段。龍泉青磁鉢カ(土-453)・備前壺(土-284)・銭貨(金-205)・粉挽臼(石-54)・下層で桶の底板(木-11)・桃の種8点・昆虫1点が出土した。

10号井戸 南区北東1号溝東に位置し、直径129cm 深さ175cm を計る。常滑甕(土-56)・在地播鉢(土-454・455)・切羽(金-61・62)・粉挽臼(石-55)・磨石(石-218)・板碑(石-352)・桃の種2点出土した。

11号井戸 南区中央に位置し、直径138cm 深さ200cm を計る。瀬戸美濃平碗(土-381)・在地香炉(土-456)・樽の蓋板カ(木-18)・先端加工の竹製品(未図化)・桃の種1点・炭化種子が出土した。

12号井戸 南区中央、1号溝脇に位置し、直径112cm 深さ139cm を計る。瀬戸美濃天目(土-457)・土鍋(土-236)・漆椀(木-27)・搗臼(石-56)が出土した。天目は上層横位に出土し、確認面上で在地播鉢(土-249)が出土した。

13号井戸 南区北に位置し、直径104cm 深さ180cm を計る。下層で瀬戸美濃縁釉小皿(土-458)・かわらけ(土-459)・鞆の羽口(土-919)・縁カ(金-63)・砥石(石-134~136)・板・炭化物・漆の被膜(未図化)・桃の種1点・炭化材・焼骨・巻貝が出土した。

14号井戸 南区南、1号溝近くに位置し、直径142cm 深さ148cm を計る。在地播鉢(土-460)・漆椀(木

-28・29)・部材(木-37)・オナモミ26点が出土した。

15号井戸 南区南、4号溝付近に位置し、直径104cm 深さ106cm を計る。在地播鉢(土-461)・炭化材が出土した。

16号井戸 南区南、1号溝内に位置し、直径96cm 深さ114cm (K-192cm) を計る。桃の種5点が出土した。

17号井戸 南区南端、1・4号溝に位置し、117×86cm 深さ55cm (K-161cm) を計る。底面が長方形と特異である。焙烙(土-321)が出土した。

18号井戸 南区南、1・4号溝近くに位置し、直径110cm 深さ182cm を計る。5号土壇より古い。在地播鉢(土-253)・駒カ(木-48)・円盤状製品(木-49)・火打石(石-280)・炭化材・焼骨・スラグ20gが出土した。確認面上部より焙烙(土-879)が出土した。

19号井戸 南区南、1・4号溝脇に位置し、160cm×118cm 深さ185cm を計る。瀬戸美濃平碗(土-462)・下層で桶(木-12)が、粉挽臼(石-57)・桃の種1点・栗の実3点が出土した。桶は完形で、井戸の底に落下したようだった。

20号井戸 南区中央に位置し、150×114cm 深さ158cm を計る。かわらけ(土-463・464)・在地播鉢(土-465)・銭貨(金-206・207)・スラグ10g・桃の種2点・巻貝3点・二枚貝4点・馬?の歯が出土した。

21号井戸 南区南、1号溝内に位置し、75cm 深さ68cm (K-192cm) を計る。1号溝より古い。磨石(石-219)・炭化種子1点が出土した。

22号井戸 南区中央に位置し、85cm(残存)×100cm 深さ135cm を計る。粉挽臼(石-58)が出土した。

23号井戸 南区南東、1号溝東に位置し、直径98cm 深さ117cm を計る。搗臼(石-59)が出土した。

24号井戸 南区南西、4号溝南に位置し、直径130cm 深さ196cm を計る。5号溝より古い。底面に段を有す。へら状鉄製品(金-33)・桃の種14点・炭化材が出土した。

25号井戸 南区中央東端、1号溝東に位置する。直

径124cm 深さ122cm を計る。上位壁面の凹凸が顕著である。

26号井戸 南区北、1号溝脇に位置する。直径106cm 深さ88cm (残存) (K-141cm) を計る。1号溝より古い。桃の種5点が出土した。

27号井戸 南区西端、4号溝脇に位置し、直径70cm 深さ97cm を計る。

28号井戸 南区中央東、1号溝東に位置し、直径92cm 深さ104cm を計る。桃の種5点が出土した。

29号井戸 南区中央東端、1号溝東に位置し、直径87cm (残存) 深さ102cm を計る。かわらけ (土-466) が出土した。

30号井戸 南区南端西、4号溝南に位置し、直径140cm 深さ162cm (K-180cm) を計る。76号土壌より古い。桃の種3点が出土した。

31号井戸 北区中央、28号溝内に位置し、直径120cm 深さ126cm (K-195cm) を計る。28号溝より新しい。かわらけ (土-467) ・熔融物付着土器 (土-468) ・焙烙 (土-469) ・板碑 (石-353) ・桃の種1点が出土した。焙烙は下層で出土。

32号井戸 北区中央東に位置し、150×110cm 深さ125cm を計る。熔融物付着土器 (土-470~472) ・粉挽臼 (石-60) ・磨石 (石-220・221) ・板碑 (石-354~356) が出土した。磨石は上層で出土。

33号井戸 北区北西、27号溝内に位置する。直径76cm 深さ70cm (K-127cm) を計る。27号溝より古い。かわらけ (土-473) ・炭化材が出土した。

34号井戸 北区中央北に位置し、直径160cm 深さ133cm を計る。かわらけ (土-474~477) ・環付金具 (金-37) ・スラグ2g・桃の種1点が出土した。かわらけは下層で正位に出土。

35号井戸 北区北西、27・33号溝内に位置し、直径114cm 深さ42cm (K-102cm) を計る。27号溝より古い。瀬戸美濃天目 (土-478) が出土した。

36号井戸 北区北西、27・33・34号溝内に位置する。直径80cm 深さ110cm (K-150cm) を計る。27号溝より古い。瀬戸美濃端反皿 (土-479) ・焙烙 (土-480) ・在地播鉢 (土-481) ・銭貨 (金-208) ・粉挽臼 (石-61) ・板碑 (石-357~359) ・桃の種13点が出土した。

37号井戸 北区北端、27号溝内に位置し、古い。直径70cm 深さ105cm (K-112cm) を計る。

38号井戸 北区北中央に位置する。直径120cm 深さ234cm を計る。桃の種5点・二枚貝1点・スラグ40gが出土した。

39号井戸 北区北中央に位置する。直径80cm 深さ105cm を計る。土壌と重複か。常滑甕 (土-482) ・かわらけ (土-483) ・焙烙 (土-469) が出土した。

40号井戸 北区北東に位置し、185×134cm 深さ212cm を計る。粉挽臼 (石-62・63) ・板碑 (石-360・364) ・スラグ15gが出土した。覆土にローム層が数層に亘り特異な堆積である。板碑2基は下層に流れ込んだ様子である。

41号井戸 北区北中央に位置し、直径78cm 深さ84cm (残存) (K-99.5cm) を計る。123号土壌より新しい。初山香炉 (土-484) ・在地播鉢 (土-485) ・板碑 (石-361) が出土した。上層で播鉢出土。

42号井戸 北区北中央に位置し、直径108cm 深さ172cm を計る。かわらけ (土-486) ・板碑 (石-362・363) が出土した。

43号井戸 北区北に位置し、178×152cm 深さ196cm を計る。かわらけ (土-487~503) ・在地播鉢 (土-504・505) ・毛抜き状製品 (金-2) ・銭貨 (金-209・210) が出土した。

44号井戸 北区北西に位置し、直径150cm 深さ170cm を計る。在地播鉢 (土-506) ・板碑 (石-365・366) が出土した。

45号井戸 北区北西、27号溝脇に位置し、直径104cm 深さ105cm を計る。在地播鉢 (土-507) ・粉挽臼 (石-64) ・板碑 (石-336) が出土した。

46号井戸 北区北中央に位置し、直径110cm 深さ116cm を計る。瀬戸美濃天目 (土-508) ・かわらけ (土-509) ・在地播鉢 (土-510・511) が出土した。

47号井戸 北区北東に位置し、直径82cm 深さ145cm を計る。瀬戸美濃播鉢 (土-512) ・かわらけ (土-513~530) ・小柄 (金-21) ・粉挽臼 (石-65) ・炭化材が出土した。

48号井戸 北区北西に位置し、直径90cm 深さ137cm を計る。49号井戸より古い。磨石 (石-222) ・板碑 (石-367~369) が出土した。

49号井戸 北区北西に位置し、直径88cm 深さ142cm を計る。48号井戸より新しい。板碑(石-370・372)が出土した。

50号井戸 北区中央東、28号溝内に位置し、直径92cm 深さ128cm を計る。かわらけ(土-531~533)・播鉢(土-534)・磨石(石-223)が出土した。

51号井戸 北区中央東、28号溝内に位置し、90×80cm 深さ116cm を計る。

52号井戸 北区北西に位置し、直径80cm 深さ112cm を計る。焙烙(土-345)が出土した。

53号井戸 北区北西に位置し、直径65cm(残存) 深さ63.5cm を計る。焙烙(土-345)が出土した。

54号井戸 北区北西、27号溝内に位置し、直径70cm 深さ115cm を計る。板碑(石-336・371)が出土した。

55号井戸 南区中央西に位置し、直径165cm 深さ150cm を計る。9号土壙を振り替え。ソフトロームの2次堆積あり。備前壺(土-284)・瀬戸美濃天目(土-535)・焙烙(土-198)・銭貨(金-211・212)・砥石(石-137)が出土した。

56号井戸 南区南に位置し、直径70cm 深さ120cm を計る。19号土壙を振り替え。かわらけ(土-536・537)・在地播鉢(土-538)が下層でまとまって出土した。

57号井戸 南区中央に位置し、直径95cm 深さ100cm を計る。20号土壙を振り替え。

58号井戸 南区南西、4号溝北に位置し、直径90cm 深さ150cm を計る。21号土壙を振り替え。瀬戸美濃はさみ皿(土-539)・銭貨(土-213)・粉挽臼(石-66)・磨石(石-224)・種子・漆椀(未図化)が出土した。

はさみ皿と漆椀が供伴(逆位)。漆椀は外面黒、高台底面に四菱を施文する。石臼は底面で出土。

59号井戸 南区北に位置し、直径100cm 深さ118cm を計る。44号土壙を振り替え。瀬戸美濃播鉢(土-87)・在地播鉢(土-540)・焙烙(土-200)・茶臼(石-67)が出土した。

60号井戸 南区中央に位置し、直径82cm 深さ109cm を計る。69号土壙を振り替え。銭貨(金-214)・粉挽臼(石-68)が出土した。

61号井戸 北区南、19号溝内に位置し、108cm×82cm 深さ94cm を計る。19号溝より古い。84号土壙を振り替え。

【土壙】

調査時は167まで命名したが振り替えなどにより、総数148基を数える。南区では全域に分布し、1号溝や他遺構の上層でも確認された。北区では、中央に比較的大きな、北側には幅狭の長方形土壙が集中して分布していた。大規模な土壙には、1号溝東の51号、4号溝南の76号土壙、2号堀北の100号土壙がある。墓壙は3・7・90・93号土壙である。46号土壙には瀬戸美濃皿とかわらけが入れ子となって出土した。

2号土壙 南区南に位置し、平面長方形で388cm(残存)×150cm 深さ10cm。焙烙(土-198)が出土した。

3号土壙 南区上層の南に位置し、平面楕円形で124cm×72cm 深さ10cm を計る。歯が北端に、銭貨5枚(金-215~219)が一括して中程に、南寄り横位に骨が出土した。銭貨は渡来銭である。墓壙である。

4号土壙 南区中央に位置し、平面長方形で124cm×62cm 深さ13cm を計る。小型で、覆土が2層である。かわらけ(土-541・542)・磨石(石-225)が出土した。

5号土壙 南区南、1・4号溝コーナーに位置し、平面長方形で365cm(残存)×238cm 深さ18cm を計る大型で浅い土壙である。初山大皿(土-543)・かわらけ片(土-544)・煙管(金-44)・銭貨(金-220)が出土した。

7号土壙 南区上層南に位置し、平面楕円形で180cm×125cm 深さ9cm を計る。かわらけ片(土-545~547)・銭貨(金-221)が一括して、北中央壁際に歯、北西端に骨が出土した。墓壙である。

8号土壙 南区南に位置し、平面円形で直径125cm 深さ12cm を計る。覆土は3層である。平面正円形は少ない。かわらけ(土-548・549)・焙烙(土-550・551)・在地播鉢(土-552)・スラグ15gが出土した。かわらけ・焙烙は覆土中位出土。

11号土壙 南区中央西寄りに位置し、平面円形で70cm(残存)×66cm 深さ14cmを計る。かわらけ(土-553)・在地掘鉢(土-554)・瀬戸美濃小壺(土-555)・石臼(石-69)が出土した。かわらけは完形で正位に出土。

12号土壙 南区中央に位置し、平面長方形で160cm×80cm 深さ12cmを計る。かわらけ(土-553)・在地掘鉢(土-554)・瀬戸美濃小壺(土-555)・石臼(石-20・69・70)が出土した。

15号土壙 南区南に位置し、4号井戸と重複する(4号井戸より新しい)。平面不整形で250cm×254cm 深さ24cmを計る。大型で浅い。覆土に炭化物を多量に含む。瀬戸美濃天目(土-556)・同志野丸皿(土-557)・肥前向付(土-558)・かわらけ(土-559~563)・釘(金-11)・小柄(金-22)・銭貨(金-222・223)が出土した。かわらけ(土-559)をはじめ遺物は覆土上中位に多い。

16号土壙 南区南に位置し、平面長方形で125cm(残存)×66cm(残存) 深さ18cmを計る。

17号土壙 南区南に位置し、平面長方形で118cm×80cm 深さ20cmを計る。焼土粒子や骨粉ブロックが確認された。茶毘に関連する遺構か。

18号土壙 南区南に位置し、平面長方形で100cm×84cm 深さ24cmを計る。覆土にテフラ・多量のロームブロックを含む。

23号土壙 南区中央、1号溝東に位置し、平面円形で直径56cm 深さ30cmを計る。底面は平坦ではない。かわらけ(土-121)が出土した。

25号土壙 南区北に位置し、34号土壙に隣接している。範囲48cm×42cm。確認面上部で焼骨が散布する下に炭化材・焼土が出土した。火葬墓か2次埋葬と思われる。

29号土壙 南区中央、1号溝脇に位置する。平面長方形で238cm×104cm 深さ22cmを計る。しっかりした土壙である。

30号土壙 南区北に位置し、平面長方形で382cm×75cm 深さ12cmを計る。瀬戸美濃総織部向付(土-564)・磨石(石-227)が出土した。

31号土壙 南区北に位置し、平面長方形で216cm(残存)×98cm 深さ4cmを計る。釘(金-12)・銭貨

(金-224)が出土した。

32号土壙 南区北西に位置し、平面長方形で83cm×35cm(残存) 深さ32cmを計る。

33号土壙 南区南、4号溝北脇に位置し、平面長方形で232cm(残存)×126cm(残存) 深さ16cmを計る。かわらけ(土-565)が出土した。

46号土壙 南区北に位置し、1号溝と重複する(1号溝より新しい)。平面長方形で150cm×78cm 深さ12cmを計るやや大型の土壙である。瀬戸美濃腰折皿(土-566)を上、かわらけ(土-567)を下に重ねて、正位よりやや内向きとし、土壙の東端緩やかな壁面に沿って置かれたように出土した。

47号土壙 南区北に位置し、遺構の疎らな区域である。平面長方形で107cm×82cm 深さ62cmを計りやや深い。覆土2・3層にロームブロックを多量に含む。瀬戸美濃丸皿(土-568)が出土した。

51号土壙 南区南、1号溝の東に位置し、平面長方形で380cm×200cm 深さ134cmを計る大規模なものである。底面に15cm差の傾斜を有する。覆土下層9層の下位ほぼ全面に植物遺体・炭化物が広がる。

在地片口鉢(土-441・570)・かわらけ(土-569)・銭貨(金-225)・粉挽臼(石-71)・磨石(石-226・228・229)・桃の種9点・瓢箪?の種100点・骨が出土した。

55号土壙 南区北、1号溝の東に位置し、平面楕円形で77cm×63cm 深さ18cmを計る。

56号土壙 南区上層北に位置し、1号溝と重複する(1号溝より新しい)。平面楕円形で83cm×64cm 深さ19cmを計る。

57号土壙 南区南に位置し、4号溝と重複する(4号溝より古い)。平面方形で82cm×46cm(残存) 深さ56cm(K-75cm)を計る。

58号土壙 南区上層北に位置し、1号溝と重複する(1号溝より新しい)。平面楕円形で82cm×56cm 深さ9cmを計る。

59号土壙 南区上層北に位置し、1号溝と重複する(1号溝より新しい)。平面長方形で91cm(残存)×57cm 深さ33cmを計る。

63号土壙 南区南西拡張、4号溝北に位置し、平面円形で直径83cm 深さ14cmを計る。板碑片が出土す

る。

65号土壙 南区西拡張上層に位置し、平面長方形で370cm (残存) ×278cm 深さ22cm を計る大型の土壙である。周囲に灰白色粘土層が堆積していたが、4号溝の覆土とした。

66号土壙 南区北、1号溝東脇に位置し、平面長方形で338cm×80cm (残存) 深さ14cm (K-32cm) を計る。かわらけ (土-571・572) ・茶臼 (石-72) が出土した。572は逆位で出土。

70号土壙 南区中央、1号溝脇に位置する。平面円形で直径128cm 深さ12cm を計る。銭貨 (金-226) が出土した。

71号土壙 南区中央、1号溝脇に位置する。平面長方形で288cm×110cm 深さ17cm を計る。

72号土壙 南区上層南、1号溝東に位置し、51号土壙と重複する (51号土壙より新しい)。平面楕円形で178cm×128cm 深さ22cm を計る。瀬戸美濃天目 (土-573) ・砥石 (石-138) ・スラグ35g が出土した。

73号土壙 南区中央に位置し、平面長方形で70cm (残存) ×80cm 深さ12cm を計る。磨石 (石-230) が出土した。

75号土壙 南区南、4号溝の北に位置し、平面不整長方形で102cm×44cm 深さ13cm を計る。覆土に焼土ブロック・炭化物 (下層に多量) ・焼骨片を含む。1/20完掘図なし。

76号土壙 南区南西端に位置し、30号井戸と重複する (30号井戸より新しい)。平面長方形で406cm (残存) ×198cm 深さ110cm を計る。深く底面は平坦である。南隅に階段状の段を有する。覆土中位にロームの2次堆積がある。瀬戸美濃茶入 (土-574) ・鞆の羽口 (土-920) ・砥石 (石-139) ・馬?の骨・スラグ (椀形鋳滓) 1465g が出土した。

79号土壙 南区中央に位置し、平面楕円形で96cm ×50cm (残存) 深さ40cm を計る。

80号土壙 南区南、1号溝東に位置し、平面隅丸長方形で422cm (残存) ×80cm (残存) 深さ80cm を計り深い。51号土壙と同規模。在地甕 (土-281) ・かわらけ (土-575・576) ・板碑 (石-373) ・スラグ115g が出土した。

82号土壙 南区南西端に位置し、平面円形で107cm (残存) ×58cm (残存) 深さ15cm を計る。焙烙 (土-577) が出土した。

90号土壙 北区中央、2号堀北に位置し、平面楕円形で108cm×82cm 深さ11cm を計る。中程やや北で散乱して銭貨 (金-227~232) と歯が、南に骨が出土した。墓壙。

93号土壙 北区中央東に位置し、平面長方形で100cm×75cm 深さ13cm を計る。北西寄りにかわらけ (土-578)、中央に銭貨6枚 (金-233~238)、北端に頭骨・歯が出土した。墓壙。

95号土壙 北区中央東端に位置し、平面不整形で252cm×200cm (残存) 深さ12cm を計る。磨石 (石-231) ・スラグ10g が出土した。

97号土壙 北区中央に位置し、平面長方形で104cm ×66cm 深さ13cm を計る。スラグ2g が出土した。

100号土壙 北区中央に位置し、平面長方形で420cm ×218cm 深さ44cm を計り、大型で深い。覆土上層にロームブロックを多量に含み遺物も多い。かわらけ (土-579) ・銭貨 (金-239) が出土した。

103号土壙 北区中央に位置し、平面楕円形で142cm (残存) ×60cm 深さ38cm を計る。板碑 (石-374) が出土した。

104号土壙 北区中央に位置し、平面長方形で308cm ×140cm 深さ30cm を計る。かわらけ (土-580・581) が出土した。

107号土壙 北区中央に位置し、平面長方形で436cm (残存) ×138cm 深さ19cm を計る。かわらけ (土-582) ・スラグ15g が出土した。

110号土壙 北区中央東端に位置し、平面長方形で768cm×120cm (残存) 深さ31cm を計る。瀬戸美濃天目 (土-583) ・かわらけ (土-584~587) が出土した。

112号土壙 北区中央に位置し、28号溝と重複する。平面円形で200cm (残存) ×114cm (残存) 深さ8cm を計る。かわらけ (土-588・589) が出土した。

113号土壙 北区中央に位置し、28号溝と重複する。平面環状形で外径250cm 内径83cm 深さ17cm を計る。かわらけ (土-590) が出土した。

114号土壙 北区中央に位置し、平面長方形で200cm×88cm 深さ8cmを計る。瀬戸美濃折縁皿(土-591)が出土した。

116号土壙 北区北に位置し、平面円形で直径120cm 深さ14cmを計る。

120号土壙 北区中央北に位置し、平面長方形で245cm(残存)×104cm 深さ14cmを計る。かわらけ(土-592)・銭貨(金-240)が出土した。

122号土壙 北区北に位置し、平面長方形で110cm×85cm(残存) 深さ10cmを計る。瀬戸美濃丸皿(土-593)が出土した。

126号土壙 北区北に位置し、平面円形で直径85cm 深さ30cmを計る。

127号土壙 北区北に位置し、平面長方形で200cm(残存)×112cm 深さ10cmを計る。棒状鉄製品(金-13)が出土した。

129号土壙 北区北端に位置し、平面長方形で80cm(残存)×78cm 深さ9cmを計る。小柄(金-23)が出土しているが、南端のピット出土の可能性もある。

131号土壙 北区北端に位置し、平面長方形で250cm×86cm 深さ19cmを計る。かわらけ(土-594)が出土した。

132号土壙 北区北に位置し、平面隅丸長方形で246cm×100cm 深さ22cmを計る。初山香炉(土-484)・瀬戸美濃端反皿(土-595)が出土した。

133号土壙 北区北に位置し、平面長方形で330cm×106cm 深さ10cmを計る。在地挿鉢(土-596)が出土した。

134号土壙 北区北に位置し、平面長方形で278cm×90cm 深さ34cmを計る。かわらけ(土-597~599)・銭貨(金-241)が出土した。

135号土壙 北区北に位置し、平面長方形で314cm×108cm 深さ14cmを計る。かわらけ(土-600)が出土した。

136号土壙 北区北端に位置し、平面隅丸長方形で318cm×80cm 深さ18cmを計る。かわらけ(土-601)・銭貨(金-242・243)・砥石(石-140)が出土した。

137号土壙 北区北に位置し、平面長方形で200cm

×67cm 深さ35cmを計る。銭貨(金-244)が出土した。

140号土壙 北区北西に位置し、平面円形で直径140cm 深さ14cmを計る。

141号土壙 北区北西に位置し、平面長方形で318cm×90cm 深さ12cmを計る。在地挿鉢(土-602)が出土した。

144号土壙 北区北に位置し、平面長方形で135cm(残存)×98cm 深さ20cmを計る。

145号土壙 北区中央に位置し、平面長方形で214cm(残存)×75cm(残存) 深さ20cmを計る。焙烙(土-603)が出土した。

147a号土壙 北区北に位置し平面長方形で386cm×84cm 深さ27cmを計る。

147b号土壙 平面長方形で480cm×89cm 深さ27cmを計る。

147c号土壙 平面長方形で308cm×82cm(残存) 深さ28cmを計る。砥石(石-141)が出土した。

149号土壙 北区北、27号溝の西に位置する。平面長方形で210cm×82cm 深さ32cmを計る。中国口禿皿(土-604)・かわらけ(土-605)・在地挿鉢(土-606)が出土した。

150号土壙 北区北、27号溝の西に位置する。平面長方形で130cm(残存)×70cm 深さ18cmを計る。

151号土壙 北区中央に位置し、20号溝と27号溝をつなぐ。平面長方形で202cm(残存)×84cm 深さ40cmを計る。

154号土壙 北区北西に位置し、平面方形で243cm(残存)×236cm 深さ14cmを計り大型である。

【その他】

2号堀の北端には階段状の掘り込みが確認され、報告書作成時に土段と改称した。北区31号溝の延長にあり、有機的な関連があるか。

土段 4段の平坦面を有し、平面不整形168cm×148cm 深さ74cmを計る。

【遺物集中】

かわらけ集中地点1 北区上層北に位置する。分布範囲は152cm×76cmで、調査時は「136号土壙西隣

かわらけだまり」として称していた。かわらけ（土-609～617）がローム層+10cm程度の高さで出土した。

かわらけ集中地点2 位置不明。調査時より同名称であった。かわらけ（土-618～627）が出土した。

遺物集中区（A-2G） 南区上層南に位置する。

瀬戸美濃端反皿（土-628）・かわらけ（土-629・630）が出土した。

遺物集中区（B-1G） 南区上層南に位置する。

瀬戸美濃志野丸皿（土-631）・肥前小坏（土-632）・かわらけ（土-633）・砥石（石-142）・板碑（石-376）が出土した。

遺物集中区（B-2G） 南区上層南に位置する。

火打金状製品（金-4）・小柄（金-25）・銭貨（金-245・246）・茶臼（石-74）・磨石（石-232）・火打石（石-281）が出土した。

遺構外出土遺物

陶磁器では、龍泉窯系青磁碗（土-634）・同青磁皿（土-635～639）・中国白磁皿（土-640～649）・同染付碗（土-650・651）・同染付皿（土-652～681）・同染付小坏（土-682）・同染付香炉（土-683）・常滑甕（土-684～686）・瀬戸美濃碗（土-687～704）・同皿（土-705～735）・同鉢類（土-607・736～743）・同香炉（土-744～747）・同同向付（土-748～750）・同壺瓶類（土-751）・同土製円盤（土-904～910）・肥前陶器碗（土-752）・同皿（土-753）・同同向付（土-754～760）・同鉢（土-761）・同土製円盤（土-903）・志戸呂碗（土-762～765）・同皿（土-766・767）・同鉢類（土-

-768～771）・同同向付（土-772）・同小坏（土-773）・同茶入（土-774）・初山皿（土-775・776）・同播鉢（土-777・778）・尾張山茶碗（土-779）が出土した。

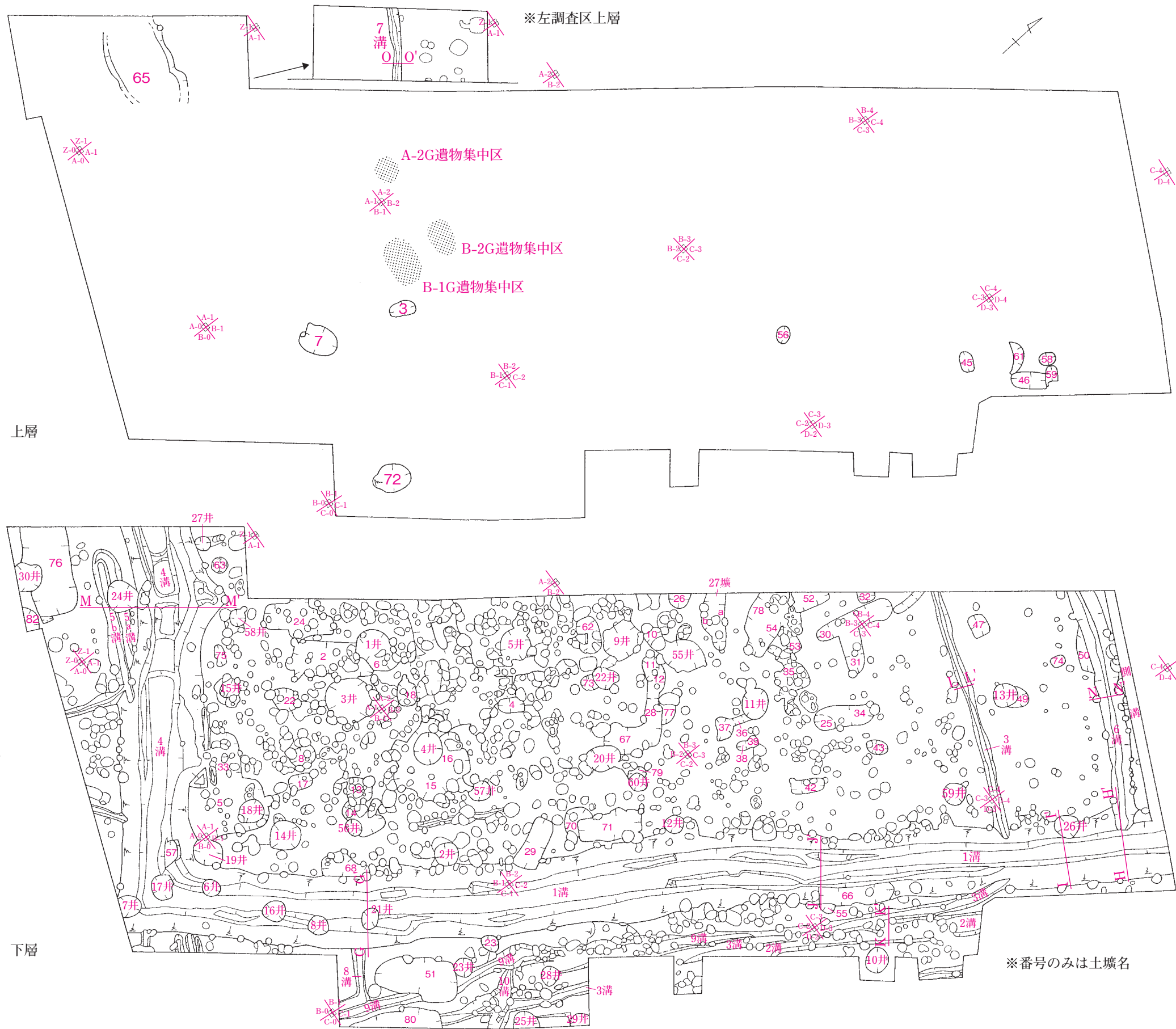
在地土器では、かわらけ（土-608・780～822・824～858）・溶融物付着土器（土-859～878）・焙烙（土-880～883）・土鍋（土-884～886）・鉢（土-887～893）・土釜（土-894）・香炉（土-895～900）・瓦（土-901）・玉（土-911）・泥面子（土-912）が出土した。かわらけ土-784と785は横並び正位出土である。瓦（土-901）は金貼付で、B-1G南調査区南西出土。

金属製品では、鉄製の火打金（金-5・6）・小柄（金-24）・腰刀カ（金-26）・小札（金-29）・弾丸（金-31）・柄杓状製品（金-34）、銅製の柄鏡カ（金-35）・釣金具（金-38・39）・飾金具カ（金-40）・煙管（金-42・45～48・51～53）・鈴（金-57）・軸頭（金-58）・目貫（金-59・60）・はばき（金-64～66）・鐙（金-67）・小柄（金-69～71）・筭（金-72）・弾丸（金-80・81・84・85）・高紐鞆（金-86）・八双鋏（金-88）・円板状製品（金-90）・環状製品（金-91）・貴金具（金-92）・板状製品（金-94・95）・茱萸（金-96）、鉛製の弾丸（金-82・83）が出土した。

石製品では、石臼（石-75～91）・硯（石-100・101）・紡錘車カ（石-102）・手洗い鉢カ（石-103）・楔形製品（石-105）・砥石（石-143～169）・磨石（石-233～275）・火打石（石-282～287）・板碑（石-375・377～380・382～404）が出土した。

他にスラグ7330gが出土した。



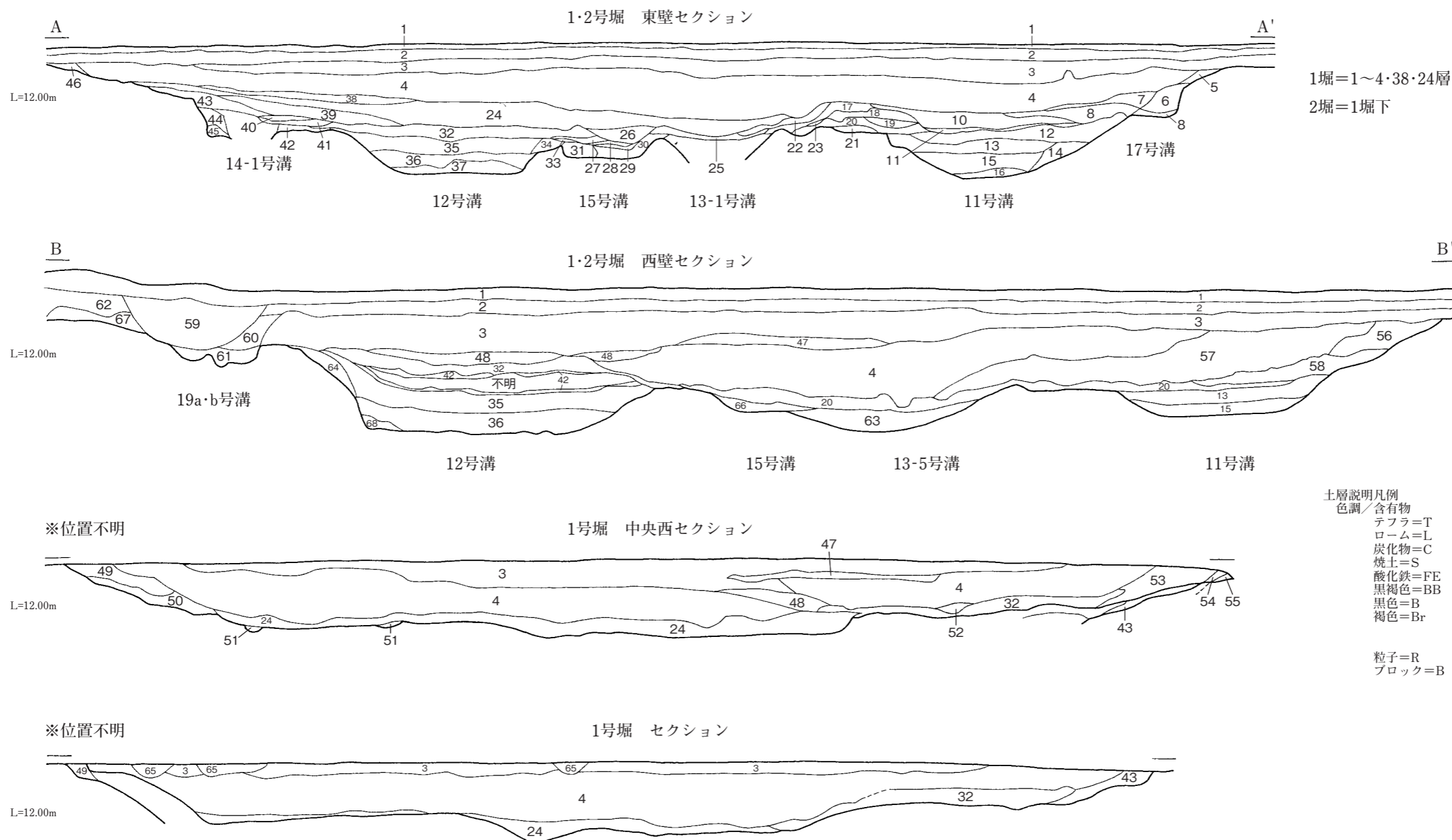


第43図 KB10区遺構位置図1 (南側調査区)



第44図 KB10区遺構位置図2 (北側調査区)

ポイントは第44図右下図

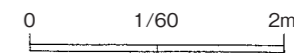


1堀=1~4・38・24層
2堀=1堀下

1堀=1~4・47・48層
2堀=1堀下

- 土層説明凡例
- | | |
|--------|--------------|
| 色調/含有物 | 非常に多い=☆ |
| テフラ=T | 多量=◎ |
| ローム=L | 少量=△ |
| 炭化物=C | 微量=▲ |
| 焼土=S | 万遍なく=万 |
| 酸化鉄=FE | やや明るい=やや明 |
| 黒褐色=BB | やや暗い=やや暗 |
| 黒色=B | 非常にやわらかい=軟度高 |
| 褐色=Br | やわらかい=軟質 |
| | やややわらかい=軟度低 |
| 粒子=R | かたい=堅緻 |
| ブロック=B | 縮まりよし=縮良 |
| | 縮まり悪し=縮悪 |
| | 粘性強し=粘強 |
| | 粘性有り=粘有 |

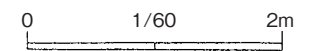
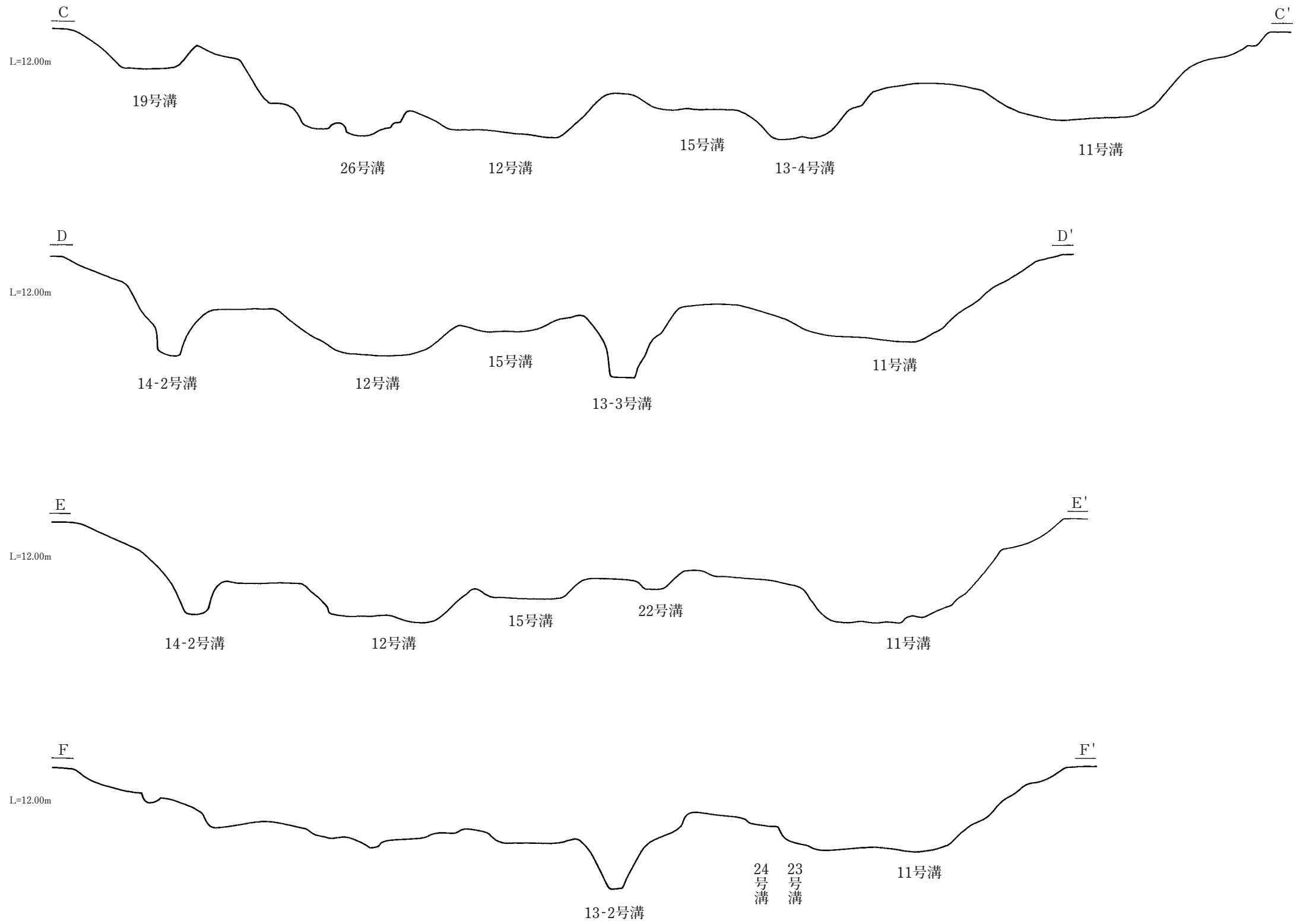
- | | | |
|--|-------------------------------|--|
| ○ 1・2堀セクション | 24 暗灰褐色 (4層に似るが暗) /軟度低 | 48 暗灰褐色 (3・4層より暗) /LR, LB△ 軟度低 |
| 1 耕作土 | 25 灰褐色 /FE, LR△ 軟質 粘強 | 49 暗灰褐色 /LR△, LB (ソフト) △ 軟度低 |
| 2 暗灰褐色 /T◎, FE◎, S, C△, LR△ 縮良 堅緻 | 26 灰褐色 /LR, LB◎, 暗灰褐色 B△ 軟質 | 50 暗灰褐色 /LR (やや灰色), FE△ 軟質 |
| 3 暗灰褐色 /LR△, S, C▲ 縮良 | 27 灰褐色 /LB△ 軟質 | 51 灰褐色 /FE, LR△ 軟質 |
| 4 暗灰褐色 /LB◎, LR△, C▲ 軟度低 | 28 LB層 (ハード) 縮良 | 52 暗灰褐色 /LR, FE△ 軟質 |
| 5 暗灰褐色 (3層より明) /LR, LB△, C▲ 縮良 | 29 灰褐色 /LR◎ 粘強 | 53 暗灰褐色 /LR, FE◎, 灰褐色 B△ 縮良 |
| 6 暗灰褐色 (4・5層より暗) /LR, LB△ 軟質 | 30 灰褐色 /LB, LR◎, FE△ 軟質 | 54 暗灰褐色 /LR△, C, S▲ 縮良 |
| 7 暗灰褐色 /LR, LB△, C, FE▲ 軟度低 | 31 灰褐色 /LR, LB△ 軟質 | 55 地山のL層 |
| 8 暗灰褐色 /LR, LB◎ ポロポロ 縮悪 | 32 LB層 (ハード・ソフト) FE△ 縮良 | 56 暗灰褐色 /LR◎, LB△ 軟質 |
| 9 LB層 (ハード) 暗灰褐色 B△ 縮良 | 33 LB層 (ソフト) 軟質 | 57 暗灰褐色 /LR, LB☆, C▲ ポロポロ 縮悪 |
| 10 暗灰褐色 (灰色味強) /FE◎, LR△ 軟度低 | 34 暗灰褐色 /LB, LR◎ 軟質 | 58 暗灰褐色 (灰色味強) /LR, LB△, FE◎ ポロポロ ざらつく |
| 11 暗灰褐色 (灰色味強) /LR△ 軟質 | 35 暗灰褐色 (灰色味強) /LR, FE△ 軟質 粘強 | 59 暗灰褐色 /T◎, LR, C▲ 縮良 |
| 12 暗灰褐色 (灰色味強) /FE, LR△ 軟質 | 36 灰褐色 (灰色味強, 35層より暗) /LR△ 軟質 | 60 暗灰褐色 /LR やや多, C, S△ 縮良 |
| 13 暗灰褐色 (灰色味強) /LB, LR, FE△ 粘強 | 37 LB層 (ハード) 灰褐色 B△ 軟質 | 61 暗灰褐色 /T, LR△, FE◎ 縮良 |
| 14 暗灰褐色 (灰色味強・12・13層よりやや暗) /LR, FE△ 軟質 | 38 暗灰褐色 /LR△, C, S▲ 縮良 | 62 暗灰褐色 /T◎, FE◎, S, C△, LR△ 縮良 堅緻 |
| 15 暗灰褐色 (灰色味強) /LB◎ 縮良 | 39 暗灰褐色 /LR△, C▲ 軟度低 | 63 灰褐色 /LR, LB△, FE◎ 粘有 |
| 16 LB層 (ソフト) 縮良 | 40 灰褐色 /LR, LB△ 縮良 | 64 暗灰褐色 /LR, LB△, C, S▲ 縮良 |
| 17 灰褐色 /FE◎, LR△ 縮良 | 41 暗灰褐色 (灰色味強) /LR, FE◎ 軟度低 | 65 暗灰褐色 /T◎, LR△ 縮良 |
| 18 LB層 (ソフト) 暗灰褐色 B△ 縮良 | 42 暗灰褐色 /FE△ 軟質 | 66 暗褐色 /LR△ 軟質 |
| 19 暗灰褐色 (灰色味強) /LB, FE△ 軟度低 | 43 暗灰褐色 /LR, FE△ 軟度低 | 67 暗灰褐色 /T◎, LR, LB△, C, S▲ 縮良 堅緻 |
| 20 暗灰褐色 (灰色味強) /LB, FE△ 軟度低 | 44 暗灰褐色 /LB△, C▲ 縮良 | 68 LB層 (ハード) 縮悪 ポロポロ |
| 21 暗灰褐色 (灰色味強) /LB◎ 縮良 | 45 LB層 (ハード) 縮良 | |
| 22 暗灰褐色 (4層より暗) /LR, LB△ 縮良 | 46 暗灰褐色 /LB◎ 縮良 | |
| 23 LB層 (ソフト) 暗灰褐色 B△ 縮良 | 47 暗灰褐色 (3・4層より暗) /LR△, T▲ 縮良 | |



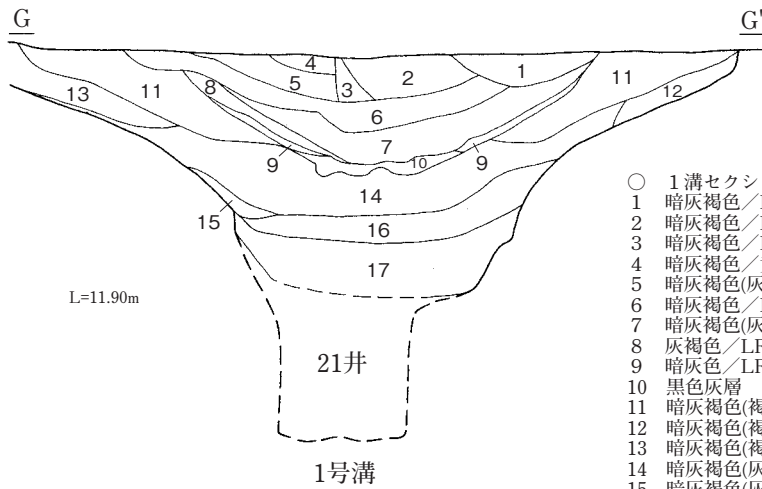
第45図 遺構1

2号堀

ポイントは第44図右下図

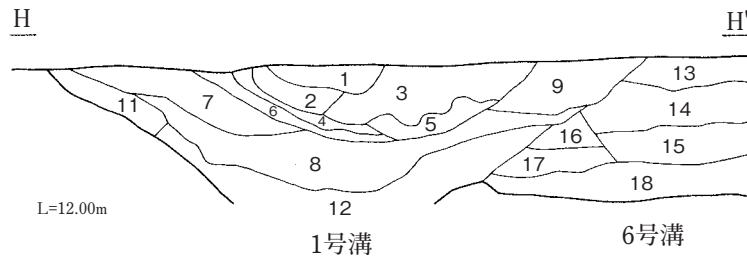


第46図 遺構2

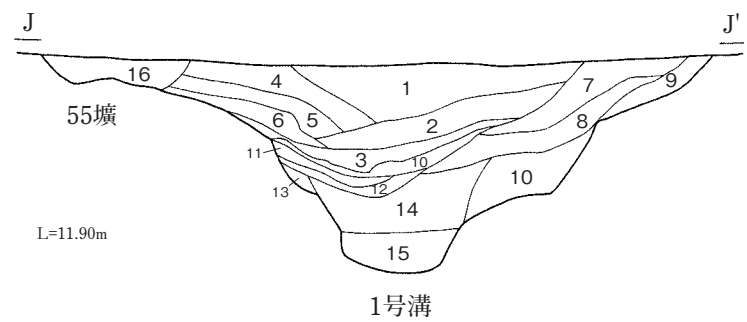
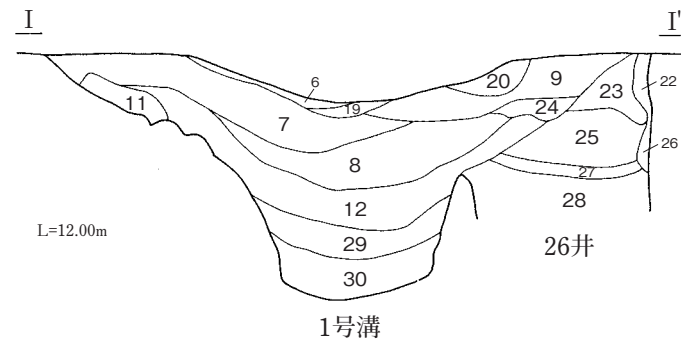


ポイントは第43図下図

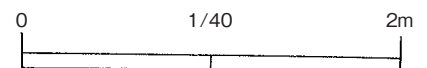
- 1 溝セクション(G-G')
- 1 暗灰褐色/LR○、T、S、CR△、灰白色R 締良 堅緻
- 2 暗灰褐色/LR、T、S、CR△、灰白色R 締良 堅緻
- 3 暗灰褐色/LR、T、CR△ 締良 堅緻
- 4 暗灰褐色/黄褐色LB○、LR○ 締良 堅緻
- 5 暗灰褐色(灰色味)/LB、LR、T○、S、CR▲、FER○ 堅緻
- 6 暗灰褐色/LR、LB、T、酸化物、C、SR△ 締良
- 7 暗灰褐色(灰色味)/LR、CR、SR万 締良
- 8 灰褐色/LR、LB○、C 締良
- 9 暗灰色/LR、CR、FER
- 10 黒色灰層
- 11 暗灰褐色(褐色味)/LR○、LB、T、C、FER 締良
- 12 暗灰褐色(褐色味)/LB(ソフト)、FER○、C、SR▲ 締良
- 13 暗灰褐色(褐色味)/LB(ソフト)、LR、FER、CR▲ 締良
- 14 暗灰褐色(灰色味)/酸化物、LB、LR○、有機物△ 粘強 ポソポソ
- 15 暗灰褐色(灰色味強)/酸化物、LB、LR○、有機物△ 粘強 ポソポソ
- 16 暗灰褐色/赤褐色酸化物、有機物▲、LB、LR△ 粘強
- 17 暗灰色/LB、灰色粘土B、有機物 粘極強



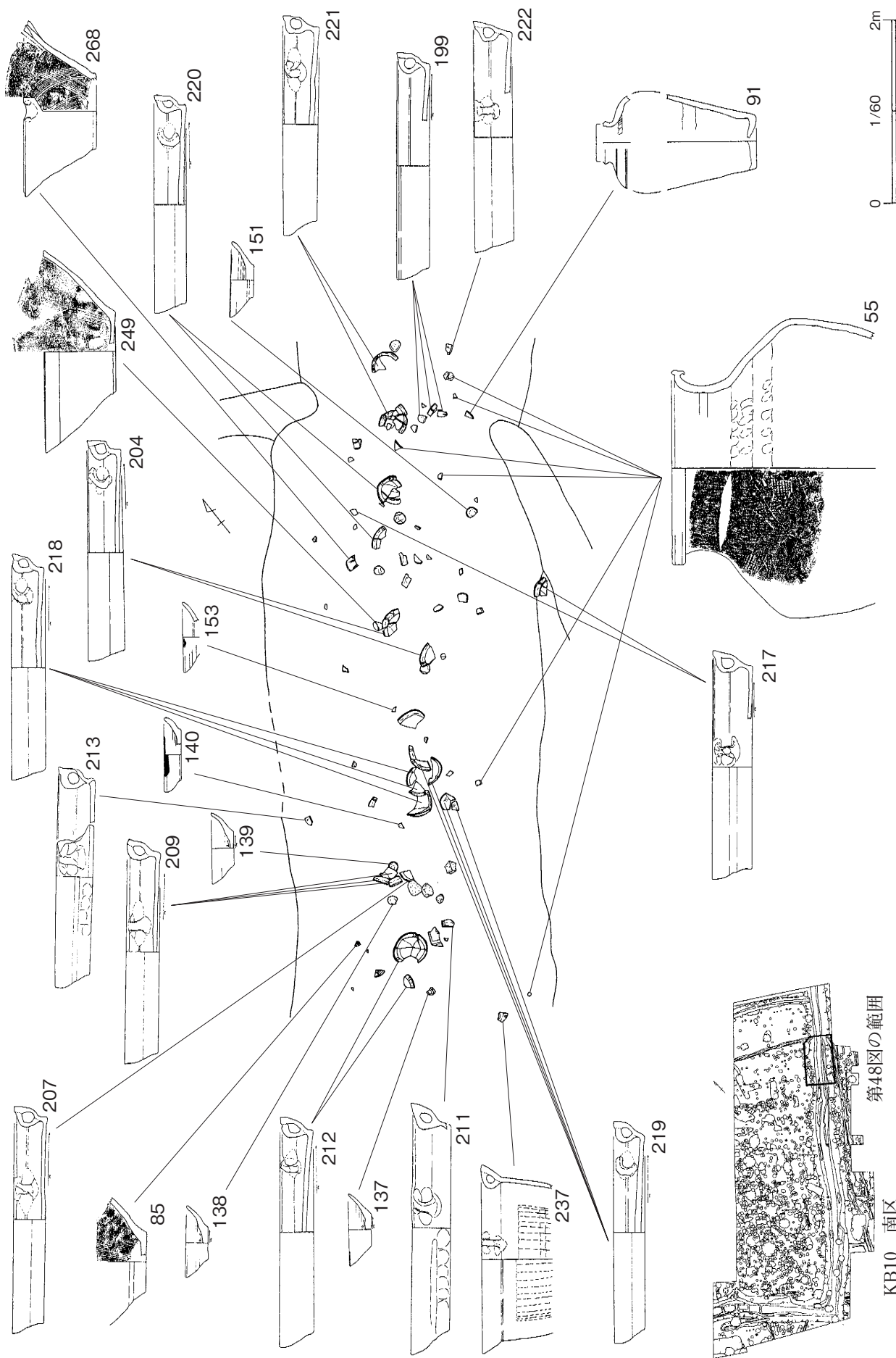
- 1 溝セクション(H-H'・I-I')
- 1 暗灰褐色/LR、LB○ 軟質
- 2 暗灰褐色/LR、LB△、C▲ 締良
- 3 暗灰褐色/LB△、LR○、C S▲ 軟質
- 4 暗灰褐色(2・3層よりやや明)/LR△、C△ 締良
- 5 暗灰褐色/FE○、LB△、C▲ 締良
- 6 C層 S△、暗灰褐色B△ 軟質
- 7 暗灰褐色/FE○、LR、LB、C△ 締良
- 8 暗灰褐色(7層より灰色味強)/FE○、LR、LB△ 軟度低
- 9 暗灰褐色/LR△ 締良
- 10 暗灰褐色(LR、LB○) 軟度低
- 11 暗灰褐色(8層より暗)/FE○、LR△ 軟質
- 12 暗灰褐色/LR△ 軟質
- 13 暗灰褐色/LR△ 軟質
- 14 暗灰褐色(13層より暗)/LR、S△ 締良
- 15 暗灰褐色/LB、LR△ 締良
- 16 暗灰褐色/LR△ BR▲ 締良
- 17 暗灰褐色(15・16層より灰色味強)/FE、LR△ 軟度低
- 18 暗灰褐色(上層より暗)/LB、LR○、BB▲ 軟質
- 19 暗灰褐色/C▲ LR、S△ 締良
- 20 暗灰褐色/LR、FE△、C▲ 締良
- 21 暗灰褐色/LR○、C▲ 軟質
- 22 暗灰褐色/LR、LB△ 締良
- 23 暗灰褐色/LR△ 軟度低
- 24 暗灰褐色/LR▲ 軟度低
- 25 暗灰褐色(23層より暗)/FE○、LR、LB△ 締良
- 26 暗灰褐色/LR○ 軟質
- 27 暗灰褐色(25層より暗)/FE○、LR△ 締良 堅緻
- 28 暗灰褐色/FE○、LR、LB△ 上層より軟質
- 29 暗灰褐色(12層より灰色味強)/FE○、LB、LR△ 軟質
- 30 暗灰褐色(29層より黒色味強)/LB△ 軟質 粘強



- 1 溝セクション(J-J')
- 1 暗灰褐色/LR○、C、T△ 締良
- 2 暗灰褐色(灰色味強、暗)/FE○、LR、C△万 締良
- 3 暗灰褐色(上層より灰色味強)/FE○、C、LR△ 締良
- 4 暗灰褐色/LR○、T▲ 締良
- 5 暗灰褐色(灰色味強、暗)/FE○、LR、C▲万 締良
- 6 LB層 暗灰褐色B C▲ 締良
- 7 暗灰褐色/FE○、LR△ 締良
- 8 暗灰褐色/C、LR▲ 締良
- 9 暗灰褐色/LB、LR○、C▲ 軟度低
- 10 暗灰褐色/LB、FE○ 軟質
- 11 暗灰褐色(やや黄色味)/LR△ C▲ 軟質
- 12 暗灰褐色(灰色味)/FE、LR▲ 軟質
- 13 暗灰褐色/LR○、FE▲ 軟質
- 14 暗灰褐色/FE○、C、LR△ 軟質
- 15 暗灰褐色(上層より暗)/FE○、C、LR△ 軟質
- 16 55壙



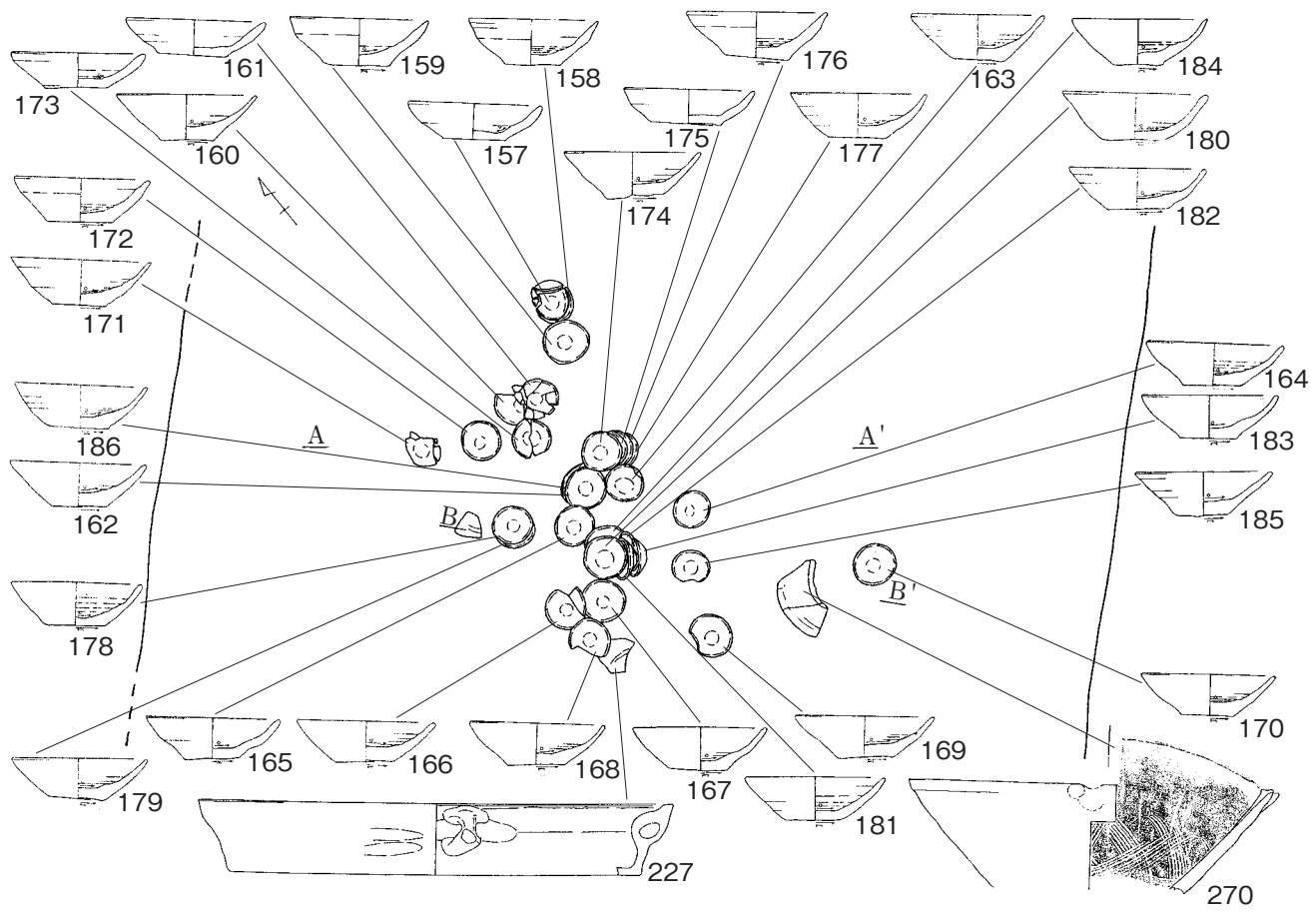
第47図 遺構3



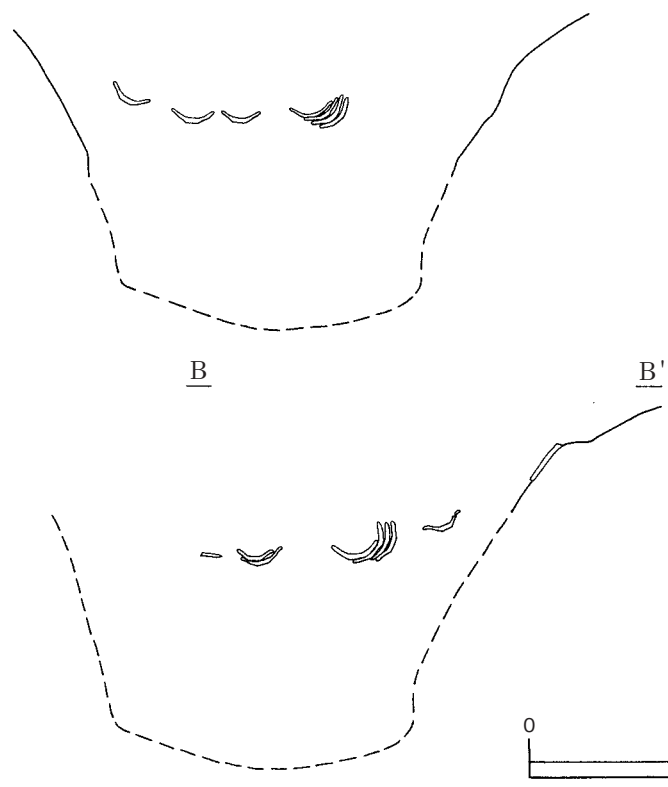
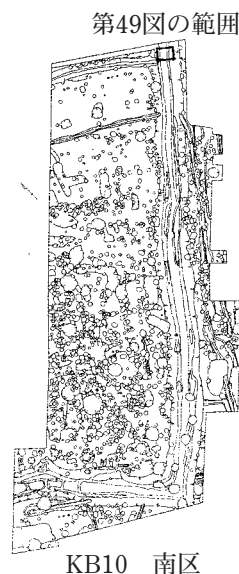
第48図 遺構4 (ほうろく集中区 遺物出土状況)

KB10 南区

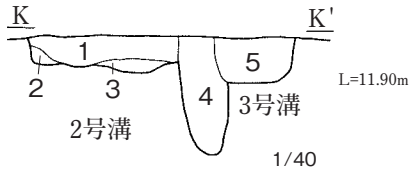
第48図の範囲



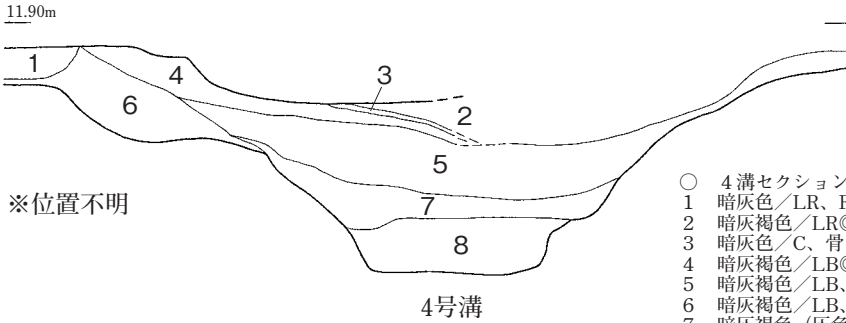
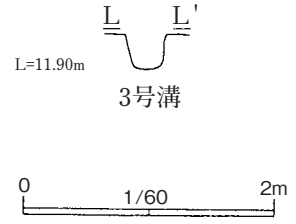
A A'



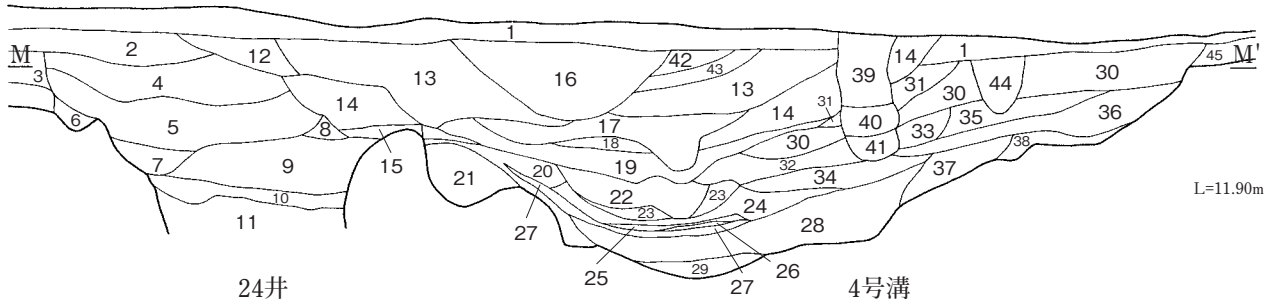
第49図 遺構5 (かわらけ集中区遺物出土状況)



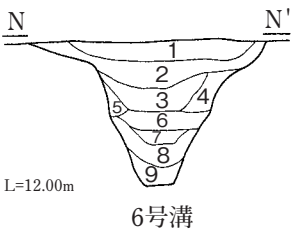
- 2・3溝セクション
- 1 暗灰褐色/LR△、C▲ 縮良
 - 2 LB層(ソフト) 暗灰褐色B△ 軟質
 - 3 黄褐色/暗灰褐色R△ 軟質
 - 4 暗灰褐色/LR、LB△ ポロポロ 縮悪
 - 5 暗灰褐色/LR△ 縮良



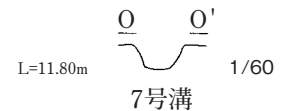
- 4溝セクション
- 1 暗灰色/LR、FER 縮やや悪
 - 2 暗灰褐色/LR○、T、CR 縮良
 - 3 暗灰色/C、骨?、LR、FER、SR 縮良
 - 4 暗灰褐色/LB○、LR、T、暗褐色R△ 縮良
 - 5 暗灰褐色/LB、LR、酸化○、C 縮良 粘有
 - 6 暗灰褐色/LB、LR、酸化物、CR 縮良
 - 7 暗灰褐色(灰色味強)/酸化物、LR、暗褐色R、有機物 縮良 粘強
 - 8 暗灰色(青色味)/LR、LB、有機物 縮良 粘強



- 4・5溝、24井セクション
- 1 暗灰褐色/T○、LR、FE△ 縮良 堅緻
 - 2 暗灰褐色/FE△、C、S▲ 縮良
 - 3 暗灰褐色/LR、FE△ 縮悪
 - 4 暗灰褐色/C○、LR、LB、S△ 縮やや悪
 - 5 暗灰褐色(4層より灰色味強)/FE○、C、S△ 縮良 →5a溝
 - 6 暗灰褐色/LR、LB、FE△ 軟質 →ピット
 - 7 暗灰褐色/FE、LR○ 縮良 →5b溝
 - 8 暗灰褐色/FE、LR△ 縮良
 - 9 暗灰褐色(5層より褐色味強)/FE○、LR、LB△ 縮良
 - 10 BBB層 FE、LR△ 縮良
 - 11 暗灰褐色(粘質層)/FE○、LR△ 粘強
 - 12 暗灰褐色/LR▲ 縮良
 - 13 暗灰褐色/LB、LR、FE△、C▲ ポロポロ 縮悪
 - 14 灰褐色(粘土層)/FE○、LR、C▲ 縮良 堅緻
 - 15 灰褐色(粘土層)/FE、LR▲ 縮良
 - 16 暗灰褐色/C、LR、S△ 縮やや悪
 - 17 暗灰褐色/FE△、LR、S、C▲ 縮良
 - 18 灰褐色(粘土層)/FE○、LR、C▲ 縮良 堅緻
 - 19 灰褐色/LR○、FE△ 縮良
 - 20 灰褐色/LR、FE△ 軟質
 - 21 暗灰褐色/FE、LR○ 軟質
 - 22 暗灰褐色/FE○、LB、LR△ 軟質
 - 23 灰褐色/FE△ 軟質
 - 24 暗灰褐色/FE○、LR、LB△ 縮良
 - 25 灰褐色/FE△ 粘強
 - 26 灰褐色/LR○、FE△ 縮やや良
 - 27 灰褐色/FE○、LR△ 縮良
 - 28 暗灰褐色(粘質層)/FE○、LR△、LB▲ 粘強 軟質
 - 29 暗灰褐色/LB○、LR△、BB▲ 縮良
 - 30 暗灰褐色/FE、LR○、C▲ 縮良
 - 31 暗灰褐色(30層より灰色味強)/FE、LR△、C▲ 縮良
 - 32 暗灰褐色/LR、FE○、C、S▲ 縮良
 - 33 暗灰褐色/LR、FE○、C、S▲ 縮良
 - 34 暗灰褐色(32層より灰色味強)/FE、LR△、C▲ 軟度低
 - 35 暗灰褐色/LR○、FE△、C▲ 縮良
 - 36 暗灰褐色/FE、LR△、BB▲ 縮良
 - 37 暗灰褐色(灰色味強)/LB、BB、FE△ 縮良
 - 38 暗灰褐色/LB○、FE△ 軟度低
 - 39 暗灰褐色/LR、T、FE△ ポロポロ
 - 40 暗灰褐色/LR、FE△ 縮良
 - 41 暗灰褐色(40層より灰色味強)/FE○、LR△ 縮良
 - 42 暗灰褐色/LR、S、C▲ 縮良
 - 43 暗灰褐色/LR、S、灰白粘土R△ 縮良
 - 44 暗灰褐色/LR、FE△、C▲ ポロポロ
 - 45 黒灰褐色/暗灰褐色B○ 縮良



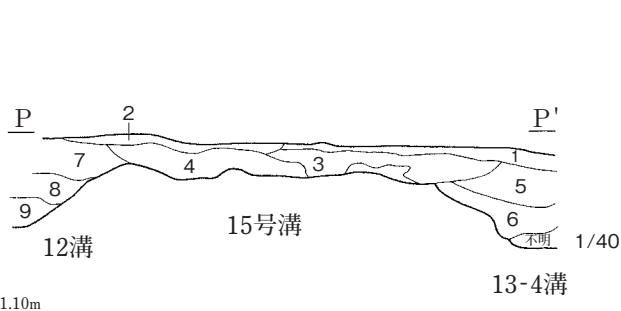
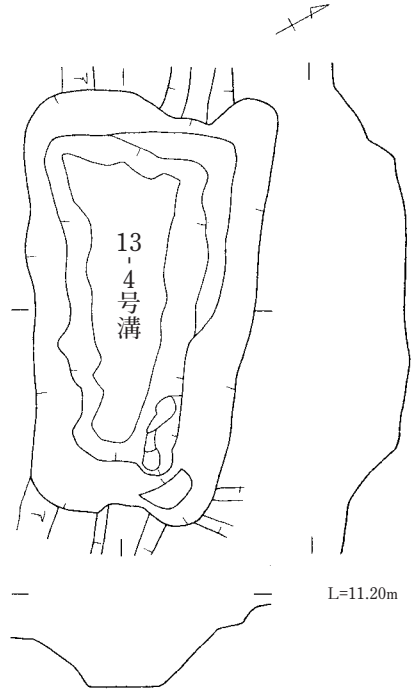
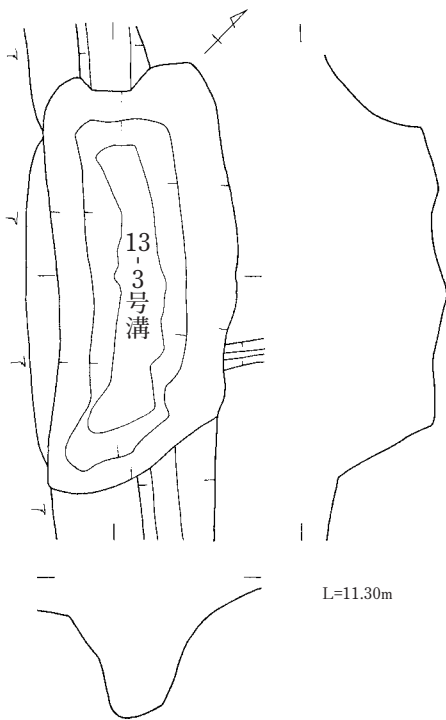
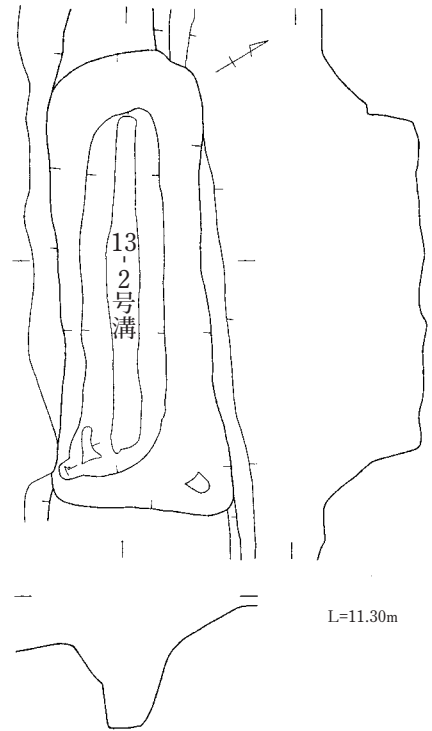
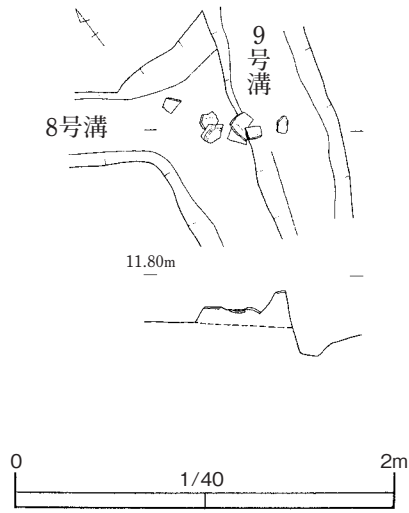
- 6溝セクション
- 1 暗灰褐色/LR○、T、C▲ 非常に縮良
 - 2 暗灰褐色/LR、LB○、暗褐色R 縮良
 - 3 暗灰褐色(灰色味強)/LR○、SR、暗褐色R△ 縮良
 - 4 暗灰褐色(灰色味強)/LR☆、暗褐色R○ 縮良
 - 5 暗灰褐色(灰色味強)/LR、暗褐色R 縮良
 - 6 灰褐色/LR、SR△、CR▲ 縮良
 - 7 灰褐色/LR☆、暗褐色R○ 縮良
 - 8 灰褐色/LR、LB、暗褐色R 縮良 軟度低
 - 9 灰褐色/LB○、LR、暗褐色R、CR 縮やや悪



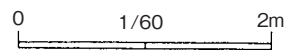
ポイントK・L・M・Nは第43図下図
Oは 同 上図



第50図 遺構6



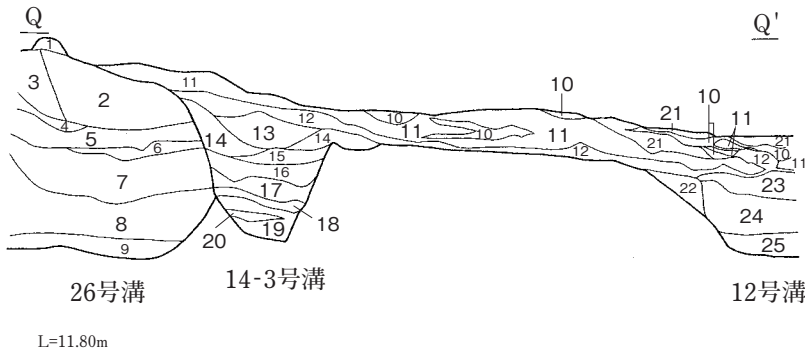
- 12・13-4・15溝セクション
- 1 灰褐色(粘土層) / FE△ 粘強
 - 2 暗灰褐色 / 4層ののこり (1トレ・2トレ)
 - 3 暗灰褐色(灰色味強) / LR FE△ 軟質
 - 4 暗灰褐色(灰色味) / LR○ FE△ 軟質
 - 5 暗灰褐色 / FE、LR○ 軟質
 - 6 暗灰褐色(5層より暗) / FE LR▲ 締良
 - 7 暗灰褐色(5層より明) / LR FE△
 - 8 暗灰褐色(7層より暗) / FE LR△ 軟質
 - 9 暗灰褐色(8層より暗) / LR△ 軟質



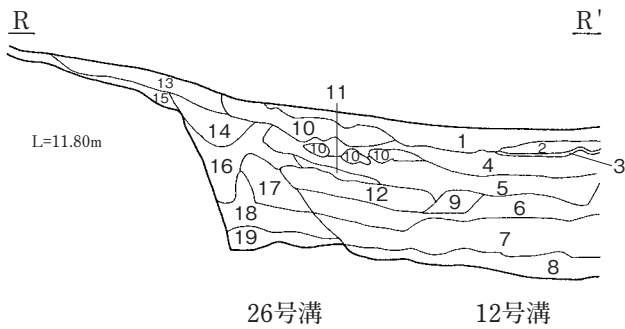
ポイントは第44図右下図

第51図 遺構7

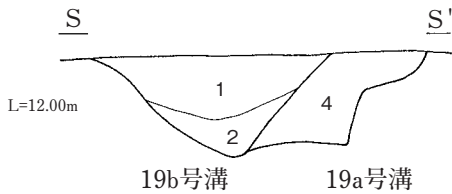
ポイントQ・R・Tは第44図右下図
S 同 左上図



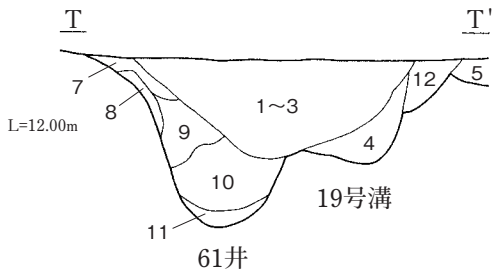
- 12・14-3・26溝セクション
- 1 暗灰褐色 / LR◎ 縮良 堅緻
- 2 暗灰褐色 / S, LB◎, LR△ 縮良
- 3 暗灰褐色 / LR, S△ 縮良
- 4 暗灰褐色 / LB▲, FE△ 縮良
- 5 暗灰褐色 / FE◎, LR▲ 縮良
- 6 LB層 (ハード・ソフト) 縮良
- 7 暗灰褐色 / LR△, FE◎ 軟質
- 8 暗灰褐色 (上層より暗) / LR, FE△ 軟質
- 9 LB層 (ハード) ポロポロ
- 10 灰褐色 (粘土層) / FE△ (FE左側多~右側少) 軟質
- 11 LB層 (ハード)
- 12 暗灰褐色 / LR◎ 軟度低
- 13 暗灰褐色 / LR, LB△ 軟質
- 14 灰褐色 (粘土層) / LR△ 軟質
- 15 灰褐色 / 暗灰褐色 B, LR△ 軟質
- 16 暗灰褐色 / LR◎ 軟質
- 17 暗灰褐色 / LR◎ (上層より多) 軟質
- 18 LR層 軟質
- 19 暗灰褐色 / LR◎ 軟質
- 20 灰褐色 (粘土層) / LB△ 縮良
- 21 灰褐色 / LR, LB△ 縮良
- 22 灰褐色 / FE, LR△ 軟質
- 23 灰褐色 (21層より暗) / FE, LR△ 軟質
- 24 灰褐色 (上層より暗) / FE, LR△ 軟質
- 25 灰褐色 / LR, FE◎ 軟質



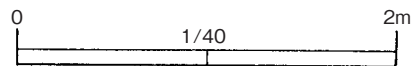
- 12・14-4・26溝セクション
- 1 暗灰褐色 / LR, LB◎ 縮良
- 2 暗灰褐色 / LR, LB△, C▲ 軟度低
- 3 灰褐色 (粘土層) / LB△ 縮良
- 4 灰褐色 / LR, LB△ 縮良
- 5 灰褐色 (粘土層) / FE△ (FE左側多~右側少) 軟質
- 6 灰褐色 / FE, LR△ 軟質
- 7 灰褐色 (上層より暗) / FE, LR△ 軟質 →12溝
- 8 灰褐色 / LR, FE◎ 軟質
- 9 暗灰褐色 (灰色味強) / LR, LB◎万 縮良
- 10 LB層
- 11 灰褐色 / LR, LB△万 軟度低
- 12 12溝
- 13 暗灰褐色 / LR, FE△ 縮良
- 14 暗灰褐色 / LR◎ 軟度低 →14-4溝
- 15 暗灰褐色 (16層よりやや暗) / LR△ 縮良
- 16 暗灰褐色 / LR◎, LB, FE 軟質 →14-4溝
- 17 暗灰褐色 / LR△, FE◎ 軟質
- 18 暗灰褐色 (上層より暗) / LR, FE△ 軟質 →26溝
- 19 LB層 (ハード) ポロポロ



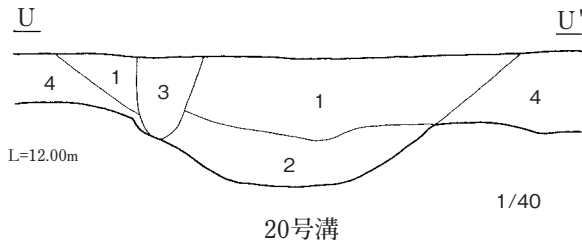
- 19a・b 溝セクション
- 1 暗灰褐色 / T◎ C▲ S▲ LR▲ 縮良
- 2 暗灰褐色 / T LR CR▲ FER◎ 縮良
- 4 暗灰褐色 / LR やや多 CR S△ 縮良



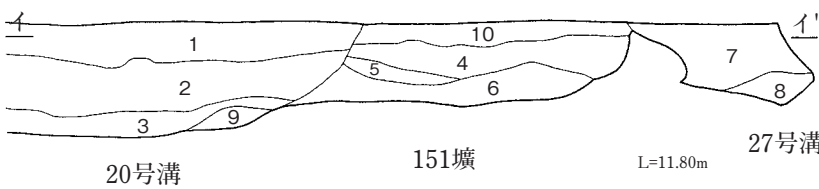
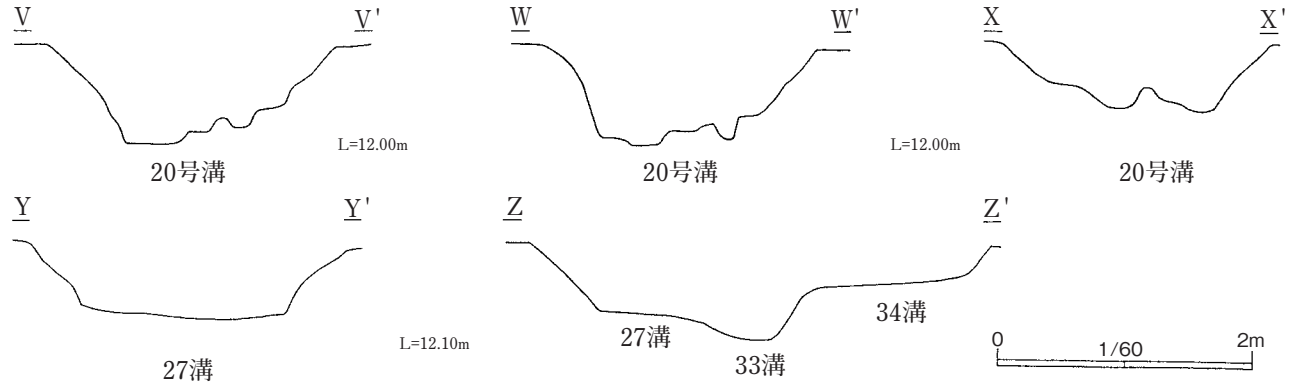
- 19溝, 61井セクション
- 1 暗灰褐色 / T◎ CS▲ LR▲ 縮良
- 2 暗灰褐色 / FE◎ T L CR▲ 縮良
- 3 暗灰褐色 / FER 縮良
- 4 暗灰褐色 / LR やや多 CR S△ 縮良
- 5 暗褐色 / LR◎ C▲ 軟度低
- 7 暗灰褐色 / T△ C▲ 縮良
- 8 LB層 (ハード) 縮良 堅緻
- 9 暗灰褐色 / LR△ 縮良
- 10 暗灰褐色 (9層より暗) / LR◎ 軟質
- 11 暗灰褐色 / LR◎ 粘有
- 12 暗灰褐色 / LR, LB△ 縮良



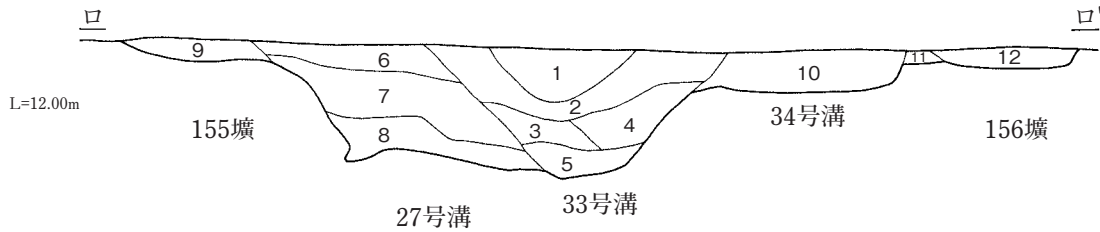
第52図 遺構8



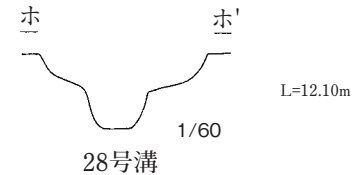
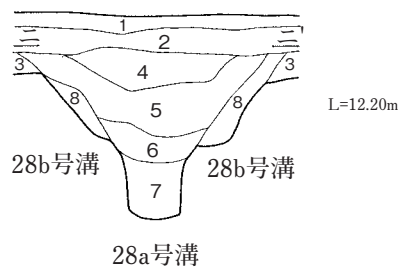
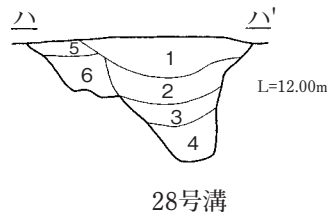
- 20溝セクション
 1 暗灰褐色/含T、LR◎、C、FER、 縮良
 2 暗灰褐色/含LR、FER◎ 縮良
 3 暗灰褐色(灰色味)/含T、FER、LR、CR▲ 縮良
 4 暗灰褐色(褐色味強)/含LR◎、CR、SR△ 縮良



- 20・27溝セクション
 1 暗灰褐色/LR◎、S、C、LB△ 縮やや悪
 2 暗灰褐色/LR、FE△ 縮良
 3 暗灰褐色(灰色味強)/LB、FE◎ 軟質
 4 暗灰褐色/LB、LR◎、S、C▲ 軟度低
 5 暗灰褐色(4層よりやや暗)/LR、S▲ 縮良
 6 暗灰褐色/LR◎、S、FE△ 縮良
 7 暗灰褐色/T、LB◎、LR、FE△ 縮良
 8 LB層 暗灰褐色B△ 縮悪
 9 LB層 暗灰褐色B△ 縮良
 10 暗灰褐色/LR▲ 縮良



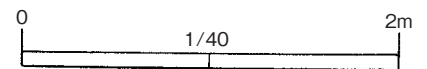
- 27・34溝セクション
 1 暗灰褐色/LR◎、S、C、LB△ 縮悪
 2 暗灰褐色/LR、LB、C△、S▲ 縮良
 3 暗灰褐色(2層より暗)/LR、C△ 縮良
 4 暗灰褐色/LR、LB◎、C△ 軟度低
 5 暗灰褐色(3・4層より灰色味強)/FE◎、C、LR△ 軟質
 6 暗灰褐色/LR、C△、FE▲ 縮良
 7 暗灰褐色/LR、C△ 6層より縮良
 8 暗灰褐色/FE◎、LR△、S▲ 縮良
 9 暗灰褐色/LR、LB◎ 縮良
 10 暗灰褐色(灰色味強)/C◎、FE、R△ 縮良
 11 SR
 12 暗灰褐色/FE、LR△ 縮良



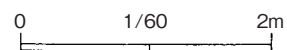
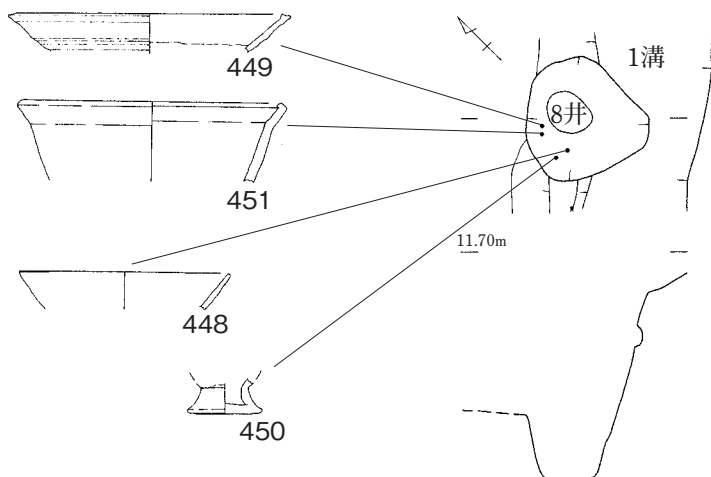
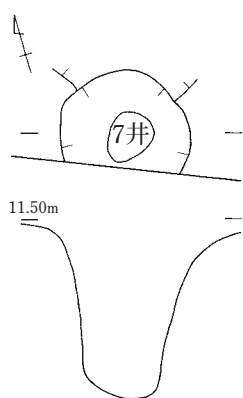
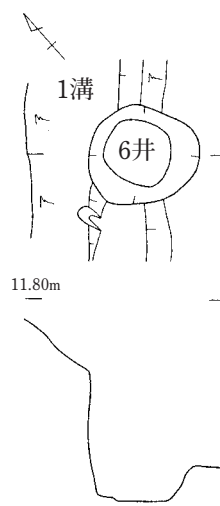
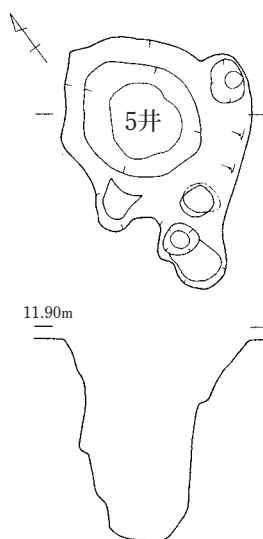
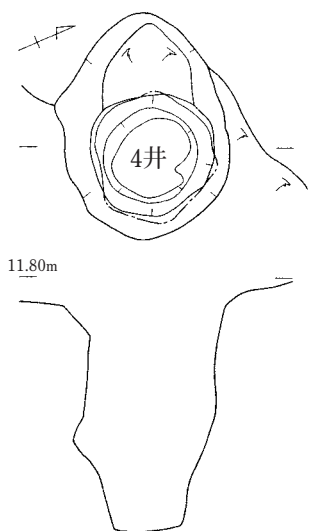
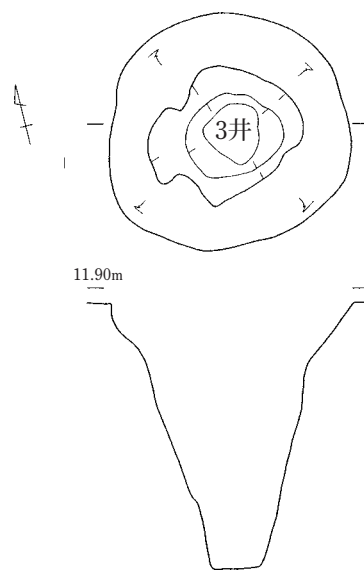
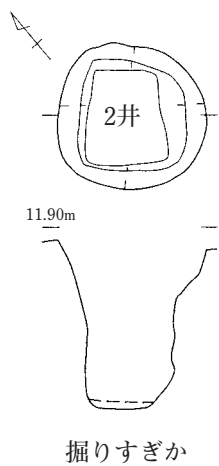
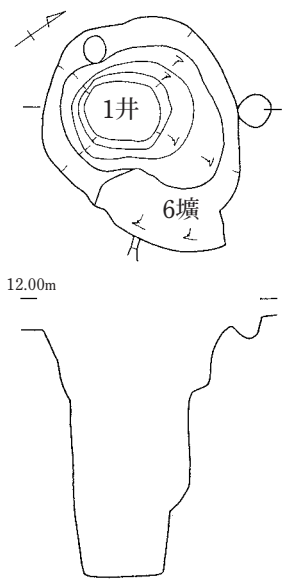
- 28溝セクション
 1 暗灰褐色/白色R(T?)◎、LR△ 縮良
 2 暗灰褐色/FE、LR△ 縮良
 3 暗灰褐色/FE(2層より少)、LB△
 4 暗灰褐色/LB、LR◎ ポロポロ
 5 暗灰褐色/T、LR、FE△ 縮良
 6 暗灰褐色(灰色味強)/T、LR、FE△

- 28溝東壁セクション
 1 耕作土
 2 暗灰褐色/T◎ 縮良 堅緻
 3 暗灰褐色/LR▲ 縮やや悪
 4 暗灰褐色(灰色味強)/T、FE▲ 縮悪
 5 暗灰褐色(4層より暗)/T、LR▲ 縮良
 6 暗灰褐色/FE△、LR▲ 縮良
 7 暗灰褐色(6層より灰色味強)/FE△、LR▲ 軟度低
 8 暗灰褐色/LR、LB◎ 縮良

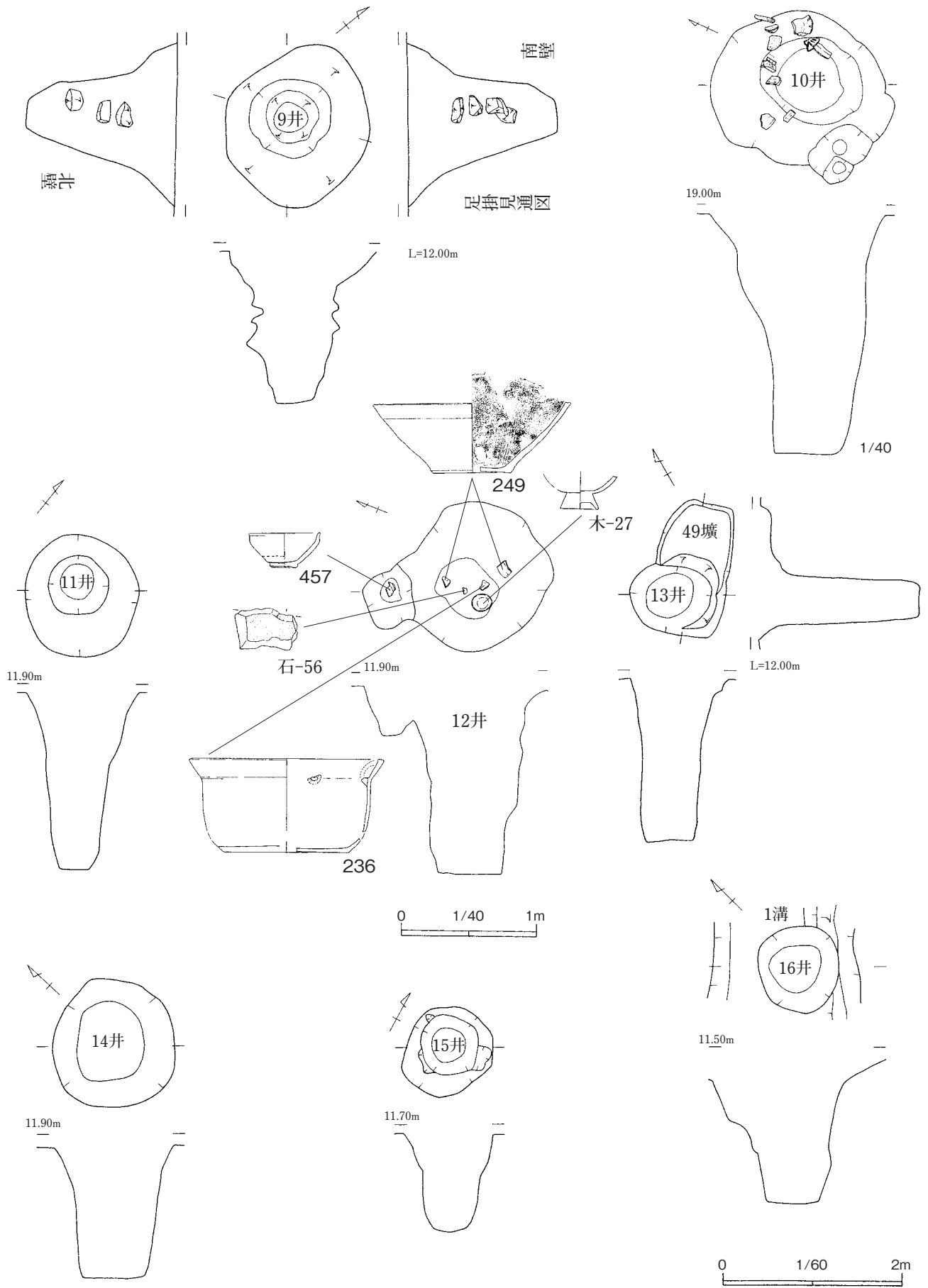
ポイントU~Xは第44図左上図
 Y・Zイ~ホは同右下図



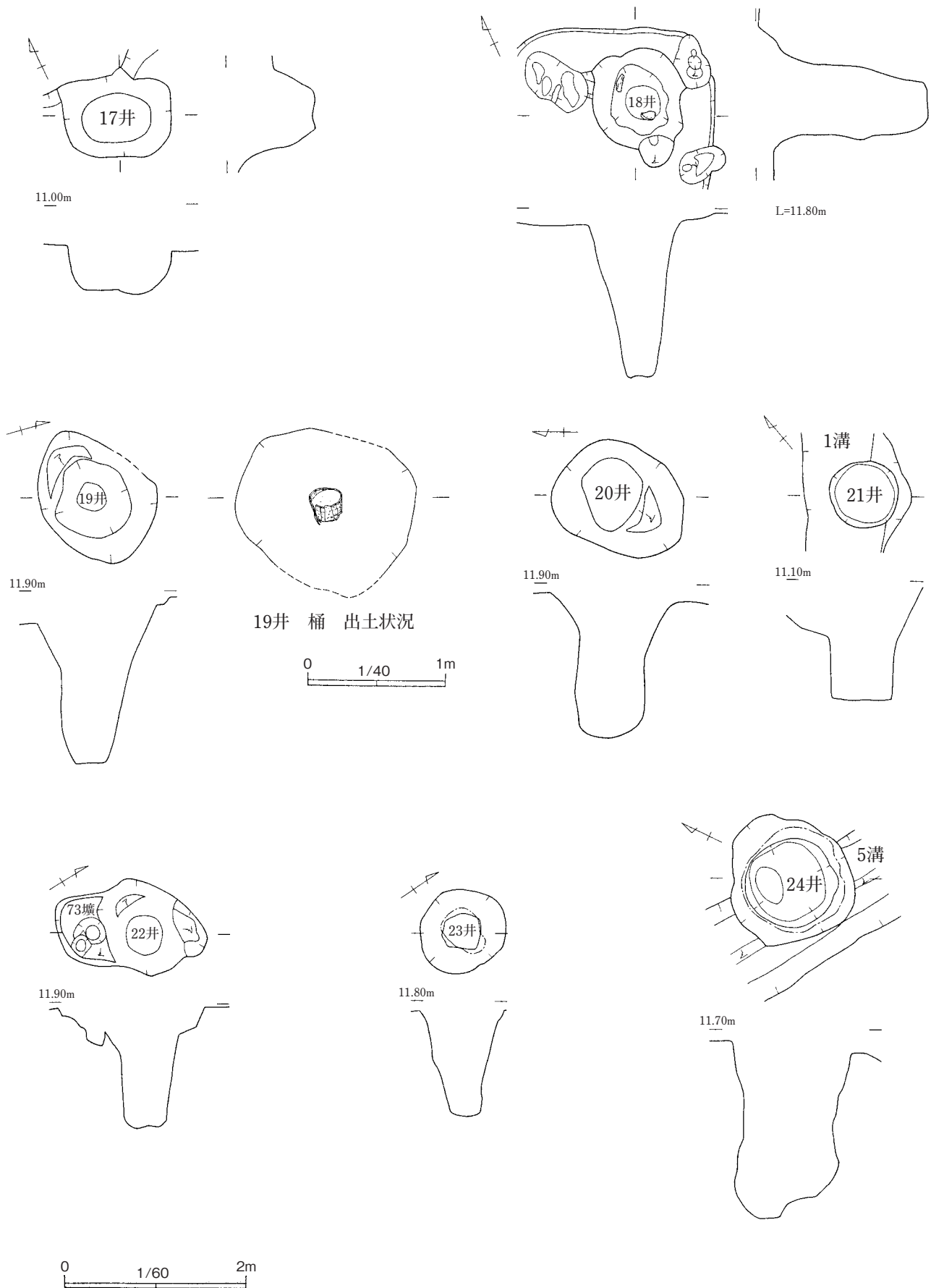
第53図 遺構9



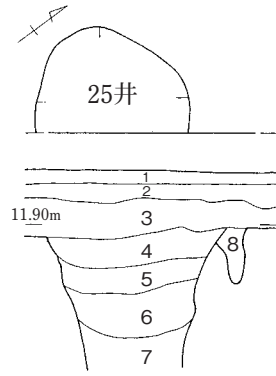
第54図 遺構10



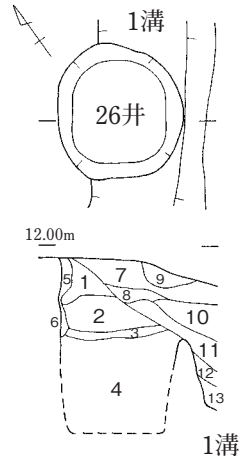
第55図 遺構11



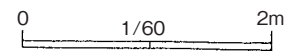
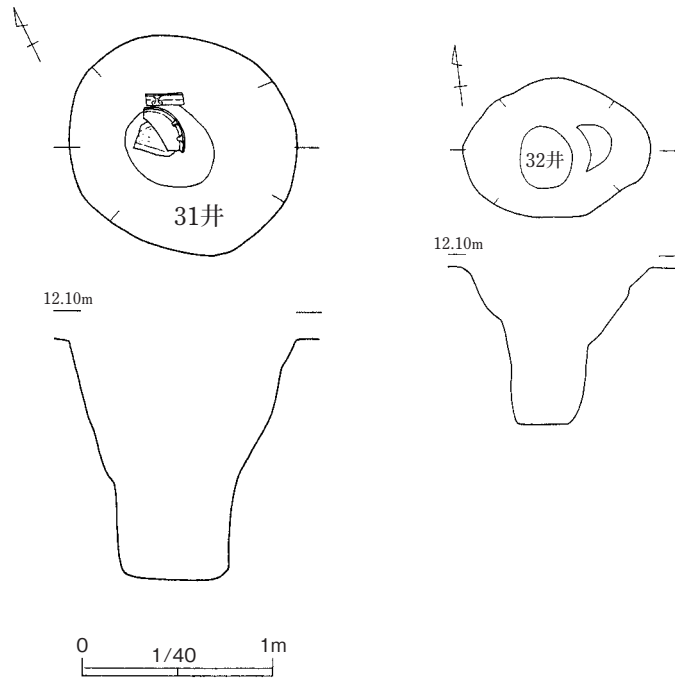
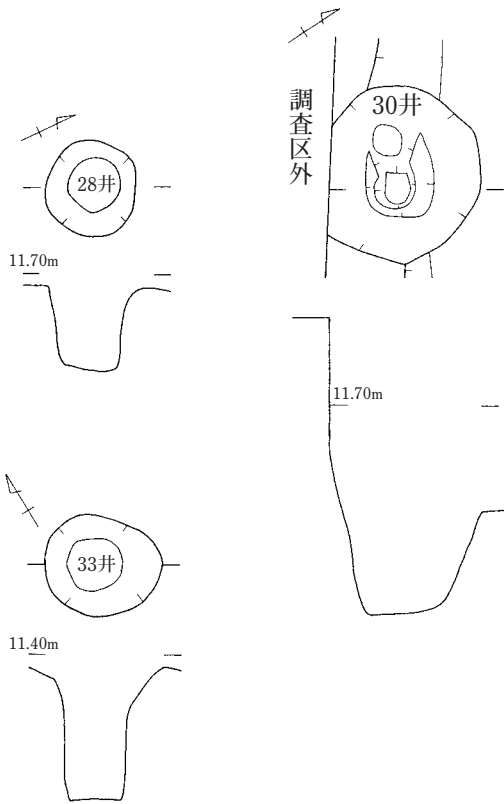
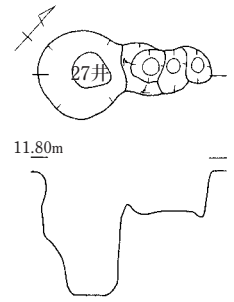
第56図 遺構12



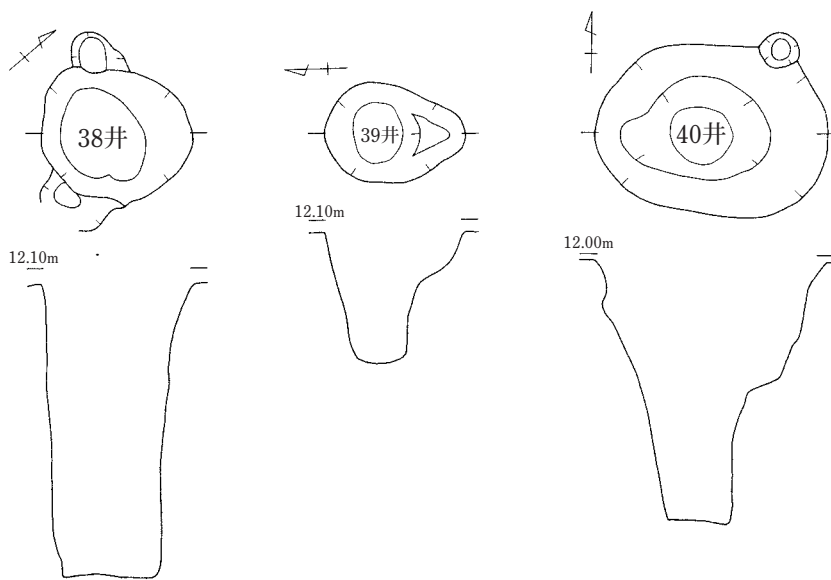
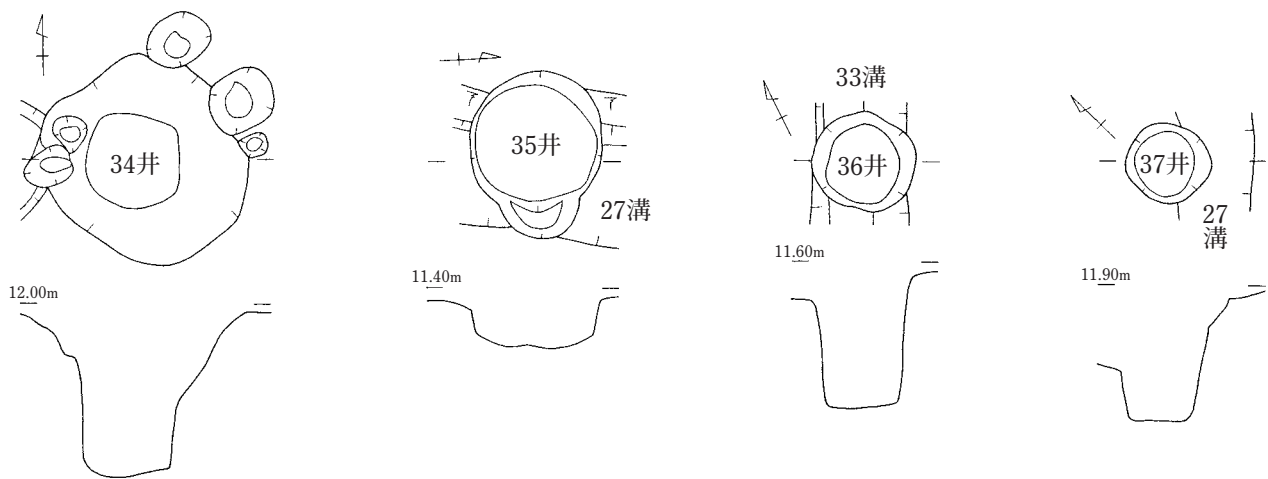
- 25井セクション
- 1 耕作土
 - 2 暗灰褐色 / T◎ LR, S△ 締良 堅緻
 - 3 暗灰褐色 / LR△ S▲ 締良 堅緻
 - 4 暗灰褐色 / LR△ C, S▲ 締良
 - 5 暗灰褐色 (上層より暗) / LR, LB, C△ 軟度低
 - 6 暗灰褐色 (5層より暗) / FER△ 軟質
 - 7 暗灰褐色 / LB, FE◎ 軟度高
 - 8 暗灰褐色 / LB, LR◎ 軟度低 →ピット



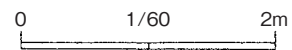
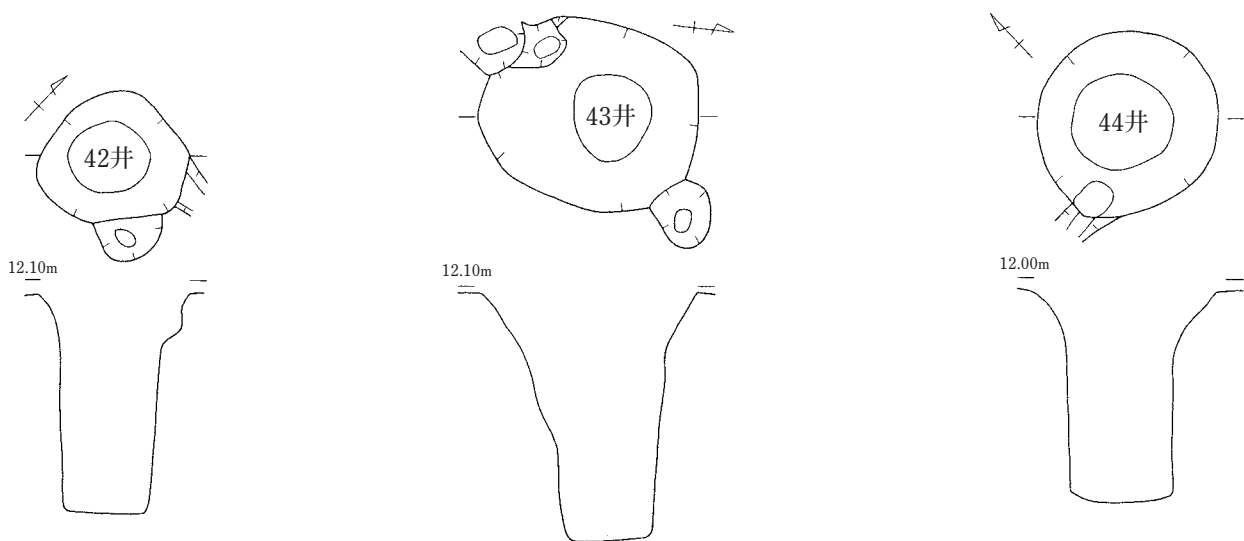
- 26井セクション
- 1 暗灰褐色 / LR, LB△ 締良
 - 2 暗灰褐色 (1層より暗) / FE◎ LR, LB△ 締良
 - 3 暗灰褐色 (2層より暗) / FER◎, LR△ 締良 堅緻
 - 4 暗灰褐色 / FE◎, LR, LB 上層より軟質
 - 5 黄褐色 / LR◎ C▲ 軟質
 - 6 暗灰褐色 / LR◎ 軟質
 - 7 暗灰褐色 / LR△ 締良
 - 8 暗灰褐色 / LR▲ 軟度低
 - 9 暗灰褐色 / LR, FE△ C▲ 締良
 - 10 暗灰褐色 / FE◎ LR, LB△ 軟度低
 - 11 暗灰褐色 (10層より暗) / FE◎ LR△ 軟質
 - 12 暗灰褐色 (11層より灰色味強) / FE◎ LR, LB◎ 軟質
 - 13 暗灰褐色 (12層より黒色味強) / LB△ 軟質 粘強



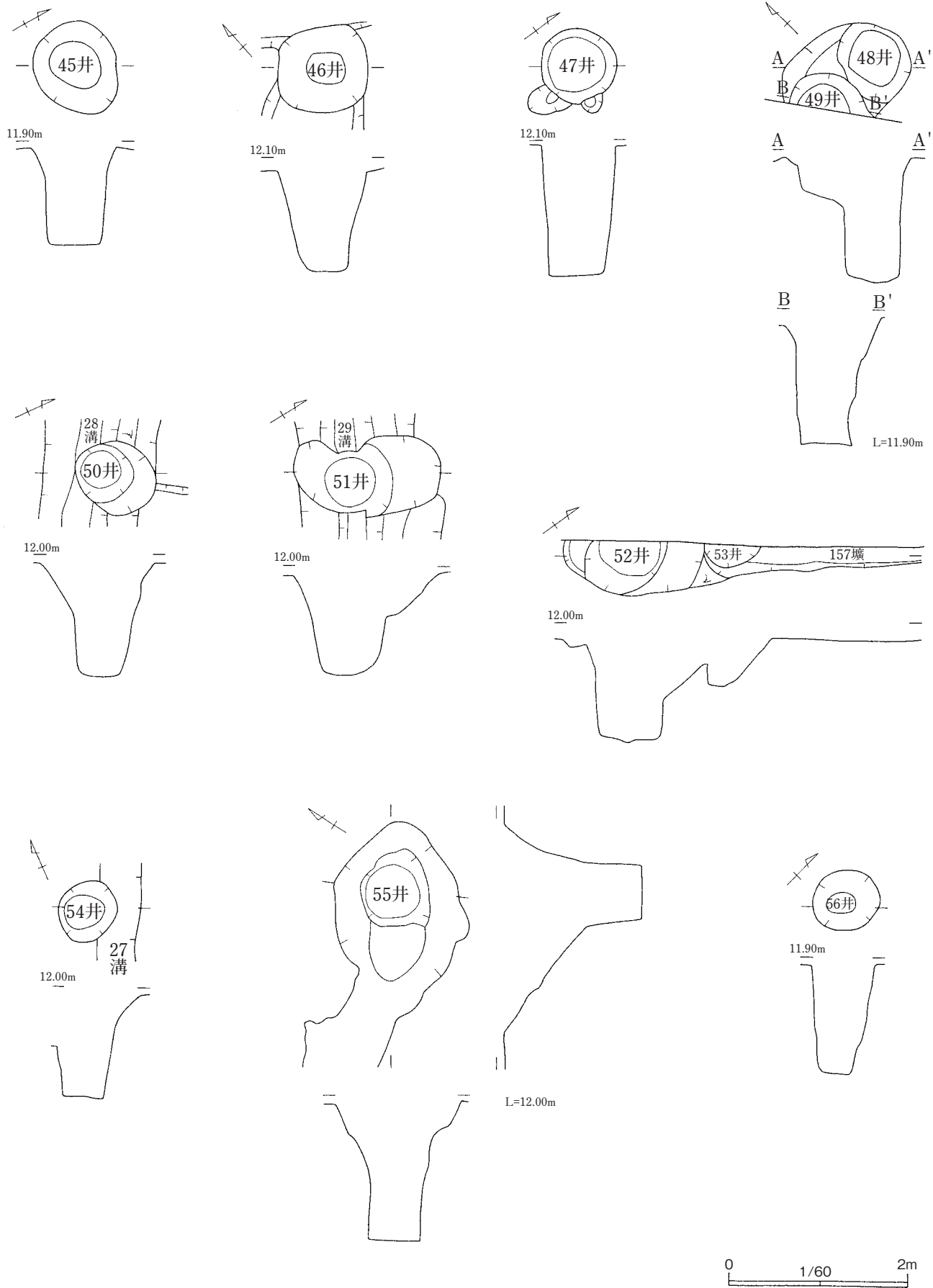
第57図 遺構13



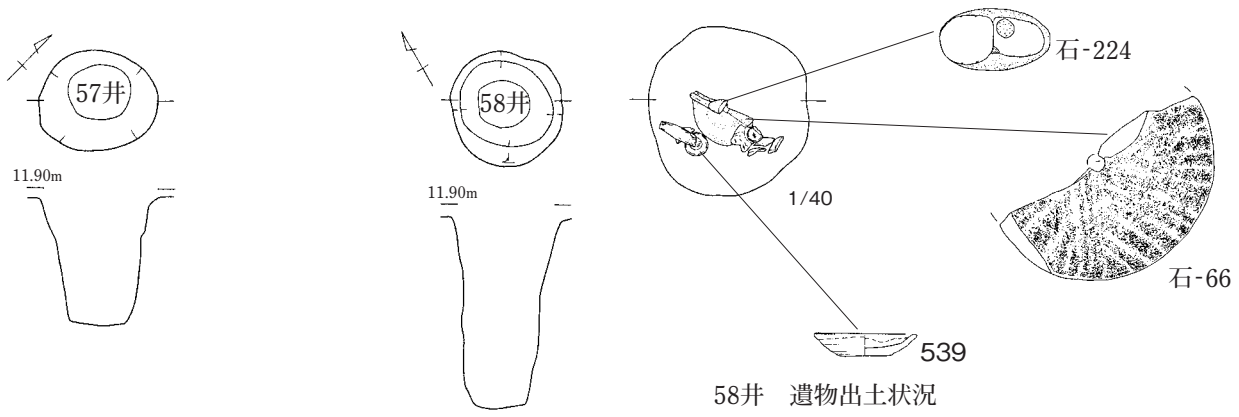
- 41井セクション
 1 暗灰褐色/LB◎ C、S△ 縮悪
 2 暗灰褐色 (灰色味強) /C、S▲ 軟質
 3 暗灰褐色 (2層より暗) /LR△ 軟質
 4 暗灰褐色/LR、S△ 縮良
 5 暗灰褐色 (上層より暗) /C、S、LR△
 6 暗灰褐色 (上層より暗) /C、S、LR△
 7 暗灰褐色/LB、LR△ 縮良



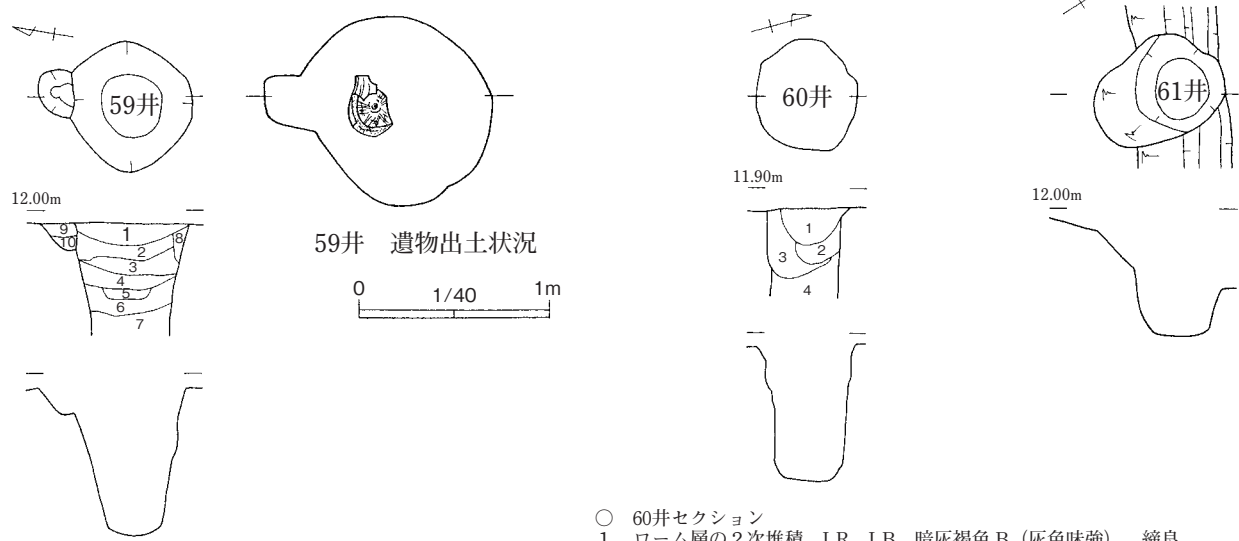
第58図 遺構14



第59図 遺構15



58井 遺物出土状況



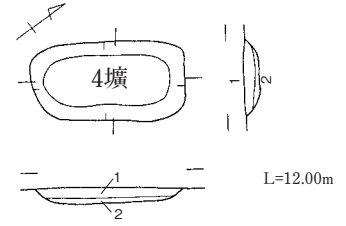
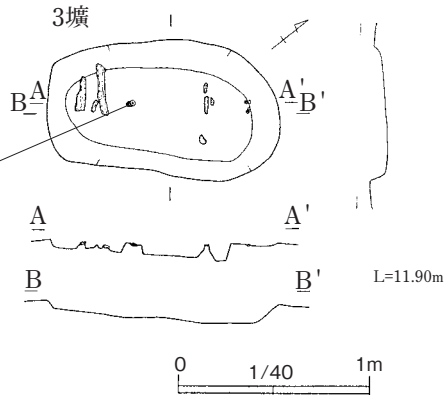
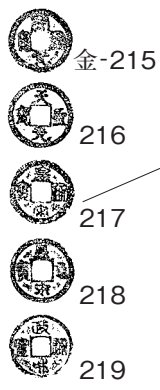
59井 遺物出土状況

- 59井セクション
- 1 暗灰褐色/LR、灰白色R万 締良
 - 2 暗灰褐色/LR△、C▲ 締良
 - 3 暗灰褐色/LB△、C▲ 締良
 - 4 暗灰褐色(灰色味強暗)/FE◎ C-LR△ 締やや悪
 - 5 暗灰褐色/LB◎ FE△ 軟質
 - 6 暗灰褐色(灰色味強暗)/FE◎ LB△ 軟質
 - 7 暗灰褐色/LR◎ FE△ 軟質
 - 8 暗灰褐色/LB◎ ポロポロ
 - 9 暗灰褐色/LR△、C▲ 締良
 - 10 暗灰褐色/LB、LR◎ 締良

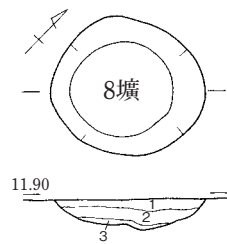
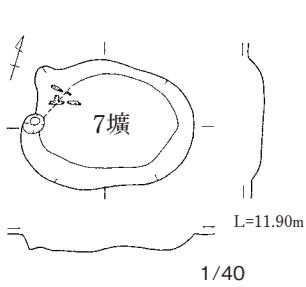
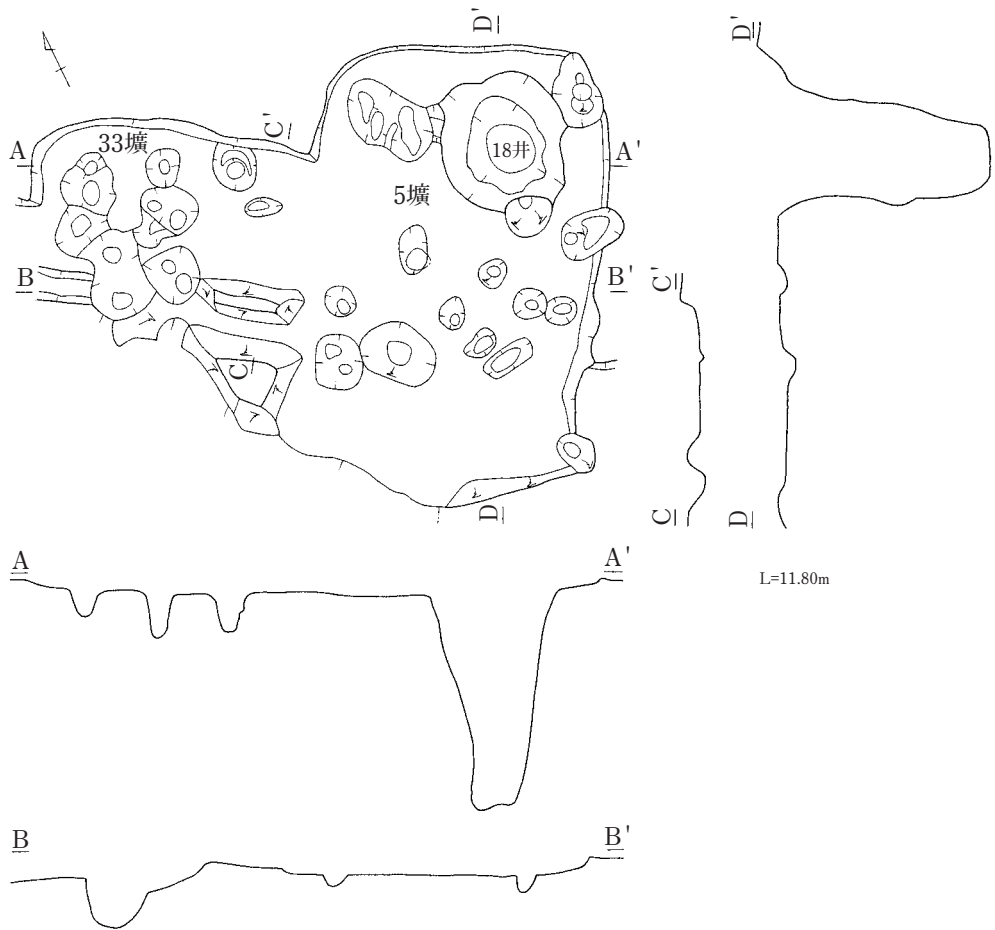
- 60井セクション
- 1 ローム層の2次堆積 LR、LB、暗灰褐色B(灰色味強) 締良
 - 2 暗灰褐色/灰B LR△ SR▲ 締悪
 - 3 暗灰褐色/LR△、C△ 締やや悪
 - 4 暗灰褐色/LB◎ LR△ 粘強

第60図 遺構16





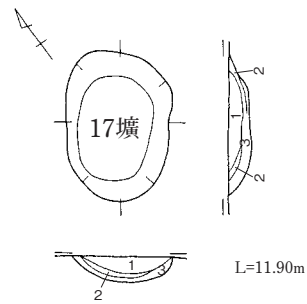
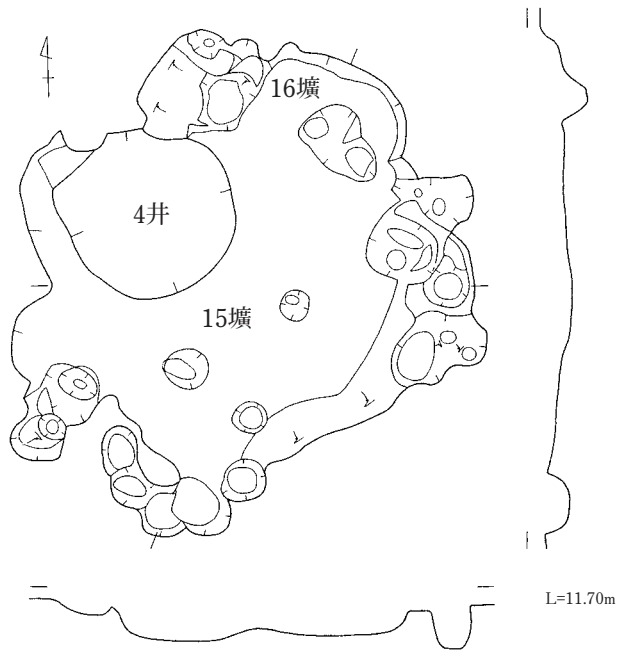
- 4 壙セクション
 1 暗灰褐色/LB、LR、T、L、FE、C、BBR 締良
 2 暗灰褐色/LB、LR、T、L、C、BBR 締良



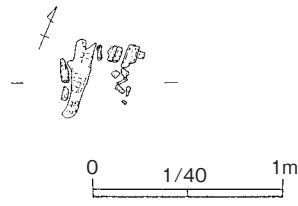
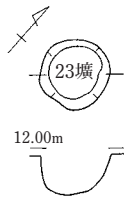
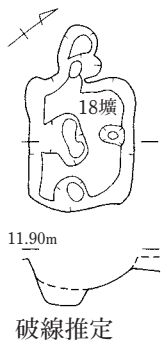
- 8 壙セクション
 1 暗灰褐色/LB、LR、CR△、SR△ 締悪
 2 暗灰褐色(灰色味強)/C、LR、FER 締良
 3 暗灰褐色/LR、LB、灰白色R△、CR△ 締良



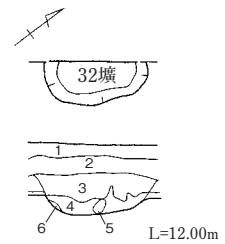
第61図 遺構17



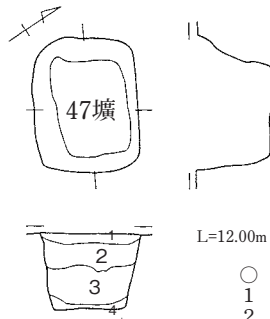
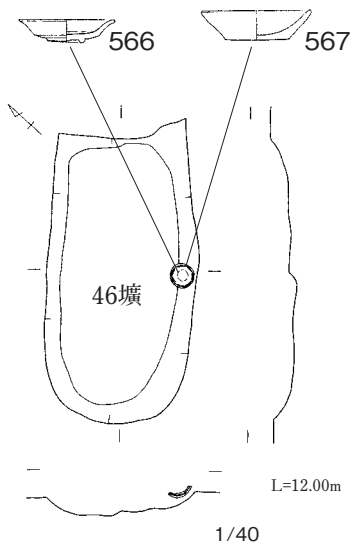
- 17坑セクション
 1 灰褐色/SR、C、LR
 2 灰褐色/SR、骨粉B
 3 灰褐色/LB、SR、C、LR 縮良



25坑 遺物出土状況



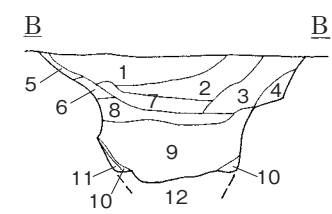
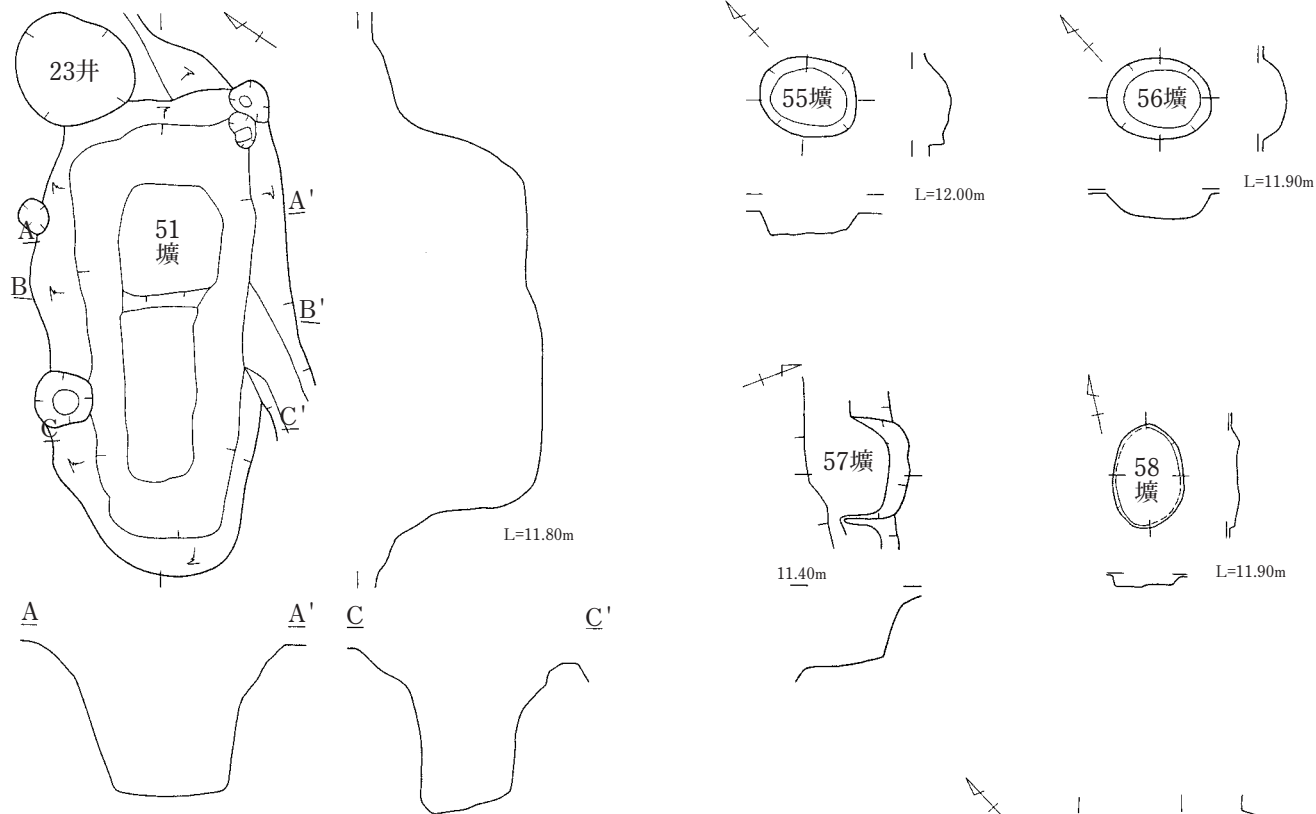
- 32坑セクション
 1 耕作土
 2 暗灰褐色/T◎、SR、C△ 堅緻
 3 暗灰褐色/LB、LR、SR、C△ 縮良 堅緻
 4 暗灰褐色/SR、C◎、骨片△ 縮良
 5 暗灰褐色B
 6 黄褐色/暗灰褐色R△ 軟質



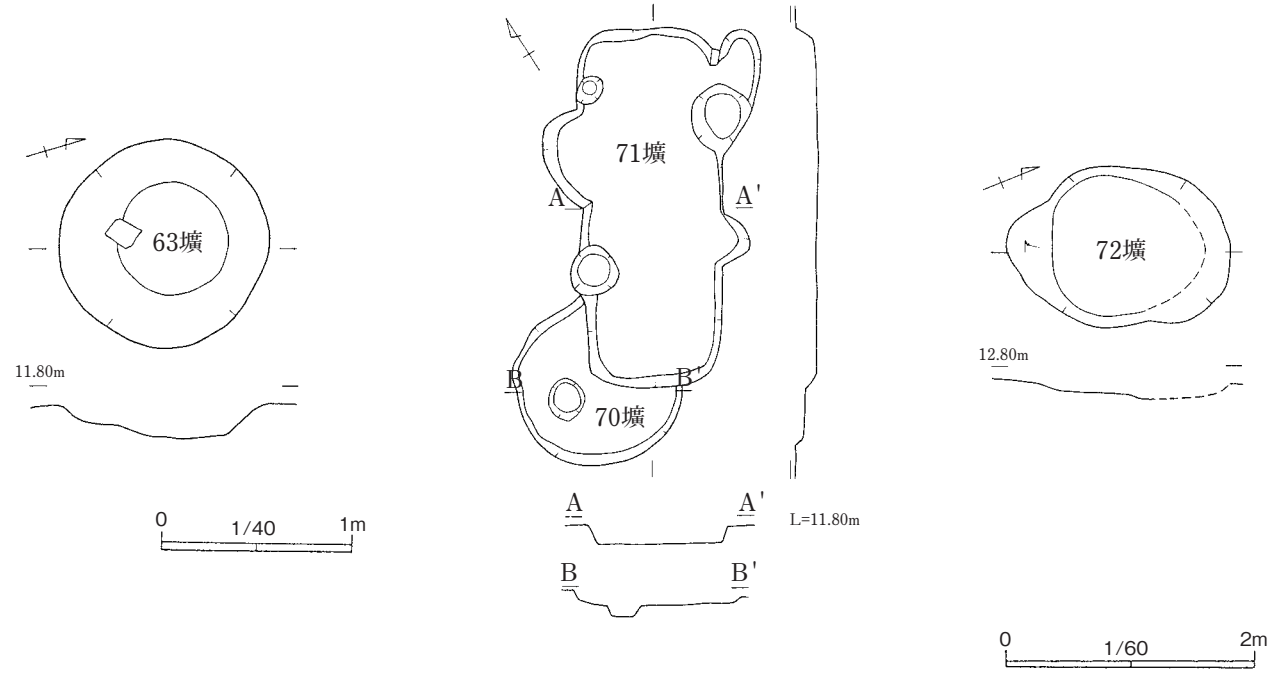
- 47坑セクション
 1 暗灰褐色/縮良
 2 暗灰褐色/LB◎ 灰色B、C△、LR、酸化物 縮良
 3 暗灰褐色/LB◎ LR、C△ 縮良
 4 暗灰褐色/LR (微細)、LB (ハード) 縮良



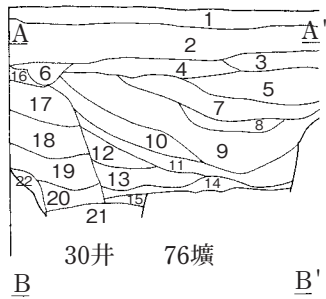
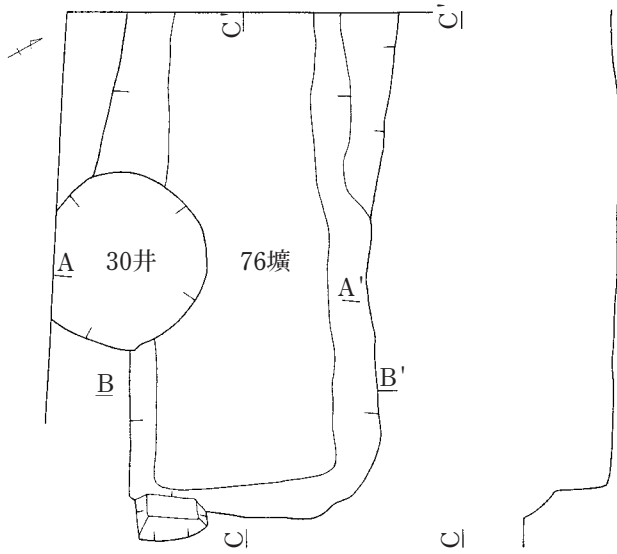
第62図 遺構18



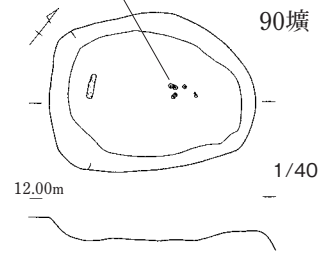
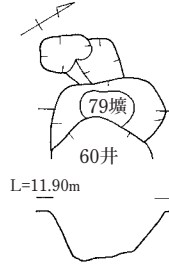
- 51坑セクション
- 1 暗灰褐色 / LR, FE△ 締良
 - 2 暗灰褐色 / FE◎ LR△ 締良
 - 3 暗灰褐色 (2層よりやや暗) / FE◎ LR△
 - 4 暗灰褐色 / FE◎ C△ 締良
 - 5 暗灰褐色 / LR, LB 締良
 - 6 暗灰褐色 / FE LR◎ 締良
 - 7 暗灰褐色 (灰色味強) / FE◎ LB LR△ 締良
 - 8 暗灰褐色 / LB◎ LR FE△ 締良
 - 9 暗灰褐色 (他の層より暗) / FE LR LB△ 軟質
 - 10 暗灰褐色 / C◎ 軟質
 - 11 暗灰褐色 / やや灰色味がる 軟質
 - 12 灰褐色粘土層 / C◎ 軟質



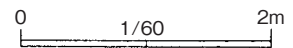
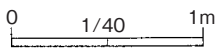
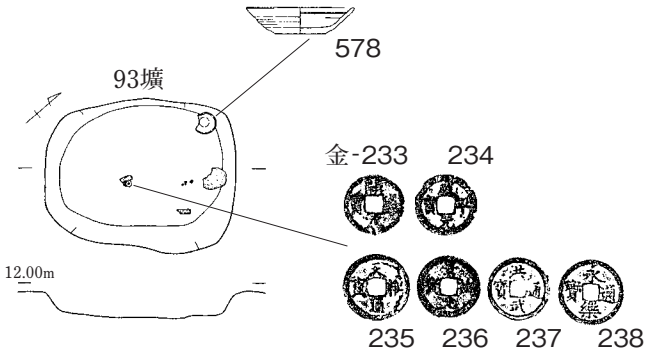
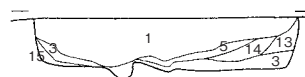
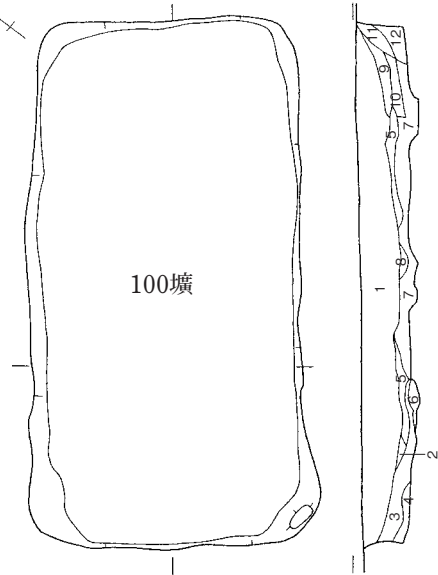
第63図 遺構19



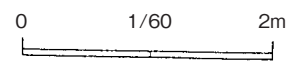
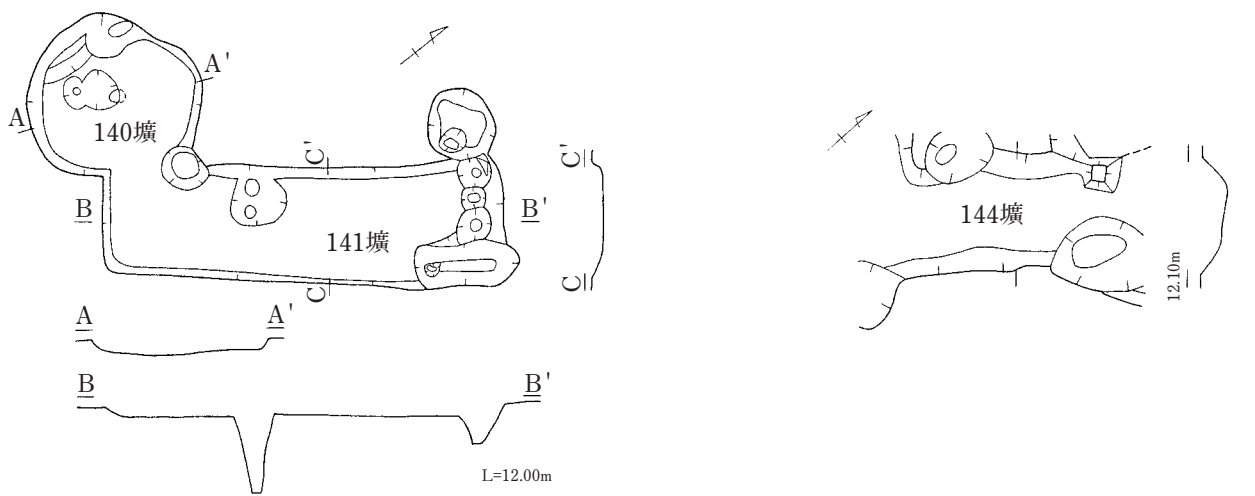
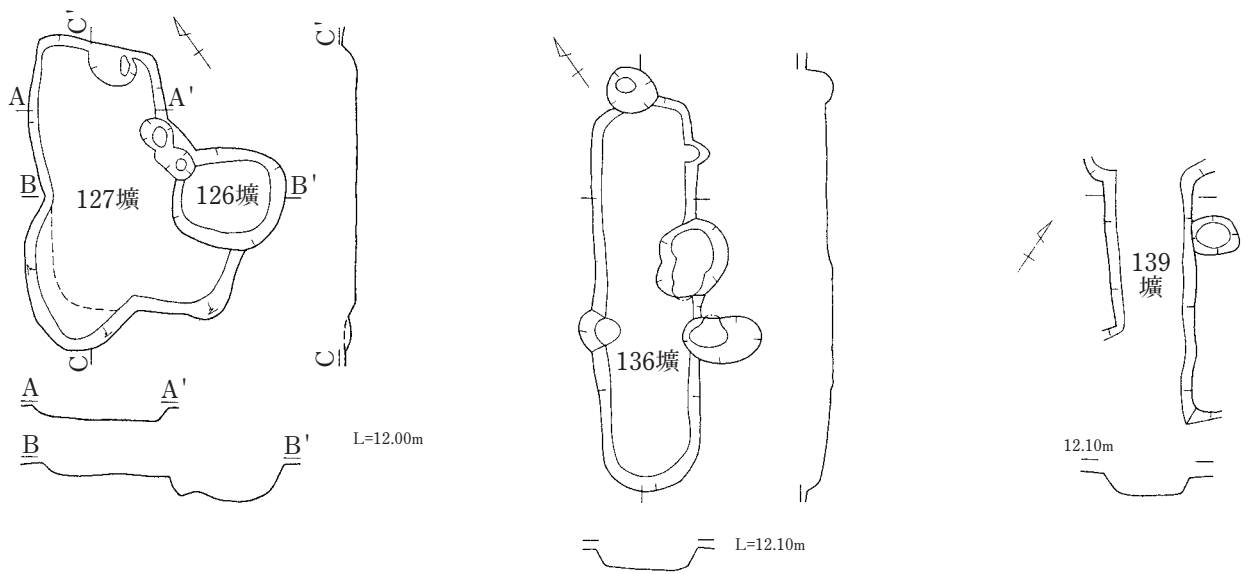
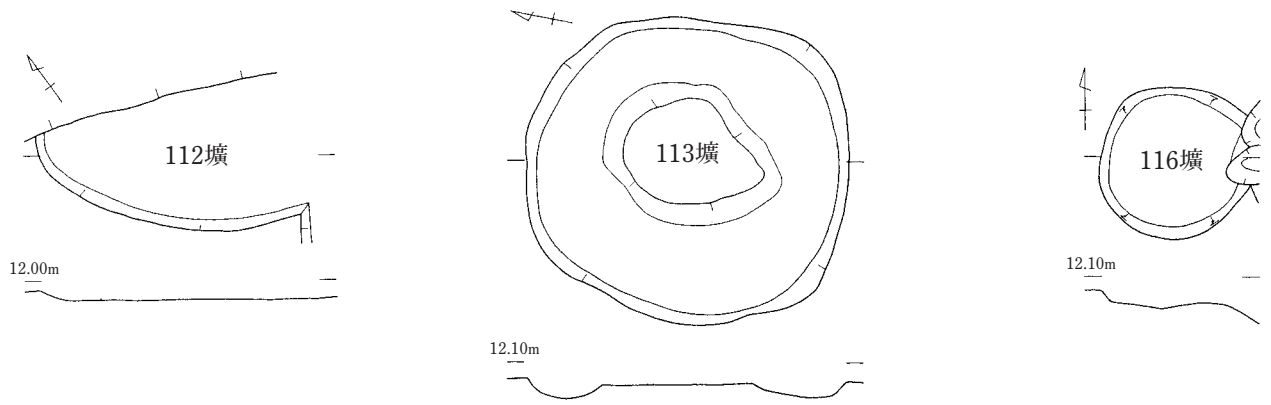
- 100m坑セクション
- 1 暗灰褐色/LB◎ ポロポロ
 - 2 暗灰褐色/LB◎ ポロポロ
 - 3 灰褐色/FE◎、LR C△ 縮良
 - 4 暗灰褐色(灰色味強)/LB◎ ポロポロ
 - 5 灰褐色/FE、C◎ 縮良
 - 6 LB層
 - 7 灰褐色/FE△ 縮良
 - 8 灰褐色/FE◎ 縮良
 - 9 暗灰褐色/灰白色粘土B◎ 縮良
 - 10 暗灰褐色/灰白色粘土B▲ 縮良
 - 11 暗灰褐色/灰白色粘土B、C△ 縮良
 - 12 暗灰褐色/LR、LB△ 軟度低
 - 13 暗灰褐色/LR、C▲、LB 縮良
 - 14 暗灰褐色/LB◎ 縮良
 - 15 暗灰褐色/LR◎ 縮良



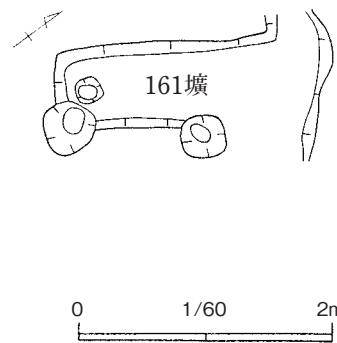
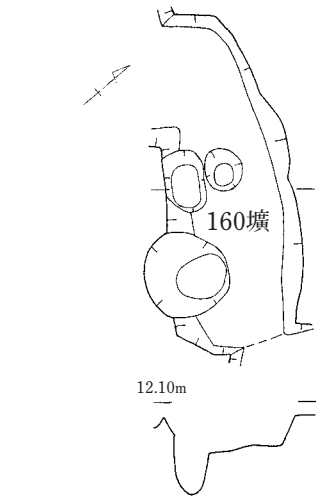
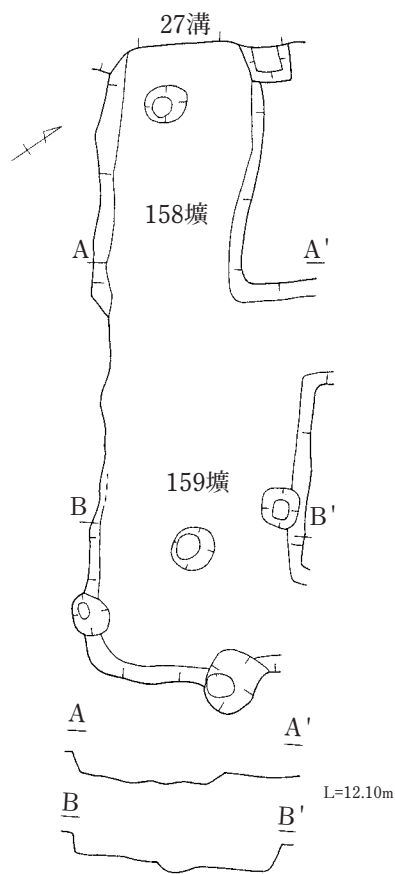
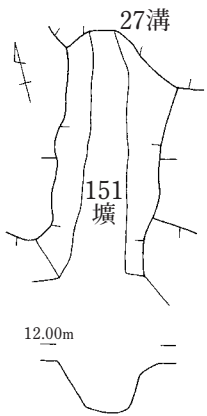
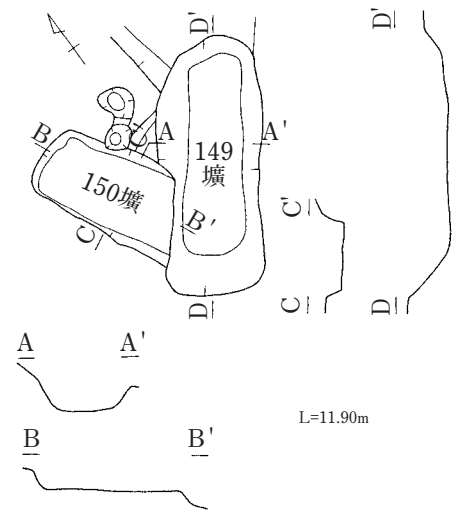
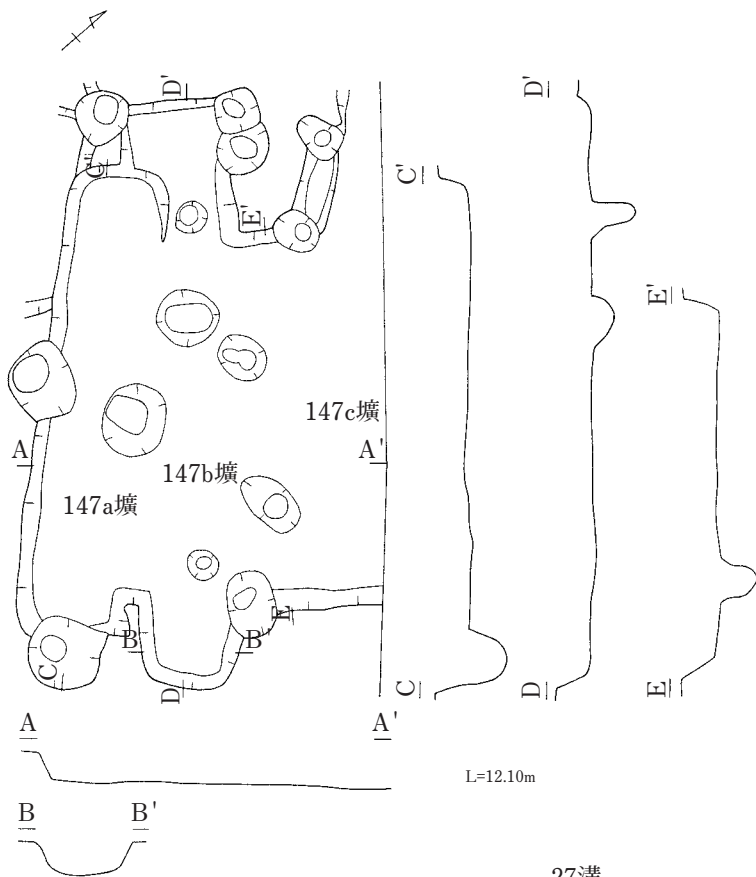
- 76m坑・30井セクション
- 1 耕作土
 - 2 暗灰褐色/T◎ FER◎ LB、LR△、C、BBR 縮良
 - 3 暗灰褐色/LR、BBR▲、LB、S、CR▲ 縮良
 - 4 暗灰褐色(灰色味強)/酸化物R◎、SR、CSR▲、LR 縮良
 - 5 暗灰褐色/LB、酸化物、LR、BBR、灰色R 縮良
 - 6 暗灰褐色/LR CSR△ 縮良
 - 7 暗灰褐色(黄色味強)/LB、LR、酸化物、FER、BBR▲ 縮良
 - 8 ソフトLの2次堆積 LR、BBR 縮やや悪
 - 9 LB(ソフト・ハード)、BBの混在層。LR、BBR 縮悪
 - 10 暗褐色/BBB◎、LR、BR、FER、LB△ 縮良
 - 11 暗褐色(灰色味)/FER◎、LR、C 縮良
 - 12 暗褐色/FER、LR 縮良
 - 13 暗灰褐色(暗灰色に近い)/酸化物、LR、LB 縮良 粘強
 - 14 暗灰色/酸化物、LR、有機物 粘強 滞水性
 - 15 暗灰色/LB☆ 縮悪
 - 16 暗灰褐色/LR、FER、BBR 縮良
 - 17 暗灰褐色/酸化物◎、BBR、LR△ 縮良
 - 18 暗灰褐色/LB、LR、酸化物、FER 縮良
 - 19 暗灰褐色/LB、FER、LR▲ 縮良
 - 20 暗灰褐色(灰色味強)/LB、酸化鉄◎ 粘強 シャリシャリ
 - 21 灰色粘質層 酸化物
 - 22 暗灰褐色(灰色味)/酸化物 LR◎ 縮悪 粘強



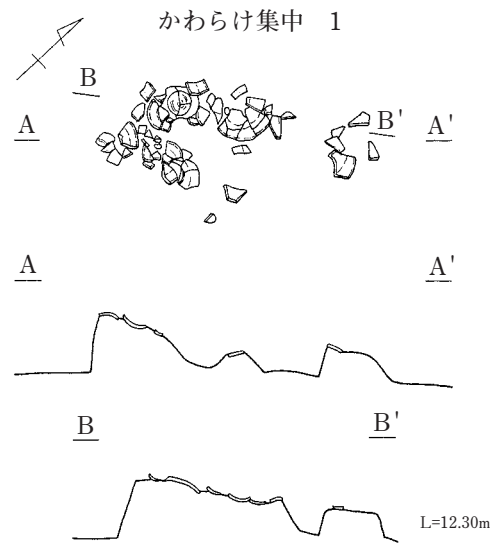
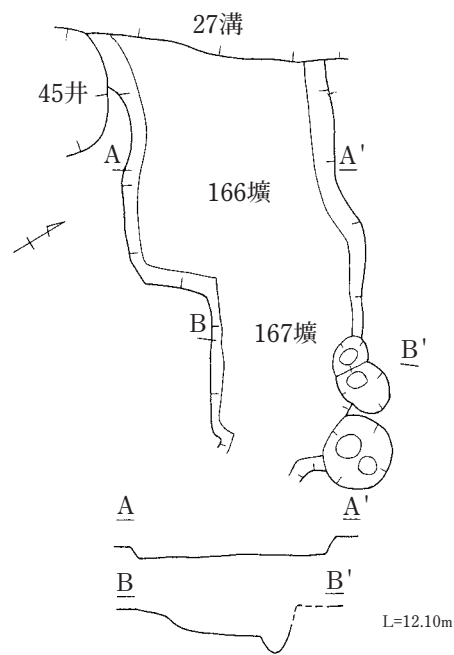
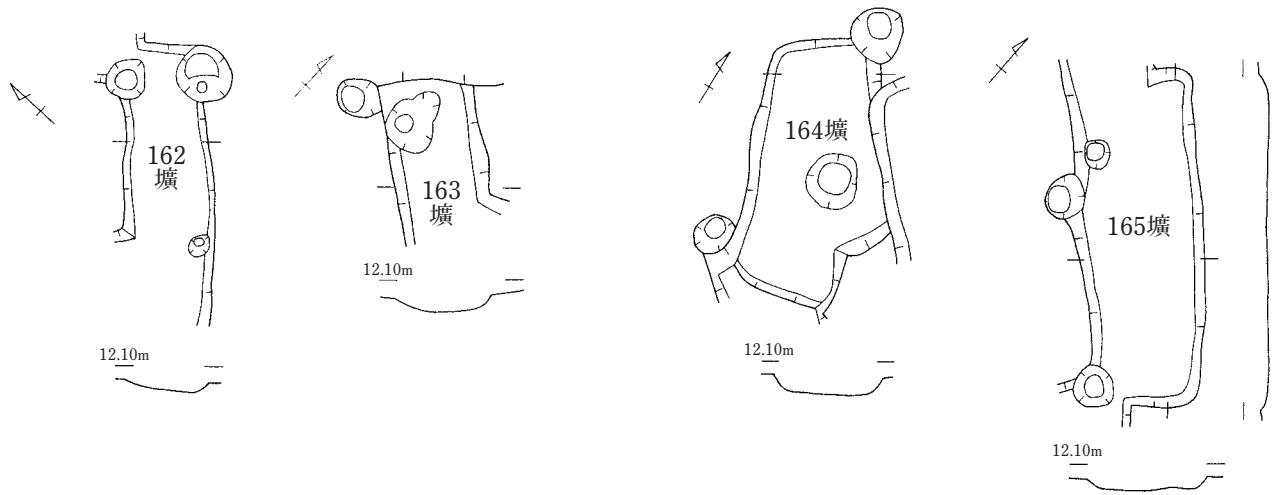
第64図 遺構20



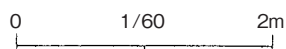
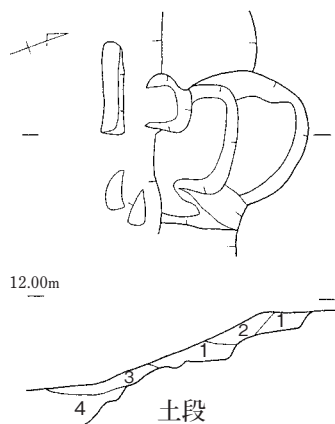
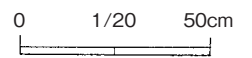
第65図 遺構21



第66図 遺構22



位置は第44図右上図



土段

- 土段セクション
- 1 暗灰褐色/LR○、FE△、C▲ 締良
- 2 暗灰褐色(茶色味)/LR、FE△ 締良
- 3 暗灰褐色(1層より灰色味やや強)/LR、FE○、C▲ 軟質
- 4 暗灰褐色/FE○、LR△ 軟質

第67図 遺構23

() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代 (埋没)	備考
1号堀	D・E-4・5・6 G、F-5 G	11~15・23・24溝→○→19・20溝			1,300×(1,850)	☆92	暗灰褐色/含灰色粘土層 中位LB層	龍泉青磁碗=13c末~14c初/中国白磁皿=15c後~16c前/漳州染付碗/常滑片口鉢=1500~1550/瀬美(天目=15c前~17c初・志野丸碗=17c初・丸皿=16c後・播鉢=16c後~17c初・徳利=16c中~後・尊式花瓶=15c前~中)/志戸呂(筒形碗=16c後・折縁皿=16c後・徳利=17c)/尾張山茶碗=13c中/かわらけ/焙烙/在地(播鉢・鞆の羽口)/部材/火打金/小柄/小札/鉄鎌/煙管/紡錘車/弾丸/八双鉢/銭貨/磨石/石臼/硯/砥石/板碑/歯(馬)3/スラグ(碗形磁滓)710g	17c~	
2号堀	D・E-4・5・6G、 F-5G				1,220×(1,850)	K-180		常滑(甕・壺=1250~1300)	13c~	
1号溝	B-0・1 G、C -1~3 G、D- 3・4G	6溝、6・7・8・16・17・21・26井、57壇 →○→3・19溝、45・46・52・55・59・61壇/4・8・19・26溝、19井、23・29・66・68壇	直線	箱葉研	幅☆313	☆128	暗灰褐色/含中位C層、灰層	龍泉青磁端反碗=14c後/中国口禿皿=13c~14c/常滑(片口鉢=1450~1550・甕=1220~1275・壺=1250~1300・鶯口壺=14c後)/瀬美(平碗=14c末~15c後・天目=15c前・縁釉小皿=14c末~16c前・腰折皿=15c後・卸皿=13c後~14c初・折縁深皿=15c中・卸目付大皿=15c前・直縁大皿=15c前・播鉢=15c末~16c後・筒形香炉=16c後・筒形容器=15c初・梅瓶=14c初・土製円盤)/肥前(碗=16c末・鉄絵皿=16c末・中皿=16c末~17c前・向付=16c末~17c前)/志戸呂(天目=16c中~17c・播鉢)/初山茶入/かわらけ=15c中~16c末/焙烙/在地(土鍋=15c後・播鉢=13c後・片口鉢=13c後~14c後・土釜=15c後・甕・鶯口壺・壺・鞆の羽口)/下駄/曲物(底板)/桶(側板)/漆碗/付札状製品/部材/丸棒材/加工材/毛抜き/釘(角)/フック状鉄製品/紡錘車/鉢/小柄/小札状鉄製品/裝飾釘/太刀の足金物/野杏/磨石/火打石/有穴球状石製品/板碑/五輪塔/土製円盤/瓢箪3/桃の種15/栗の実5/歯(馬)1/焼骨/スラグ3,905g	17c~	かわらけ集中 焙烙集中
2号溝	C-2G、 D-2・3 G	○→3溝	直線	ほぼ直上	幅☆(80)	☆16	暗灰褐色/含LR△、C▲ 縮良	備前壺=15c後/かわらけ/在地播鉢/粉挽白/炭化材	15c後~	
3号溝	C-1・2・4G、 D-3G	1・2溝→○/9・10溝、80壇	屈曲する	ほぼ直上	幅☆33	☆25	暗灰褐色/含LR△ 縮良	龍泉青磁碗=13c中~14c前/瀬美天目=16c後/肥前陶器鉢=16c末~17c前/焙烙/砥石	16c末~	
4号溝	A-0・1 G、Z-1 G	7・17井、57壇→○→7溝、65壇/1・5溝	直線 西側屈曲	箱葉研底面段を有する	幅☆545	☆130	暗灰褐色/含CR、SR▲、LR、LB、FER 縮良	龍泉(青磁碗=12c中~14c中・双魚文鉢=14c前~中)/常滑(甕=1450~1550・壺=1250~1300・片口鉢・鶯口壺=14c後)/瀬美(平碗=15c中・天目=16c後・縁釉小皿=15c中~16c前・折縁深皿=15c前・播鉢=15c中)/かわらけ/焙烙/在地(土鍋・片口鉢=13c後~14c後・播鉢・甕・土釜・壺・鞆の羽口)/下駄/桶(底板)/曲物(側板)/漆碗/杓子/柄/釘(角)/鉢/円板状鉄製品/銭貨/粉挽白/碁石/砥石/磨石/有穴球状石製品/板碑/五輪塔/骨(馬の下顎)/桃の種22/歯(馬)4/焼骨/炭化材/スラグ(碗形磁滓)4,240g	15c中~	
5a号溝	A・Z-1 G	24井→5b溝→○→4溝、65壇	直線	不明	幅(60)	25	暗灰褐色/含FE△、C、S▲ 縮良	かわらけ/在地土鍋/銭貨		
5b号溝	A・Z-1 G	24井→○→5a溝→4溝	直線	不明	幅62	24	暗灰褐色/含FE、LR◎ 縮良			
6号溝	C・D-4 G	○→1溝/50壇	直線	薬研	幅☆129	☆77	暗灰褐色/含LR◎、T、C▲ 縮良			
7号溝	Z-1G	4溝→○	直線	ほぼ直上	幅40	19	不明			
8号溝	B-1G	○→9溝/1溝	屈曲する	不明	幅40	14				

第8表 遺構一覧表1

()は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代 (埋没)	備考
9号溝	C-1・2 G	8溝→○→3 溝/10溝、23 井、51墳	直線	ほぼ直上	幅48	19		常滑(甕・壺=1250~1300)	13c~	
10号溝	C-1G	○→3溝/9 溝	直線	不明	幅60	18				
11号溝	D-6G、 E-5・6 G、F-5 G	23溝、89墳 →○→1堀、 83墳/17溝、 88墳	直線	箱葉研	幅☆(300)	☆120 K-159	暗灰褐色/ 含FE、LB △ 縮良	備前壺=15c後/かわらけ/焙烙/在地 (片口鉢=13c後・土鍋・甕の羽口)/銭 貨/磨石/茶臼/板碑/桃の種123/瓢箪 カ7/歯(馬カ)/炭化材1	15c後~	
12号溝	D・E-5 G	26溝→○→ 15溝	直線	箱葉研	幅☆(443) 西壁 280東壁	☆105 K-180	暗灰褐色/ (灰色味強) /含LR、LB ◎万 縮良	中国染付皿=15c後~16c後/瀬美(徳 利=16c中~後・天 目=16c後)/在 地 播鉢/かわらけ/焙烙/熔融物付土器 /桶(側板)/曲物(側板)/白木椀/漆椀 /折敷(底板・縁)/部材/加工材/火縄 鉄/銭貨/粉挽臼/磨石/桃の種237/焼 骨/炭化材/スラグ(椀形鋳滓)665g	16c後~	
13-1号溝	E-5G	○→15溝→ 1堀	長方形	ほぼ直上	(110)×160	60 K-220	不明			13溝を振替
13-2号溝	E-5G	○→15溝/ 22溝	長方形	ほぼ直上	365×112	78 K-209		焙烙		87墳を振替
13-3号溝	E-5G	1堀、22溝	長方形	ほぼ直上	340×157	80 K-212				86墳を振替
13-4号溝	D-5G	○→15溝/ 22溝	長方形	ほぼ直上	340×170	65 K-192	暗灰褐色/ 含FE、LR ◎ 軟質			85墳を振替
13-5号溝	D-5G	○→5溝/22 溝	長方形	ゆるやか	(276)×254	55 K-188	灰褐色/含 LR、LB△、 FE 粘有	銭貨/磨石		18溝を振替
14-1号溝	E-4G	16溝→○→ 1堀	不整長方 形	ほぼ直上	幅☆(65)	☆(35) K-197	暗灰褐色/ 含FE △ 軟質	焙烙		
14-2号溝	D・E-5 G	25溝→○→ 1堀	長方形	葉研	幅60	135 K-178	暗灰褐色	かわらけ/焙烙/在地播鉢/砥石/桃の 種10/炭化材		
14-3号溝	D-5G	26溝→○/ 20溝	不整長方 形	箱葉研	幅☆85	☆77 K-169	暗灰褐色/ 含LR◎ 軟度低	粉挽臼/炭化材		
14-4号溝	D-5G	26溝→○/ 12溝	不明	不明	幅☆(54)	☆60	LB層			セクションの み確認
15号溝	D・E-5 G	12・13-1・13 -2・13-4・13 -5溝→○	直線	ゆるやか	幅☆125	☆16 K-156	灰褐色/含 LR 軟質	かわらけ/焙烙/漆皿/桃の種30	16c~	
16号溝	E-4G	○→14-1溝	直線	ほぼ直上	幅(45)	☆45 K-130	暗灰褐色/ 含LR、FE △ 軟度低			
17号溝	F-5G	○→11溝	直線	箱葉研	幅☆(70)	☆35 K-110	暗灰褐色/ 含LR、LB △ 軟質			
18号溝	欠番									13-5溝へ振 替
19号溝	C-5G、 D-4・5 G、E-4 G	1・2・5溝→ ○/84墳	直線	ほぼ直上	幅☆83	☆55		瀬美折縁深皿=15c後/在地片口鉢= 13c後/磨石/スラグ255g/茶臼/硯/板 碑		
19a号溝	C・D-5 G	○→19b溝	直線	ほぼ直上 段あり	幅☆(90)	☆ 150 K-96	暗灰褐色/ 含LR◎、 CR△S縮良	板碑/志戸呂播鉢=16c後	16c後~	
19b号溝	C・D-5 G	19a溝、61井 →○/102墳	直線	葉研堀	幅☆130	☆58 K-97	暗灰褐色/ 含T◎、C▲、 S▲、LR 縮良		~18c	
20号溝	D・E-6 G、D5	1堀・21溝→ ○	L字形	箱葉研	幅234	80 K-104	暗灰褐色/ 含T、LR◎ CR、FER	龍泉青磁香炉/瀬美(折縁皿=16c末 ~17c初・播鉢=16c後)/肥前播鉢= 16c末~17c前/初山播鉢=16c後/磨 石/茶臼/石製品/スラグ575g	16c末~18c	
21号溝	E・F-6 G	○→20溝/ 32溝、90・ 103墳	直線	不明	幅130	24	暗灰褐色/ 含LR・LB △ 縮悪	磨石/板碑/かわらけ/銅製香炉/スラグ 35g		
22号溝	D-5D	○→1堀/ 11・13-2~5 溝	直線	不明	幅50	14 K-101.7	暗灰褐色		~17c	

第9表 遺構一覧表2

() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代 (溝は埋没)	備考
23号溝	E-5G	○→11溝/ 24溝、89墳	直線	ほぼ直上	幅 (40)	50 K-100	暗灰褐色/ 含LR、FE △		~17c	
24号溝	E-5G	23溝、89墳	直線	ほぼ直上	幅 (45)	17 K-90	暗灰褐色			
25号溝	D-E-4 G	○→19・14- 2溝/P	直線	不明	幅120	31 K-74	暗灰褐色	常滑片口鉢=1250~1275/在地片口 鉢=13c後	13c後~17c	
26号溝	D-4・5 G	○→14-3溝/ 1・19・20溝	弧状	ほぼ直上	幅☆ (43)	15 K-175	暗灰褐色/ 含LR △、 FE◎ 軟質	瀬美平碗=14c末~15c初/常滑甕/焙 烙/スラグ10g/桃の種3/栗の実3	14c末~17c	
27号溝	E-7G、 F-8・9 G	28溝→○→ 33溝	直線	箱葉研	南幅250 北幅 (140)	南 62 北 30	暗灰褐色/ 含LR◎、S、 C、LB△ 縮良	瀬美 (天目=16c後・縁釉小皿=15c前 ~16c前・丸皿=16c中~後・稜皿=16 c後・搗鉢=16c後~17c初・織部向付 =17c初)/肥前丸皿=16c末/志戸呂 (丸碗=16c中~17c・搗鉢)/かわらけ= 15c後/焙烙/熔融物付着土器/留金具 /煙管/鈴/弾丸/板状製品/銭貨/石臼 /砥石/碁石/磨石/板碑/桃の種1/スラ グ (椀形鋳滓) 180g	16c後~	南半分は溝 の重複カ
28号溝	F-G-7 G	○→27溝、 31井、113・ 145墳/50・ 51井、112・ 115墳	直線	ほぼ直上	幅☆140	☆89		板碑		
28a号溝	F-G-7 G	28b溝→○	直線	箱葉研	幅☆130	☆90	暗灰褐色/ 含T、FE▲		~18c	
28b号溝	F-G-7 G	○→28a溝	直線	ほぼ直上	幅140	☆ (48)	暗灰褐色/ 含LR、LB ◎ 縮良		~18c	
29号溝	D-E-6 G	20溝	直線カ	不明	不明	不明	不明	火打石		
30号溝	F-6・7 G	○→101墳/ 32井	直線	不明	幅50	7	暗灰褐色			切合
31号溝	G-8G、 F-7G	不明	直線	不明	幅25	不明	暗灰褐色			
32号溝	F-6G	105墳→○/ 21溝、109墳	直線	不明	幅70	5	暗灰褐色			切合
33号溝	F-9G?	27・34溝→ ○/35・36井	直線	ほぼ直上	幅☆160	70 K-50	CB	銭貨	16c後~	
34号溝	F-8・9 G?	○→33溝/ 27溝、36井、 149・150・ 156墳	直線	ほぼ直上	幅 (114)	24	暗灰褐色/ 含LR、C△、 FE▲ 縮良	瀬美 (天目=16c後・端反皿=15c末~ 16c前・縁釉小皿=15c末~16c前)/在 地搗鉢/かわらけ/焙烙/石臼/砥石/磨 石/火打石/板碑	16c後~	
1号井戸	A-2G	2・6墳	円形	ほぼ直上	径150	207	暗灰褐色/ 含LR、CR、 SR、LB △ 縮良	瀬美稜皿=16c後/焙烙/銭貨/板碑/ 梅の種カ1/スラグ15g	16c後~	
2号井戸	B-1G	1溝	円形	ロート形	径118	132	暗灰褐色/ 含LR、LB、 SR、CR ▲ 縮良	かわらけ/焙烙/板碑/桃の種3/スラグ 40g		底面方形
3号井戸	A-1G	なし	円形	ロート形	径202	212	暗灰褐色/ 含LR、CR、 SR、白色粘 土△ 縮良	中国茶入=13c~14c/瀬美縁釉小皿/ かわらけ/焙烙/柄杓 (底板)/銭貨/桃 の種3/炭化材/スラグ25g	16c~	
4号井戸	B-2G	○→15墳	円形	ほぼ直上	径138	180	暗灰褐色/ 含T、SR、LR、 CR 縮良	中国皿=13c/かわらけ/在地片口鉢= 13c後~14c前/砥石/板材/桃の種16	13c後~18c	
5号井戸	B-2G	なし	円形	ロート形	径130	160	褐色/含LB ◎、LR◎、 C、SR、T△ 縮やや悪	瀬美 (志野丸皿=16c末~17c初・稜皿 =16c後)/かわらけ/櫛/漆塗り小杯/銭 貨/粉挽臼/火打石/桃の種6	16c末~18c	
6号井戸	B-0G	○→1溝	円形	直上	径86	100 K-152	暗灰褐色/ 含LB △ FE △ 粘 質 軟度高	銭貨/栗の実1/桃の種2		
7号井戸	B-0G	○→1・4溝	円形	ほぼ直上	径104	136 K-154	ハードL2次 堆積	在地片口鉢=13c中/桃の種2	13c中~	

第10表 遺構一覧表 3

()は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
8号井戸	B-1G	○→1溝	不整形円形	ほぼ直上	径100	149 K-168	暗灰褐色	龍泉青磁碗=12c中~13c初/瀬美(卸目付大皿=15c前・直縁大皿=14c後~15c初・平碗=14c末~15c初・尊式花瓶=15c)・在地(土鍋・片口鉢=15c)/編具-鎌カ/砥石/磨石	15c~	足掛カ
9号井戸	B-3G	なし	円形	ロート形	180×160	167	暗灰褐色/含LR、BBR△、CR、T	龍泉青磁鉢カ=16c末カ/備前壺=15c後/桶(底板)/銭貨/粉挽白/桃の種8/昆虫1	15c後~18c	足掛有り
10号井戸	D-3G	なし	円形	ロート形	径129	175	暗灰褐色/含LR△、SR、CR 縮良	常滑甗/在地播鉢/切羽/粉挽白/磨石/板碑/桃の種2		
11号井戸	B・C-3 G	36墳	円形	ほぼ直上	径138	200	暗灰褐色/含LR、LB△、T、C▲ 縮良	瀬美平碗=14c末~15c初/在地香炉/樽(蓋板カ)/竹片/桃の種1/炭化種子	14c末~	
12号井戸	C-2G	1溝、12井	円形	ほぼ直上	径112	139	暗灰褐色/含LR、CR、SR▲、T 縮良	瀬美天目=16c中/在地(播鉢・土鍋)/漆碗/搗臼	16c中~	足掛有り
13号井戸	C-4G	49墳→○	円形	ロート形	径104	180	暗灰褐色/含LR◎、T、SR△ 縮良	瀬美縁袖小皿=15c末~16c前/かわらけ/鞆の羽口/縁カ/砥石/桃の種1/炭化材/巻貝/焼骨/板/炭化物/漆の被膜	15c末~	
14号井戸	B-1G	なし	円形	ほぼ直上	径142	148	暗灰褐色/含LR、LB◎、FER、CR▲	在地播鉢/漆碗/部材/オナモミ26		
15号井戸	A-1G	なし	円形	ほぼ直上	径104	106	暗灰褐色/含LR、LB、C 縮悪	在地播鉢/炭化材		
16号井戸	B-1G	1溝	円形	ほぼ直上	径96	114 K-192	暗灰褐色	桃の種5		
17号井戸	B-0G	○→4溝	長方形	ほぼ直上	117×86	55 K-161	暗灰褐色/含灰白色粘土B△粘強	焙烙	16c~	土壌カ
18号井戸	B-1G	○→5墳	円形	ほぼ直上	径110	182	暗灰褐色/含FE◎、LR、LB、C、FER 縮良	在地播鉢/焙烙/駒カ/円盤状製品/火打石/炭化材/焼骨/スラグ20g		
19号井戸	B-0G	1・4溝、5墳	楕円形	ロート形	160×118	185	暗灰褐色/含酸化物、LR、T、BBR 縮良	瀬美平碗=14c初~中/桶(底・側板・タガ)/粉挽白/桃の種1/栗の実3	14c初~	
20号井戸	B-2G	○→65墳/67墳	楕円形	ロート形	150×114	158	暗灰褐色/含LR、CR、SR△ 縮良	在地播鉢/かわらけ/銭貨/歯(馬カ)/桃の種2/巻貝3/二枚貝4/スラグ10g		
21号井戸	B-1G	○→1溝	円形	直上	径75	68 K-192	不明	磨石/炭化種子1		
22号井戸	B-2G	○→73墳	円形	ほぼ直上	(85)×100	135	暗灰褐色/含LB◎、LR◎、C、SR 縮良	粉挽白		
23号井戸	C-1G	9溝→○/51墳	円形	ほぼ直上	径98	117	暗灰褐色/含LB、LR◎、CR、SR△、T 縮良	搗臼		
24号井戸	Z-1G	○→5溝/4溝、65墳	円形	ほぼ直上	径130	196	暗灰褐色/含FE◎、LR、LB△	へら状鉄製品/桃の種14/炭化材		底面段有り
25号井戸	C-1G	なし	円形カ	ほぼ直上	径124	122	暗灰褐色/含LR△、C、S▲ 縮良			
26号井戸	D-4G	○→1溝	円形	ほぼ直上	径106	☆(88) K-141	暗灰褐色/含LR、LB△ 縮良	桃の種5		
27号井戸	Z-1G	なし	円形	ほぼ直上	径70	97	暗灰褐色/含SR、CR、LR、LB△ 縮良			

第11表 遺構一覧表 4

() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
28号井戸	C-1G	なし	円形	ロート形	径92	104	暗灰色/含C、LR△ 縮良	桃の種5		
29号井戸	C-1G	なし	円形カ	不明	径(87)	102	暗灰褐色	かわらけ		
30号井戸	Z-0・1 G	○→76壊	円形	ほぼ直上	径140	162 K-180	暗灰褐色/ 含酸化鉄○、 BBR、LR △ 縮良	桃の種3		
31号井戸	F-7G	28溝→○	円形	ほぼ直上	径120	126	暗灰褐色/ 含LR、T、C △ 縮良	かわらけ/焙烙/熔融物付着土器/板碑 /桃の種1	16c～	
32号井戸	F・G-7 G	30溝→○	楕円形	ロート形	150×110	125	暗灰褐色/ 含LR、C△ 縮良	熔融物付着土器/磨石/粉挽臼/板碑		
33号井戸	F-9G	○→27溝	円形	ほぼ直上	径76	70 K-127	暗灰褐色	かわらけ/炭化材		
34号井戸	F-7・8 G	116壊	円形	ロート形	径160	133	暗灰褐色/ 含LR、T△ 縮良	かわらけ/環付金具/桃の種1/スラグ2g		
35号井戸	F-9G	○→27溝	円形	ほぼ直上	径114	42 K-102	暗灰褐色	瀬美天目=16c後	16c後～	
36号井戸	F-9G	○→27溝/ 33・34溝	円形	ほぼ直上	径80	110 K-150	暗灰褐色	瀬美端反皿=15c末～16c前/焙烙/在 地搦鉢/銭貨/粉挽臼/板碑/桃の種13	16c後～	
37号井戸	G-10G	○→27溝	円形	ほぼ直上	径70	105 K-112	暗灰褐色			
38号井戸	F-8G	なし	円形	ほぼ直上	径120	234	暗灰褐色/ 含C、LR、S △ 縮やや 悪	桃の種5/二枚貝1/スラグ40g		
39号井戸	F-8G	土壌の重複 カ	円形	ほぼ直上	径80	105	暗灰褐色/ 含LR、C、S ▲ 縮良	常滑甕=1550～1600/かわらけ	16c中～	
40号井戸	F・G-7 G	なし	楕円形	ロート形	185×134	212	暗灰褐色/ 含FE○、C、 S、LR△ 縮良 堅緻	板碑/粉挽臼/スラグ15g		
41号井戸	F-8G	123壊→○	円形	ロート形	径78	☆(84) K-99.5	暗灰褐色/ 含LB○、C、 S△ 縮悪	初山香炉=16c後/在地搦鉢/板碑	16c後～	
42号井戸	G-8G	なし	円形	直上	径108	172	暗灰褐色/ 含LR、C△ 縮やや悪	かわらけ/板碑		
43号井戸	G-8・9 G	なし	円形	ほぼ直上	178×152	196	暗灰褐色/ 含LR、C△ LB▲ 縮良	かわらけ/在地搦鉢/毛抜き状製品/銭 貨		
44号井戸	F-9G	なし	円形	ロート形	径150	170	暗灰褐色	在地搦鉢/板碑		
45号井戸	F-9G	27溝	円形	ロート形	径104	105	暗灰褐色	在地搦鉢/粉挽臼/板碑		
46号井戸	F-8・9 G	159壊	円形	ほぼ直上	径110	116	暗灰褐色	瀬美天目=16c後/かわらけ/在地搦鉢	16c後～	
47号井戸	H-8G	なし	円形	直上	径82	145	暗灰褐色	瀬美搦鉢=16c中/かわらけ=16c中～ 末/小柄/粉挽臼/炭化材	16c中～	
48号井戸	F-8G	○→49井	円形	直上	径90	137	暗灰褐色	磨石/板碑		
49号井戸	F-8G	48井→○	円形カ	ほぼ直上	径88	142	暗灰褐色	板碑		
50号井戸	G-7G	28溝	円形	ほぼ直上	径92	128	暗灰褐色	かわらけ/搦鉢(産地不明)/磨石		
51号井戸	G-7G	28溝	不整円形	ほぼ直上	90×80	116	暗灰褐色			
52号井戸	E-8G	53井	円形カ	ほぼ直上	径80	112	暗灰褐色	焙烙	16c～	
53号井戸	E-8G	52井	円形カ	ほぼ直上	径(65)	63.5	暗灰褐色	焙烙	16c～	
54号井戸	F-8G	27溝	円形	ほぼ直上	径70	115	暗灰褐色	板碑		
55号井戸	B-3G	10壊→○/ P	円形	ロート形	径165	150	暗灰褐色/ 含T、LR、C、 SR、LB 縮良	備前壺=15c後/瀬美天目=15c末～ 16c前/焙烙/銭貨/砥石	15c末～18c	9壊を振替
56号井戸	B-1G	13・14壊	円形	直上	径70	120	暗灰褐色/ 含LR○、 LB、CR、 SR▲ 縮良	かわらけ/在地搦鉢		19壊を振替

第12表 遺構一覧表5

()は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
57号井戸	B-2G	なし	円形	ほぼ直上	径95	100	暗灰褐色/ 含灰○、SR ○、LR、LB 縮良			20壙を振替
58号井戸	A-1G	なし	円形	ほぼ直上	径90	150	暗灰褐色/ 含LR、砂粒、 C▲ 縮悪	瀬美はさみ皿=15c末~16c前/銭貨/ 磨石/粉挽臼/種子/漆椀	15c末~	21壙を振替
59号井戸	C-3G	P	円形	ほぼ直上	径100	118	暗灰褐色/ 含LR、灰白 色R万 縮 良	瀬美播鉢=15c末~16c前/在地播鉢/ 焙烙/茶臼	15c末~	44壙を振替
60号井戸	B-2G	79壙	円形	直上	径82	109	L2次 堆 積 LB、LR、暗 灰褐色土B 縮良	銭貨/粉挽臼		69壙を振替
61号井戸	D-5G	○→19a・b 溝	楕円形	ほぼ直上	108×82	94	暗灰褐色/ 含T◎、CR 縮良			84壙を振替
1号土壙	欠番									出土遺物を A-2G遺 物 集中区とす る
2号土壙	A-1・2 G	○→6壙→1 井	長方形	直上	(388)×150	10	暗灰褐色/ 含T◎ LR ◎ C LB BBR 縮良	焙烙	16c~	
3号土壙	B-1G	なし	楕円形	ほぼ直上	124×72	10	暗灰褐色	銭貨/骨/歯		墓壙
4号土壙	B-2G	なし	長方形	ゆるやか	124×62	☆13	暗灰褐色/ 含LB、LR、 T、FE、C、 BBR 縮良	かわらけ/磨石		
5号土壙	A・B-1 G	4溝、18・19 井、33壙	長方形	ゆるやか	(365)×238	18	暗灰褐色/ 含灰色粘土 B◎、C、SR、 LB、LR、酸 化物△ 縮 良	初山大皿/かわらけ/煙管/銭貨		
6号土壙	A-2G	○→1井/2 壙	円形	ほぼ直上	(115)×(82)	33	暗灰褐色/ 含 T ◎ LR ◎、C、LB、 BBR 縮良			
7号土壙	B-1G	68壙→○/P	楕円形	ほぼ直上	180×125	9	暗灰褐色	かわらけ/銭貨/歯5/骨		墓壙
8号土壙	A-1G	なし	円形	ゆるやか	径125	12	暗灰褐色/ 含LR、LB、 CR △、SR △ 縮悪	かわらけ/焙烙/在地播鉢/スラグ15g	16c~	
9号土壙	欠番									55井へ振替
10号土壙	B-3G	○→55井/P	楕円形	ゆるやか	(112)×74	95	暗灰褐色			
11号土壙	B-3G	12壙	円形	ゆるやか	(70)×66	14	暗灰褐色	瀬美小壺=15c末~16c前/在地播鉢/ かわらけ/石臼(12壙と一括)		
12号土壙	B-3G	11・28壙	長方形	ほぼ直上	160×80	12	暗灰褐色	瀬美小壺=15c末~16c前/在地播鉢/ かわらけ/石臼(11壙と一括)		
13号土壙	B-1G	14壙	長方形	ほぼ直上	194×100	14	暗灰褐色/ 含T、LR◎、 C、SR、BBR 縮良			
14号土壙	B-1G	13壙	円形	ゆるやか	径90	10	暗灰褐色			
15号土壙	B-1・2 G	4井→○	不整形	ほぼ直上	250×254	☆24	暗灰褐色/ 含C◎、CR ◎、T、SR、 LB 縮良	瀬美(天目=16c後・志野丸皿=16c末 ~17c初)/肥前向付=16c末~17c前/ かわらけ/釘(角)/小柄/銭貨	16c後~18c	
16号土壙	B-2G	15壙	長方形	ほぼ直上	(125)×(66)	18	暗灰褐色/ 含C◎、CR ◎、T、SR、 LB 縮良			
17号土壙	B-1G	なし	長方形	ゆるやか	118×80	20	灰褐色/含 SR、C、LR	骨が層状に出土		火葬墓

第13表 遺構一覧表 6

() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
18号土壇	A・B-2 G	P	長方形	ほぼ直上	100×84	24	暗灰褐色/ 含T、LB◎ C、SR、LR、 FER ポロ ポロ 堅緻		~18c	
19号土壇	欠番									56井へ振替
20号土壇	欠番									57井へ振替
21号土壇	欠番									58井へ振替
22号土壇	A-1G	73壇	楕円形	ゆるやか	120×100	☆15	暗灰褐色/ 含 T ◎、 FER、LB、 LR、C △、 SR 縮良			
23号土壇	C-1G	1溝	円形	直上	径56	30	暗灰褐色カ	かわらけ		
24号土壇	A-1・2 G	なし	長方形	ゆるやか	322×(154)	☆20	暗灰褐色			重複カ
25号土壇	C-3G	34壇	不明	不明	範囲48×42	不明	C、S	焼骨/炭化物(炭化材)		火葬墓カ 2次埋葬
26号土壇	B-3G	なし	円形カ	ほぼ直上	径96	10	暗灰褐色			
27号土壇	B-3G		長方形	ゆるやか	(236)×108	7				2基重複
27a号土壇	B-3G	27b壇	隅丸長方形	ゆるやか	(236)×67	7	暗灰褐色			
27b号土壇	B-3G	27a壇	長方形	ゆるやか	(108)×(43)	6	暗灰褐色			
28号土壇	B-2G	12・67・77壇	長方形	ほぼ直上	(255)×75	14	暗灰褐色			
29号土壇	B-2G	1溝	長方形	ほぼ直上	238×104	☆22	暗灰褐色/ 含LB、LR ◎ 縮良			
30号土壇	B-3・4 G、C-4 G	31壇→○	長方形	ほぼ直上	382×75	12	暗灰褐色/ 含LB △、 LR ▲ 縮 やや良	瀬美総織部向付=17c初/磨石	17c初~	
31号土壇	C-3G	○→30壇	長方形	ゆるやか	(216)×98	4	暗灰褐色	釘(角)/銭貨		
32号土壇	B-4G	なし	方形カ	ほぼ直上	83×(35)	☆32	暗褐色/含 T◎、SR、C △ 堅緻			
33号土壇	A-1G	4溝	長方形	ほぼ直上	(232)×(126)	16	暗灰褐色/ 含T、LR、 LB、SR△、 FE、BBR 縮良	かわらけ	~18c	
34号土壇	C-3G	○→P / 25 壇	長方形	ほぼ直上	260×90	10		焼骨		
35号土壇	B・C-3 G	P	長方形	不明	158×115	不明	暗灰褐色			
36号土壇	B・C-3 G	37壇	長方形	ほぼ直上	(98)×40	10	暗灰褐色			
37号土壇	B-3G	36壇	不整形	ほぼ直上	104×76	20	暗灰褐色			
38号土壇	C-3G	39壇	楕円形	不明	(50)×45	3	暗灰褐色			
39号土壇	C-3G	38壇	円形	不明	径50	3	暗灰褐色			
40号土壇	欠番									
41号土壇	欠番									
42号土壇	C-3G	なし	長方形	ゆるやか	162×66	8	暗灰褐色			
43号土壇	C-3G	なし	楕円形	ほぼ直上	103×82	8	暗灰褐色			ピットの重複カ
44号土壇	欠番									59井へ振替
45号土壇	D-3G	1溝→○	長方形	ゆるやか	185×118	16	暗灰褐色			
46号土壇	D-3G	1溝→○	長方形	ゆるやか	150×78	12	暗灰褐色	瀬美腰折皿=15c後/かわらけ	15c後~	墓壇 供献カ
47号土壇	C-4G	なし	長方形	ほぼ直上	107×82	☆62	暗灰褐色/ 含LB、灰色 土B、C △、 LR、FE 縮良	瀬美丸皿=16c後	16c後~	
48号土壇	欠番									
49号土壇	C-4G	13井	長方形	ほぼ直上	150×85	☆15	暗灰褐色/ 含LR◎ T▲ 縮良			
50号土壇	C-4G	6溝	長方形	ゆるやか	(225)×(60)	6	暗灰褐色			

第14表 遺構一覧表7

()は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
51号土壌	C-1G	9溝→○→72壙/23井	長方形	ほぼ直上	380×200	134	暗灰褐色/含LR、FE△、C 締良 最下層に植物遺存体層	在地片口鉢=14c前/かわらけ/銭貨/磨石/骨/粉挽臼/瓢箪カ100/桃の種9	14c前～	
52号土壌	B-3G	1溝→○	長方形カ	ゆるやか	(172)×(75)	5	暗灰褐色			
53号土壌	B-3G	不明	不整形	不明	(190)×65	不明	不明			ピットの重複カ
54号土壌	B-3G	78壙	長方形	ゆるやか	152×85	14	暗灰褐色/含LR、白色粘土R◎、CR、T、SR 締良		～18c	
55号土壌	C-3G	1溝→○/66壙	楕円形	ほぼ直上	77×63	18	暗灰褐色/含LR△、T▲ 締良		～18c	
56号土壌	C-3G	1溝→○	楕円形	ほぼ直上	83×64	19	暗灰褐色/含LR△、C▲ 締良			
57号土壌	A-0G	○→4溝	方形	ほぼ直上	82×(46)	56 K-75	暗灰褐色			
58号土壌	D-4G	1溝→○	楕円形	ほぼ直上	82×56	9	暗灰褐色			
59号土壌	D-4G	1溝→○/46壙	長方形	ほぼ直上	(91)×57	33	暗灰褐色			
60号土壌	欠番									
61号土壌	D-3G	3溝→61壙	長方形カ	ゆるやか	(142)×80	16				
62号土壌	B-2G	なし	長方形	ほぼ直上	164×86	☆18	暗褐色/含LB、LR、CR、T 締良		～18c	
63号土壌	A・Z-1 G	なし	円形	ほぼ直上	径83	14	灰褐色/含LB、LR、FE 粘有	板碑		
64号土壌	欠番									
65号土壌	Z-1G	4・5溝、20井→○→7溝	長方形カ	ほぼ直上	(370)×278	22				
66号土壌	C・D-3 G	1溝→○/55壙	長方形	ほぼ直上	338×(80)	14 K-32	暗灰褐色/含LB◎、LR△、T▲ 締良	かわらけ/茶臼	～18c	
67号土壌	B-2G	20井、28壙	長方形	ほぼ直上	264×120	22	暗灰褐色/含LR◎、LB、S、CR 締良			
68号土壌	B-1G	○→7壙/1溝	長方形	ほぼ直上	134×78	9	暗灰褐色			
69号土壌	欠番									60井へ振替
70号土壌	B-2G	71壙	円形	ほぼ直上	径128	12	暗灰褐色/含LB、CR、C△	銭貨		
71号土壌	C-2G	70壙	長方形	ほぼ直上	288×110	17	暗灰褐色			
72号土壌	C-1G	51壙→○	楕円形	ほぼ直上	178×128	☆22	暗灰褐色	瀬美天目=14c後/砥石/スラグ35g	14c後～	
73号土壌	B-2G	22井	長方形	ゆるやか	(70)×80	12	暗灰褐色/含LB、LR◎、C、SR 締良	磨石		
74号土壌	C-4G	なし	長方形	不明	65×42	10	暗灰褐色	炭化物		
75号土壌	A-1G	なし	不整形長方形	不明	102×44	13	暗灰褐色	SB/炭化物(下層に◎)/焼骨片		
76号土壌	Z-1G	30井→○	長方形	ほぼ直上	(406)×198	☆110	暗灰褐色/含T◎、FER◎、LR、LB△、C、BBR 締良	瀬美茶入=14c後～15c後/鞆の羽口/砥石/骨(馬カ)/スラグ(椀形 鋳滓) 1,465g	14c後～18c	中位にLB層
77号土壌	B-3G	28壙、P	円形カ	ほぼ直上	(108)×(78)	11	暗灰褐色			

第15表 遺構一覧表 8

() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
78号土壇	B-3G	54壇	隅丸長方形カ	ゆるやかカ	(228)×80	12	暗灰褐色/含LB、LR、CR△、白色粘土R 締良			
79号土壇	B-2G	60井、P	楕円形	ほぼ直上	96×(50)	40	暗灰褐色			
80号土壇	C-1G	3溝	隅丸長方形	不明	(422)×(80)	80	暗灰褐色	在地甕/かわらけ/板碑/スラグ115g		
81号土壇	欠番									
82号土壇	Z-0G	なし	円形カ	ゆるやか	(107)×(58)	15	暗灰褐色	焙烙	16c~	
83号土壇	E-5G	11溝→○/1堀	隅丸長方形	ゆるやか	288×128	30 K-80	暗灰褐色			
84号土壇	欠番									61井へ振替
85号土壇	欠番									13-4溝へ振替
86号土壇	欠番									13-3溝へ振替
87号土壇	欠番									13-2溝へ振替
88号土壇	E-5G	1堀、11溝	長方形カ	ほぼ直上	(90)×(68)	(52)	暗灰褐色			
89号土壇	E-5G	○→11溝	不整長方形	ほぼ直上	(192)×100	40 K-153	暗灰褐色			
90号土壇	E-6G	○→21溝	楕円形	ほぼ直上	108×82	11	暗灰褐色/含LR、黒色土R△、軟度低	銭貨/骨/歯		墓壇
91号土壇	E-6G	P	円形	ゆるやか	径110	10	暗灰褐色/含LR、LB△、締悪			
92号土壇	欠番									ピットの重複
93号土壇	F-6G	94壇→○	長方形	ほぼ直上	100×75	13	暗灰褐色/含LR、C、S▲ 締良	かわらけ/銭貨/頭骨/歯		墓壇
94号土壇	F-6G	○→93壇、P	長方形	ほぼ直上	346×110	10	暗灰褐色/含LR、LB◎、C、S▲ 締良			
95号土壇	F-6G	94壇	不整形	ゆるやか	252×(200)	12	暗灰褐色/含LR△、C、S▲ 締良 堅緻	磨石/スラグ10g		
96号土壇	F-7G	なし	長方形	ほぼ直上	182×114	22	暗灰褐色/含LR、LB◎ 締良			
97号土壇	E・F-7G	なし	長方形	ゆるやか	104×66	13	暗灰褐色/含T、C、LR▲ 締良 堅緻	スラグ2g	~18c	
98号土壇	F-7G	99壇	楕円形	ゆるやか	145×76	9	暗灰褐色/含LR、LB(ソフト)△、S▲ 締良			
99号土壇	F-7G	98壇	楕円形	ほぼ直上	90×69	30	暗灰褐色			
100号土壇	F-7G	106・107壇→○/99壇	長方形	直上	420×218	☆44	暗灰褐色/含LB☆ボロボロ 下層 灰色粘土、C	かわらけ/銭貨		
101号土壇	F-6G	○→30溝	楕円形	ゆるやか	(158)×88	4	暗灰褐色/含LB(ソフト)△ 軟質			
102号土壇	C-4・5G	19b溝	長方形	ゆるやか	(210)×120	28	暗灰褐色			
103号土壇	E-6G	21溝、151壇	楕円形	ほぼ直上	(142)×60	38	暗灰褐色	板碑		

第16表 遺構一覧表 9

()は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
104号土壙	F-7G	○→111壙/ 105壙	長方形	ほぼ直上	308×140	30	暗灰褐色/ 含LR、LB ◎ 縮患	かわらけ		
105号土壙	F-6G	○→32溝/ 104壙	長方形	ゆるやか	(306)×110	10	暗灰褐色/ 含灰黒色土 R、LR、SRB △ 軟質			
106号土壙	E-7G	100壙	長方形	ほぼ直上	366×100	12	暗灰褐色/ 含LB△、 LR、S▲ 縮良			
107号土壙	F-7G	○→100・ 113壙	長方形	ほぼ直上	(436)×138	19	暗灰色/含 LR、LB△、 C、灰褐色 土B△ 縮良	かわらけ/スラグ15g		
108号土壙	F-9G	158・159壙 →○	隅丸長方形	ほぼ直上	305×50	16	LB層			
109号土壙	F-7G	31・32溝	隅丸長方形	ほぼ直上	323×105	12	暗灰褐色/ 含LR△、C、 S▲ 縮良			
110号土壙	G-6・7 G	なし	長方形	ほぼ直上	768×(120)	31	暗灰褐色/ 含LB◎、C △ 縮良 単純層	瀬美天目=16c末~17c初/かわらけ	16c末~	
111号土壙	F-7G	104壙→○	長方形	ほぼ直上	192×66	25	暗灰褐色/ 含LB◎、C ▲ 縮良			
112号土壙	F-7G	28溝	円形カ	ゆるやか	(200)×(114)	8	暗灰褐色	かわらけ		
113号土壙	F-7G	28溝、107壙 →○	環状形	ほぼ直上	外径 250 内径 83	17	暗灰色/含 LB、LR△ 縮良	かわらけ		環状に巡る 土壙
114号土壙	G-7G	115壙	長方形	ゆるやか	200×88	8	暗灰色/含 LR、T△ 縮良	瀬美折縁皿=16c後	16c後~	
115号土壙	G-7G	114壙	長方形	ゆるやか	(210)×58	8	暗灰色/含 C、LR、灰 白色土 縮患			
116号土壙	F-7・8 G	34井	円形	ほぼ直上	径120	14	暗灰褐色/ 含LB、LR ◎ 縮良			
117号土壙	F-8G	118→○/27 溝	長方形	ゆるやか	420×78	8	暗灰褐色/ 含C、T△ 縮良			
118号土壙	F-8G	119壙→○ →117壙	長方形	ほぼ直上	240×77	18	暗灰褐色/ 含LR、T、C △ 縮良			
119号土壙	F-8G	○→118壙	隅丸長方形	ゆるやか	(154)×102	10	暗灰褐色/ 含C、T▲ 縮良			
120号土壙	F-8G	○→121壙	長方形	ほぼ直上	(245)×104	14	暗灰褐色/ 含LR、LB、 T△ 縮良	かわらけ/銭貨		
121号土壙	F-8G	120壙→○	長方形	ほぼ直上	230×96	18	暗灰褐色/ 含LR、S (中層) 縮良			
122号土壙	G-8G	123壙	長方形	ほぼ直上	110×(85)	10	暗灰褐色/ 含LB、LR △ 縮良	瀬美丸皿=16c後	16c後~	
123号土壙	G-8G	41井、122壙	長方形	ゆるやか	(232)×78	6	暗灰褐色/ 含LR、S▲ 縮良			
124号土壙	F-8G	123壙	隅丸長方形	ゆるやか	(128)×84	6	暗灰褐色/ 含LB、LR △ 縮良			
125号土壙	G-7・8 G	P→125壙	長方形	ほぼ直上	(294)×78	14	暗灰褐色/ 含LR、C、S △ T▲ 縮良			

第17表 遺構一覧表10

() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
126号土壌	F-8G	127壙→○	円形	ほぼ直上	径85	30	暗灰褐色/ 含LR、T△ 縮良			
127号土壌	F-8G	○→126壙	長方形	ほぼ直上	(200)×112	10	暗灰褐色/ 含LR、LB △ 縮良 LB層	棒状鉄製品(角)		
128号土壌	E・F-8 G、E-9 G	なし	隅丸長方形	ほぼ直上	200×66	14	暗灰褐色/ 含LR、C▲ 縮良			
129号土壌	H-9G	ピット重複 ○→P	長方形	ゆるやか	(80)×78	9	暗灰褐色/ 含LR、LB △、SR、SB、 灰色土B△ 縮良	小柄		
130号土壌	H-8・9 G	○→P	長方形	ほぼ直上	266×88	12	暗灰褐色/ 含LR、LB △ 縮悪			
131号土壌	H-8・9 G	P→○	長方形	ほぼ直上	250×86	19	暗灰褐色/ 含LR、LB、 C△ 縮良 下層に灰色 粘土	かわらけ		ピット深く杭 列カ
132号土壌	G-8G	132壙→P	隅丸長方形	ほぼ直上	246×100	22	暗灰褐色/ 含LR、LB ◎ C△ 縮良	瀬美端反皿=15c末~16c前/初山香 炉=16c後	15c末~	
133号土壌	G-8G	なし	長方形	ほぼ直上	330×106	10	暗灰褐色/ 含LB△ LR△ 縮 普通	在地播鉢		
134号土壌	G-8・9 G	なし	長方形	ほぼ直上	278×90	34	暗灰褐色/ 含LB、LR、 C△ 縮良 底面漸移層、 LB	かわらけ/銭貨		
135号土壌	G-8G	138壙→135 壙	長方形	ほぼ直上	314×108	14	暗灰褐色/ 含LB△、C、 LR▲ 縮良	かわらけ		
136号土壌	G-9G	なし	隅丸長方形	ほぼ直上	318×80	18	暗灰褐色/ 含LB、LR、 C△ 縮良	かわらけ/銭貨/砥石		
137号土壌	G・H-8 G	138壙→○	長方形	ほぼ直上	200×67	35	暗灰褐色/ 含万LB◎、 C、S△ 縮良	銭貨		
138号土壌	G-8G	○→135・ 137壙	円形	ほぼ直上	径90	30	暗灰褐色/ 含灰色土B △			
139号土壌	G-9G	162・167壙	長方形	ほぼ直上	(194)×70	18	暗灰褐色			
140号土壌	F-9G	○→141壙	円形	ほぼ直上	径140	14	暗灰褐色/ 含LR、LB、 C、S▲ 縮良			
141号土壌	F-9G	140壙→○	長方形	ほぼ直上	318×90	12	暗灰褐色/ 含LB、LR △、C、S▲ 縮良	在地播鉢		
142号土壌	欠番									ピットの重複
143号土壌	欠番									
144号土壌	G-9G	159壙	長方形	ほぼ直上	(135)×98	20	暗灰褐色/ 含LB◎ LR△ 縮良			
145号土壌	G-7G	28壙→○	長方形	ゆるやか	(214)×(75)	20	暗灰褐色/ 含灰色土B R◎ LR △ 縮良	焙烙	16c~	
146号土壌	F-7G	28溝	円形カ	ゆるやか	(126)×(70)	10	暗灰褐色			
147a号土壌	G-9G	147b・164壙	長方形	ほぼ直上	386×84	27	暗灰褐色			
147b号土壌	G-9G	147a・c・161 壙	長方形	ほぼ直上	480×89	27	暗灰褐色			

第18表 遺構一覧表11

()は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

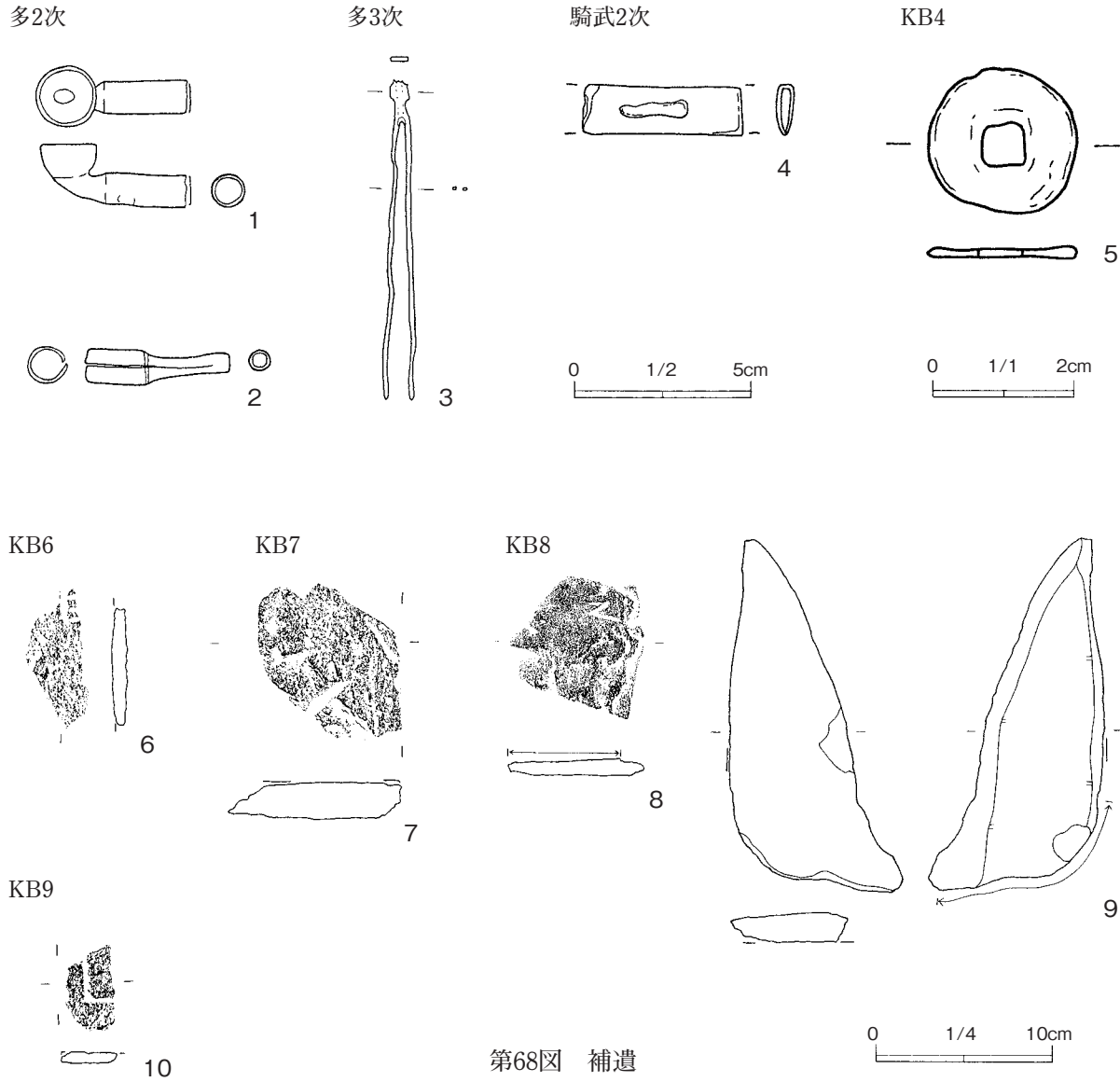
遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
147c号土壇	G-9G	147b壇	長方形カ	ほぼ直上	308×(82)	28	暗灰褐色	砥石		
148号土壇	E-8G	なし	円形カ	ほぼ直上	径85	22	含白色粘土			
149号土壇	F-8G	○→150壇/ 34溝	長方形	ほぼ直上	210×82	32	暗灰褐色	中国口禿皿=13c~14c/かわらけ/在地掃針	13c~	
150号土壇	F-8G	149・156壇 →○	長方形	ほぼ直上	(130)×70	18	暗灰褐色			
151号土壇	E-6G	20・27溝、 103壇	長方形	ほぼ直上	(202)×84	40	暗灰褐色			
152号土壇	欠番									
153号土壇	H-9G	なし	長方形	ほぼ直上	(440)×(48)	14	暗灰褐色			
154号土壇	F-9G	140壇	方形カ	ほぼ直上	(243)×236	14	暗灰褐色			
155号土壇	F-8G	27溝	長方形	ゆるやか	367×(92)	10	暗灰褐色			
156号土壇	F-8G	○→150壇/ 34溝	長方形	ほぼ直上	(130)×80	10	暗灰褐色			
157号土壇	F-8G	53井	長方形	不明	(194)×(26)	3	暗灰褐色			
158号土壇	F-9G	○→108壇/ 159壇	長方形	ほぼ直上	(215)×120	18	暗灰褐色			
159号土壇	F-9G、 G-8・9 G	○→108壇/ 158壇、46井	長方形	ほぼ直上	(308)×170	21	暗灰褐色			
160号土壇	G-9G	なし	長方形	ほぼ直上	(270)×105	30	暗灰褐色			
161号土壇	G-9G	147b壇	長方形	不明	(80)×70	7	暗灰褐色			
162号土壇	G-9G	139・165壇	長方形	ゆるやか	(160)×67	7	暗灰褐色			
163号土壇	G-9G	なし	長方形	ほぼ直上	(100)×75	15	暗灰褐色			
164号土壇	G-9G	147a壇	長方形	ほぼ直上	208×82	14	暗灰褐色			
165号土壇	G-9G	なし	長方形	ほぼ直上	270×100	8	暗灰褐色			
166号土壇	F-9G	167壇	長方形	ほぼ直上	(200)×170	14	暗灰褐色			
167号土壇	G-9G	139・166壇	長方形	ゆるやか	(112)×120	22	暗灰褐色			
かわらけ集中1	G-9G				範囲 152×76					
土段	E-6G		不整形	ほぼ直上	168×148	☆74	暗灰褐色/ 含LR◎、 FE△、C▲ 綿良			

第19表 遺構一覧表12

第V章 出土遺物補遺

多2次 煙管の雁首(1)と吸口(2)が出土した。
 多3次 銅製の簪(3)が出土した。
 騎武2次 銅製の小柄(4)が出土した。
 KB4区 鉄製の錢貨(5)が1壙から、他に1壙から鉄錢2枚、銅錢7枚が出土している。

KB6区 1溝から板碑(6)が出土した。
 KB7区 板碑(7)が出土した。
 KB8区 磨耗痕のある板碑(8・9)が出土した。
 KB9区 枠線が見られる板碑(10)が出土した。



第68図 補遺

() は残存値

法量の単位は cm

図No	遺物名	材質	調査名	出土地点	長さ	幅	厚さ(高さ)	遺物 ID	備考
1	煙管(雁首)	銅	多2次	一括	4.2	1.65	1.6	0002-0002	
2	煙管(吸口)	銅	多2次	No110	4.1	1.05	—	0002-0001	
3	簪	銅	多3次	Ⅲ層	9.1	0.9	—	0003-0003	
4	小柄	銅	騎武2次	No8	(4.55)	1.4	0.45	0002-0001	
5	錢貨	鉄	KB4	1壙No680	2.1		0.1	0004-0039	
6	板碑		KB6	1溝No330					
7	板碑		KB7	E-6G No51					
8	板碑		KB8	C-4G No146					
9	板碑		KB8	B-3G No					
10	板碑		KB9	一括					

第20表 補遺一覧表

第VI章 科学調査

騎西城武家屋敷跡出土の金粒子付着遺物の科学調査について

国立科学博物館 査名 貴彦

はじめに

近年、筆者らの調査により騎西城武家屋敷跡の各地点から金や銀が付着した遺物が、数多く確認されている¹⁾。他にも種類の異なる金貨が3点出土するなど、騎西城武家屋敷跡では非鉄金属生産に関する遺物が多数出土しており、非常に興味深い遺跡といえる²⁾。

平成元年までの調査によりKB10区において、非鉄金属生産に関連する遺物が出土している。その詳細調査により、中世末から近世初頭における金生産に関する新たな知見が得られる可能性が高いと考えられたため、詳細な科学調査を実施した。

以下に、その調査結果について報告する。

1. 調査資料

騎西城武家屋敷跡 KB10区出土土器片 9点
(土-405・408・419・860~864・871)以下「土-」を省略する

2. 調査内容

今回実施した調査内容を下記に示す。

○エックス線透過撮影による遺物への重元素の付着状態調査

遺物表面への金粒子やその他重元素類の付着状況の可視化を目的に実施した。

- ・使用装置 (山梨県立博物館設置)
デジタルエックス線撮影システム (エクスロン・インターナショナル(株)製)
- ・撮影条件
管電圧: 160kV 管電流: 4.0mA

○顕微鏡による詳細観察 (国立科学博物館設置)

実体顕微鏡を用いて遺物表面の詳細な観察を行った。

○蛍光エックス線分析による付着元素類の非破壊定性分析

蛍光エックス線分析による非破壊定性分析を、金粒子部分や各付着物に対し実施した。

- ・使用機器 (国立科学博物館設置)
エネルギー分散型蛍光エックス線分析装置 ORBIS PC (AMETEK (株)製)
- ・分析条件
管電圧: 50kV 管電流: 250 μ A
照射面積: 1. 直径2.0mm、2. 直径0.03mm
照射時間: 100sec 分析環境: 大気中

○エックス線マイクロアナライザー付電子顕微鏡 (SEM-EDX) による非破壊定性分析

遺物の一部についてより詳細な付着元素状態の確認のため、マッピング分析を行った。

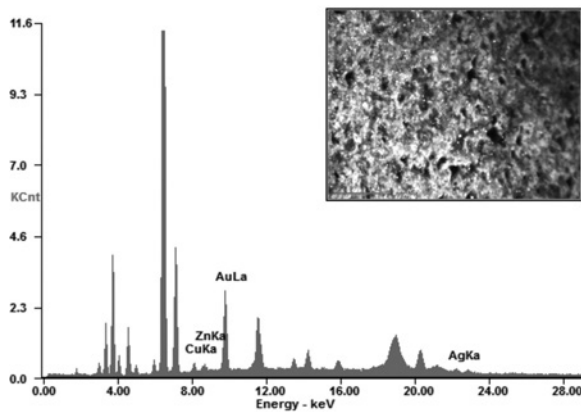
- ・使用機器 (福岡市埋蔵文化財センター設置)
環境制御走査型電子顕微鏡 Quanta250 FEG (FEI (株)製)
エックス線マイクロアナライザー Octane Pro (AMETEK (株)製)
- ・分析条件
加速電圧: 30kV 分析環境: 30Pa

3. 調査結果

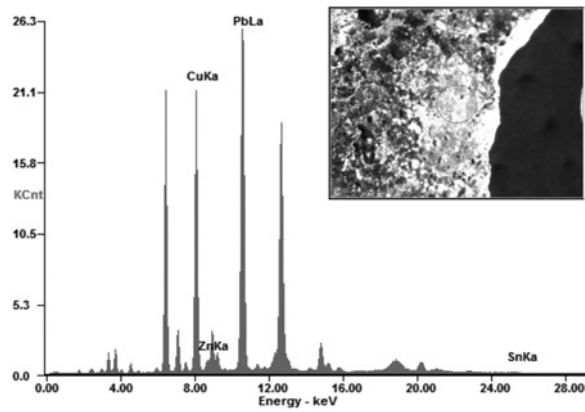
○エックス線透過撮影による遺物への重元素の付着状態調査 (口絵1)

口絵1に、各遺物の可視 (a) とエックス線 (b) による画像を示す。

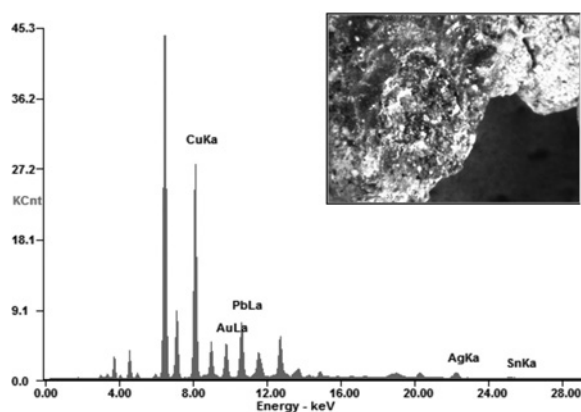
エックス線画像でみられる黒色部分は、エックス線を透過しない部分であり、金属粒子や重元素の付着によるものと考えられる。エックス線画像 (b) では遺物の幾つかで黒色部や土器胎土とは異なる灰色部が確認された。



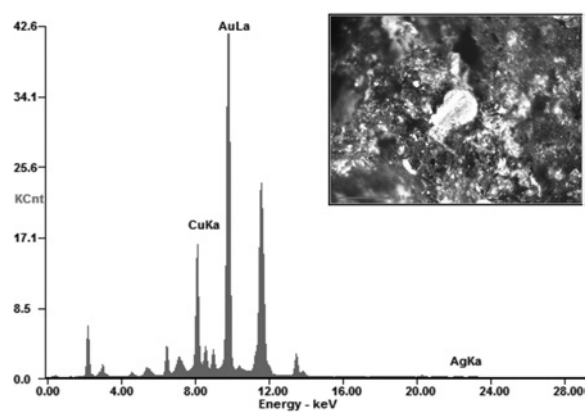
(a) (土-405) 金付着部



(b) (土-408) 銅付着部



(c-1) (土-419) 金付着部 直径 2 mm



(c-2) (土-419) 金付着部 直径0.03mm

第69図 各遺物の蛍光エックス線分析結果

○顕微鏡による詳細観察 (口絵1)

エックス線透過画像を元に黒色部を詳細観察したところ、金属粒子などを確認した。しかし、他の遺物でも顕微鏡で詳細観察を行うと微細金粒子を確認し、(b)で特徴的な黒色や灰色部がみられない遺物全てで金粒子を確認している。口絵1(c)~(e)には、それら顕微鏡画像の一部を示す。(c)は405の金粒子が多量に付着する様子であり、(d)は419の大型金粒子を含む部分が付着する様子、(e)は小型埴埴871の中央部に熔融物と共に金粒子が付着する様子である。

○蛍光エックス線分析による金属粒子付着部分の定性分析 (第69図)

各遺物について、金属粒子が確認した部分を中心に蛍光エックス線分析を実施した。

第21表に各遺物の金属粒子を中心の分析で確認し

た金属元素類についてまとめた。また、一部の遺物についての蛍光エックス線分析結果(スペクトルデータ)を、第69図に示す。

(a)は405の金付着部、(b)は408の銅付着部を直径2.0mmの範囲で分析を行っている。(c)では419の金付着部について、直径2.0mm(c-1)と直径0.03mm(c-2)と照射範囲を変えて行い、金粒子を含む全体と金粒子での差異を比較した。

(a)では、Au,Ag,Cu以外Znが特徴的に確認された。(b)ではCu,Pbが確認され、Snはほとんど見られなかった。(c-1)ではAu,Ag,Cu以外にPbを確認した。(c-2)の金粒子部分では、Auが強いピークでCuは弱く、Agはわずかに確認された。

※Au(金) Ag(銀) Cu(銅) Zn(亜鉛) Pb(鉛)

○SEM-EDXによるマッピング分析

口絵2-1に405、-2に419における金粒子付着部分についてSEM-EDXでマッピング分析を行った結果を示す。SEM画像の(a)二次電子像は遺物の表面状態の観察に使用し、(b)反射電子像は重元素ほど白く見える傾向のため、表面の元素組成状態や部分状態の確認に使用する。

405では、金粒子が遺物全体に付着する様子が(b)反射電子像で白色粒子として全体に付着する状況としてみられた。(c)マッピング分析において、金粒子部分にはAu,Ag以外にCuが含まれることが確認され、更にCuは金粒子周辺部にも付着がみられた。併せて、ZnがCuとは一部異なる様相で遺物表面に付着する状況が確認された。419では、金粒子の付着と共に土器表面に重元素の付着によるコントラストが(b)反射電子像で得られ、(c)マッピング分析からその部分にはPbが付着することが確認された。また金粒子はAu,Agが中心でCuは含まれず、CuとPbは似た傾向で土器表面に分布することが確認された。

4. 考察

今回の調査からKB10区出土遺物8点に金粒子、1点は銅合金粒子の付着を確認した。口絵1(b)のエックス線透過画像では金属粒子による黒点の確認以外には、重元素などの付着は強くは見られなかったが、一部では胎土とは異なる灰色部がみられることから、何らかの物質の付着が考えられた。蛍光エックス線分析により、第69図にみられるように405には金粒子と共にZn(亜鉛)が確認され、SEM-EDXのマッピング分析(口絵2-1(c))においてもZnとCuは一部異なる分布状態が確認された。以上から、鉱石由来の不純物(Zn)の多い金が持ち込まれ熔解が行われた可能性が考えられる。さらに、金鉱石からの生産工程でも鉛を用いる灰吹法は使用されず、熔解により不純物の分離除去が行われた可能性が高く、その際に分離されなかったZnが土器に付着した可能性が考えられた。

また、419では蛍光エックス線分析によりPb(鉛)が確認されており、SEM-EDXのマッピング分析でもCuとPbが似た分布が見られることから、Pb

は金の精錬由来のものではなくCu合金に含まれるものとみられ、金と銅(Cu-Pb合金)の合金を製造していた可能性が考えられる。さらに419の金粒子にはCuがマッピング分析でみられないことから、砂金由来の金を用いて合金を生産していると考えられる。

第21表中の他の遺物では、Au,Ag,Cu以外に前述のような元素は確認されていないため、基本的に金の熔解や合金に使用されたものとみられ、特に860はほとんど金であることから砂金の熔解であり、他ではAu,Cuを確認するもの、Au,Ag,Cuのものなど差が見られる。この当時、金・銀・銅を分離する事は難しく、砂金では基本的に金と銀の合金もしくは金主体のため、銅は色味や硬さのため添加されたものと考えられる。

騎西城武家屋敷跡の他地点では、銀粒子と金粒子が同一遺物内で確認されたものが確認されており、金銀合金の生産に使用されていたことが考えられ、今回の遺物からも多様な非鉄金属生産がみえている。今回山梨以外では初めて確認された金鉱石由来とみられる金の入手元となる鉱山の情報や、これら遺物を用いてどの様な金工品が生産されていたかは不明であり、今後の調査に期待したい。

今回分析機器の使用を快諾頂いた、福岡市埋蔵文化財センターと山梨県立博物館に深く感謝致します。

参考文献

- 1) 「騎西城武家屋敷跡出土の金粒子付着かわらけについて」加須市埋蔵文化財調査報告書第5集『騎西城武家屋敷跡第4・6・10・12・46・47・53・56次調査』、加須市教育委員会 2013
- 2) 「騎西城武家屋敷跡第50次10号土壙出土金貨について」加須市埋蔵文化財調査報告書第7集『騎西城武家屋敷跡 第2・3・8・9・50・51次調査 騎西城跡第3・12・14・15次調査 多賀谷氏館跡第1～3次調査』加須市教育委員会 2014

第21表 金属生産関連遺物調査結果

地区	番号	確認元素	備考
KB10	405	Au, Ag, Zn	金粒子
	408	Cu,Pb	
	419	Au,Cu,Ag,Pb	金粒子
	860	Au	金粒子
	861	Au,Cu, Ag	金粒子
	862	Au,Cu,Ag	金粒子
	863	Au, Ag, Cu	金粒子
	864	AuCu,Pb	金粒子
	871	Au,Cu	金粒子

第Ⅶ章 まとめ

武家屋敷跡の西で北側に位置する。『武州騎西之絵図』（17世紀初頭の制作か。以下絵図）では武家屋敷を東西に貫く主要路の北にあり、南区は「矢野紋右衛門」「川添作太夫」「大久保左兵衛」屋敷地に、北区は「御蔵屋舗」及びその南の堀周辺に相当する（第70図）。

○南区

1号溝は、南北方向に走行し南端で東西方向に走行する4号溝と直角に接続する。北端では斜行する26号溝と接続し、さらに12号溝に重複並行するようであれば、これまで想定していたとおり（塩野博編2001 2005）、堀が平面方形に巡る可能性がある。

1号溝の年代については、出土遺物の年代幅が古瀬戸中期から肥前陶器等（14世紀～17世紀初め）と広く、分布・レベルの分析を必要とする。肥前唐津及び志戸呂・初山陶器（土-92～96/16c末～17c初）については覆土上層20cm内の出土であり後世の掘り込み・埋没と考えられる。大窯2・3期の瀬戸美濃陶器（土-86・89）は溝の外及び周縁で、確認面上部の出土である。以上は除外できる。そのため覆土出土陶器は破片ではあるが、古瀬戸後期Ⅲ期～大窯1期所産のものが主体となる。大窯1期のものは覆土上中位に見られる。以上により1号溝は15世紀末から16世紀前半までにほぼ埋没したことが想定される。ただし、1号溝を掘り込む46号土壇に古瀬戸後期Ⅳ新（15世紀後半）の腰折皿が埋設されており、その年代逆転が課題となる。

また、板碑に文安2年（1445）・延徳2年（1490）銘が見られ、銭貨・五輪塔、甕や壺などの出土から、当該期に墓域が存在したことも考えられる。

かわらけ及び焙烙の集中出土については、1号溝覆土中位炭化物層上層を主体に、かわらけが南区北端、焙烙は北寄りに集中して正位でほぼ平坦に出土している。廃棄年代は周辺の陶器から15世紀末～16世紀前半頃としておく。

○北区

2号堀と命名した障子堀が東西方向に走行して確認された。絵図による御蔵屋舗と南に広がる武家屋敷とを画するもので幅10mを計る。複数列の溝により構成され、城郭周辺で確認されているものに比較し幅狭で、短い枳形のものがある。この障子堀の存在により、『御蔵屋舗』を含む東に広がる一帯は争乱時、戦略上重要なエリアで、城郭の最外縁、第7番目の曲輪として機能していたものと思われる。

○金粒子付着土器

これまで、周辺の調査区第13・18・49次調査区で金粒子付着土器・金銀粒子付着土器片の出土を報告したが、これは、KB10区北区より出土した肉眼観察ができる金粒子付着土器（土-859）の確認に始まる。総数9点で顕微鏡等による観察では大量の金粒子が付着するもので、KB10区を含む周辺エリアで、金加工が行われていたことを証明するものである。

本報告では杳名氏により詳細な科学的分析（顕微鏡及び蛍光エックス線分析、SEM-EDXによるマッピング分析）による報告を賜った。素材及び生産方法についての考察であるが、今後の他事例との比較を含めて成果を期待したい。

生産遺構については18・49次調査区では、焼土や磨石等の工房の存在を暗示する資料が出土しているが、10区では残念ながら土器以外のものは確認されていない。周辺の未報告分の検討を合わせる必要がある。

以上のように課題を残すばかりであるが、今後、50次で出土した3点の金貨を含めて当区域の性格を考えていきたい。

○金箔瓦

南区南東のB-1グリッドで遺構外であるが金箔を施した軒瓦が出土している。騎西城跡唯一の出土例である。蛍光エックス線分析により金以外に銀や銅などは検出されておらず（未報告）、純金箔が表面に施されていたものと思われる。文様名称は不明で



第70図『絵図』との対照図

あるが、歴代の騎西城主の家紋には見あたらない。
遺物の性格から、騎西城廃城までの所産と思われる。

遺構の変遷や出土遺物の検討については本報告において行いたいところであるが、時間の制約等により残念ながら次の機会に譲りたい。

参考文献

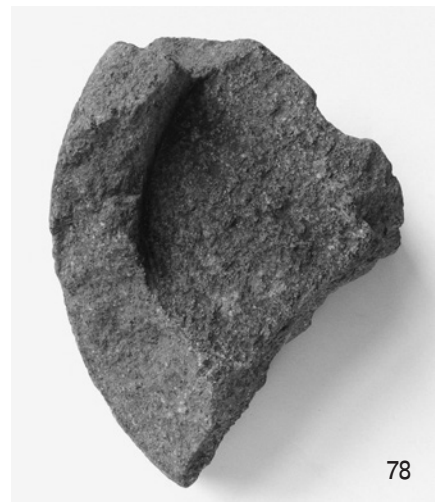
- 安芸毬子・大成可乃・大貫浩子・坂野貞子・成瀬晃司・堀内秀樹 1999 東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（1）『東京大学構内遺跡調査研究年報』2 別冊
- 秋本太郎 2008 「戦国期北関東のかわらけ—戦国大名支配との関連—」『中世東国の世界3 戦国大名北条氏』
- 大成可乃 2011 東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（2） 東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要7 『東京大学構内遺跡調査研究年報』7
- 浅野晴樹 1988 「関東における中世在地産土器について」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』第4号
1991 「東国における中世在地系土器について—主に関東を中心に—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第31集
- 大橋康二 1984 「肥前陶磁の変遷と出土分布」『国内出土の肥前陶磁』佐賀県立九州陶磁文化館
- 小野正敏 1982 「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会
2000 「遠江の出土陶磁器組成の特徴」『横地城跡 総合調査報告書 資料編』菊川町教育委員会
- 笹間良彦 1981 『図録 日本の甲冑武具事典』柏書房
- 塩野博編 2001 『騎西町史』考古資料編1 騎西町教育委員会
- 塩野博編 1999 『騎西町史』考古資料編2 騎西町教育委員会
- 塩野博編 2005 『騎西町史』通史編 騎西町教育委員会
- 九州近世陶磁学会 2000 「九州陶磁の編年」九州陶磁学会
2001 「国内出土の肥前陶磁」東日本の流通をさぐる 九州陶磁学会
- 島村範久ほか 1997 「騎西城武家屋敷跡妙光寺第1・2次発掘調査報告書」騎西町遺跡調査会報告書第2集 騎西町遺跡調査会
- 島村範久 2005 「騎西（私市）城跡」『シンポジウム 埼玉の戦国時代 検証 比企の城』資料集 史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会
2005 「騎西（私市）城跡」『戦国の城』
2009 「騎西城武家屋敷跡第40次発掘調査報告書」騎西町遺跡調査会報告書第6集 騎西町遺跡調査会
- 嶋村英之 2011 「騎西城武家屋敷跡第17・28・35・36・39・41・43次調査」加須市埋蔵文化財調査報告書第1集 加須市教育委員会
2012 「騎西城武家屋敷跡第13・18・25・32・33・34・38・49次調査 騎西城跡第9・10次調査」加須市埋蔵文化財調査報告書第3集 加須市教育委員会
- 嶋村英之・嶋村薫
2008 「萩原遺跡第2・3・6・7次発掘調査」騎西町遺跡調査会報告書第3集 騎西町遺跡調査会
2013 「騎西城武家屋敷跡第4～6・10～12・46・47・53～56次調査」加須市埋蔵文化財調査報告書第5集 加須市教育委員会
2013 「騎西城武家屋敷跡KB4・5区 第15・26次調査—中近世編—」加須市埋蔵文化財調査報告書第6集 加須市教育委員会
2014 「騎西城武家屋敷跡第2・3・8・9・50・51次調査 騎西城跡第3・12・14・15次調査 多賀谷氏館跡第1～3次調査」加須市埋蔵文化財調査報告書第7集 加須市教育委員会
2015 「萩原遺跡第1・4・5次 中郷遺跡第1次 五番遺跡第3・4次 種垂城跡第1～5次 道智氏館跡第1次調査」加須市埋蔵文化財調査報告書第8集 加須市教育委員会
2016 「騎西城武家屋敷跡KB7・8・11・12区 第16・23次調査—中近世編—」加須市埋蔵文化財調査報告書第9集 加須市教育委員会

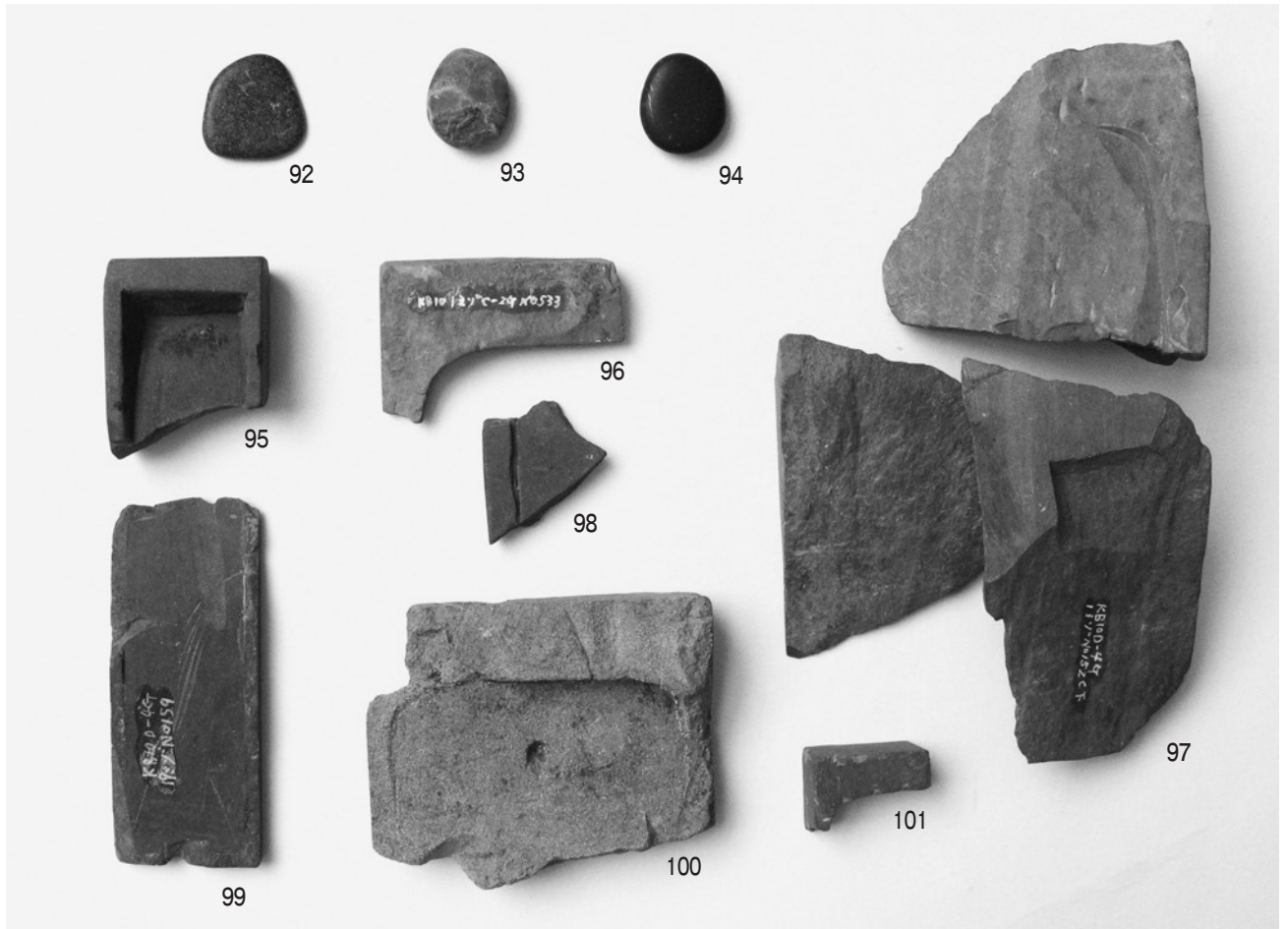
- 2017 「騎西城武家屋敷跡 KB10区調査—中近世編— 遺物1」加須市埋蔵文化財調査報告書
第10集 加須市教育委員会
- 嶋村英之・島村範久・嶋村薫
- 2011 「騎西城武家屋敷跡 KB 大英寺・1・2区調査—中近世編—」加須市埋蔵文化財調査報告書
第2集 加須市教育委員会
- 2012 「騎西城武家屋敷跡 KB 3・6・9区 第19・20・21・29次調査—中近世編—」加須市埋蔵
文化財調査報告書第4集 加須市教育委員会
- 田中 信 1996 「川越市内出土の中世土師器について—特に河越館跡および周辺出土を中心に—」『川越市
埋蔵文化財調査報告書 (XI)』川越市教育委員会
- 2005 「山内上杉氏の土器 (かわらけ) とは」『戦国の城』高志書院
- 2005 「出土遺物からみた山内上杉 (越後上杉氏) の城・陣所」『シンポジウム 埼玉の戦国時代
検証 比企の城』資料集 史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会
- 2010 「葛西城と扇谷上杉氏のかわらけ」『葛西城と古河公方足利義氏』雄山閣
- 塚田良道 1989 「忍城跡の発掘調査」『行田市郷土博物館研究報告』Vol.1 行田市郷土博物館
- 中野晴久 1994 「生産地における編年について」『全国シンポジウム中世常滑焼をおって』資料集
- 2005 「常滑・渥美窯」『陶磁器から見る静岡県の中世社会』菊川城館遺跡国指定記念シンポジウ
ム資料集
- 成瀬晃司 1997 「江戸遺跡出土資料による磁器碗・皿の変遷—文様、銘款を中心に—」 東京大学埋蔵文化
財調査室研究紀要1 『東京大学構内遺跡調査研究年報』1
- 服部実喜 2008 「かわらけから見た北条氏の権力構造」『中世東国の世界3 戦国大名北条氏』
- 藤澤良祐 1987 「本業焼の研究 (1)」 研究紀要VI 瀬戸市歴史民俗資料館
- 1988 「本業焼の研究 (2)」 研究紀要VII 瀬戸市歴史民俗資料館
- 1989 「本業焼の研究 (3)」 研究紀要VIII 瀬戸市歴史民俗資料館
- 2002 「瀬戸・美濃大窯の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯
- 2008 「中世瀬戸窯の編年」
- 堀内秀樹 1997 「東京大学本郷構内の遺跡における年代的考察」 東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要1『東
京大学構内遺跡調査研究年報』1
- 横田賢次郎・森田 勉 1978 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4

圖 版



石臼 1

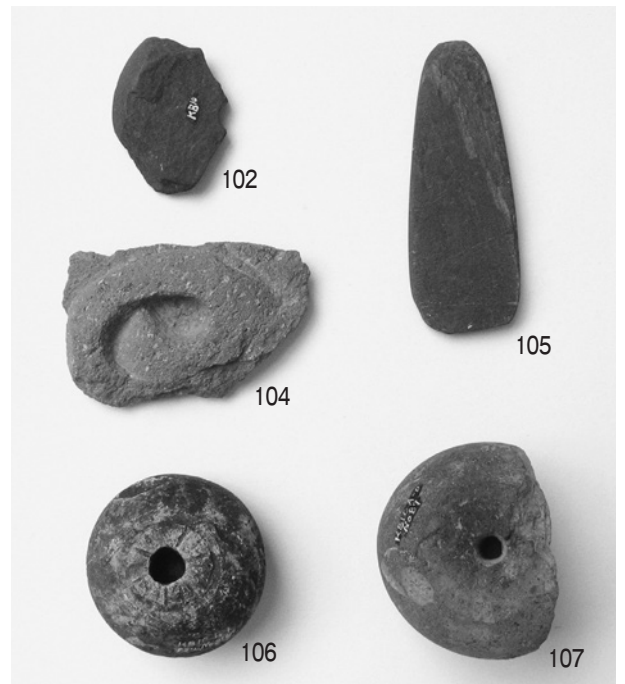


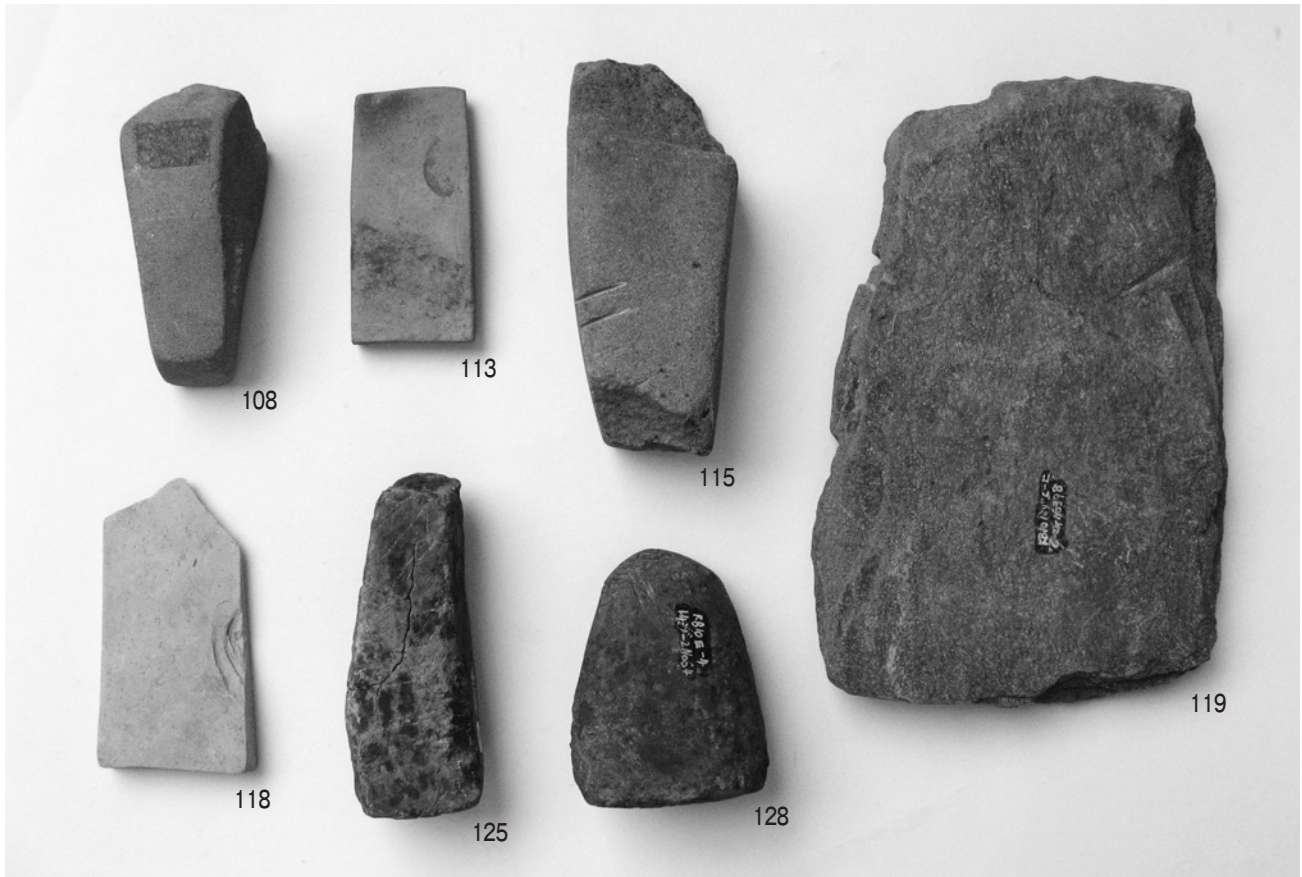


碁石 硯

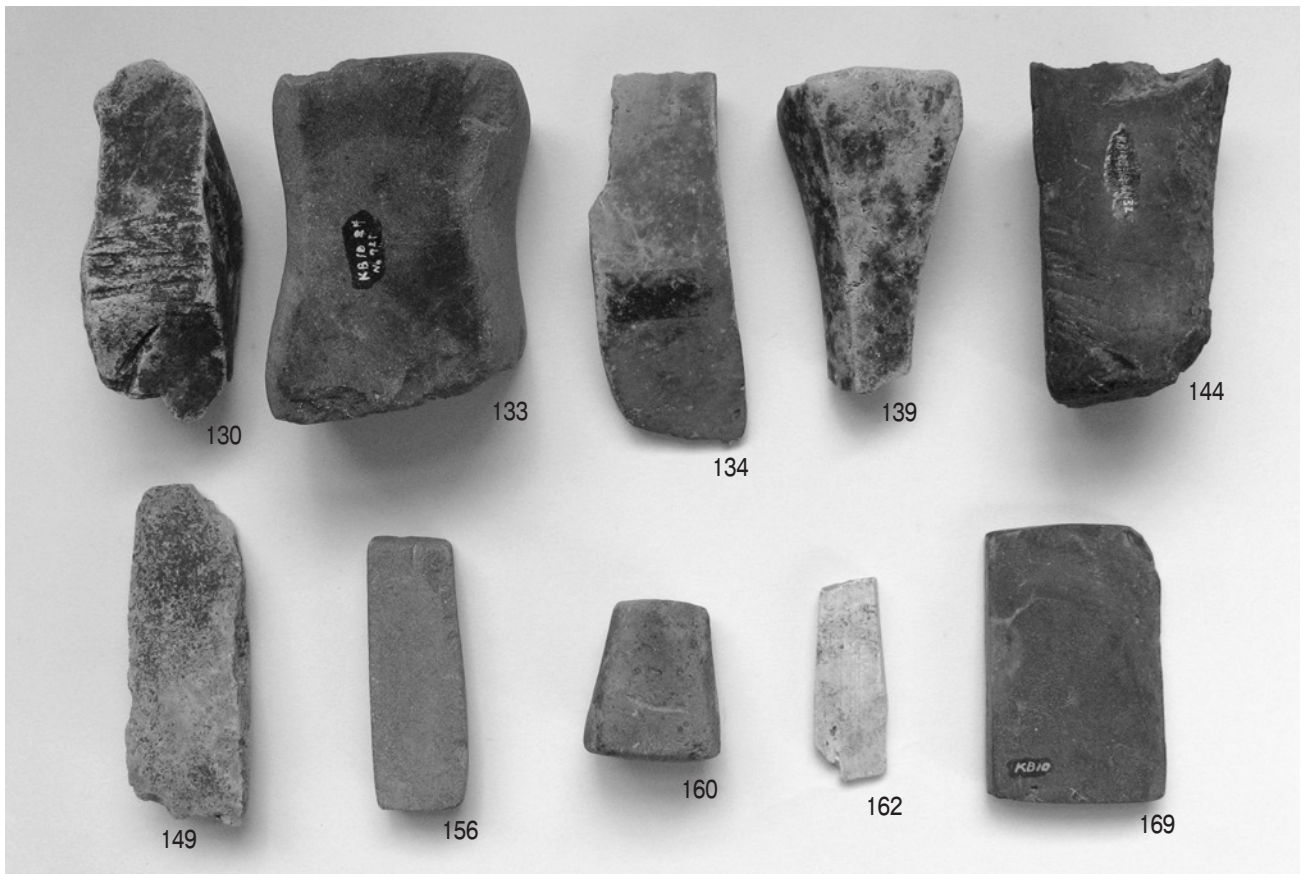


手水鉢カ

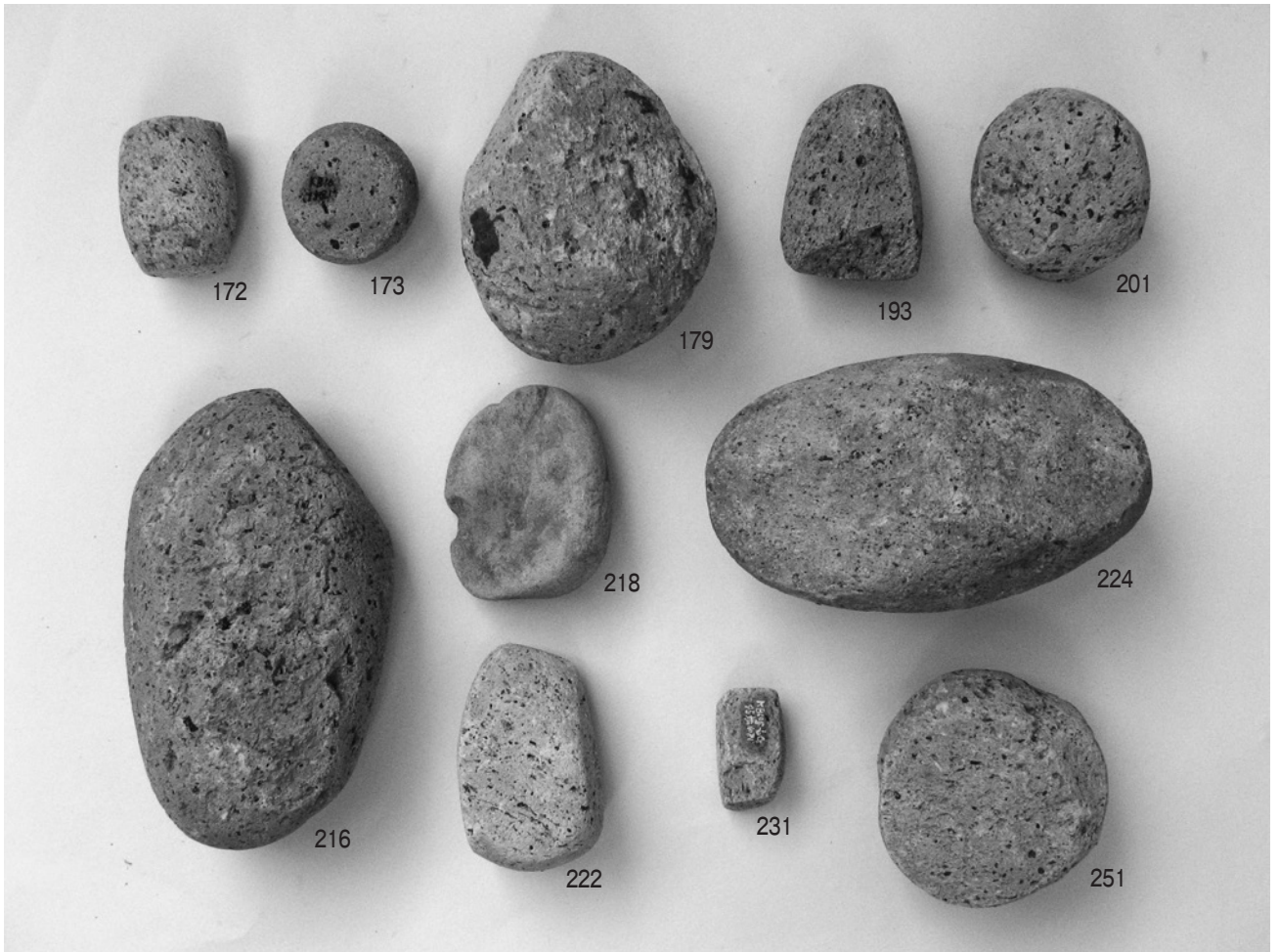




砥石 1



砥石 2



磨石 1

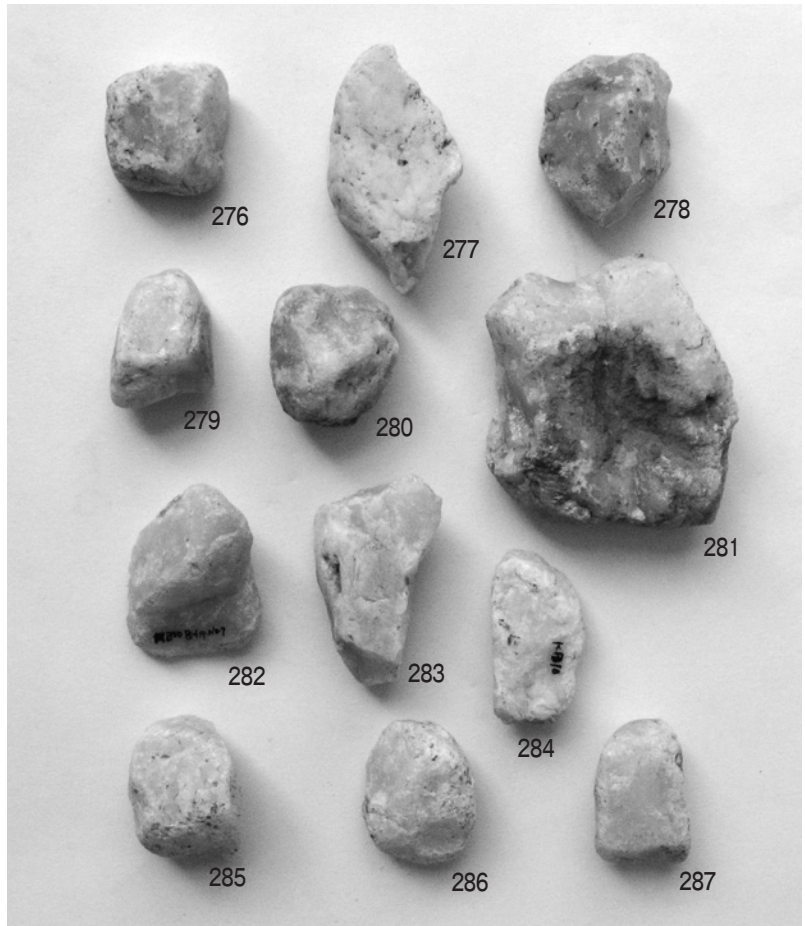


226



233

磨石 3



276

277

278

279

280

281

282

283

284

285

286

287

火打石



406



405



407

五輪塔



板碑 1





板碑 3



南側調査区 完掘 (南から)



南側調査区 完掘 (北から)



北側調査区 完掘 (南から)



北側調査区 中央南 (西から)



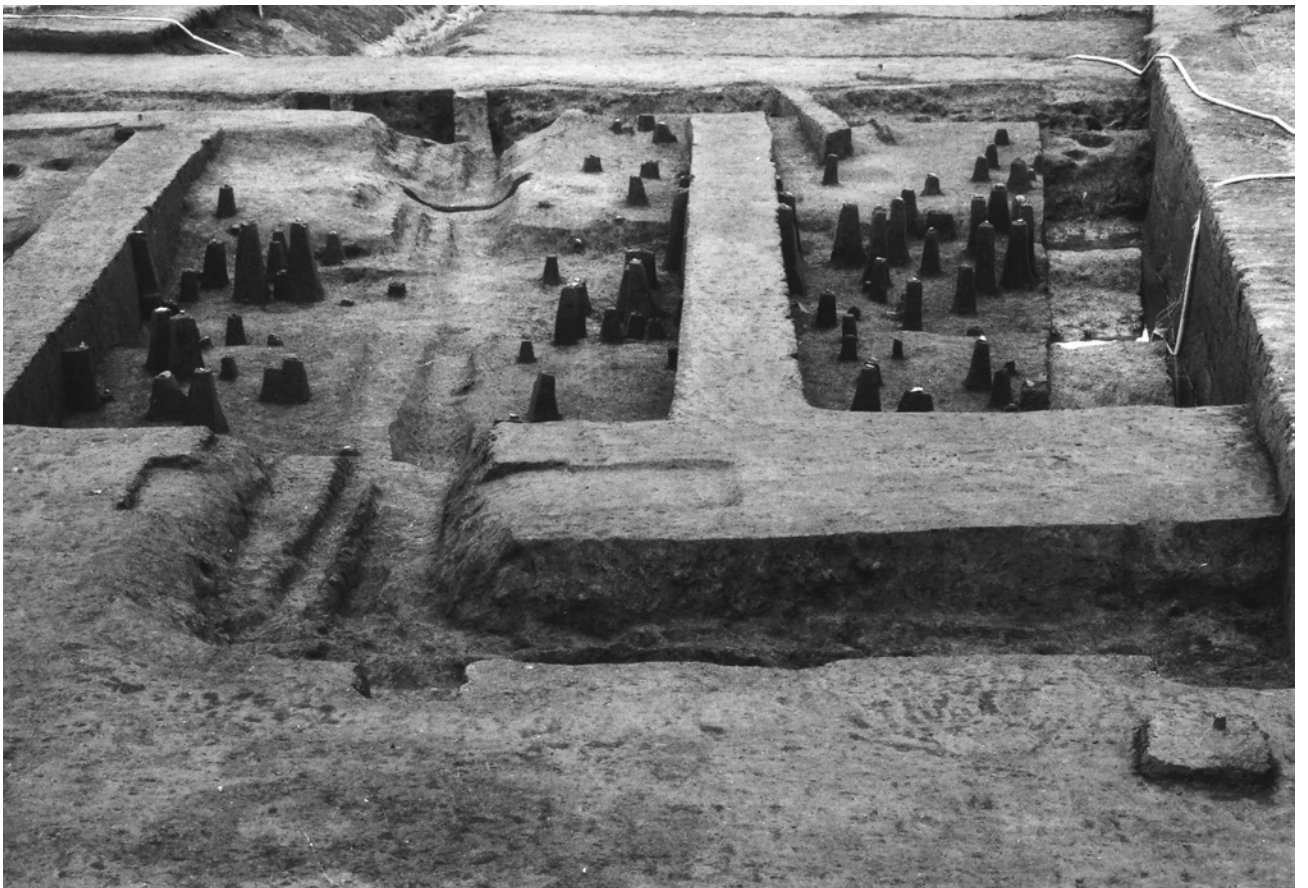
北側調査区 中央北（西から）



北側調査区 北（西から）



1号堀 完掘（東から）



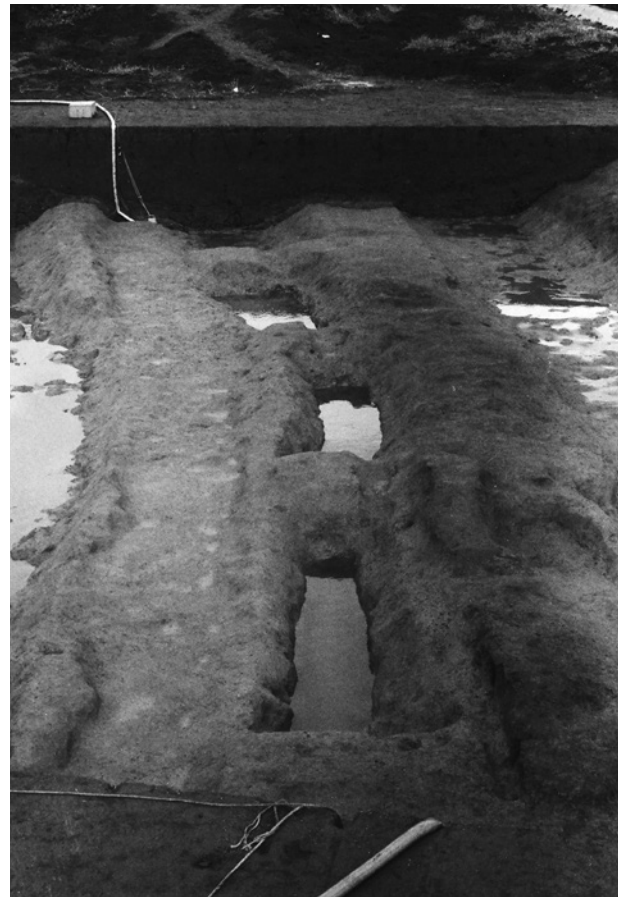
1号堀 遺物出土（北から）



2号堀 完掘 (東から)



14-1~14-3号溝 完掘 (東から)



13-1~13-5号溝 完掘 (東から)



1号溝 完掘 (南から)



同 (北から)



1・4号溝 接続部 完掘



4号溝 完掘 (東から)



同 (西から)



同 西半分



同 西端



1号溝 有穴球状石製品 (石-106)



同 かわらけ出土 (土-108~111)



同 遺物出土 (北から)



同 遺物出土 (南から)



同板碑出土 (左から 石-309・381・未図化)



同 小柄 (金-19)



1号溝 かわらけ (土-125)・土玉? (未図化)



同 板碑 (未図化)



同 炭化物層上層 遺物出土 (ほうろく集中付近)



同 ほうろく (土-219・226)



同 ほうろく (土-220)



1号溝 炭化物層上層 かわらけ (土-151)



同 かわらけ (土-152)



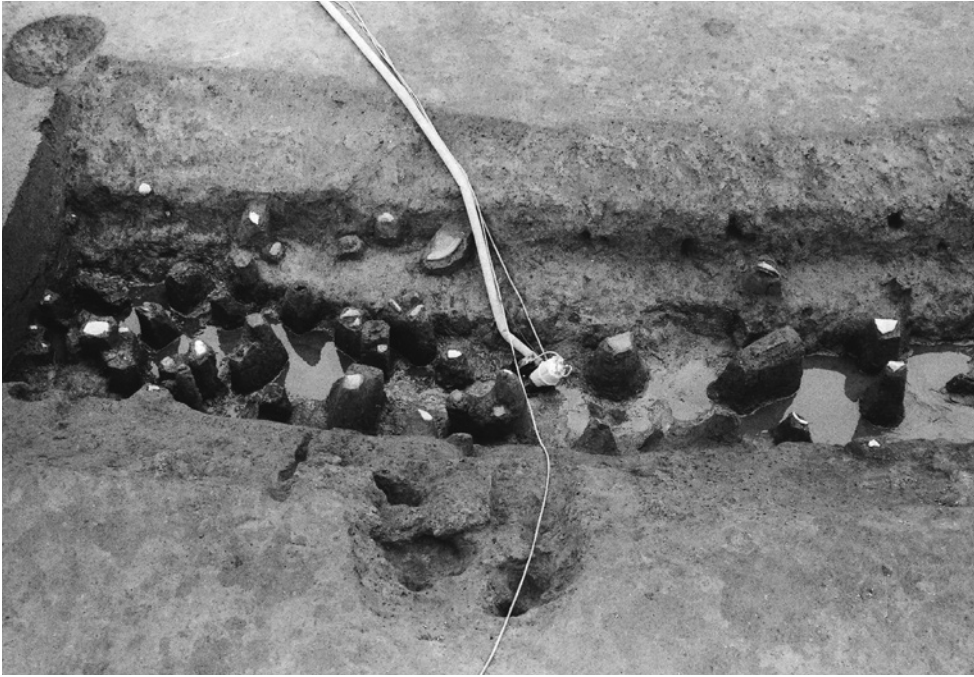
同 炭化物層上層 かわらけ集中



同 かわらけ



同 かわらけ



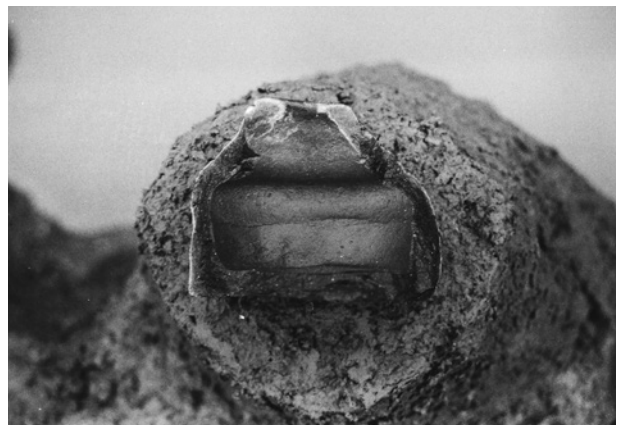
1号溝 炭化物層下層
遺物出土 (西から)



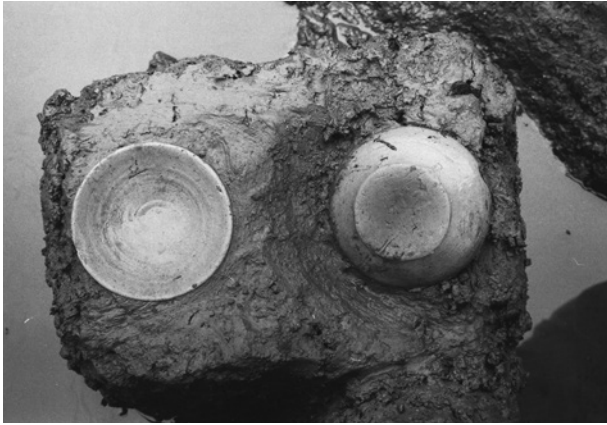
同 (南から)



同 土釜 (土-277)



同 鳶口壺 (土-282)



1号溝 炭化物層下層 かわらけ (土-130・131)



同 土鍋 (土-241)



4号溝 かわらけ (土-314)



同 かわらけ (土-313) 他



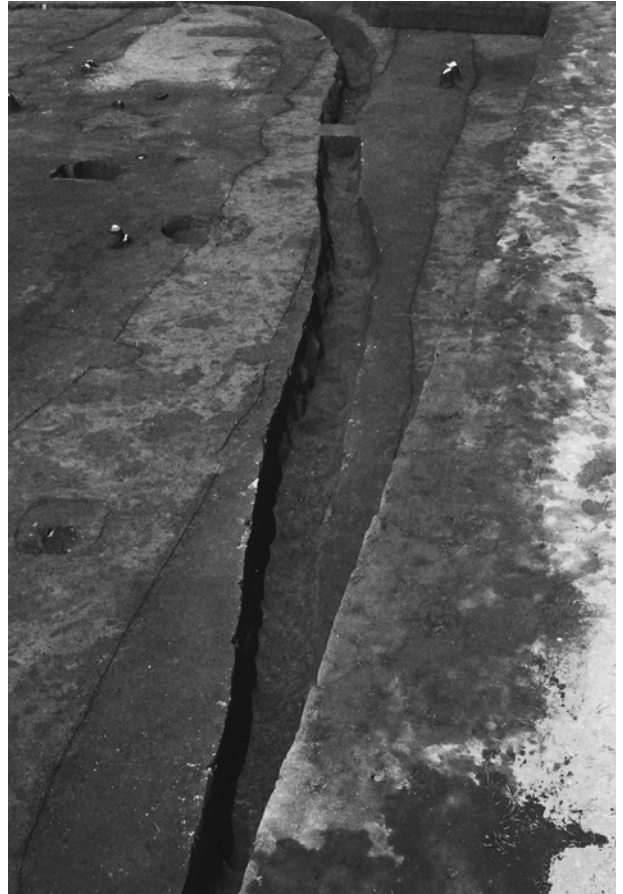
4号溝 西端 遺物出土



4号溝 西端 かわらけ (土-823)



同 吹子の羽口 (未図化)



3号溝東側 完掘 (南から)



3号溝北側 完掘 (東から)



6号溝 完掘 (西から)



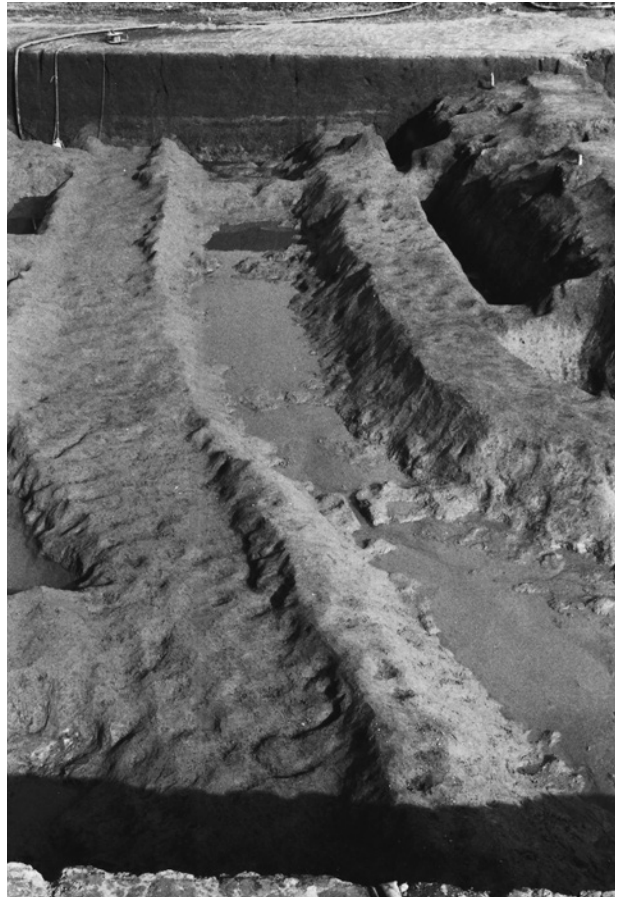
11号溝 完掘 (東から)



同 (西から)



12号溝 完掘 (東から)



同 (西から)



13-1~13-5号溝 完掘 (東から)



同 (西から)



14-1~14-3号溝 完掘 (東から)



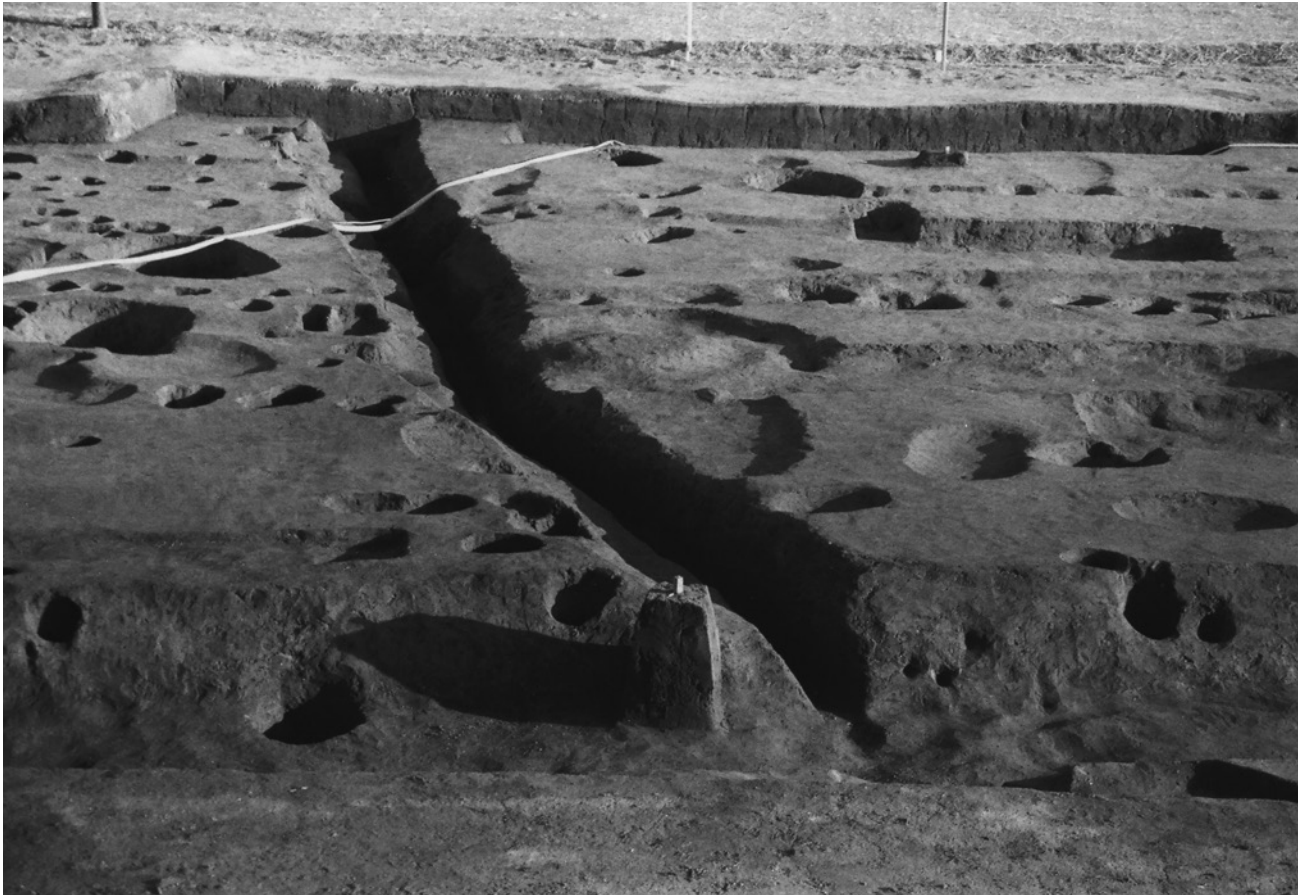
同 (西から)



14-2号溝 かわらけ (土-363・364)



25号溝 完掘
(南から)



28号溝 完掘 (西から)



1号井戸 ほうろく (土-428)



同 完掘



2号井戸 完掘



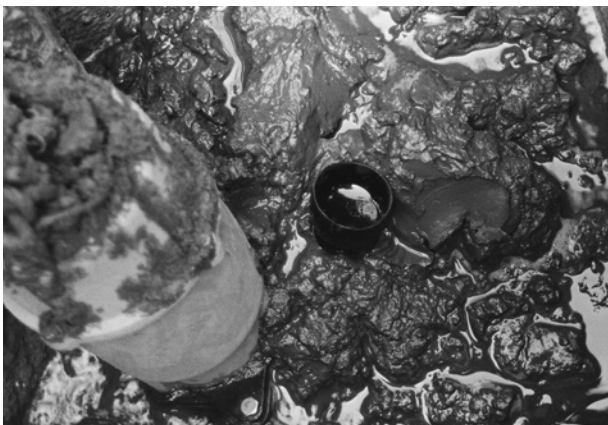
3号井戸 かわらけ (土-432・433)



3号井戸 完掘



4号井戸 完掘



5号井戸 漆塗り小杯 (木-34)



5号井戸 完掘



7号井戸 完掘



8号井戸 完掘



9号井戸 足掛
(南面)



同
(北面)



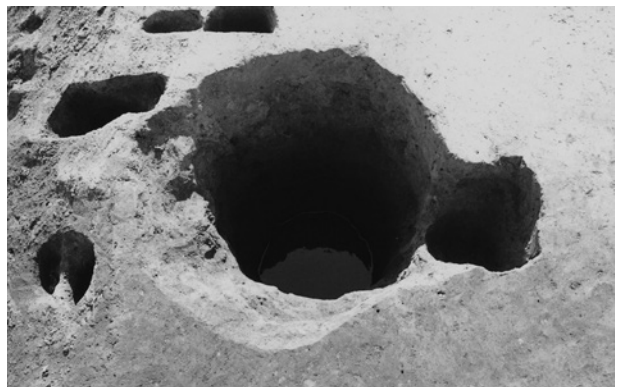
9号井戸 完掘



10号井戸 完掘



11号井戸 完掘



12号井戸 完掘



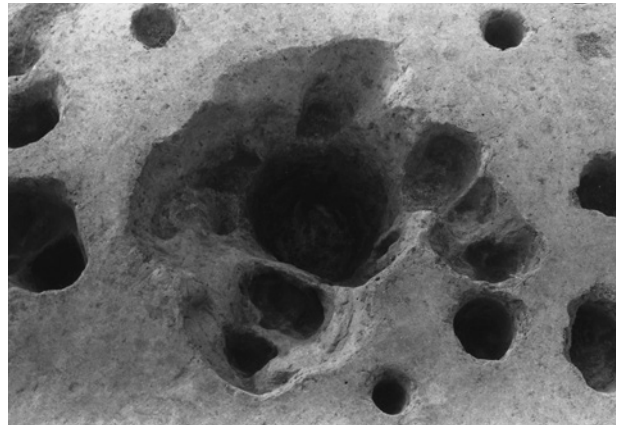
12号井戸 天目茶碗 (土-457)



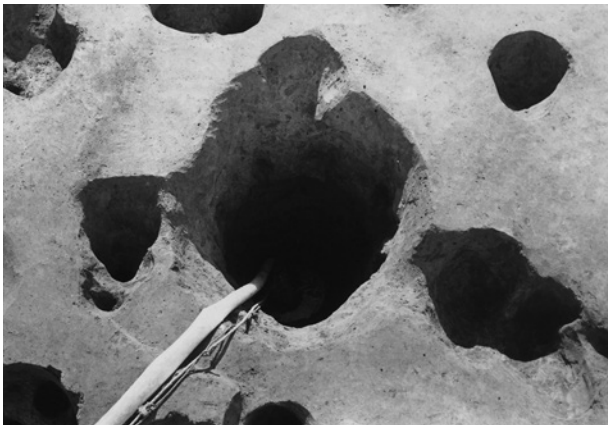
13号井戸 完掘



14号井戸 完掘



15号井戸 完掘



18号井戸 完掘



19号井戸 完掘



19号井戸 桶 (木-12-1~13)



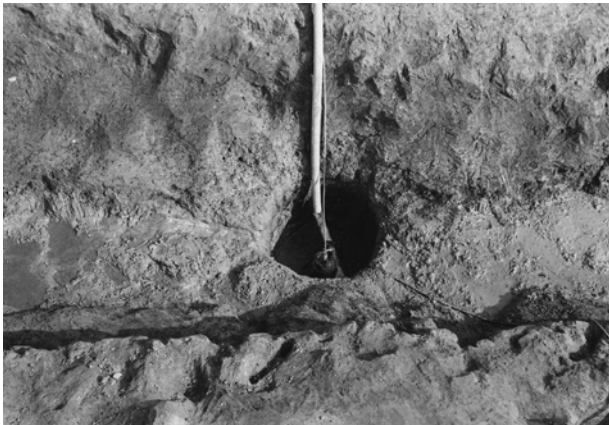
同 拡大



19号井戸 瀬戸美濃平碗 (土-462)



20号井戸 完掘



21号井戸 完掘



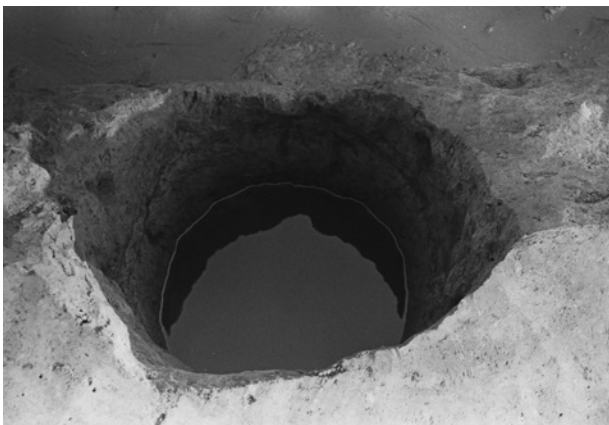
22号井戸 (左) ・73号土壌 完掘



23号井戸 完掘



24号井戸 完掘



26号井戸 完掘



27号井戸 完掘



28号井戸 完掘



30号井戸 完掘



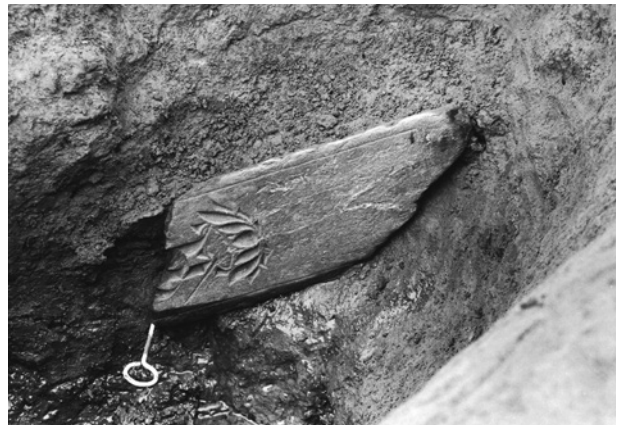
31号井戸 ほうろく (土-469)



32号井戸 完掘



34号井戸 かわらけ (土-476)



40号井戸 板碑 (石-360)



41号井戸 遺物出土



55号井戸 完掘



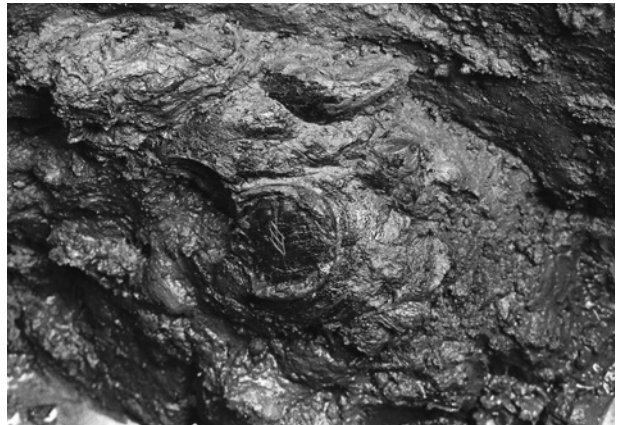
56号井戸 完掘



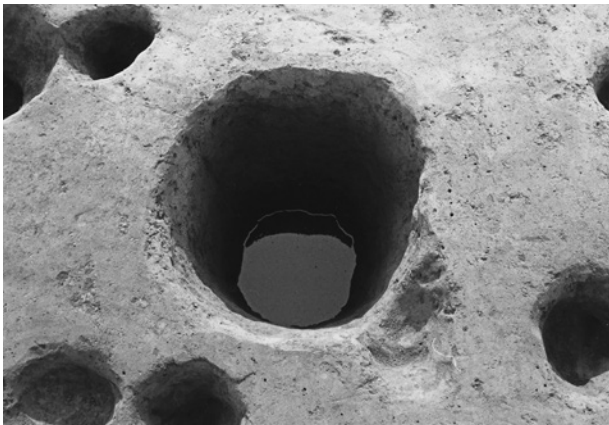
58号井戸 完掘



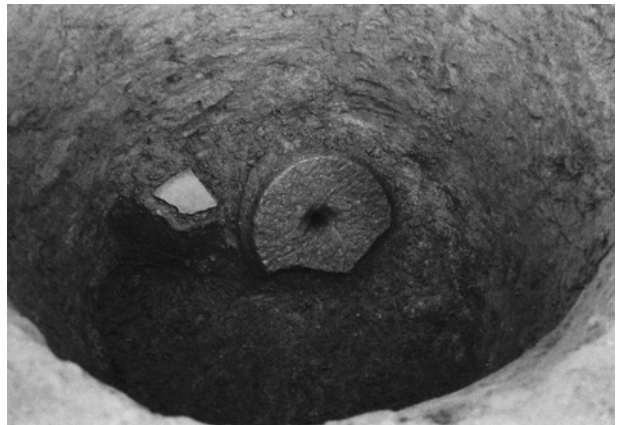
58号井戸 粉挽白 (石-66)



同 漆椀 (未図化)



59号井戸 完掘



同 石臼 (石-67)・播鉢 (土-540)



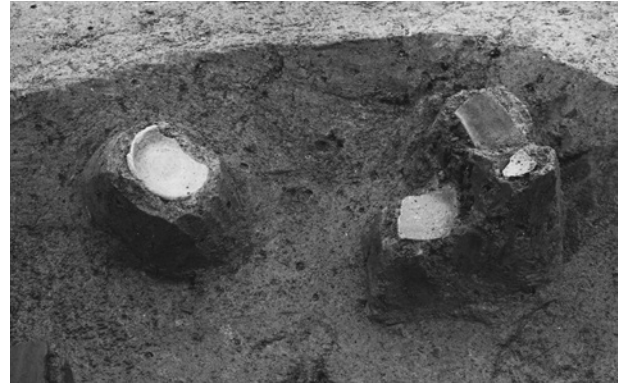
60号井戸 完掘



調査風景



4号土壙 完掘



8号土壙 遺物出土



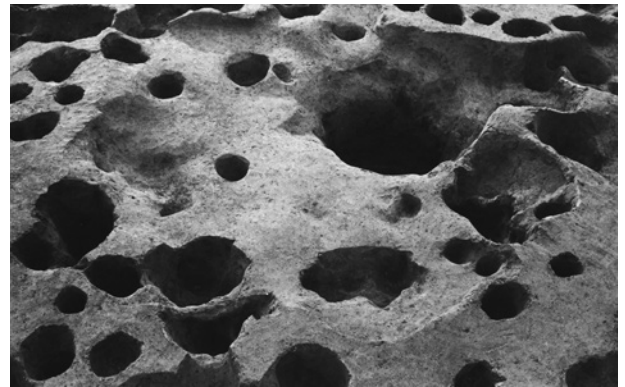
11号土壙 かわらけ (土-553)



同 遺物出土



15号土壙 遺物出土 かわらけ (土-559)



15・16号土壙 完掘



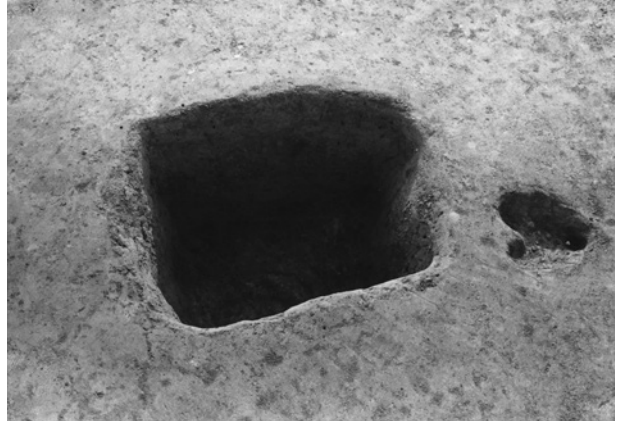
25号土壙 遺物出土



43号土壙 完掘



46号土壇 かわらけ (土-567)



47号土壇 完掘



51号土壇
植物遺体



51号土壇
完掘



57号土壇 完掘



59号土壙 完掘



66号土壙 かわらけ (土-571・572)



75号土壙 遺物出土



76号土壙 段



76号土壙・30号井戸 完掘



80号土壙 完掘



80号土壙 骨 (馬?)



80号土壙 在地 甕 (未凶化)



90号土壙 遺物出土



同 錢貨 (金-227~232)



91号土壙 完掘



100号土壙 完掘



136号土壙 錢貨 (金-242・243)



132号土壙 完掘



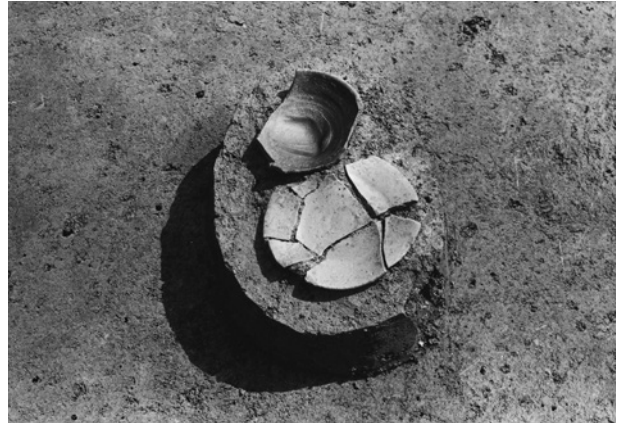
土段



かわらけ集中地点1 (土-609~617)



A-1G 木製品 (未図化)



A-1G かわらけ (土-784・785)



B-1G 金箔軒瓦 (土-901)



F-8G 釧 (金-65)



1号溝 常滑 甕 (土-55)

報告書抄録

フリガナ	キサイジョウブケンシキアト							
書名	騎西城武家屋敷跡 KB 10 区調査 -中近世編- 遺物2 遺構							
副書名								
巻次								
シリーズ名	加須市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第11集							
編著者名	嶋村英之							
編集機関	加須市教育委員会							
所在地	〒347-8501 埼玉県加須市三俣二丁目1番地1							
発行年月日	西暦2018年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きさいじょう 私市城 ぶけやしきあと 武家屋敷跡	かぞし 埼玉県加須市 ねごや 根古屋字中宿 126-1 他	11421	070	36°6'10"	139°35'5"	19861210~ 19880110	2,050	区画整理
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		
私市城 武家屋敷跡	城館跡	10区中近世	堀2 / 溝44 / 井戸61 / 土壇148			陶磁器・かわらけ・ほうろく・金箔軒瓦・金粒子付着土器・漆器・桶・火縄挟		
要約	南側調査区では1・4号溝が屈曲してつながるもので、屋敷の構え堀と思われる。溝からはかわらけやほうろくが集中して出土した。北側調査区では障子堀が検出され、騎西城が二重の障子堀に囲まれていたことを確認した。また、金粒子付着土器が多数出土し、周辺で金の加工が行われていたことが想定される。							

加須市埋蔵文化財調査報告書 第11集

騎西城武家屋敷跡

KB10区調査
—中近世編—
遺物2 遺構

平成30年3月31日発行

発行 加須市教育委員会

〒347-8501 埼玉県加須市三俣二丁目1番地1

印刷 関東図書株式会社